

日本女子体育大学 | 2022年度

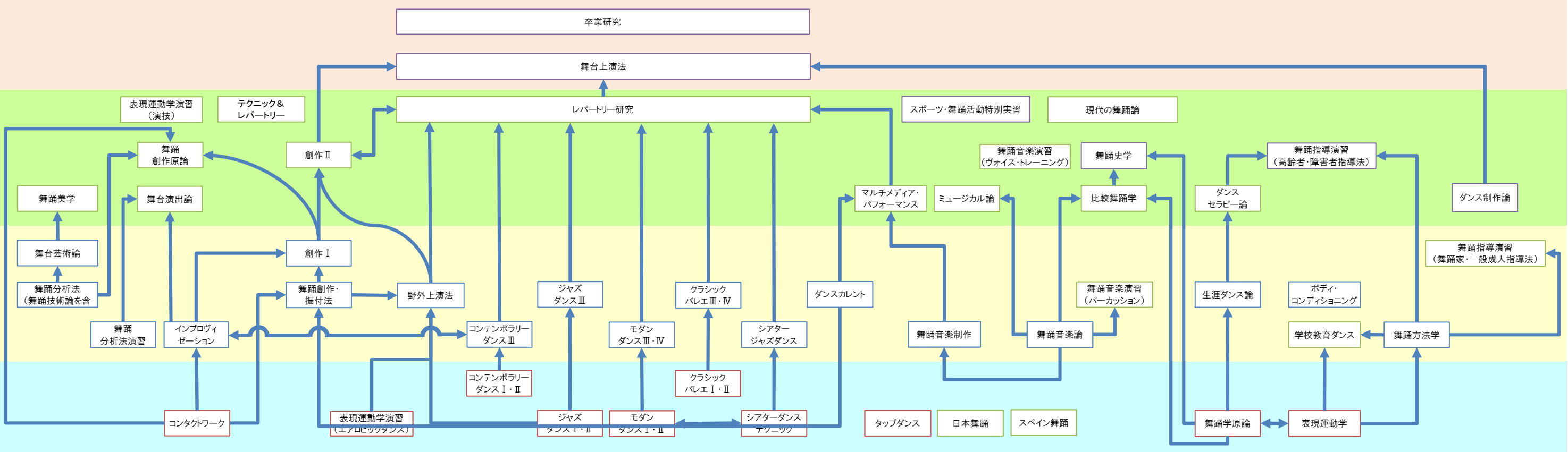
シラバス



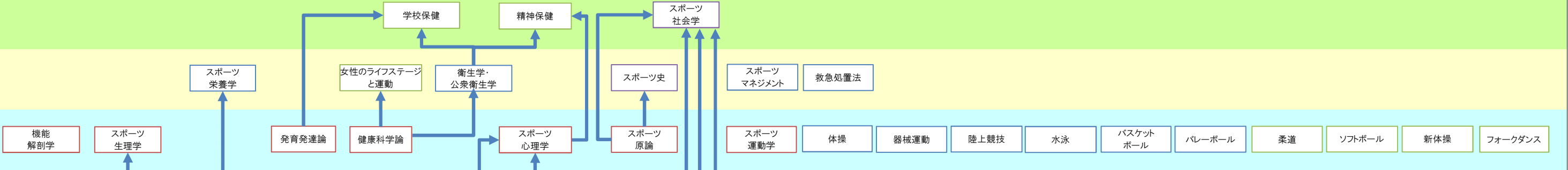
J a p a n W o m e n ' s C o l l e g e o f P h y s i c a l E d u c a t i o n

ダンス学科 カリキュラムマップ

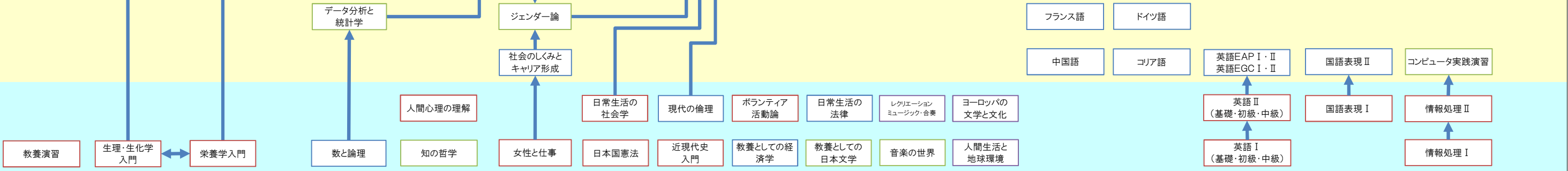
専門基礎教育・専門教育科目



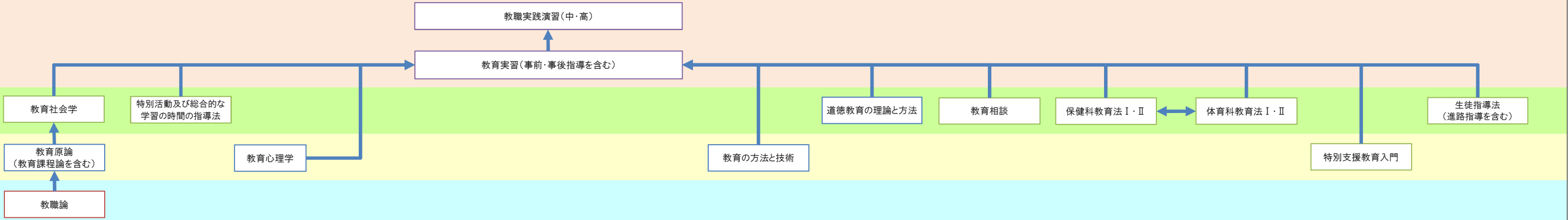
体育関連科目



教養科目



教職科目



スポーツ科学科 科目ナンバー

1 桁目：学科コード（S=スポーツ科学科，D=ダンス学科，H=健康スポーツ学科，C=子ども運動学科）／2～4 桁目：分野コード／5 桁目：授業レベル／6～7 桁目：枝番

分類		基礎科目（100番台）		初級科目（200番台）		応用科目（300番台）		上級科目（400番台）			
		科目名	ナンバー	科目名	ナンバー	科目名	ナンバー	科目名	ナンバー		
教養科目	必修科目	日本国憲法	SLR101	国語表現Ⅱ	SLR201						
		女性と仕事	SLR102								
		教養演習	SLR103								
		情報処理Ⅰ	SLR104								
		情報処理Ⅱ	SLR105								
		国語表現Ⅰ	SLR106								
		英語Ⅰ（基礎）	SLR107								
		英語Ⅰ（初級）	SLR108								
		英語Ⅰ（中級）	SLR109								
		英語Ⅱ（基礎）	SLR110								
		英語Ⅱ（初級）	SLR111								
		英語Ⅱ（中級）	SLR112								
	選択科目	栄養学入門	SLE101	英語E A PⅠ	SLE201						
		生理・生化学入門	SLE102	英語E G CⅠ	SLE202						
		近現代史入門	SLE103	英語E A PⅡ	SLE203						
		人間心理の理解	SLE104	英語E G CⅡ	SLE204						
		ボランティア活動論	SLE105	ドイツ語	SLE205						
		日常生活の社会学	SLE106	フランス語	SLE206						
		数と論理	SLE107	中国語	SLE207						
		現代の倫理	SLE108	コリア語	SLE208						
		日常生活の法律	SLE109	社会のしくみとキャリア形成	SLE209						
		教養としての経済学	SLE110	データ分析と統計学	SLE210						
		知の哲学	SLE111	ジェンダー論	SLE211						
		教養としての日本文学	SLE112	コンピュータ実践演習	SLE212						
		音楽の世界	SLE113								
		人間生活と地球環境	SLE114								
		ヨーロッパの文学と文化	SLE115								
		レクリエーションミュージック・合奏	SLE116								
専門基礎教育科目	必修科目	スポーツ運動学	SBR101	女性のライフステージと運動	SBR201						
		スポーツ原論	SBR102	スポーツ栄養学	SBR202						
		スポーツ生理学	SBR103	スポーツ心理学	SBR203						
		機能解剖学	SBR104	ダンスムーブメントA	SBR204						
		体操Ⅰ	SBR105	ダンスムーブメントB	SBR205						
		器械運動Ⅰ	SBR106								
		陸上競技Ⅰ	SBR107								
		水泳Ⅰ	SBR108								
		バスケットボールⅠ	SBR109								
		バレーボールⅠ	SBR110								
	選択科目	健康科学論	SBE101	スポーツバイオメカニクス	SBE201	救急処置法	SBE301				
		発育発達論	SBE102	衛生学・公衆衛生学	SBE202	生涯スポーツ概論	SBE302				
		新体操Ⅰ	SBE103	精神発達	SBE203	学校保健	SBE303				
		ハンドボールⅠ	SBE104	スポーツ医学	SBE204	精神保健	SBE304				
		サッカーⅠ	SBE105	体操Ⅱ	SBE205	障害者スポーツ論	SBE305				
		スキー	SBE106	新体操Ⅱ	SBE206	スポーツ社会学	SBE306				
		スケート	SBE107	器械運動Ⅱ	SBE207	スポーツ政策論	SBE307				
		野外教育論	SBE108	陸上競技Ⅱ	SBE208	スポーツ指導者論	SBE308				
		ソフトボール	SBE109	水泳Ⅱ	SBE209	指導サービス論	SBE309				
		柔道	SBE110	バスケットボールⅡ	SBE210						
				バレーボールⅡ	SBE211						
				ハンドボールⅡ	SBE212						
				サッカーⅡ	SBE213						
				スポーツマネジメント	SBE214						
				スポーツ史	SBE215						
				スポーツ法学	SBE216						
		専門教育科目	必修科目	スポーツコーチング論	SMR101	スポーツ技術論（ｽﾎﾟｰﾂ技術ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞを含む）	SMR201	体力トレーニング演習	SMR301	スポーツ科学論演習	SMR401
						スポーツ戦術論（ｽﾎﾟｰﾂ戦術ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞを含む）	SMR202				
				スポーツコンディショニング論	SMR203						
選択科目				トレーニング計画論	SME201	スポーツコーチング演習Ⅰ（採点競技系・新体操）	SME301	卒業研究	SME401		
				ダンス・メソッド	SME202	スポーツコーチング演習Ⅰ（採点競技系・器械運動）	SME302				
						スポーツコーチング演習Ⅰ（測定競技系・陸上競技）	SME303				
						スポーツコーチング演習Ⅰ（測定競技系・水泳）	SME304				
						スポーツコーチング演習Ⅰ（判定競技系・ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ）	SME305				
						スポーツコーチング演習Ⅰ（判定競技系・ﾊｯﾄﾞﾎﾞｰﾙ）	SME306				
						スポーツコーチング演習Ⅰ（判定競技系・ｻｯｶｰ）	SME307				
						スポーツコーチング演習Ⅰ（判定競技系・ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ）	SME308				
						運動技能評価法	SME309				
						専門体力トレーニング論	SME310				
						スポーツリハビリテーション論	SME311				
						ｽﾎﾟｰﾂｺﾝﾃﾞｲｼｮﾆﾝｸﾞ 演習A（体力ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞの生理学）	SME312				
						ｽﾎﾟｰﾂｺﾝﾃﾞｲｼｮﾆﾝｸﾞ 演習B（ｽﾎﾟｰﾂ選手の栄養学）	SME313				
						ｽﾎﾟｰﾂｺﾝﾃﾞｲｼｮﾆﾝｸﾞ 演習C（ｽﾎﾟｰﾂ選手の心理学）	SME314				
						スポーツコーチング演習Ⅱ	SME315				
						スポーツコーチング演習Ⅲ	SME316				
						テーピング・マッサージ	SME317				
						比較スポーツ論	SME318				
						障害者スポーツコーチング論	SME319				
						スポーツ運動分析法	SME320				
						スポーツ・舞踊活動特別実習	SME321				
	教職科目			教職論	STE101	教育原論（教育課程を含む）	STE201	道徳教育の理論と方法	STE301	教職実践演習（中・高）	STE401
						教育心理学	STE202	教育社会学	STE302	教育実習（事前・事後指導を含む）	STE402
						教育の方法と技術	STE203	教育相談	STE303		
						特別支援教育入門	STE204	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	STE304		
						生徒指導法（進路指導を含む）	STE305				
						保健科教育法Ⅰ	STE306				
						保健科教育法Ⅱ	STE307				
						体育科教育法Ⅰ	STE308				
						体育科教育法Ⅱ	STE309				

ダンス学科 科目ナンバー

1桁目：学科コード（S=スポーツ科学科，D=ダンス学科，H=健康スポーツ学科，C=子ども運動学科）／2～4桁目：分野コード／5桁目：授業レベル／6～7桁目：枝番

分類		基礎科目（100番台）		初級科目（200番台）		応用科目（300番台）		上級科目（400番台）	
		科目名	ナンバー	科目名	ナンバー	科目名	ナンバー	科目名	ナンバー
教養科目	必修科目	日本国憲法	DLR101	国語表現Ⅱ	DLR201				
		女性と仕事	DLR102						
		教養演習	DLR103						
		情報処理Ⅰ	DLR104						
		情報処理Ⅱ	DLR105						
		国語表現Ⅰ	DLR106						
		英語Ⅰ（基礎）	DLR107						
		英語Ⅰ（初級）	DLR108						
		英語Ⅰ（中級）	DLR109						
		英語Ⅱ（基礎）	DLR110						
		英語Ⅱ（初級）	DLR111						
		英語Ⅱ（中級）	DLR112						
	選択科目	栄養学入門	DLE101	英語E A PⅠ	DLE201				
		生理・生化学入門	DLE102	英語E G CⅠ	DLE202				
		近現代史入門	DLE103	英語E A PⅡ	DLE203				
		人間心理の理解	DLE104	英語E G CⅡ	DLE204				
		ボランティア活動論	DLE105	ドイツ語	DLE205				
		日常生活の社会学	DLE106	フランス語	DLE206				
		教と論理	DLE107	中国語	DLE207				
		現代の倫理	DLE108	コリア語	DLE208				
		日常生活の法律	DLE109	社会のしくみとキャリア形成	DLE209				
		教養としての経済学	DLE110	データ分析と統計学	DLE210				
		知の哲学	DLE111	ジェンダー論	DLE211				
		教養としての日本文学	DLE112	コンピュータ実践演習	DLE212				
		音楽の世界	DLE113						
		人間生活と地球環境	DLE114						
		ヨーロッパの文学と文化	DLE115						
		レクリエーションミュージック・合奏	DLE116						
専門基礎教育科目	必修科目	スポーツ運動学	DBR101	スポーツ栄養学	DBR201				
		スポーツ生理学	DBR102	女性のライフステージと運動	DBR202				
		スポーツ原論	DBR103						
		スポーツ心理学	DBR104						
		機能解剖学	DBR105						
		モダンダンスⅠ	DBR106						
		モダンダンスⅡ	DBR107						
		クラシックバレエⅠ	DBR108						
		クラシックバレエⅡ	DBR109						
		ジャズダンスⅠ	DBR110						
		ジャズダンスⅡ	DBR111						
		コンテンポラリーダンスⅠ	DBR112						
		コンテンポラリーダンスⅡ	DBR113						
	選択科目	健康科学論	DBE101	舞踊分析法（舞踊技術論を含む）	DBE201	比較舞踊学	DBE301		
		発育発達論	DBE102	生涯ダンス論	DBE202	舞踊美学	DBE302		
		表現運動学演習（エアロビックダンス）	DBE103	衛生学・公衆衛生学	DBE203	舞踊創作原論	DBE303		
		体操	DBE104	スポーツマネジメント	DBE204	ミュージカル論	DBE304		
		器械運動	DBE105	救急処置法	DBE205	学校保健	DBE305		
		陸上競技	DBE106	スポーツ史	DBE206	精神保健	DBE306		
		水泳	DBE107	舞踊音楽演習（パーカッション）	DBE207	表現運動学演習（演技）	DBE307		
		バスケットボール	DBE108			舞踊音楽演習（ヴォイス・トレーニング）	DBE308		
		バレーボール	DBE109			スポーツ社会学	DBE309		
		新体操	DBE110						
		フォークダンス	DBE111						
		ソフトボール	DBE112						
		柔道	DBE113						
専門教育科目	必修科目	表現運動学	DMR101	舞踊創作・振付法	DMR201				
		舞踊学原論	DMR102	舞踊方法学	DMR202				
		シアターダンステクニック	DMR103	舞台芸術論	DMR203				
				舞踊音楽論	DMR204				
				創作Ⅰ	DMR205				
				野外上演法	DMR206				
	選択科目	タップダンス	DME101	ボディ・コンディショニング	DME201	舞台演出論	DME301	舞台上演法	DME401
		コンタクト・ワーク	DME102	舞踊分析法演習	DME202	現代の舞踊論	DME302	卒業研究	DME402
		スペイン舞踊	DME103	舞踊音楽制作	DME203	ダンスセラピー論	DME303		
		日本舞踊	DME104	ダンスカレント	DME204	マルチメディア・パフォーマンス	DME304		
				モダンダンスⅢ	DME205	レパートリー研究	DME305		
				モダンダンスⅣ	DME206	創作Ⅱ	DME306		
				クラシックバレエⅢ	DME207	テクニック&レパートリー	DME307		
				クラシックバレエⅣ	DME208	舞踊史学	DME308		
				ジャズダンスⅢ	DME209	ダンス制作論	DME309		
				シアタージャズダンス	DME210	舞踊指導演習（高齢者・障害者指導法）	DME310		
				コンテンポラリーダンスⅢ	DME211	スポーツ・舞踊活動特別実習	DME311		
				インプロヴィゼーション	DME212				
				舞踊指導演習（舞踊家・一般成人指導法）	DME213				
				学校教育ダンス	DME214				
	教職科目	教職論	DTE101	教育原論（教育課程を含む）	DTE201	道德教育の理論と方法	DTE301	教職実践演習（中・高）	DTE401
				教育心理学	DTE202	教育社会学	DTE302	教育実習（事前・事後指導を含む）	DTE402
				教育の方法と技術	DTE203	教育相談	DTE303		
				特別支援教育入門	DTE204	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	DTE304		
						生徒指導法（進路指導を含む）	DTE305		
						保健科教育法Ⅰ	DTE306		
						保健科教育法Ⅱ	DTE307		
						体育科教育法Ⅰ	DTE308		
						体育科教育法Ⅱ	DTE309		

健康スポーツ学科 科目ナンバー

1 桁目：学科コード（S=スポーツ科学科，D=ダンス学科，H=健康スポーツ学科，C=子ども運動学科）／2～4 桁目：分野コード／5 桁目：授業レベル／6～7 桁目：枝番

分類		基礎科目（100番台）		初級科目（200番台）		応用科目（300番台）		上級科目（400番台）	
		科目名	ナンバー	科目名	ナンバー	科目名	ナンバー	科目名	ナンバー
健康スポーツ学科	必修科目	日本国憲法	HLR101	国語表現Ⅱ	HLR201				
		女性と仕事	HLR102						
		教養演習	HLR103						
		情報処理Ⅰ	HLR104						
		情報処理Ⅱ	HLR105						
		国語表現Ⅰ	HLR106						
		英語Ⅰ（基礎）	HLR107						
		英語Ⅰ（初級）	HLR108						
		英語Ⅰ（中級）	HLR109						
		英語Ⅱ（基礎）	HLR110						
		英語Ⅱ（初級）	HLR111						
		英語Ⅱ（中級）	HLR112						
	選択科目	栄養学入門	HLE101	英語E A PⅠ	HLE201				
		生理・生化学入門	HLE102	英語E G CⅠ	HLE202				
		近現代史入門	HLE103	英語E A PⅡ	HLE203				
		人間心理の理解	HLE104	英語E G CⅡ	HLE204				
		ボランティア活動論	HLE105	ドイツ語	HLE205				
		日常生活の社会学	HLE106	フランス語	HLE206				
		数と論理	HLE107	中国語	HLE207				
		現代の倫理	HLE108	コリア語	HLE208				
		日常生活の法律	HLE109	社会のしくみとキャリア形成	HLE209				
		教養としての経済学	HLE110	データ分析と統計学	HLE210				
		知の哲学	HLE111	ジェンダー論	HLE211				
		教養としての日本文学	HLE112	コンピュータ実践演習	HLE212				
		音楽の世界	HLE113						
		人間生活と地球環境	HLE114						
		ヨーロッパの文学と文化	HLE115						
		レクリエーションミュージック・合奏	HLE116						
専門基礎教育科目	必修科目	スポーツ生理学	HBR101	スポーツ医学	HBR201				
		健康科学論	HBR102	衛生学・公衆衛生学	HBR202				
		機能解剖学	HBR103	体力トレーニング論	HBR203				
		生涯スポーツ論	HBR104	ダンスムーブメント	HBR204				
		スポーツ心理学	HBR105	ダンスエクササイズ	HBR205				
		スポーツマネジメント	HBR106						
		発育発達論	HBR107						
		体操	HBR108						
		器械運動	HBR109						
		陸上競技A	HBR110						
		水泳	HBR111						
		バスケットボール	HBR112						
		バレーボール	HBR113						
	選択科目	スポーツ運動学	HBE101	精神発達	HBE201	スポーツリハビリテーション論	HBE301		
		スポーツ原論	HBE102	女性のライフステージと運動	HBE202	学校保健	HBE302		
		社会福祉	HBE103	スポーツ産業論	HBE203	精神保健	HBE303		
		生涯スポーツA（ニュースポーツ）	HBE104	スポーツ法学	HBE204	障害者スポーツ論	HBE304		
		生涯スポーツB（ボールゲーム屋内）	HBE105	スポーツ史	HBE205	スポーツ施設管理論	HBE305		
		生涯スポーツC（ボールゲーム屋外）	HBE106	野外教育論	HBE206	テーピング・マッサージ	HBE306		
		スキー	HBE107	野外活動	HBE207	スポーツ指導演習（体づくり運動）	HBE307		
		スケート	HBE108	陸上競技B	HBE208	スポーツ指導演習（器械運動）	HBE308		
				スポーツバイオメカニクス	HBE209	スポーツ指導演習（陸上競技）	HBE309		
				スポーツ栄養学	HBE210	スポーツ指導演習（水泳）	HBE310		
						スポーツ指導演習（バスケットボール）	HBE311		
						スポーツ指導演習（バレーボール）	HBE312		
						ダンス・メソッド	HBE313		
						ソフトボール	HBE314		
専門教育科目	必修科目			運動処方論	HMR201	スポーツ健康科学演習	HMR301	スポーツ指導論	HMR401
				健康運動指導論	HMR202	スポーツプログラミング演習	HMR302		
						スポーツサービス論	HMR303		
	選択科目			体力測定評価法	HME201	健康福祉スポーツ論（高齢者）	HME301	健康スポーツ特別演習	HME401
				救急処置法	HME202	健康づくりのための運動生理学	HME302	生活習慣と健康	HME402
				スポーツ調査法	HME203	エアロビクス・エクササイズ	HME303	運動プログラム管理演習	HME403
				健康スポーツ演習（アクアスポーツ）	HME204	レジスタンス・エクササイズ	HME304	運動負荷試験演習	HME404
				健康スポーツ演習（ウォーキング・ジョギング）	HME205	健康福祉スポーツ演習（障害者）	HME305	卒業研究	HME405
				子どものスポーツ指導演習	HME206	スポーツ・舞踊活動特別実習	HME306		
						スポーツ政策論	HME307		
教職科目		教職論	HTE101	教育原論（教育課程を含む）	HTE201	道德教育の理論と方法	HTE301	教職実践演習（中・高）	HTE401
				教育心理学	HTE202	教育社会学	HTE302	教育実習（事前・事後指導を含む）	HTE402
				教育の方法と技術	HTE203	教育相談	HTE303		
				特別支援教育入門	HTE204	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	HTE304		
						生徒指導法（進路指導を含む）	HTE305		
						保健科教育法Ⅰ	HTE306		
						保健科教育法Ⅱ	HTE307		
						体育科教育法Ⅰ	HTE308		
						体育科教育法Ⅱ	HTE309		

【卒業認定方針と科目の関連性】

スポーツ科学科のディプロマポリシーに対する育成能力

①	導入科目	大学における学修ならびに研究に必要な基礎的知識およびスキルを修得し発揮できる
②	教養高き社会人養成（読む・書く・測る）	国語・外国語・情報処理等の能力・技術を修得し発揮できる
③	教養高き社会人養成（クリティカルシンキング）	問題発見力・メディアリテラシーを修得し実践に生かすことができる
④	教養高き社会人養成（公共性）	社会・倫理・地域連携・コミュニケーション等に関する知識・理論およびスキルを修得し実生活に活用できる
⑤	キャリア教育	自らの将来を自律的に考え実現するための実学的資質を身につけ活用できる
⑥	スポーツ方法	各種運動・スポーツ種目の基本的な技能や戦術を理解するとともに身につけ、実践することができる
⑦	スポーツコンディショニング	スポーツの技能・競技力を最大限に発揮できる身体的・心理的条件を整えるコンディショニングの知識・理論を身につけ実践できる
⑧	スポーツコーチング	競技力を向上させるトレーニング理論や実践的なプログラミング・コーチング理論を身につけ実践できる
⑨	教職科目	体育教師としての強い使命感、的確な生徒理解力、および豊かな教養を身につけ、学習者の成長発展に寄与する指導力を発揮できる

ダンス学科のディプロマポリシーに対する育成能力

①	導入科目	大学における学修ならびに研究に必要な基礎的知識およびスキルを修得し発揮できる
②	教養高き社会人養成（読む・書く・測る）	国語・外国語・情報処理等の能力・技術を修得し発揮できる
③	教養高き社会人養成（クリティカルシンキング）	問題発見力・メディアリテラシーを修得し実践に生かすことができる
④	教養高き社会人養成（公共性）	社会・倫理・地域連携・コミュニケーション等に関する知識・理論およびスキルを修得し実生活に活用できる
⑤	キャリア教育	自らの将来を自律的に考え実現するための実学的資質を身につけ活用できる
⑥	ダンス芸術	ダンスの身体技能を合理的に構築し、質の高いダンスとして表現できる 作品創作や振付方法、演出方法に関する知識と理論を修得し、高度な表現の実現に活用できる
⑦	ダンス教育	多様な対象に適したダンスの学習目的に応じた内容・方法に関する知識と理論を修得し、幅広くダンス指導に活用できる
⑧	ダンス・マネジメント	ダンス上演やダンス学習を支える環境の管理および方法に関する知識と理論を修得し、実践できる
⑨	教職科目	体育教師としての強い使命感、的確な生徒理解力、および豊かな教養を身につけ、学習者の成長発展に寄与する指導力を発揮できる

健康スポーツ学科のディプロマポリシーに対する育成能力

①	導入科目	大学における学修ならびに研究に必要な基礎的知識およびスキルを修得し発揮できる
②	教養高き社会人養成（読む・書く・測る）	国語・外国語・情報処理等の能力・技術を修得し発揮できる
③	教養高き社会人養成（クリティカルシンキング）	問題発見力・メディアリテラシーを修得し実践に生かすことができる
④	教養高き社会人養成（公共性）	社会・倫理・地域連携・コミュニケーション等に関する知識・理論およびスキルを修得し実生活に活用できる
⑤	キャリア教育	自らの将来を自律的に考え実現するための実学的資質を身につけ活用できる
⑥	スポーツ教育	教員として質の高い保健体育の授業を実践し、運動部活動では児童生徒の心身の実態に則した適正な指導を行うことができる。また、地域のスポーツ指導者として地域住民のニーズと実態に応じたスポーツ活動を提供し指導できる
⑦	健康運動指導	健康や体力について専門的に学び、多様な対象者に健康体力の保持・増進を目的とした健康運動指導を行うことができる
⑧	スポーツマネジメント	地域活動やNPO及びビジネスとしてのスポーツなどの効果的な仕組み作りやその運営を行うことができる
⑨	教職科目	体育教師としての強い使命感、的確な生徒理解力、および豊かな教養を身につけ、学習者の成長発展に寄与する指導力を発揮できる

子ども運動学科のディプロマポリシーに対する育成能力

①	導入科目	大学における学習・学問に必要な基礎的スキルの修得
②	教養高き社会人養成（読む・書く・測る）	国語・外国語・情報処理等の能力・技術の向上
③	教養高き社会人養成（クリティカルシンキング）	問題発見力・メディアリテラシーの向上
④	教養高き社会人養成（公共性）	社会・倫理・地域連携・コミュニケーション等への応用力の向上
⑤	キャリア教育	学生の将来に関わる実学的資質の育成
⑥	子どもの運動能力や感性	子どもの運動能力や感性を育てるための働きかけ方を学ぶ
⑦	子どもの健康と発達	子どもの心身の健康に関わる理論や実践方法を学ぶ
⑧	子育て支援	保育を広くとらえ、特別な配慮を必要とする子どもや保護者などへの支援の理論と方法を学ぶ

科 目 名		日本国憲法		担当者	中 村 安 菜	
英 文 名		Constitutional Law				
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	SLR101・DLR101・HLR101・CLR101		卒業認定方針との関連	④
【目的とねらい】 日本という国の基本的なあり方を決めている日本国憲法。この法がどのような内容であり、どのように役立っているのかを学ぶ。人権に関する規定、統治機構に関する規定ともに出来るだけ具体的・現実的な事件・出来事等と結びつけながら解説する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション、なぜ憲法を学ぶか。憲法とはどのような法か。 【 到達目標 】 (1)体育大学生が必修で日本国憲法について学ぶ理由を理解する。 (2)憲法がどのような法であるのかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第1章を熟読する。(4.0hr)				第9回 社会権 【 到達目標 】 (1)社会権が保障されることになった歴史的背景を理解する。 (2)生存権等の社会権の具体的内容を理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第8章を熟読する。(4.0hr)		
第2回 日本における憲法の歴史 【 到達目標 】 (1)大日本帝国憲法の制定過程と、その内容について理解する。 (2)日本国憲法の制定過程とその基本原則について、大日本帝国憲法と比較しつつ理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第1章を熟読する。(4.0hr)				第10回 労働権・労働基本権 【 到達目標 】 (1)労働権と労働基本権について理解する。 (2)公務員の労働基本権に対する制約について理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第8章を熟読する。(4.0hr)		
第3回 基本的人権総論 【 到達目標 】 (1)基本的人権が保障されることを意味を理解する。 (2)基本的人権の種類を理解する。 (3)基本的人権が誰に、どの程度保障されるのかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第11章を熟読する。(4.0hr)				第11回 象徴天皇制 【 到達目標 】 (1)憲法上の天皇に関する規定について理解する。 (2)天皇の存在と国民主権主義の関係について理解する。 【授業時間外学習】 教科書第1章・第11章を熟読する。(4.0hr)		
第4回 法の下の平等 【 到達目標 】 (1)法の下の平等とはどのようなことであるかを理解する。 (2)具体的な事例で不合理な差別とはどのようなことであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第12章を熟読する。(4.0hr)				第12回 平和主義 【 到達目標 】 (1)日本国憲法が規定している平和主義について理解する。 (2)平和主義の意義と問題点について理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第15章を熟読する。(4.0hr)		
第5回 精神的自由権① 【 到達目標 】 (1)思想・良心の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2)信教の自由とはどのようなことであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第4章を熟読する。(4.0hr)				第13回 国会 【 到達目標 】 (1)国会の地位と構成・役割について理解する。 (2)国会と国民主権主義の関係について理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第13章を熟読する。(4.0hr)		
第6回 精神的自由権② 【 到達目標 】 (1)学問の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2)表現の自由とはどのようなことであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第3章・第4章を熟読する。(4.0hr)				第14回 内閣 【 到達目標 】 (1)行政権の概念について理解する。 (2)内閣の地位と構成、役割や権能について理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第13章を熟読する。(4.0hr)		
第7回 精神的自由権③ 【 到達目標 】 (1)表現の自由の重要性を理解する。 (2)表現の自由に対する規制について理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第3章・第4章を熟読する。(4.0hr)				第15回 裁判所の役割② 【 到達目標 】 (1)司法権の概念とその独立について理解する。 (2)違憲審査制について理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第14章を熟読する。(4.0hr)		
第8回 経済的自由権 【 到達目標 】 (1)経済的自由権には具体的にどのようなものがあるかを理解する。 (2)職業選択の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (3)財産権とはどのようなものであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第6章を熟読する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 授業ではパワーポイントを用いて要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者には適宜、穴埋め式のプリントと補足資料を配布する。受講者には、ただプリントの穴埋めをするだけではなく、講義をよく聴き、自分で重要だと思う点などを積極的にメモすることが求められる。授業中は、特定のテーマについてディスカッションやグループ学習を導入する。なお、予習・復習として教科書を熟読し、内容を十分に理解することに加え、講義中に興味を持った事柄について、自らすすんで調べ、理解を深めることが肝要である。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業回数が減った場合でも、授業内容に大幅な変更はない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と穴埋め式の資料・補足資料、各回の復習課題である。資料の配信などに関する説明は、オンデマンド方式の授業が開始される前にポータルで行う。また、授業ごとの復習課題の提出によって授業への参加度を確認し、復習課題は成績評価の対象とする。						
【教科書・参考書など】 「【合格水準】教職のための憲法」志田陽子 編著、法律文化社、2017						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提である）。試験は試験期間中に実施する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題と学期末における最終課題などを総合的に評価する。						

科 目 名		女性と仕事			担当者	高橋 修一・溝口 紀子 林 亜美	
英 文 名		Career Development Studies (Women and Work)					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLR102・DLR102・HLR102・CLR102		卒業認定方針との関連	③⑤	
【目的とねらい】 本学の教育理念に沿い、主体的な生き方を自ら創造するキャリア形成の基礎力を身につけることを目的とする。働く環境がめまぐるしく変化する社会にあって、「働くこと」の意味や「仕事」について、自ら課題を発見し自律的に思考することによって、４年間の学生生活に取り組む姿勢を確固たるものにする。２年次の「社会のしくみとキャリア形成」とともに、女性としての社会的立場を理解し、教養高さ社会人の基礎を培うとともに、自らの道を切り開く力の養成を図ることを狙いとする。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 本講義の目的と狙いを理解し、現時点の自己を把握するために自らの振り返りと未来の予測を、具体的に書きまとめる。				第9回 社会を知る(7) 講演⑤ 【 到達目標 】 社会で活躍している女性による講演を通して様々な仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成の基礎を育む。			
【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。全15回の授業について概観する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 自分のキャリア形成について考える。(4.0hr)			
第2回 自己理解と自己分析 【 到達目標 】 自己理解や自己分析を行う。				第10回 社会を知る(7) 講演⑥ 【 到達目標 】 社会で活躍している女性による講演を通して様々な仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成の基礎を育む。			
【授業時間外学習】 性格・適性診断及びレジリエンス診断を行う。(4.0hr)				【授業時間外学習】 自分のキャリア形成について考える。(4.0hr)			
第3回 社会を知る(1) (ライフプランと資金管理) 【 到達目標 】 自己のライフイベントと金銭的な面からキャリア形成について考える。 業界や業種について知る。				第11回 日本の労働市場と女性 【 到達目標 】 日本における女性を取り巻く現状や労働問題の概要を知る。			
【授業時間外学習】 ライフイベント表・家計予算表を作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 男女共同参画に関する最新の情報を調べる。(4.0h)			
第4回 社会を知る(2) (女性のワークキャリア) 【 到達目標 】 社会人基礎力やコミュニケーション能力を高める方法を知る。				第12回 基礎知識(1) 雇用保険 【 到達目標 】 雇用保険制度の概要を学ぶとともに、雇用保険の主な給付(求職者給付、育児介護休業給付等)とその内容を理解する。			
【授業時間外学習】 自分が実践すべき具体的事項(マンダラチャート)を作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 育児休業中・介護休業中の経済支援について調べる(4.0h)			
第5回 社会を知る(3) 講演① 【 到達目標 】 社会で活躍している女性による講演を通して様々な仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成の基礎を育む。				第13回 女性のライフコース 【 到達目標 】 現代の日本の状況について政府統計等のデータを用いて学ぶとともに、自分自身の将来のライフコースを考える。			
【授業時間外学習】 自分のキャリア形成について考える。(4.0hr)				【授業時間外学習】 結婚と家族をめぐる基礎データについて調べる。(4.0h)			
第6回 社会を知る(4) 講演② 【 到達目標 】 社会で活躍している女性による講演を通して様々な仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成の基礎を育む。				第14回 女性とキャリア 【 到達目標 】 キャリアと職業の違いから、仕事と人生のバランスについて考える。			
【授業時間外学習】 自分のキャリア形成について考える。(4.0hr)				【授業時間外学習】 キャリアの転機と折り合いの付け方について調べる。(4.0h)			
第7回 社会を知る(5) 講演③ 【 到達目標 】 社会で活躍している女性による講演を通して様々な仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成の基礎を育む。				第15回 女性とキャリア 【 到達目標 】 多様な女性のキャリア・パターンについて理解するとともに、自己のキャリア形成について考えをまとめる。			
【授業時間外学習】 自分のキャリア形成について考える。(4.0hr)				【授業時間外学習】 これまでの学修を踏まえ、自己のキャリア形成についてまとめる。(4.0hr)			
第8回 社会を知る(6) 講演④ 【 到達目標 】 社会で活躍している女性による講演を通して様々な仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成の基礎を育む。							
【授業時間外学習】 自分のキャリア形成について考える。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し理解を深めていく。また、ゲストセッションを通して、書籍や資料だけでは得難い体験に基づいた講話やオンタイムの情報を得る機会を提供する。各自の理解度や気づきの程度の確認のため、小レポートを提出し授業の達成度を確認する。 授業回により、学生はプレゼンテーション資料を作成し、授業の理解度を確認する。							
【教科書・参考書など】 【オンライン授業の場合】 キャリア・ノート(各自)							
【成績評価方法】 対面授業の場合もオンライン授業の場合も評価方法は変わらない。 原則として、授業への出席・参加(50%)、学期内のレポート・課題(50%)で評価する。							

科 目 名		教養演習		担当者		
英 文 名		Preparations for Academic Studies				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR103・DLR103・HLR103・CLR103		卒業認定方針との関連	①③④
【目的とねらい】 この授業は、大学での学修の基礎となる知識・技術の習得を目的とした初年次教育の授業である。授業では以下の4点を重点的に養成する。①アカデミック・スキルズ(大学での学修・調査・研究に必要な諸技術)の習得、②日本女子体育大学の一員としての自覚と責任の養成、③社会の一員として必要となるソーシャル・スキルズの向上、④教養力の養成。これらの目的を達成するため授業は少人数クラスでの演習形式で行われる。また下記の授業内容に加え、必要に応じて各種の配布物を使った課題およびワークショップの内容も実施する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回　アイスブレイク 【　到達目標　】 クラスメイトと「アイスブレイク」の活動を通して、仲間と打ち解けあい、よりよい集団づくりをしていくには何が必要かを体験的に学ぶ。			第9回　レポート・論文作成の技術（1） 【　到達目標　】 レポート・論文作成に求められる基本姿勢・思考法・研究倫理を理解し、作成の手順等を、内容と形式の両面から習得する。			
【授業時間外学習】 学習内容を今後のクラス、部活動、諸活動などの実践の場で活かすよう工夫する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。(4.0hr)			
第2回　私の大学生活 【　到達目標　】 これまでの大学生活を振り返り、他者の事例との比較考察を通して、自分の大学生活を有意義なものしていくにはどうすればよいかを自覚的に考える。			第10回　レポート・論文作成の技術（2） 【　到達目標　】 レポート・論文作成における各種の不正行為を防ぐ方法、および研究倫理を具体例を通して学習する。また参考文献を正しく利用することで論考の質を高める技術を実践的に習得する。			
【授業時間外学習】授業で確認した内容を踏まえ、今後の大学生活をどう送るかについて各自の自覚を深める。(4.0hr)			【授業時間外学習】 今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。(4.0hr)			
第3回　日本女子体育大学を知る（1） 【　到達目標　】 日本女子体育大学の創立者である二階堂トクヨの生涯を概観し、本学がどのようにして創立されたのかを理解し、説明できるようにする。			第11回　プレゼンテーションの技術 【　到達目標　】 プレゼンテーションに求められる姿勢・準備方法等を理解し、その効果的な実施方法や手順を習得する。			
【授業時間外学習】創立者二階堂トクヨのことを必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 学習内容を今後の授業・ゼミ・部活でのプレゼンに活かすよう工夫する。(4.0hr)			
第4回　日本女子体育大学を知る（2） 【　到達目標　】 日本女子体育大学の建学の精神・教育理念を理解し、本学の一員としての自覚と責任を深め、本学で学ぶことの意義を考える。			第12回　専門への架け橋 【　到達目標　】 「卒業研究」の概要を理解し、先輩たちの体験アンケート結果を参考にして、自分の卒業研究の方向性を考える。			
【授業時間外学習】本学の建学の精神・教育理念を必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 学習内容を踏まえ、自分が書きたい卒業研究のテーマ・内容を考える。(4.0hr)			
第5回　話し合いの技術 【　到達目標　】 集団で物事を決定する際の諸方法の長所・短所を比較考察し、話し合いの目的や決める内容に応じた適切な方法を考える。			第13回　レポート・プレゼンテーション① 【　到達目標　】 担当教員の指示に従って、レポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。			
【授業時間外学習】 学習内容を今後のクラス・部活動・諸活動などの実践の場で活かせるよう工夫する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 各自のレポート・プレゼンテーションの準備を行う。(4.0hr)			
第6回　ノートテイクの技術 【　到達目標　】 大学で行われる授業の性質・特徴を踏まえて、ノートテイクの意義・留意点を確認する。そして担当教員の指示に従って実践し、各自の改善点を探る。			第14回　レポート・プレゼンテーション② 【　到達目標　】 前回に引き続きレポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。			
【授業時間外学習】 ノートテイクの技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 各自のレポート・プレゼンテーションの準備を行う。(4.0hr)			
第7回　データを読む技術 【　到達目標　】 量的データを扱う際の初歩的な統計的計算方法やスキルを、その基本問題の実践を通じて習得する。			第15回　レポート・プレゼンテーション③ 【　到達目標　】 担当教員の指示の下に、レポート・プレゼンテーションのまとめの作業を行う。			
【授業時間外学習】 データ解釈の技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 受講生各自がレポート・プレゼンテーションの反省点・改善点を確認する。(4.0hr)			
第8回　データをまとめる技術 【　到達目標　】 質的データを、整理・分析・考察の有効な資料にしていくための「まとめる」スキルを学ぶ。ここでは「マインド・マップ」と「KJ法」を習得する。						
【授業時間外学習】 授業で実践したスキルを、今後の授業・研究などで実践してみる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 この授業は、講義ではなく「演習」である。そこでは受講生ひとりひとりが読み、考え、書き、意見交換をし、調べ、報告する様々な「活動」が中心となる。良識ある態度で授業に臨み、教員・クラスメイトと協力し合って、この演習を有意義なものにすることが望まれる。 【オンライン授業の場合】 担当教員の指示に従って毎回のテーマを学習し、レポート・課題を期限まで提出すること。提出されたレポート・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。						
【教科書・参考書など】 『教養演習ハンドブック』を用いる。他にも必要に応じて随時ハンドアウト・資料等を配布する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 スキル・課題の習得度・達成度を50％、レポート・プレゼンテーションの達成度50％で評価する。 【オンライン授業の場合】 オンライン上の演習で行ったスキル・課題の習得度・達成度を50％、レポート・プレゼンテーションの達成度50％で評価する。						

科 目 名		情報処理Ⅰ			担当者	鈴木 信夫 ・ 水野 有希 阿南 大	
英 文 名		Information Literacy Ⅰ					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR104・DLR104・HLR104・CLR104			卒業認定方針との関連	②③
【目的とねらい】 ICT（Information & Communication Technology）の基礎や情報倫理を理解した上で、文書作成、表計算等に関するアプリケーションの活用法を学ぶ。また、ネットワークのしくみの基本を理解し、インターネットやメーラーの活用法やコンピュータウイルスに対する対策についても理解する。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 インターネットについての理解と利用 【 到達目標 】 (1)ポータルサイトの概要やオンライン授業について理解し、利用方法を習得する。 (2)メールの署名の設定し、メールの送り方を理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第9回 数値分析・データ加工法の理解 【 到達目標 】 (1)コンピュータによるデータの蓄積と分析の知識を得る。 (2)表計算ソフトEXCELの基本操作ができるようになる。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第2回 情報倫理と著作権 【 到達目標 】 (1)情報倫理について概要を学び、ネットを利用することで生じる問題を理解する。 (2)著作権を学び、生活の中で発生する著作権法違反を理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第10回 数値分析・データ加工の方法 【 到達目標 】 (1)EXCELによるデータ分析、シートの編集・印刷についての知識を得る。 (2)数値計算・統計計算への応用ができるようになる。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第3回 メディアリテラシーとWebコミュニケーション 【 到達目標 】 (1)情報におけるメディアリテラシーの重要性を理解する。 (2)Webコミュニケーションのマナー、活用法や問題点を理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第11回 プレゼンテーション法の理解 【 到達目標 】 (1)PCを使ったプレゼンテーションについて理解する。 (2)PowerPointによるスライド作成を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第4回 情報化社会の問題と情報セキュリティ 【 到達目標 】 (1)情報化社会における問題点を知り、情報漏洩の経路や原因を理解する。 (2)情報セキュリティの必要性と対策を理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第12回 プレゼンテーションの方法1 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーション・スライドの応用的利用について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第5回 文書作成法の理解 【 到達目標 】 (1)文書の構成の知識と文書作成ソフトウェアの知識を理解する。 (2)テキストデータ作成と編集について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第13回 プレゼンテーションの方法2 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーション・スライドの効果的利用方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第6回 文書作成の方法 【 到達目標 】 (1)Wordによる文書レイアウトの操作に関する知識を得る。 (2)文書のレイアウト方法や編集について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第14回 OSとアプリケーションとファイルについての理解 【 到達目標 】 (1)OSとアプリケーションについての知識を得る。 (2)Word文書をPDF形式に保存する方法・EXCELをCSV形式に保存する方法等を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第7回 ビジュアル表現法の理解 【 到達目標 】 (1)文書上のオブジェクトについて理解する。 (2)文書上の画像コンテンツのレイアウト方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第15回 ファイルについての知識および管理の方法 【 到達目標 】 (1)ファイルについての知識および管理方法を習得する。 (2)様々な保存形式について理解する。 (3)提出課題ポートフォリオによるスキルの自己チェックを行う。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第8回 ビジュアル表現の方法2 【 到達目標 】 (1)文書上の図形描画（ドロー系コンテンツ）を習得する。 (2)文書の印刷方法について理解し、習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 単なるアプリケーションの活用と習得だけでなく、背景にある文書の構成やコンピュータの分析処理の基本的な知識や考え方を学び、情報機器の活用に必要な情報倫理や著作権などの知識を学ぶことで、専門科目における活用の基礎となるスキルと知識を得ることを目標とする。 【対面授業の場合】 講義は情報処理実習室で授業を実施する。毎回授業時に関連した課題を提出してもらう。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は変更しない。配信される資料はスライドと資料とし、配信は対面授業のスケジュールに従い、授業日前日までに本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップし、1週間掲載する。授業日から5日以内に関連した課題を提出し、出席は各授業の課題の提出によって確認する。なお、課題の遂行にはMicrosoft Office が使用できるデバイス所有していることが望ましい。							
【教科書・参考書など】 別途、授業時に指示する。							
【成績評価方法】 【対面・オンライン授業共通】 毎回の提出課題を100％として評価する。							

科 目 名		国語表現Ⅰ		担当者	高橋 良久・並木真理子 石元みさと	
英 文 名		Japanese Composition and Rhetoric Ⅰ				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR106・DLR106・HLR106・CLR106		卒業認定方針との関連	②
【目的とねらい】 ・国語力や読解力、文章力を養い、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力を高めることを目的とする。 ・自ら主体的に言語生活の充実を図るとともに、言葉に関する視野を広げ、実生活に生きて働く基本的なリテラシーを養う。 ・文章を読んだり書いたりすることを通して、批判的思考力を養う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション（授業概要理解・学習目標設定） 【 到達目標 】 この授業の目的とねらい、学習方法を理解し、各自が学習目標を設定する。			第9回 文章力を身につける①（レポートの書き方） 【 到達目標 】 ・構成について学ぶ。			
【授業時間外学習】 授業内容を復習し、自身の立てた目標を達成するために必要なことをリストアップする。（4.0hr）			【授業時間外学習】 新聞や書籍、インターネットなどからレポート執筆に必要な情報を集める。（4.0hr）			
第2回 国語力（知識）を身につける①（敬語） 【 到達目標 】 ・尊敬語、謙譲語、丁寧語の違いを理解する。			第10回 文章力を身につける②（成文化） 【 到達目標 】 ・根拠や理由で主張に肉付けする。			
【授業時間外学習】 日常生活（他授業やアルバイト）での会話でも敬語を使えるようにする（4.0hr）			【授業時間外学習】 書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。（4.0hr）			
第3回 国語力（知識）を身につける②（文法） 【 到達目標 】 ・「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」の使用を防ぐために、動詞と助動詞の活用について学ぶ。			第11回 文章力を身につける③（接続詞） 【 到達目標 】 ・接続詞や接続助詞の働きについて理解する。			
【授業時間外学習】 テレビやインターネットの中の「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」を探してみる（4.0hr）			【授業時間外学習】 新聞記事や評論を接続詞に注目して読む。（4.0hr）			
第4回 国語力（知識）を身につける③（仮名遣い・語彙） 【 到達目標 】 ・送り仮名などの仮名遣いについて理解し、適切に使えるようにする。			第12回 文章力を身につける④（文構造） 【 到達目標 】 ・主語述語を対応させて、文のねじれを防ぐ方法を学ぶ。			
【授業時間外学習】 SPIに頻出する「二語の関係」の問題に取り組む。（4.0hr）			【授業時間外学習】 新聞記事や評論を主語述語に注目して読む。（4.0hr）			
第5回 国語力（知識）を身につける④（手紙・メール） 【 到達目標 】 ・手紙のマナーや書き方について理解を深める。 ・Eメールのマナーや書き方について理解する。			第13回 文章力を身につける⑤（反論） 【 到達目標 】 ・他受講生が書いたレポートを読んで、気づいた点（良い点・疑問点・反論点・改善点など）を具体的に指摘できるようにする。			
【授業時間外学習】 実際にEメールを作成してみる。（4.0hr）			【授業時間外学習】 他受講生のレポートからの気づきを自分のレポートにも反映する。（4.0hr）			
第6回 読解力を身につける①（文章整序・長文読解） 【 到達目標 】 ・文章の構成について理解し、文章整序問題に取り組む。			第14回 文章力を身につける⑥（修正） 【 到達目標 】 ・レポートを読んだ他受講生からの指摘をふまえ、レポートがより良くなるように修正する。			
【授業時間外学習】 新聞記事や他授業で用いる教科書、論文なども積極的に読んでみる。（4.0hr）			【授業時間外学習】 書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。（4.0hr）			
第7回 読解力を身につける②（要約） 【 到達目標 】 ・文章の話題を素早くつかみ、キーワードを押さえられるようにする。			第15回 目標達成度確認・国語表現Ⅱへの課題 【 到達目標 】 自己評価により目標達成度を測り、国語表現Ⅱへの課題を確認する。			
【授業時間外学習】 新聞記事などの興味がある文章についても要約をしてみる。（4.0hr）			【授業時間外学習】 授業全体を振り返って、自己評価を行う。（4.0hr）			
第8回 読解力を身につける③（根拠の検討、分析） 【 到達目標 】 ・文章中の事実と意見を区別できるようにする。						
【授業時間外学習】 教科書や論文などの文章についても分析をしてみる。（4.0hr）						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 ほぼ毎時間、小テストやレポート提出、意見交換が課され、出欠を兼ねる。本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。新聞や文庫等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないので、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。手元に辞書を用意し、すぐに意味が調べられるようにすること（電子辞書も可、オンラインならばコトバンクやWeblioなどを利用することを推奨）。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも大幅には変更しないが、順番を入れ替える場合がある。資料のPDFや授業動画を配布・配信する。						
【教科書・参考書など】 教科書：授業内にて適宜、資料を配布する。 参考図書：『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド：大学生・大学院生のための自己点検法29』佐渡島紗織、坂本麻裕子、大野真澄編著（大修館書店）2015年、『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』佐渡島紗織 [ほか] 著（大修館書店）2020年						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 毎回の提出物やグループワークの取り組み60%、試験課題40% 【オンライン授業の場合】 毎回の提出物60%、試験課題40%						

科 目 名		英語Ⅰ（初級）		担当者	中 村 大 輔	
英 文 名		EnglishⅠ（Lower-Intermediate）				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR108・DLR108・HLR108・CLR108		卒業認定方針との関連	②
【目的とねらい】 この授業では、英語の基礎知識の復習・確認をしながら、日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・表現力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生がこれから自立的学習を行っていただけるようになるための学習指導も取り入れる。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回　オリエンテーションおよびプレースメントテストの実施 【　到達目標　　】 受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。 受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。（4.0hr）			第9回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑧ 【　到達目標　　】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第2回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得① 【　到達目標　　】 授業時間外学習の方法を把握する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第10回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑨ 【　到達目標　　】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第3回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得② 【　到達目標　　】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第11回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑩ 【　到達目標　　】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第4回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得③ 【　到達目標　　】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第12回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑪ 【　到達目標　　】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第5回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得④ 【　到達目標　　】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第13回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑫ 【　到達目標　　】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第6回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑤ 【　到達目標　　】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第14回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑬ 【　到達目標　　】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第7回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑥ 【　到達目標　　】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第15回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑭ 【　到達目標　　】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習する。（4.0hr）			
第8回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑦ 【　到達目標　　】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】予習・復習を継続し、小テスト・課題にしっかりと取り組むこと。小テスト・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。 【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限まで提出すること。提出されたレポート・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。						
【教科書・参考書など】 担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】原則として、授業への出席・参加50％、期末試験50％から評価する。 【オンラインの場合】原則として、授業への出席・参加50％、学期内の各種レポート・課題50％から評価する。						

科 目 名		英語Ⅰ（中級）		担当者	カーリン 清 佳	
英 文 名		EnglishⅠ（Intermediate）				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR109・DLR109・HLR109・CLR109		卒業認定方針との関連	②
【目的とねらい】 この授業では、英語の基礎知識(語彙・文法・発音等)を踏まえて、コミュニケーションの実践および学術研究に発展していけるようになるための英語力の養成を図る。また受講生が自立的学習を行っていけるようになるための学習指導や、知識・視野を広げるための海外事情・国際教養にも言及する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーションおよびプレイスメントテストの実施 【 到達目標 】 受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。 受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)			第9回 英語総合演習⑨ 【 到達目標 】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第2回 Introduction 英語総合演習⑩ 【 到達目標 】 受講にあたっての留意点・学習の進め方を理解する。 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第10回 英語総合演習⑩ 【 到達目標 】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第3回 英語総合演習⑪ 【 到達目標 】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第11回 英語総合演習⑪ 【 到達目標 】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第4回 英語総合演習⑫ 【 到達目標 】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第12回 英語総合演習⑫ 【 到達目標 】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第5回 英語総合演習⑬ 【 到達目標 】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第13回 英語総合演習⑬ 【 到達目標 】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第6回 英語総合演習⑭ 【 到達目標 】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第14回 英語総合演習⑭ 【 到達目標 】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第7回 英語総合演習⑮ 【 到達目標 】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第15回 英語総合演習⑮ 【 到達目標 】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習に取り組む。(4.0hr)			
第8回 英語総合演習⑯ 【 到達目標 】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 予習・復習を継続し、小テスト・課題にしっかりと取り組むこと。小テスト・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限まで提出すること。提出されたレポート・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。						
【教科書・参考書など】 担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50％、期末試験50％から評価する。 【オンライン授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50％、学期内の各種レポート・課題50％から評価する。						

科 目 名		英語Ⅱ（基礎）		担当者	加 賀 岳 彦	
英 文 名		English Ⅱ（Elementary）				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR110・DLR110・HLR110・CLR110		卒業認定方針との関連	②
【目的とねらい】 この授業では、「英語Ⅰ（基礎）」を踏まえて、さらに英語の基礎全般を確認・再学習し、英語の理解力およびコミュニケーション力の向上を図る。また、これから受講生が自立して英語を学習していけるようになるための演習を行う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業説明および英語総合演習① 【 到達目標 】 授業の目標・内容・計画を確認する。 受講生各自が、自己の英語学習の改善点を意識し、自立的学習を行っていけるよう方向づけを行う。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次の予習を行う。（4.0hr）			第9回 英語総合演習⑨ 【 到達目標 】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。（4.0hr）			
第2回 英語総合演習② 【 到達目標 】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。（4.0hr）			第10回 英語総合演習⑩ 【 到達目標 】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。（4.0hr）			
第3回 英語総合演習③ 【 到達目標 】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。（4.0hr）			第11回 英語総合演習⑪ 【 到達目標 】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。（4.0hr）			
第4回 英語総合演習④ 【 到達目標 】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。（4.0hr）			第12回 英語総合演習⑫ 【 到達目標 】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。（4.0hr）			
第5回 英語総合演習⑤ 【 到達目標 】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。（4.0hr）			第13回 英語総合演習⑬ 【 到達目標 】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。（4.0hr）			
第6回 英語総合演習⑥ 【 到達目標 】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。（4.0hr）			第14回 英語総合演習⑭ 【 到達目標 】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。（4.0hr）			
第7回 英語総合演習⑦ 【 到達目標 】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。（4.0hr）			第15回 英語総合演習⑮ 【 到達目標 】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項の復習を行う。（4.0hr）			
第8回 英語総合演習⑧ 【 到達目標 】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。（4.0hr）						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 予習・復習を継続し、小テスト・課題にしっかりと取り組むこと。小テスト・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限まで提出すること。提出されたレポート・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。						
【教科書・参考書など】 担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50％、期末試験50％から評価する。 【オンライン授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50％、学期内の各種レポート・課題50％から評価する。						

科 目 名		英語Ⅱ（初級）		担当者	中 村 大 輔	
英 文 名		EnglishⅡ（Lower-Intermediate）				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR111・DLR111・HLR111・CLR111		卒業認定方針との関連	②
【目的とねらい】 この授業では、「英語Ⅰ（初級）」を踏まえ、さらに日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また、受講生がこれから自立的学習を行っていきけるようになるための学習指導も引き続き行う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 イントロダクション・英語運用能力の習得、読解力の向上① 【 到達目標 】 受講における留意点・授業の内容と目標を確認する。 授業時間外学習の方法を振り返り、継続・改善する点を把握する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第9回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑨ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第2回 英語運用能力の習得、読解力の向上② 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第10回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑩ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第3回 英語運用能力の習得、読解力の向上③ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第11回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑪ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第4回 英語運用能力の習得、読解力の向上④ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第12回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑫ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第5回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑤ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第13回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑬ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第6回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑥ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第14回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑭ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第7回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑦ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第15回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑮ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、今後も自立的学習を継続させる。（4.0hr）			
第8回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑧ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】予習・復習を継続し、小テスト・課題にしっかりと取り組むこと。小テスト・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。 【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限まで提出すること。提出されたレポート・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。						
【教科書・参考書など】 担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】原則として、授業への出席・参加50％、期末試験50％から評価する。 【オンライン授業の場合】原則として、授業への出席・参加50％、学期内の各種レポート・課題50％から評価する。						

科 目 名	英語Ⅱ（中級）			担当者	カーリン 清 佳	
英 文 名	EnglishⅡ（Intermediate）					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR112・DLR112・HLR112・CLR112		卒業認定方針との関連	②
【目的とねらい】 この授業では、「英語Ⅰ（中級）」を踏まえて、英語のコミュニケーションの実践および英語を用いた学術研究に発展していけるようになるための英語力の養成を図る。また、受講生が自立的学習を行っていけるようになるための学習指導や、知識・視野を広げるための海外事情・国際教養にも言及する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 Introduction 英語演習① 【 到達目標 】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第9回 英語演習⑨ 【 到達目標 】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第2回 英語演習② 【 到達目標 】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第10回 英語演習⑩ 【 到達目標 】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第3回 英語演習③ 【 到達目標 】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第11回 英語演習⑪ 【 到達目標 】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第4回 英語演習④ 【 到達目標 】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第12回 英語演習⑫ 【 到達目標 】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第5回 英語演習⑤ 【 到達目標 】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第13回 英語演習⑬ 【 到達目標 】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第6回 英語演習⑥ 【 到達目標 】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第14回 英語演習⑭ 【 到達目標 】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第7回 英語演習⑦ 【 到達目標 】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第15回 英語演習⑮ 【 到達目標 】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習に取り組む。（4.0hr）			
第8回 英語演習⑧ 【 到達目標 】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。（4.0hr）						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 予習・復習を継続し、小テスト・課題にしっかりと取り組むこと。小テスト・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限内で提出すること。提出されたレポート・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。						
【教科書・参考書など】 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50％、期末試験50％から評価する。 【オンライン授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50％、各種のレポート・課題50％から評価する。						

科 目 名		国語表現Ⅱ		担当者	高橋 良久・並木真理子 石元みさと	
英 文 名		Japanese Composition and Rhetoric Ⅱ				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR201・DLR201・HLR201・CLR201		卒業認定方針との関連	②
【目的とねらい】 ・国語表現Ⅰで培った国語力や読解力、文章力の基礎的・基本的な知識を基に、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力の一層の伸長を図るとともに、アカデミック・ライティングについての学びを深める。 ・新聞やインターネットを活用し、メディア・リテラシーや情報リテラシーを身につける。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション（授業概要理解・学習目標設定） 【 到達目標 】 国語表現Ⅰでの学習を振り返り、各自が学習目標を設定する。			第9回 アカデミック・ライティングの基礎①（レポートの書き方） 【 到達目標 】 ・構成について学ぶ。 ・構成メモ（設計図）を書く。			
【授業時間外学習】 興味や関心のある新聞記事を探す。（4.0hr）			【授業時間外学習】 新聞や書籍、インターネットなどからレポート執筆に必要な情報を集める。（4.0hr）			
第2回 国語力（知識）を身につける①（敬語） 【 到達目標 】 ・尊敬語、謙譲語、丁寧語の違いを理解する。 ・場面ごとに敬語を適切に使えるようにする。			第10回 アカデミック・ライティングの基礎②（成文化） 【 到達目標 】 ・根拠や理由で主張に肉付けする。 ・話し言葉や原稿用紙の使い方に注意してレポートを書き上げる。			
【授業時間外学習】 日常生活（他授業やアルバイト）での会話でも敬語をできるようにする（4.0hr）			【授業時間外学習】 書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。（4.0hr）			
第3回 国語力（知識）を身につける②（文法） 【 到達目標 】 ・「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」の使用を防ぐために、動詞と助動詞の活用について学ぶ。 ・使役表現、可能表現を適切に使えるようにする。			第11回 文章力を身につける①（接続詞） 【 到達目標 】 ・接続詞や接続助詞の働きについて理解する。 ・前後の文脈を考えて適切に接続詞・接続助詞をできるようにする。			
【授業時間外学習】 テレビやインターネットの中の「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」を探してみる（4.0hr）			【授業時間外学習】 新聞記事や評論を接続詞に注目して読む。（4.0hr）			
第4回 国語力（知識）を身につける③（仮名遣い・語彙） 【 到達目標 】 ・送り仮名などの仮名遣いについて理解し、適切に使えるようにする。 ・語彙力を養うために、類義語や対義語などについて学ぶ。			第12回 文章力を身につける②（文構造） 【 到達目標 】 ・主語述語を対応させて、文のねじれを防ぐ方法を学ぶ。 ・修飾語について理解する。			
【授業時間外学習】 SPIに頻出する「二語の関係」の問題に取り組む。（4.0hr）			【授業時間外学習】 新聞記事や評論を主語述語に注目して読む。（4.0hr）			
第5回 読解力を身につける①（文章整序・長文読解） 【 到達目標 】 ・文章の構成について理解し、文章整序問題に取り組む。 ・接続詞やキーワードについて学び、長文読解に取り組む。			第13回 文章力を身につける③（反論） 【 到達目標 】 ・他受講生が書いたレポートを読んで、気づいた点（良い点・疑問点・反論点・改善点など）を具体的に指摘できるようにする。			
【授業時間外学習】 新聞記事や他授業で用いる教科書なども積極的に読んでみる。（4.0hr）			【授業時間外学習】 他受講生のレポートからの気づきを自分のレポートにも反映する。（4.0hr）			
第6回 読解力を身につける②（専門的な文章を読む） 【 到達目標 】 ・論文などの専門的な文章であっても、話題を素早くつかみ、キーワードを押さえられるようにする。			第14回 文章力を身につける④（修正） 【 到達目標 】 ・レポートを読んだ他受講生からの指摘をふまえ、レポートがより良くなるように修正する。			
【授業時間外学習】 新聞記事や他授業で用いる教科書なども積極的に読んでみる。（4.0hr）			【授業時間外学習】 書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。（4.0hr）			
第7回 読解力を身につける②（要約） 【 到達目標 】 ・文章の話題を素早くつかみ、キーワードを押さえられるようにする。 ・文と文とのつながりを考えながら、一つの文章として読めるように要約する。			第16回 目標達成度確認・今後の言語生活に向けて 【 到達目標 】 自己評価により目標達成度を測り、今後の言語生活に対する見通しを持つ。			
【授業時間外学習】 新聞記事などの興味がある文章についても要約を試みる。（4.0hr）			【授業時間外学習】 授業全体を振り返って、自己評価を行う。（4.0hr）			
第8回 読解力を身につける③（根拠の検討、分析） 【 到達目標 】 ・文章中の事実と意見を区別できるようにする。 ・客観的な事実・データを根拠にした理由に説得力があるか検討、分析する。						
【授業時間外学習】 教科書や論文などの文章についても分析を試みる。（4.0hr）						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 ほぼ毎時間、小テストやレポート提出、意見交換が課され、出欠を兼ねる。本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。新聞や文庫等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないので、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。手元に辞書を用意し、すぐに意味が調べられるようにすること（電子辞書も可、オンラインならばコトバンクやWeblioなどを利用することを推奨）。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも大幅には変更しないが、順番を入れ替える場合がある。資料のPDFや授業動画を配布・配信する。						
【教科書・参考書など】 教科書：授業内にて適宜、資料を配布する。 参考図書：『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド：大学生・大学院生のための自己点検法29』佐渡島紗織、坂本麻裕子、大野真澄編著（大修館書店）2015年、『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』佐渡島紗織［ほか］著（大修館書店）2020年						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】毎回の提出物やグループワークの取り組み60%、試験課題40% 【オンライン授業の場合】毎回の提出物60%、試験課題40%						

科 目 名		生理・生化学入門		担当者	大 澤 拓 也	
英 文 名		Introduction to Human Physiology and Biochemistry				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE102・DLE102・HLE102・CLE102		卒業認定方針との関連	①
【目的とねらい】 生理学・生化学とは、からだの中でどのようなことが起きているのか、からだの仕組みを機能の観点から明らかにする学問である。本講義では、スポーツ科学や健康科学に関連した基礎的な生理学・生化学を学習する。また、身体運動や環境の変化に対する生理的な適応およびそのメカニズムを理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション・概論 【 到達目標 】 講義の進め方、生理学や生化学とはどんなことを理解する。 日常生活やスポーツ・ダンス時における生理応答を考え、その機能を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			第9回 ホルモン (1) 【 到達目標 】 筋肥大や興奮、血糖値の調節に関するホルモンを理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第2回 筋 (1) 【 到達目標 】 筋の種類・構造、筋線維タイプ、筋収縮の種類を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			第10回 ホルモン (2) 【 到達目標 】 性ホルモンや月経を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第3回 筋 (2) 【 到達目標 】 筋の損傷・痛み、トレーニングや食事による変化を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			第11回 血液 【 到達目標 】 血液の成分や役割、運動による変化を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第4回 神経 【 到達目標 】 神経の種類、運動に関係する自律神経、運動神経・感覚神経を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			第12回 骨 【 到達目標 】 骨の構造、運動や年齢による変化を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第5回 呼吸 【 到達目標 】 呼吸の仕組み、運動時の変化、最大酸素摂取量を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			第13回 脂肪 【 到達目標 】 脂肪の種類や代謝、測定法を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第6回 循環 (1) 【 到達目標 】 心臓や血管の役割、運動による変化を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			第14回 体温 【 到達目標 】 暑熱環境や寒冷環境下におけるヒトの体温調節を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第7回 循環 (2) 【 到達目標 】 運動時や運動後の血流・血圧の変化を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			第15回 睡眠 【 到達目標 】 睡眠時の生理応答、睡眠が運動パフォーマンスに及ぼす影響を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第8回 代謝 【 到達目標 】 エネルギー代謝の種類と特徴、乳酸の役割、糖と脂肪の利用を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 要点をまとめた穴埋め形式のパワーポイント資料を用いて、口頭でその詳細を説明して講義を進める。講義内では、質疑応答や設問解答による発言、映像資料の視聴、生理学的測定等を行い理解を深める。また、講義終了時に小レポート、翌回開始時に小テストを実施する。 【オンライン授業の場合】 要点をまとめた穴埋め形式のパワーポイント資料を配布する。配信動画は2種類あり、ひとつは資料に沿って具体例を示しながら内容を説明する講義動画、もうひとつはテーマに沿った実験動画である。毎講義後、復習問題と講義の感想・質問を提出する。 【共通】 本講義の理解には、講義内容を自身の経験や実際のスポーツ・ダンス時の身体を想像すること、学んだことを他者(友人や家族など)に話をすることが大切である。						
【教科書・参考書など】 特定の教科書・参考書を準備する必要はない。ただし、図書館等で借りられる「運動生理学」「生化学」「解剖学」に関する書籍を参考にすることは講義の理解を深める。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】講義各回での発言・レポートを20%、筆記試験の結果を80%として総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】講義各回での課題を30%、筆記試験の結果を70%として総合的に評価する。社会的状況等により筆記試験が実施できない場合は、最終レポート課題となる。また、その場合は成績評価法の一部を変更する可能性がある。						

科 目 名		ボランティア活動論		担当者		森 田 恵	
英 文 名		Citizenship Education					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE105・DLE105・HLE105・CLE105			卒業認定方針との関連	④
【目的とねらい】 東日本大震災や全国で起こる災害、2021年の東京オリンピック・パラリンピック、などあらゆる場面でボランティアの存在が欠かせないものとなっている。また気候変動や貧困など地球規模の課題解決においても一人ひとりの取り組みが求められている。本講義では、私たちを取り巻く社会課題をトピックとして取り上げ、それらと自身の暮らしとのつながりへの気づきを促進するとともに、課題解決の取り組み事例を学ぶ。最終的に実際にボランティア活動を計画、体験しながら、市民社会におけるボランティア活動の意義を考察することを目的とする。授業履修後も継続的にボランティア活動に参加し、自らの専門性や力量を市民参加や社会貢献に結び付けていくことが、本講義の最終的なねらいである。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション（趣旨、学習の進め方）/市民と市民社会 【 到達目標 】 (1)「ボランティア活動論」の全体の流れを理解する。 (2)市民及び市民社会について理解する。 (3)自分の学習目標を決める。 【授業時間外学習】 自分の学習目標を決める。 （4.0hr）				第9回 社会課題⑥ 課題解決としてのフェアトレード 【 到達目標 】 (1)フェアトレードが必要な背景と概要について理解する (2)フェアトレードの取り組みを理解し、自分の行動について考える。 【授業時間外学習】 フェアトレードについてさらに調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）			
第2回 ボランティア活動の役割と背景 【 到達目標 】 (1)ボランティア活動の果たす役割を理解する。 (2)ボランティア活動を重視する背景を理解する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成を進め、実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）				第10回 社会課題⑥ 日本の子どもの貧困 【 到達目標 】 (1)日本における子どもの貧困の状況について理解する。 (2)地域の取り組み事例を、自分の活動に役立てる。 【授業時間外学習】 子どもの貧困についてさらに調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）			
第3回 ボランティア活動を始めるには 【 到達目標 】 (1)ボランティア活動を始めるためのステップを理解する。 (2)ボランティア活動に関わるしぐみを理解する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成を進め、実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）				第11回 社会課題⑦ プラスチックごみ問題 【 到達目標 】 (1)世界的な課題となっているプラスチックごみの状況について理解する。 (2)自身の具体的な取り組みについて考察する。 【授業時間外学習】 プラゴミ問題についてさらに調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）			
第4回 社会課題① 共生社会 【 到達目標 】 (1)障がいの社会モデルについて理解する。 (2)当事者理解に対する自身の傾向を知る。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成を進め、実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）				第12回 社会課題⑧ 災害救援ボランティア 【 到達目標 】 (1)災害救援ボランティア活動の概要について理解する。 (2)どこでも起こり得る災害について、学生に求められる役割と対応について考察する。 【授業時間外学習】 防災対策についてさらに調べて学修を展開する。ボランティア活動レポートを作成する。（4.0hr）			
第5回 社会課題② スマホから考えるSDGs 【 到達目標 】 (1)自分の暮らしと世界とのつながりに気づき課題を理解する。 (2)なぜSDGsが必要なのか、どういう枠組みなのかを考察する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成を進め、実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）				第13回 ボランティア活動体験と報告（1） 【 到達目標 】 (1)自分のボランティア活動を振り返り発表し、学習目標の達成度について考察する。 (2)他者のボランティア活動発表と自身の体験を重ねて学びを得る 【授業時間外学習】 実際にボランティア活動を行い、レポートを作成する。（4.0hr）			
第6回 ボランティア活動計画書と報告レポートの作成 【 到達目標 】 (1)ボランティア活動計画書報告レポート作成の目的を理解する (2)自分自身の学習目標とボランティア活動を連携させる 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書を完成させ、実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）				第14回 ボランティア活動体験と報告（2） 【 到達目標 】 (1)自分のボランティア活動を振り返り発表し、学習目標の達成度について考察する。 (2)他者のボランティア活動発表と自身の体験を重ねて学びを得る 【授業時間外学習】 実際にボランティア活動を行い、レポートを作成する。（4.0hr）			
第7回 社会課題③ 児童労働の現実 【 到達目標 】 (1)児童労働の現状を理解する。 (2)児童労働の課題解決のための取り組みを理解する。 【授業時間外学習】 児童労働についてさらに調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）				第15回 ボランティア活動体験と報告（3）及び学習目標到達度の検証 【 到達目標 】 (1)自分のボランティア活動を振り返り発表し、学習目標の達成度について考察する。 (2)他者のボランティア活動発表と自身の体験を重ねて学びを得る 【授業時間外学習】 実際にボランティア活動を行い、レポートを作成する。（4.0hr）			
第8回 社会課題④ 児童労働から考える子どもの権利 【 到達目標 】 (1)子どもの権利条約および児童労働の現状を理解する。 (2)児童労働の課題解決のための取り組みを理解し、自分の行動について考える。 【授業時間外学習】 子どもの権利条約について調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 パワーポイントや映像等を用いて学修を進める。ボランティアや市民社会等に関わる各テーマの理解度テストを行う。ボランティア活動計画書の作成、ボランティア活動体験発表、活動レポートの作成を行う。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容が変更される場合は事前にアナウンスする。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い別途指示する。出席は、各授業回の課題の期限内提出によって確認する。							
【教科書・参考書など】 資料プリント、映像教材等を使用。授業時に指示する。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 各回の授業時での課題30%、ボランティア活動発表およびレポート70%として評価する。合格基準は60%以上である。 【オンライン授業の場合】 回の授業時での課題30%、ボランティア活動発表およびレポート70%として評価する。合格基準は60%以上である。							

科 目 名		日常生活の社会学		担当者	田 北 康 成	
英 文 名		Introductory Sociology				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE106・DLE106・HLE106・CLE106		卒業認定方針との関連	④
【目的とねらい】 私たちの日常生活が複雑さを増す中で何が本当に大切かを見分ける知性が求められている。学校、家族、友人関係など日常生活の経験を糸口にして社会学とはどんな考え方をする学問であるのかを学んでいく。また社会調査という実証の方法についても学ぶ。実際にそれを活かして日常生活を検証してみることを目的とする。授業内で得られた社会学的思考は、自分の生き方の自由度を広げていくための知的で有効なアイテムとして実感できることを授業のねらいとしている。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 (1)本講義の方針、評価方法の説明、履修予定者の状況を把握する。 (2)身の回りの「あたりまえ」を疑い、別の視点からも捉え直して考える習慣を身につける。 (3)日常生活が世界とどこまで、どのように繋がっているかを想像できるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：「日本」という国の好きなところ、きらいなところを考えておく。(4.0hr)				第9回 グローバル社会とエスニシティ (1) 【 到達目標 】 (1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。 (2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：「方言」について考えることをまとめておく。(4.0hr)		
第2回 社会学はどのような考え方をし、どのように調べるのか 【 到達目標 】 (1)学問的な「問い」と「答え」を導き出す方法を知る。 (2)社会学の実証研究の方法として量的調査、質的調査共に様々なアプローチがあることを学ぶ。 【授業時間外学習】 予習課題：「スマホ」「インターネット」に頼らない旅行計画を立ててみる。(4.0hr)				第10回 グローバル社会とエスニシティ (2) 【 到達目標 】 (1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。 (2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：「日本」の好きなところと、きらいなところをまとめておく。(4.0hr)		
第3回 社会で生きる「私」と家族 【 到達目標 】 相互行為と「自我」の意味の形成についての基本的な知識と理解をする。 「地位」と「役割」とは何かについて考えることができるようにする。 家族集団にはどのような特徴があるかを考えられるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：「家族」について考えていること、感じていることを整理しておく。(4.0hr)				第11回 グローバル社会とエスニシティ (3) 【 到達目標 】 (1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。 (2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。 (3)海外にルーツをもつ隣人とのように共生していくか、考えられるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：海外に旅行／移住・留学をしてみたいと思うか、否か、その理由を考えておく。(4.0hr)		
第4回 性の多様なあり方を考える 【 到達目標 】 (1)生物学的な区分と社会化の過程で作られるジェンダーの違いを学ぶ。 (2)さまざまな性のあり方が知られていく一方で、より固着化していく心理を読み解けるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：子どものときに読んだ絵本やマンガ、遊び方を調べておく。(4.0hr)				第12回 グローバル社会とエスニシティ (4) 【 到達目標 】 (1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。 (2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。 (3)「国境」の先にある社会と「日本」のつながりを意識できるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：「国境」と往來の自由について自分の考えをまとめておく。(4.0hr)		
第5回 社会で生活するための社会学―労働・産業・消費― 【 到達目標 】 (1)労働・消費などの活動と企業・産業について基本的な知識と理解を得る。 (2)産業構造の変化とともに、私たちの生活に及んできている影響について考えられるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：子どもの時にならなかった職業、現在考えているキャリアをまとめておく。(4.0hr)				第13回 「宗教」から社会をとらえる 【 到達目標 】 (1)文化・表象・宗教について基本的な知識と理解を得る。 (2)宗教を手がかりとして、社会と文化についての理解を深める。 【授業時間外学習】 予習課題：「日本の宗教」についての自分の考えをまとめておく。(4.0hr)		
第6回 「格差」の社会学 【 到達目標 】 (1)階層・階級・社会的不平等についての基本的な知識と理解をする。 (2)近年の格差拡大論、階層の変化とジェンダーの観点から「格差社会」を考えられるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：どのくらいの給料ならば満足できるかを考えておく。(4.0hr)				第14回 社会の中のメディア メディアが動かす社会 【 到達目標 】 (1)メディア・情報・コミュニケーションの基本的な知識と理解を得る。 (2)それぞれのメディアがどのように情報を媒介し、コミュニケーションを成立させているかの理解を深める。 【授業時間外学習】 予習課題：「評判」や「ロコミ」と、自分の判断とどちらを大事にするか、まとめておく。(4.0hr)		
第7回 生活空間としての地域社会について考える (1) 【 到達目標 】 (1)都市・農村などの地域社会・コミュニティについての基本的な知識と理解を得る。 (2)身近な「社会」である地域社会の特徴を知る。 【授業時間外学習】 予習課題：将来、いなかと都会のどちらに住みたいか、その理由も考えておく。(4.0hr)				第15回 逸脱行動と社会問題・犯罪社会学 【 到達目標 】 (1)「自由」「権利」とは何か、なぜ「秩序」が作られ、「逸脱行動」が非難されるかを考える。 (2)法規制の厳罰化や社会的制裁の強化がもたらす影響について考えられるようにし、難しい判断を迫られるような状況にも主体的に取り組むことができるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：許せない他人の癖や行動、ネット上の炎上事件などを調べておく。(4.0hr)		
第8回 生活空間としての地域社会について考える (2) 【 到達目標 】 (1)「ゲマインシャフト」「ゲゼルシャフト」「中間集団」「コミュニティ」などの概念を学ぶ。 (2)コミュニティの繋がり、協力態勢について、主体的な居住者として考えられるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：自分が住んでいる地区のゴミ集積所、避難場所、掲示板、広報誌を調べておく。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 この授業は、社会学的な思考方法とそれに基づく現実の社会についての理解が求められている。ほぼ毎回、授業開始時に身近な質問が用意されており、授業を受けたことにより考えた内容を問いかけるので、好奇心を持って主体的な参加をしてほしい。毎回の授業後、Pholly上でレスポンスシートの提出を課する。記述／質問内容のなかから、履修生全体の学修効果が見られるものについて、次の授業時に匿名で紹介したり、回答したりすることがある。 【オンライン授業の場合】 オンデマンドで実施する場合の授業内容（各授業回の動画と動画内で使用するパワーポイント資料）については、Phollyを通して配信・配布する。対面授業のスケジュールに従い、同一曜日授業開始正午をめどに本学ポータルサイトPholly上で公開することとし、翌週前日正午まで掲載するので、その期間に視聴、課題提出を行ってほしい。						
【教科書・参考書など】 教科書は不使用。 参考書は随時指示するが、下記の文献を事後学習に役立ててほしい。 ①篠原清夫・栗田真樹編著（2016）『大学生のための社会学入門』晃洋書房、②田中正人編著（2019）『社会学用語図鑑』プレジデント社						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 予習課題に連動した毎回のレスポンスシート（40％）と、授業を受けて発展的に学習したかどうか学期末のテスト（60％）との総合点で評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。 【オンライン授業の場合】 各回のレスポンスシートの評価合計（100％）とし、提出回数や内容によって総合評価とする（提出回数のみでは合格点に達しないことがある）。 ※合格基準はいずれも60％である。						

科 目 名		数と論理			担当者	水 野 有 希	
英 文 名		Arithmetic and Logic					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE107・DLE107・HLE107・CLE107			卒業認定方針との関連	③
【目的とねらい】 これまで学んできた数学の知見をおさらいし具体的な問題を解くことで、基本的な数学についての理解を深めます。数の計算、代数の基礎を学び、教員採用試験や企業の適性検査に頻繁に出題されている特殊な計算手法や、集合、論理パズル、表や資料の読み取り方について学習します。社会人になってから求められる実務をこなす基礎能力を身に付け、課題解決に向けた論理的思考を習熟します。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 計算の基礎1、整数の基礎 【 到達目標 】 (1)四則算、計算の順序について復習する。 (2)約数と倍数について学ぶ。 【授業時間外学習】 授業時に実施した基礎問題の復習をする。(4.0hr)				第9回 空間図形 【 到達目標 】 (1)平面図形の応用と展開図について学ぶ。 (2)立体図形の面積や断面図、体積について学ぶ。 【授業時間外学習】 図形の面積や体積の求め方の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)			
第2回 計算の基礎2、平方根 【 到達目標 】 (1)正負、小数点、分数の計算について復習する。 (2)平方根の計算について学ぶ。 【授業時間外学習】 実数および平方根の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)				第10回 比の計算 【 到達目標 】 (1)比の算出方法について復習する。 (1)割合と値段について学ぶ。 (2)定価・原価・損益について学ぶ。 【授業時間外学習】 百分率や歩合の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)			
第3回 方程式1 【 到達目標 】 (1)1次方程式、連立方程式について学ぶ。 (2)2次方程式について学ぶ。 【授業時間外学習】 方程式の公式および計算の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)				第11回 特殊算 【 到達目標 】 (1)仕事算について理解する。 (2)濃度・速さについて理解する。 【授業時間外学習】 濃度・速さの公式や計算の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)			
第4回 方程式2、関数1 【 到達目標 】 (1)2次方程式を復習し、応用を修得する。 (2)比例と反比例、1次関数について学ぶ。 【授業時間外学習】 比例反比例、1次関数の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)				第12回 場合の数と確率 【 到達目標 】 (1)順列と組み合わせについて学ぶ。 (2)確率について学ぶ。 【授業時間外学習】 順列と組み合わせの公式および計算の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)			
第5回 関数2 【 到達目標 】 (1)1次関数を復習し、応用を修得する。 (2)2次関数について学ぶ。 【授業時間外学習】 2次関数の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)				第13回 集合と命題 【 到達目標 】 (1)集合（全体集合、補集合、共通部分、和集合）について学ぶ。 (2)対偶、三段論法の応用について学ぶ。 【授業時間外学習】 集合や命題の対偶の考え方の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)			
第6回 関数3 【 到達目標 】 (1)2次関数を復習し、応用を学習する。 (2)2次不等式について学ぶ。 【授業時間外学習】 2次不等式の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)				第14回 推論と表や資料の読み取り 【 到達目標 】 (1)命題の真・偽について論理的に判断する方法を学ぶ。 (2)表や資料から命題の真・偽について判断する方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 推論の考え方、表や資料の見方について予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)			
第7回 数列 【 到達目標 】 (1)関数の領域（不等式）、応用について学ぶ。 (2)等差数列、等比数列について理解し、応用について学ぶ。 【授業時間外学習】 関数の領域（不等式）、数列の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)				第15回 数理処理の応用と実践 【 到達目標 】 (1)教採や公務員試験、SPIなどの過去問を確認する。 (2)これまで学んだ内容について確認する。 【授業時間外学習】 これまで学んだ問題について予習、過去問の復習をする。(4.0hr)			
第8回 平面図形 【 到達目標 】 (1)関数と平面図形の応用について学ぶ。 (2)平行線と角、円周角の定義について学ぶ。 【授業時間外学習】 平面図形の公式および計算の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 知識を固めるためには、実際に解いてみるのが一番です。講義時間に理解度の確認のため、20分位問題を解く時間をとります。すぐに答え合わせをするので、間違えた人は必ず復習をしてください。 【対面授業の場合】 講義は指定の教室で実施します。毎回授業時に授業テキストと解答用紙を配布し、確認課題の解答用紙を提出してもらいます。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施します。授業内容は変更しません。配信される資料は授業テキスト、解説動画、確認課題のフォームとし、対面授業のスケジュールに従い、授業日前日までに授業テキストを、当日の9:00に解説動画と確認課題のフォームを本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップし、1週間掲載します。授業日から5日以内に確認課題を提出し、出席は各授業の確認課題の提出によって確認します。							
【教科書・参考書など】 講義中に指示します。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 毎回行う確認課題50%、期末試験50%（試験は試験期間中に別途実施）として評価します。確認課題は出された授業時間内で必ず提出して下さい。授業時間外の提出(翌週に出すことや、研究室に持ってくることは、いかなる理由であっても認めません。 【オンライン授業の場合】 毎回行う確認課題（第1回～第14回）50%、確認試験（試験は第15回に実施）50%として評価します。確認課題や確認試験は、指定された期日までに提出してください。							

科 目 名		現代の倫理		担当者	宇 多 村 俊 介	
英 文 名		Ethics in Modern Life				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE108・DLE108・HLE108・CLE108		卒業認定方針との関連	④
【目的とねらい】 倫理学は古くかつ新しい学問分野です。古くは古代ギリシャにまで遡る歴史があり、いかに生きるべきかについて幾多の哲学者たちが連綿と考えつづけてきている点でいにしえの主題であり、また一方では、ますます混迷化の様相を呈する現代にあつて、倫理的諸問題が過去のどの時代にもなかった諸条件のもとで現れている点でつねに新しい主題をなしています。この講義では、こうした裾野から私たちを取りまく具体的な問題を手掛かりに、いくつかの倫理学の基本概念と原則を検討し、現代の倫理的な問への視角を学びます。個々の論題に対し、各受講者が倫理的に何が問題かを把握し、自ら考える端緒としてほしい。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション：倫理的思索が生まれるとき 【 到達目標 】 倫理的な問のもつ特質を理解するとともに、考察に関わる基礎概念の学習を通して倫理と倫理的思索についての輪郭をつかむ。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>に取り組む。(4.0hr)			第9回 環境倫理：未来に対する責任 【 到達目標 】 現在の個および種としての行為が、未来の他者に及ぼす影響について考え、未来に対する責任を自覚することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
第2回 「善」とは何かという問：定義 【 到達目標 】 倫理的な脈絡での「善・よい」を把握した上で、「～とは何か」という問を問うために必要な思考の手続きとして定義の構成を理解し、善の定義を試み、その問題点を考察する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			第10回 情報化社会の倫理：情報時代と監視社会 【 到達目標 】 メディア文化の来歴を把握し、監視・管理社会にともなう倫理的な諸論題を理解して、その問題点を考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
第3回 普遍化可能性1：社会契約 【 到達目標 】 道徳規則が万人に対する要請として現れる仕組みと可能性を、社会契約の観点から考察することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			第11回 生命倫理1：人間の尊厳 【 到達目標 】 生命倫理の基本概念を把握し、とくに安楽死をめぐる事案を通して現代医療で生じる諸論題の倫理的問題の所在を理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
第4回 普遍化可能性2：自由意志 【 到達目標 】 自由をめぐる二つの考えを把握し、自由意志に基づく道徳的要請が成立する仕組みとその問題点を理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			第12回 生命倫理2：生殖医療 【 到達目標 】 テクノロジーの発達と介入によって生じる、生殖医療をめぐる倫理的問題の所在を理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
第5回 普遍化可能性3：功利の原理(1) 【 到達目標 】 現代社会の行為原則として功利の原理のもつ特質とその倫理的含みを理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			第13回 科学技術時代の倫理：科学者の社会的責任 【 到達目標 】 科学者の社会的責任論の類型を批判的に吟味することを通して、科学技術の来歴と特質がもつ倫理的含みを考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
第6回 功利の原理(2)：他者危害の原則 【 到達目標 】 功利の原理が下敷きにする自由主義的な行為原則のはらむ問題点を、とくに自己決定権、他者危害の原則について考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			第14回 倫理的相対主義 【 到達目標 】 倫理の相対主義の問題点を理解し、多元的社会での合意形成の可能性について考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
第7回 正義：自由と平等 【 到達目標 】 自由と平等が民主主義の二つの(別個の)伝統であることを把握し、格差(是正)原理を通してそれらの両立可能性について考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			第15回 規範なき時代とニヒリズム 【 到達目標 】 残された、しかし重要な問題として、なぜ道徳的でなければならないか、その可能性を考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
第8回 自然と文明：道具的理性批判 【 到達目標 】 自然と人間、人間と文明がはらむ倫理的問題を、(道具的)理性の批判的検討を仲立ちにして理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理するために、授業中に7～8回、ミニレポートを書き、提出してもらいます。これを除く各回、講義内容を踏まえた考察カードを書いてもらいます。とくに寸評を要する考察や疑問は翌週冒頭に取り上げ理解度を確認してもらいます。各回の主題に沿って原理的に考えることを求めますが、事例や具体的状況のなかで倫理的問題の所在がどこにあるのかをつかむには相応の資料を読み一定の思考の手続きを踏むことを要します。新しい事柄やものの見方を学ぶ意欲をもって臨んでください。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施します。取り上げる主題の定性的な方面は変更しません。配信教材は原則的に講義の概要を記したPDF資料ファイルと解説用の音声ファイルです(資料形態は受講者全員の受信環境によって変更することもあります)。配信日時は対面授業時間割に準じ、本学ポータルサイトより各授業に先立って配信される授業連絡に記されたファイルの格納場所にアップし、課題提出締切日まで掲載します。出席は各授業回に定める期日内の課題の提出をもってカウントします。						
【教科書・参考書など】 教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】課題ミニレポート40%、定期試験60%で成績を評価する。試験は試験期間中に別途実施する。 【オンライン授業の場合】各授業回の提出課題70%、学期末レポート30%で評価する。定期試験は実施しない。なお、欠席届相当の証明書類の提出のある欠席者には別途課題を課し、出席確認と課題評価の機会を設ける。						

科 目 名	日常生活の法律				担当者	中 村 安 菜																					
英 文 名	Law in Everyday Life																										
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科																					
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択																					
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE109・DLE109・HLE109・CLE109		卒業認定方針との関連	④																					
【目的とねらい】 私たちが日常生活の中で実際に接する可能性の高い法律問題を選び、それらに関係する基本的な用語や制度を理解する。あわせて、法的問題を解決する場合に必要な思考方法の習得も目指す。																											
【授業内容・到達目標など】 第1回 私たちの日常生活に関わる様々なルールについて 【 到達目標 】 (1) 私たちの日常生活には様々なルールが存在していることを理解する。 (2) 様々なルールのなかで法律が持つ特性を理解する。 【授業時間外学習】 日本に存在している法律の数を調べる。(4.0hr) 第2回 アルバイトと法律① 【 到達目標 】 (1) 契約について理解する。 (2) 労働基準法の内容について理解する。 【授業時間外学習】 自分のアルバイトの契約内容について調べる。(4.0hr) 第3回 アルバイトと法律② 【 到達目標 】 (1) 労働に関連する法的問題について理解する。 (2) ブラックアルバイトについて理解する。 【授業時間外学習】 ブラックバイトの具体的な事例を調べる。(4.0hr) 第4回 恋愛関係と法律① 【 到達目標 】 (1) 恋愛関係による法的問題の存在を理解する。 (2) ストーカー規制法について理解する。 【授業時間外学習】 恋愛関係において発生する問題を調べる。(4.0hr) 第5回 恋愛関係と法律② 【 到達目標 】 (1) DV防止法について理解する。 【授業時間外学習】 DV防止法に関する具体的な事件を調べる。(4.0hr) 第6回 恋愛関係と法律③ 【 到達目標 】 (1) リベンジボルノ防止法について理解する。 【授業時間外学習】 リベンジボルノ防止法に関する具体的な事件を調べる。(4.0hr) 第7回 家族と法律① 【 到達目標 】 (1) 婚姻の成立と効果に関する法規定について理解する。 (2) 夫婦に関する法的問題について理解する。 【授業時間外学習】 婚姻届けの記載事項を調べる。(4.0hr) 第8回 家族と法律② 【 到達目標 】 (1) 法的な親子関係の発生について理解する。 (2) 嫡出否認や親子関係不存在確認訴訟について理解する。 【授業時間外学習】 嫡出否認と親子関係不存在確認との違いを整理する。(4.0hr) 第9回 家族と法律③ 【 到達目標 】 (1) 実際の親子関係不存在確認訴訟の事例について理解する。 【授業時間外学習】 親子関係不存在確認訴訟（2014年7月17日）に関する新聞記事をコピーする。(4.0hr) 第10回 表現物と法律① 【 到達目標 】 (1) 知的財産の種類について理解する。 (2) 特許制度について理解する。 【授業時間外学習】 実際に特許をとっている製品を調べる。(4.0hr) 第11回 表現物と法律② 【 到達目標 】 (1) 著作権法について理解する。 (2) 著作権法において規定されている諸権利について理解する。 【授業時間外学習】 著作権法違反が問題となった事例を調べる。(4.0hr) 第12回 ペットの飼育と法律① 【 到達目標 】 (1) 法律における「ペット」の位置づけを理解する。 (2) ペットに関する諸法律の存在について理解する。 【授業時間外学習】 遺棄される動物の数を調べる。(4.0hr) 第13回 ペットの飼育と法律② 【 到達目標 】 (1) 動物愛護管理法の内容について理解する。 (2) 動物愛護管理法の改正と飼い主の責任について理解する。 【授業時間外学習】 動物愛護に関する具体的な社会的取り組みについて調べる。(4.0hr) 第14回 人身の自由、犯罪の取り調べと裁判の進め方 【 到達目標 】 (1) 日本国憲法で保障されている人身の自由について理解する。 (2) 取り調べ、起訴から判決までの流れについて理解する。 【授業時間外学習】 日本国内の地方裁判所・高等裁判所の数と所在地を調べる。(4.0hr) 第15回 日々の暮らしと法律 【 到達目標 】 (1) マンションをめぐる法的問題について理解する。 (2) この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。 【授業時間外学習】 全体の授業を通して自分が関心をもった事項についてより深く調べ、まとめる。(4.0hr) <tr> <td colspan="7"> 【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 授業ではパワーポイントを用いて要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者には適宜、穴埋め式のプリントと補足資料を配布する。受講者には、ただプリントの穴埋めをするだけでなく、講義をよく聴き、自分で重要だと思う点などを積極的にメモすることが求められる。授業中は、特定のテーマについてディスカッションやグループ学習を導入する。なお、予習・復習として教科書を熟読し、内容を十分に理解することに加え、講義中に興味を持った事柄について、自らすすんで調べ、理解を深めることが肝要である。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業回数が減った場合でも、授業内容に大幅な変更はない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と穴埋め式の資料・補足資料、各回の復習課題である。資料の配信などに関する説明は、オンデマンド方式の授業が開始される前にポータルで行う。また、授業ごとの復習課題の提出によって授業への参加度を確認し、復習課題は成績評価の対象とする。 </td> </tr> <tr> <td colspan="7"> 【教科書・参考書など】 開講時に指示する。 </td> </tr> <tr> <td colspan="7"> 【成績評価方法】 【対面授業の場合】 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提である）。試験は試験期間中に実施する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題と学期末における最終課題などを総合的に評価する。 </td> </tr>							【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 授業ではパワーポイントを用いて要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者には適宜、穴埋め式のプリントと補足資料を配布する。受講者には、ただプリントの穴埋めをするだけでなく、講義をよく聴き、自分で重要だと思う点などを積極的にメモすることが求められる。授業中は、特定のテーマについてディスカッションやグループ学習を導入する。なお、予習・復習として教科書を熟読し、内容を十分に理解することに加え、講義中に興味を持った事柄について、自らすすんで調べ、理解を深めることが肝要である。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業回数が減った場合でも、授業内容に大幅な変更はない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と穴埋め式の資料・補足資料、各回の復習課題である。資料の配信などに関する説明は、オンデマンド方式の授業が開始される前にポータルで行う。また、授業ごとの復習課題の提出によって授業への参加度を確認し、復習課題は成績評価の対象とする。							【教科書・参考書など】 開講時に指示する。							【成績評価方法】 【対面授業の場合】 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提である）。試験は試験期間中に実施する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題と学期末における最終課題などを総合的に評価する。						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 授業ではパワーポイントを用いて要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者には適宜、穴埋め式のプリントと補足資料を配布する。受講者には、ただプリントの穴埋めをするだけでなく、講義をよく聴き、自分で重要だと思う点などを積極的にメモすることが求められる。授業中は、特定のテーマについてディスカッションやグループ学習を導入する。なお、予習・復習として教科書を熟読し、内容を十分に理解することに加え、講義中に興味を持った事柄について、自らすすんで調べ、理解を深めることが肝要である。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業回数が減った場合でも、授業内容に大幅な変更はない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と穴埋め式の資料・補足資料、各回の復習課題である。資料の配信などに関する説明は、オンデマンド方式の授業が開始される前にポータルで行う。また、授業ごとの復習課題の提出によって授業への参加度を確認し、復習課題は成績評価の対象とする。																											
【教科書・参考書など】 開講時に指示する。																											
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提である）。試験は試験期間中に実施する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題と学期末における最終課題などを総合的に評価する。																											

科 目 名		教養としての経済学		担当者	高 橋 信 勝	
英 文 名		Introductory Economics				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE110・DLE110・HLE110・CLE110		卒業認定方針との関連	④
【目的とねらい】 目的：市場経済社会を俯瞰できるように経済学の基礎理論を学び、経済学的思考の涵養を図る。 ねらい：この授業では、経済学の基礎理論をベースにして、私たちの生活にとって「政治」とともに係りを断つことができない「経済」について学ぶ。新聞の経済トピックの解説や問題演習を随時取り入れて、受講者の理解を深める。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 経済学への誘い（1） 【 到達目標 】 市場経済社会の成り立ちを知り、経済学を学ぶ意義を考える。 経済システムと経済問題、経済学の3つの部門（理論、歴史、政策）について学ぶ。 経済学の学問的特質を理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（ケネー）。(4.0hr)			第9回 有効需要論（2） 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（歳入）。(4.0hr)			
第2回 経済学への誘い（2） 【 到達目標 】 希少性、機会費用、サンクコスト等を学ぶ。 経済学的思考が日常生活のなかで、どのように役立つのかを理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（スミス）。(4.0hr)			第10回 IS-LM分析（1） 【 到達目標 】 財市場とIS曲線との関係、貨幣市場とLM曲線との関係を学ぶ。 IS-LM分析にもとづく財政政策・金融政策を学ぶ。 市場経済への公的介入についての理解を深める。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（歳出）。(4.0hr)			
第3回 企業と経済 【 到達目標 】 企業とは何か、国民経済における企業の役割を学ぶ。 企業経営におけるイノベーションの必要性、企業間の競争の意義について理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（シュンペーター）。(4.0hr)			第11回 IS-LM分析（2） 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（国債残高と財政赤字）。(4.0hr)			
第4回 GDPと三面等価の原則 【 到達目標 】 ストックとフロー、GDP・GNI・NDP、三面等価の原則、経済成長、景気循環について学ぶ。 国民経済の数量的把握について理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（ケインズ）。(4.0hr)			第12回 国際収支と為替レート（1） 【 到達目標 】 国際収支、円安と円高、為替レートと貿易収支の関係を学ぶ。 変動相場制と固定相場制、為替レートと物価の関係を学ぶ。 世界経済と日本経済とのかわわりを理解する。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（リカードウの比較生産費説）。(4.0hr)			
第5回 中央銀行の機能と金融政策（1） 【 到達目標 】 貨幣とは何か、貨幣需要、貨幣供給について学ぶ。 中央銀行の機能と金融政策を学ぶ。 金融政策の枠組みについて理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（イギリスの産業革命）。(4.0hr)			第13回 国際収支と為替レート（2） 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（リストの経済発展段階論と貿易論）。(4.0hr)			
第6回 中央銀行の機能と金融政策（2） 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（日本の産業革命）。(4.0hr)			第14回 戦後の日本経済 【 到達目標 】 高度経済成長、バブル、人口減少社会の到来等、戦後の日本経済史について学ぶ。 戦後の日本経済の歩みを回顧し、今日の日本経済が直面している問題について理解を深める。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（経済のグローバル化）。(4.0hr)			
第7回 インフレとデフレ 【 到達目標 】 インフレとデフレとは何かを学び、その国民経済への影響について理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（世界恐慌）。(4.0hr)			第15回 授業の総復習と問題演習 【 到達目標 】 授業を振り返り、重要なポイントを再確認する。 問題演習に取り組み、知識の定着を図る。 【授業時間外学習】 経済学上の対抗思想（経済成長至上主義と定常状態論、大きな政府と小さな政府）を調べる。(4.0hr)			
第8回 有効需要論（1） 【 到達目標 】 有効需要、45度線分析、乗数、インフレギャップとデフレギャップを学ぶ。 経済のマクロ分析について理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（高度経済成長）。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 授業理解の第一のカギは継続的な出席である。授業ではキーワードを板書し、教科書とレジュメを参照しながら説明する。詳細な板書は行わないので、受講生は筆記ノートを整理し直すこと。理解度を確認するため、問題演習を単元ごとに実施し、後続の授業で解説する。 【オンライン授業の場合】 授業はオンデマンド方式とする。コンテンツは、対面授業の配置曜日の前日までに本学のポータルサイトにアップロードする。コンテンツは1週間後に消去する。出席回数は、ポータルサイトを介した各授業回のワークシートあるいはミニレポートの提出をもって、確認する。※詳細は初回授業時に説明する。						
【教科書・参考書など】 教科書名：『経済認識の扉』高橋信勝・著（八千代出版）。参考文献等は、適宜、紹介する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】問題演習（30％）と期末試験（70％）にもとづいて評価する。試験は、試験期間中に実施する。 【オンライン授業の場合】各授業回のワークシートあるいはミニレポート（80％）と、期末レポート（20％）にもとづいて評価する。 対面とオンラインのいずれの形式においても、単位付与の基準は60％である。※詳細は初回授業時に説明する。						

科 目 名		英語 E G C I		担当者	渡 邊 浩 子	
英 文 名		English for General Communication I				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE202・DLE202・HLE202・CLE202		卒業認定方針との関連	②
【目的とねらい】 This course (English for General Communication I) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 Introductions 【 到達目標 】 Previewing contents and goals of the course 【授業時間外学習】 Preview syllabus (4.0hr)			第9回 Is that right? 【 到達目標 】 Listening in context 【授業時間外学習】 Review vocabulary (4.0hr)			
第2回 Hello 【 到達目標 】 Speaking about yourself 【授業時間外学習】 Review vocabulary (4.0hr)			第10回 Backchanneling 【 到達目標 】 Listening in context 【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)			
第3回 Small Talk 【 到達目標 】 Listening in context 【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)			第11回 How about you? 【 到達目標 】 Previewing vocabulary 【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)			
第4回 That's a lovely T-shirt. 【 到達目標 】 Listening in context 【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)			第12回 Showing interest 【 到達目標 】 Discussing your interest 【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)			
第5回 Compliments 【 到達目標 】 Practising vocabulary 【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)			第13回 Reading a storoy 【 到達目標 】 Reading comprehension 【授業時間外学習】 Reading preparation (4.0hr)			
第6回 Pardon 【 到達目標 】 Practising vocabulary 【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)			第14回 Preparations for Mid-term Presentations 【 到達目標 】 Previewing the mid-term presentation 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation (4.0hr)			
第7回 I really enjoyed it. 【 到達目標 】 Listening in context 【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)			第15回 Mid-term Presentations 【 到達目標 】 Course Review 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)			
第8回 Information 【 到達目標 】 Answering with additional information 【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer! 【オンライン授業の場合】 To make the online class go smoothly, it is very important that before logging on, you <u>read and try to understand the weekly updates and check the teaching materials</u> I will send.						
【教科書・参考書など】 Keep talking, K. Murata, Kiriara Shoten						
【対面授業の場合】 Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30% 【オンライン授業の場合】 Participation 40%, Speaking Assignments 60%						

科 目 名		英語 E A P II			担当者	カーリン 清佳	
英 文 名		English for Academic Purposes II					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE203・DLE203・HLE203・CLE203		卒業認定方針との関連	②	
【目的とねらい】 この授業では、語彙・リスニング・リーディング学習を通して、アカデミック英語を学びます。また、様々なトピックについて学ぶことで、視野を広げ多様性を受容する素地を作ります。受講生は語彙学習に加え、課題の予習・復習する必要があります。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 英語演習（1） 【 到達目標 】 受講における留意点・授業の進め方を理解する。 時間外学習の方法を把握する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第9回 英語演習（9） 【 到達目標 】 語彙や表現について理解する。英語のリスニングについてさらに理解する（長文）。 アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）				
第2回 英語演習（2） 【 到達目標 】 語彙や表現について理解する。英語のリスニングについて理解する。 アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第10回 英語演習（10） 【 到達目標 】 語彙や表現について理解する。英語で書かれた文章の構成について理解する。 アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）				
第3回 英語演習（3） 【 到達目標 】 語彙や表現について理解する。英語のリスニングについてさらに理解する（会話文1）。 アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第11回 英語演習（11） 【 到達目標 】 語彙や表現について理解する。英語のリーディングについて理解する。 アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）				
第4回 英語演習（4） 語彙や表現について理解する。英語のリスニングについてさらに理解する（会話文2）。 アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第12回 英語演習（12） 【 到達目標 】 語彙や表現について理解する。英語のリーディングについてさらに理解する（英文読解演習1）。 アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）				
第5回 英語演習（5） 【 到達目標 】 語彙や表現について理解する。英語のリスニングについてさらに理解する（会話文3）。 アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第13回 英語演習（13） 【 到達目標 】 語彙や表現について理解する。英語のリーディングについてさらに理解する（英文読解演習2）。 アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）				
第6回 英語演習（6） 【 到達目標 】 語彙や表現について理解する。英語のリスニングについてさらに理解する（パッセージ1）。 アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第14回 英語演習（14） 【 到達目標 】 語彙や表現について理解する。英語のリーディングについてさらに理解する（英文読解演習3）。 アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）				
第7回 英語演習（7） 【 到達目標 】 語彙や表現について理解する。英語のリスニングについてさらに理解する（パッセージ2）。 アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第15回 英語演習（15） 【 到達目標 】 授業全体のふり返しを行う。 今後の学習目標を設定する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、今後も自律的学習を継続させる。（4.0hr）				
第8回 英語演習（8） 【 到達目標 】 語彙や表現について理解する。英語のリスニングについてさらに理解する（パッセージ3）。 アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 語彙、課題の予習・復習を行うこと。 復習効果を確認できるよう、小テストにしっかりと取り組むこと。 【オンラインの場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、課題を期限までに提出すること。提出された課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。							
【教科書・参考書など】 プリントを配布します。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 原則として、平常点(授業への参加・小テスト・課題)60％、試験40％で評価します。 【オンラインの場合】 原則として、授業への出席・参加50％、学期内の各種課題50％から評価する。							

科 目 名		英語 E G C II			担当者	渡 邊 浩 子	
英 文 名		English for General Communication II					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE204・DLE204・HLE204・CLE204		卒業認定方針との関連	②	
【目的とねらい】 This course (English for General Communication II) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 Introductions 【 到達目標 】 Previewing the contents and goals of the course 【授業時間外学習】 Preview syllabus(4.0hr)			第9回 Requests 【 到達目標 】 Practising polite requests 【授業時間外学習】 Preview vocabulary(4.0hr)				
第2回 Thank you so much 【 到達目標 】 Practising vocabulary 【授業時間外学習】 Review vocabulary (4.0hr)			第10回 Invitations 【 到達目標 】 Practising vocabulary 【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)				
第3回 Thanking 【 到達目標 】 Listening in Context 【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)			第11回 Saying “no” 【 到達目標 】 Practising vocabulary 【授業時間外学習】 Preview vocabulary(4.0hr)				
第4回 Excuse me, but… 【 到達目標 】 Practising vocabulary 【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)			第12回 Softeners 【 到達目標 】 Listening in context 【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)				
第5回 Complaints 【 到達目標 】 Listening in context 【授業時間外学習】 Preview vocabulary(4.0hr)			第13回 Reading a Story 【 到達目標 】 Reading comprehension 【授業時間外学習】 Reading Preparation(4.0hr)				
第6回 This is my fault 【 到達目標 】 Practising vocabulary 【授業時間外学習】 Preview vocabulary(4.0hr)			第14回 Preparations for Mid-term Presentations 【 到達目標 】 Previewing the mid-term presentation 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)				
第7回 Apologies 【 到達目標 】 Practising vocabulary 【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)			第15回 Mid-term Presentations 【 到達目標 】 Course Review 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)				
第8回 I’d rather not say 【 到達目標 】 Dealing with undesirable questions 【授業時間外学習】 Preview vocabulary(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer! 【オンライン授業の場合】 To make the online class go smoothly, it is very important that before logging on, you <u>read and try to understand the weekly updates and check the teaching materials</u> I will send.							
【教科書・参考書など】 keep talking, K. Murata, Kirihiro Shoten							
【対面授業の場合】 Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30% 【オンライン授業の場合】 Participation 40%, Speaking Assignments 60%							

科 目 名		ドイツ語		担当者	藤 由 順 子	
英 文 名		German Language				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE205・DLE205・HLE205・CLE205		卒業認定方針との関連	②
【目的とねらい】 初級レベルの基礎知識を確実なものにし、これを高め、応用力を養うことに備える。ドイツ語の言語的特徴と全体像をつかむことをめざす。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業内容の説明、テキスト等の紹介／発音とアルファベートの確認 【 到達目標 】 音声の基礎を踏まえ、コミュニケーション能力を高める。 あいさつやとっさの一言が言える。 【授業時間外学習】 アルファベートの確認をし、文字と単語の発音練習をする。(4.0hr)				第9回 前置詞の格支配 【 到達目標 】 状況を説明するフレーズを表現できる。 「～と一緒に・～の後で・～のために・～の上で」等と言える。 【授業時間外学習】 例文を覚える。(4.0hr)		
第2回 発音、基本表現、基礎的文法事項の確認 【 到達目標 】 日常生活レベルの語彙を知り、アクセントや発音の特徴をつかむ。 初めて見る地名や人名を正確に発音できる。 【授業時間外学習】 語彙の発音と意味を確認する。(4.0hr)				第10回 助動詞 【 到達目標 】 話法の助動詞を学び、ドイツ語特有の語順を理解する。 例) 私は～できる／～したい／～しなければならない。 【授業時間外学習】 自分のしたいこと、できること、好きなことを表現してみる。(4.0hr)		
第3回 ドイツ語の文構造／自己紹介 (1) 【 到達目標 】 「動詞が二番目にくる」というドイツ語文の特徴を理解する。 規則動詞、不規則動詞の人称変化をおさえて、自分について簡単な説明ができる。 例) 私は～出身です／～を専攻しています。 【授業時間外学習】 基本的な文を覚える。／基本的な動詞を調べる。(4.0hr)				第11回 否定表現 【 到達目標 】 否定冠詞を使つての否定文を作る。 否定詞を用いた否定文の法則をしる。 例) 兄弟はいない／～を知らない 【授業時間外学習】 自分に関連した否定文を作ってみる。(例：私は魚を食べない、等)(4.0hr)		
第4回 ドイツ語の名詞と、主語となる代名詞を知る 【 到達目標 】 名詞が内包する三要素「性・数・格」を捉えて、その名詞の文中での役割を意識できる。 例) 父が／友人に／ピアノを／それは／あなたは／彼は、などを表現できる。 【授業時間外学習】 格変化の表の見方に慣れる。／自分と関連する名詞を調べる。(4.0hr)				第12回 疑問文 【 到達目標 】 疑問、質問を相手に行うことができる。 疑問詞疑問文を作ったり、問い合わせをスムーズにするフレーズを使えたりする。 【授業時間外学習】 例文を覚えて、これをアレンジする。(4.0hr)		
第5回 冠詞の役目：不定冠詞、定冠詞、所有冠詞 【 到達目標 】 英語のa, an, the, myと異なる、冠詞の役目を確認する。 「1つの～が」「その～を」「私の～に」等の表現を身につける。 【授業時間外学習】 自分で格変化表を作成してみる。自分の持ち物や身内を表現する。(4.0hr)				第13回 時の表現／数詞 (2) 【 到達目標 】 現在や過去、未来の表現を知る。(今日、3日後、毎年、1週間、将来、等) 頻度や回数、継続、曜日を表現する。(頻繁に、5回、10年前からずっと、日曜日には、等) 21から100までの数詞の法則性を体得する。 【授業時間外学習】 自分の部活動や趣味などの活動状況をドイツ語で説明してみる。(4.0hr)		
第6回 複数形 【 到達目標 】 sをつけて複数形を作る英語と異なり、名詞を複数形にするのが単純ではないことを知る。 自分のよく使いそうな単語の複数形を調べて、表現する。 例) 私には二人の姉がいる。／靴は3足しかない。 【授業時間外学習】 単数形に戻す練習を重ねる。(4.0hr)				第14回 自己紹介 (2) 【 到達目標 】 自分の家族や友人について、これまでより詳しく他者に表現できる。 【授業時間外学習】 簡単な自己紹介文を作成する。家族や友人のことも表現してみる。(4.0hr)		
第7回 数詞 (1) 【 到達目標 】 1から12までを確実に言える。 13から20までの法則を押さえる。 時刻を表現する。 【授業時間外学習】 自分のスケジュールを表してみる。(4.0hr)				第15回 理解度の確認と補足説明 【 到達目標 】 習得した文法項目を用いて、自分が表現したい事、相手に尋ねたい事を伝える。 【授業時間外学習】 自分の分からない所を書き出す。(4.0hr)		
第8回 人称代名詞 【 到達目標 】 主語だけでなく、目的語になる代名詞を学習して、活用する。 「彼に」・「私たちを」・「それを」などを体得する。 【授業時間外学習】 自分が何を愛しているのか、口頭や文章で表現する練習をする。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 ※半期しかないので、日本あるいは外国において自分の言いたいことをドイツ語で表現することを常に意識して、授業に集中して臨んでください。 【対面授業の場合】 本来ならば実施したい会話練習は現状として教室内ではできないでしょう。したがって発音練習を欠かさず自宅で行うようにしてください。Phollyを通じて理解度確認小テストやレポート課題は実施します。これらを受けて次回授業にフィードバックを行いますので、間違いや指摘されたより適切な表現をしっかりと確認して、ドイツ語表現の幅を広げてください。 【オンライン授業の場合】 音声データを用いて発音練習を欠かさず自宅で行うようにしてください。授業資料は、授業スケジュールに従い授業実施曜日・開始時刻にPhollyにて配信します。オンデマンド授業だからこそ、受講生の自学の理解度を確保するために毎回、課題を実施します。欠かさず提出するよう心がけてください。また、この課題提出は出席確認に用います。みなさんは課題提出を、授業に関する質問や感想を書き添える機会にしてください。後日配信されるフィードバックを参考に、間違いの箇所や、より適切な表現をしっかりと確認するようにして、ドイツ語表現の幅を広げてください。						
【教科書・参考書など】 『お菓子で学ぶドイツ語』小野森都子 平山茂樹 藤由順子著 (朝日出版社) 独和辞典はできれば用意してください。小さいものでも電子辞書でも古いものでも構いません。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 授業時の発表・課題提出、理解度確認のための小テスト40％、試験結果を60％として評価する(試験は試験期間中に別途実施する)。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド授業時の課題提出・積極的な取組姿勢を50％、試験結果を50％として評価する(試験は試験期間中に別途実施する)。						

科 目 名		フランス語		担当者	森 本 悠 人	
英 文 名		French				
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE206・DLE206・HLE206・CLE206		卒業認定方針との関連	②
【目的とねらい】 はじめてフランス語を学ぶ学生を対象に、フランス語の持つ豊かで魅力的な世界を味わってもらい。フランス語の生まれてきた文化的背景を講義するとともに、フランス語の発音・リズム・表現に触れるため、フランス語の歌を中心に扱う。それによって、フランス語を使う人々の表現世界を理解することを目指す。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション：挨拶（アルファベ、綴りと発音）、フランスとフランス文化				第9回 『Ce rêve bleu』とフランス語の母音		
【 到達目標 】 (1)挨拶（アルファベ、綴りと発音）に触れ、フランスとフランス文化の特徴を理解する。				【 到達目標 】 (1)歌の表現世界の理解。日本語にはない口の形を意識して発音できるようになる。		
【授業時間外学習】 プリント「フランス語の成り立ち」を読む。（4.0hr）				【授業時間外学習】 指示に従って音声を録音・提出。（4.0hr）		
第2回 フランス語について：沿革と発音の特徴、フランス語の魅力				第10回 シャンソンで学ぶフランス文法①		
【 到達目標 】 (1)フランス語の歴史と文化的背景を理解して、フランス語の魅力に気づく。				【 到達目標 】 (1)歌の表現世界の理解。これまでに扱ったシャンソンから文法を学習し、動詞の活用を理解する。		
【授業時間外学習】 プリント「フランスとフランス語圏」を読む。（4.0hr）				【授業時間外学習】 指示に従って音声を録音・提出。（4.0hr）		
第3回 フランス語のシャンソン『枯葉』				第11回 シャンソンで学ぶフランス文法②		
【 到達目標 】 (1)歌の表現世界の理解。フランスのシャンソンの背景や表現を理解する。				【 到達目標 】 (1)歌の表現世界の理解。これまでに扱ったシャンソンから文法を学習し、名詞の性数を理解する。 (2)最終課題の発表に備え、発表する曲を選ぶ。		
【授業時間外学習】 プリント「『枯葉』の訳・ポイント解説」を読む。指示に従って音声を録音・提出。（4.0hr）				【授業時間外学習】 指示に従って音声を録音・提出。（4.0hr）		
第4回 『レ・シャンゼリゼ』とフランス語の綴り字				第12回 シャンソンで学ぶフランス文法③		
【 到達目標 】 (1)歌の表現世界の理解。フランス語の読み方の規則を理解する。				【 到達目標 】 (1)歌の表現世界の理解。これまでに扱ったシャンソンから文法を学習し、形容詞の性数一致を理解する。 (2)最終課題の発表に備え、発表する曲の発音を確認する。		
【授業時間外学習】 プリント「『レ・シャンゼリゼ』の訳・ポイント解説」を読む。指示に従って音声を録音・提出。（4.0hr）				【授業時間外学習】 指示に従って音声を録音・提出。（4.0hr）		
第5回 『シェリーに口づけ』と母音				第13回 フランス語で歌う		
【 到達目標 】 (1)歌の表現世界の理解。フランス語の特徴的な母音を発音できる。				【 到達目標 】 (1)出席者同士でペアになり、フランス語の発音・読み方について互いにアドバイスしあう。		
【授業時間外学習】 プリント「『シェリーに口づけ』の訳・ポイント解説」を読む。指示に従って音声を録音・提出。（4.0hr）				【授業時間外学習】 指示に従って音声を録音・提出。（4.0hr）		
第6回 『夢見るシャンソン人形』とフランス語のs・z・ch・j音				第14回 フランスの映画鑑賞		
【 到達目標 】 (1)歌の表現世界の理解。フランス語の特徴的な母音を発音できる。				【 到達目標 】 (1)フランス語の表現世界に触れる。映画を鑑賞し、フランスの社会・文化を理解する。		
【授業時間外学習】 プリント「『夢見るシャンソン人形』の訳・ポイント解説」を読む。指示に従って音声を録音・提出。（4.0hr）				【授業時間外学習】 指示に従って音声を録音・提出。（4.0hr）		
第7回 『Le temps des cerises』とフランス語のt・d音				第15回 フランス語で歌う（最終課題の発表）		
【 到達目標 】 (1)歌の表現世界の理解。有声音と無声音の違いを理解する。				【 到達目標 】 (1)提示された課題を各自が発表する。		
【授業時間外学習】 プリント「『Le temps des cerises』の訳・ポイント解説」を読む。指示に従って音声を録音・提出。（4.0hr）				【授業時間外学習】 プリント「フランスとジェンダー」を読む。（4.0hr）		
第8回 『Comment te dire adieu』とrの発音						
【 到達目標 】 (1)歌の表現世界の理解。フランス語発音の難関（と思われている）rの発音を習得する。する。						
【授業時間外学習】 プリント「『Comment te dire adieu』の訳・ポイント解説」を読む。指示に従って音声を録音・提出。（4.0hr）						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 予習は必要ありません。復習課題を出すので、それを提出すること。						
【オンライン授業の場合】 リアルタイム方式とオンデマンド方式の両方を活用して授業を実施する。授業内容は授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。						
【教科書・参考書など】 授業時に適宜プリント配布						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 復習課題20％、授業時の課題40％、筆記試験40％として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。あわせて100％として評価する。合格基準は60％である。						
【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題を毎回評価し、授業終了時点で、それらを総合的に評価する。また、最終授業時に最終課題を提出することになる。復習課題40％、最終課題（録音）40％、まとめ課題（筆記）20％とし、あわせて100％として評価する。合格基準は60％である。						

科 目 名		コリア語			担当者		李 貞 旻	
英 文 名		Korean language						
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科		
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE208・DLE208・HLE208・CLE208		卒業認定方針との関連		②	
【目的とねらい】 韓国についての情報や文化が、ようやく詳細に日本にも紹介されてきている。韓国の文字であるハングルに触れ、その理解を通じて、身近な国の韓国について関心度や理解度をさらに高めていきたい。生活や文化の正確な理解には、その国の言葉の理解が不可欠である。韓国語の文字（ハングル）や発音、基礎的な文法、表現を理解することによって、韓国の人々の日常生活や文化を正確に理解し、コミュニケーション能力を高めていくことを目標とする。								
【授業内容・到達目標など】								
第1回 オリエンテーション：ハングルとはどういう言語か 【 到達目標 】 (1)言語としての韓国語の特性を理解する。 (2)文字としてのハングルの成立の文化的背景を理解する。 (3)ハングル文字の仕組みについて理解する。 【授業時外学習】 韓国語と日本語の共通点や相違点、ハングル文字の特性や仕組みについて学習する。(4.0hr)				第9回 日常生活の表現：疑問表現 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。質問の仕方や答え方を習得する。 【授業時間外学習】 質問の方法を学習し、趣味の聞き方や答え方などを学習する。(4.0hr)				
第2回 ハングルの発音：基本母音字 【 到達目標 】 (1)文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2)基本母音を習得する。 【授業時間外学習】 ハングル文字の仕組みを明確に理解したうえで、基本母音を学習する。(4.0hr)				第10回 日常生活の表現：否定表現 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の否定表現を習得する。 【授業時間外学習】 「～ではありません」の表現を勉強し、否定の仕方を学習する。(4.0hr)				
第3回 ハングルの発音：子音字（1） 【 到達目標 】 (1)文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2)子音（平音・激音）を習得する。 【授業時間外学習】 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。(4.0hr)				第11回 日常生活の表現：用言の表現（1） 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の基礎的用言の表現を理解する。 【授業時間外学習】 動詞・形容詞などの丁寧形（その1：ハムニダ体）を学習する。(4.0hr)				
第4回 ハングルの発音：子音字（2） 【 到達目標 】 (1)ハングルの子音（濃音）を習得する。 【授業時間外学習】 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。(4.0hr)				第12回 日常生活の表現：用言の表現（2） 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の基礎的用言の表現を理解する。 【授業時間外学習】 動詞・形容詞などの丁寧形（その2：ヘヨ体）を学習する。(4.0hr)				
第5回 ハングルの発音：合成母音字 【 到達目標 】 (1)合成母音を習得する。 【授業時間外学習】 子音と合成母音の組み合わせ及びその発音を学習する。発音の仕組みについて理解する。(4.0hr)				第13回 日常生活の表現と韓国文化：過去形 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の過去形の表現を習得する。 【授業時間外学習】 用言の過去形の作り方を勉強し、過去の出来事の説明の仕方を学習する。(4.0hr)				
第6回 ハングルの発音：パッチム、挨拶 【 到達目標 】 (1)文字としてのパッチムを習得する。 【授業時間内学習】 パッチムという概念の理解とその発音を勉強し、基本的な挨拶を学習する。(4.0hr)				第14回 日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（1） 【 到達目標 】 (1)韓国語の漢数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 【授業時間外学習】 漢字語数詞を勉強し、日にちや値段などの言い方を学習する。(4.0hr)				
第7回 日本語のハングルの表記 【 到達目標 】 (1)日本語のハングル表記を習得する。 (2)辞書の引き方、キーボードの打ち方を習得する。 【授業時間外学習】 日本語のハングル表記を学習し、自分の氏名をハングルで書く、辞書を引き、等を学習する。(4.0hr)				第15回 日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（2） 【 到達目標 】 (1)韓国語の固有数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 【授業時間外学習】 固有語数詞を勉強し、時間や人数や年齢などの言い方を学習する。(4.0hr)				
第8回 日常生活の表現：肯定表現 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の肯定表現を習得する。 【授業時間外学習】 「～は～です」の表現を勉強し、自己紹介や挨拶の表現を学習する。(4.0hr)								
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 予習・復習を継続し、日常的にハングルに触れる（ドラマ・映画・歌、等）ようにすることが語学の上達の上で重要である。ほぼ毎回、各課ごとの応用練習帳の作成及び提出の課題が出される。課題の結果、間違いやすい部分や注意すべき点などに関して、次の授業内で解説によるフィードバックを行う。また、1～2回ほど理解度の確認のため、小テストや中間テストを行う。テスト結果は、次の授業内で解説によるフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業になった場合は、オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、翌日の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の復習課題の提出と次回授業の予習課題の提出によって確認する。								
【教科書・参考書など】 「教科書名」：「楽しく学べる韓国語」（李美賢・李貞旻）著（白水社）								
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 各回の授業時での課題40％、理解度確認のためのテスト結果を60％として評価する。試験は試験期間中に別途実施。 【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題と予習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60％、まとめのレポート評価を40％とし、あわせて100％として評価する。合格基準は60％である。								

科 目 名		社会のしくみとキャリア形成		担当者	八 田 益 之	
英 文 名		Career, Business and Social System				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE209・DLE209・HLE209・CLE209		卒業認定方針との関連	④⑤
【目的とねらい】 大学卒業後に進んでゆく「社会」とはどのような仕組みなのか。その中であなたは仕事や家庭生活などの「キャリア」をどのように組み上げてゆくのか。基本知識を理解し、自身なりに考えるための講義です。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 「社会のしくみ」と「キャリア形成」とは何か 【 到達目標 】 「社会」とは変化し続けるもの。「仕事」とは社会の中で相手（＝お客さんや勤務先）のために行動するもの。「キャリア」とは自分の幸福のための選択の積み重ねである事を理解する。			第9回 課題解決・デザインシンキング(1) 【 到達目標 】 仕事とは、相手（お客さんなど）の「課題」を解決すること。これまでの学生生活の中から身近な課題を探し、「デザインシンキング」などの技法をもとに、解決策を考える。			
【授業時間外学習】 自分自身のキャリアを考える(4.0hr)			【授業時間外学習】 グループワークを行う(4.0hr)			
第2回 ケーススタディ 【 到達目標 】 キャリア形成の1事例として、ニチジョ卒業生のインタビュー動画を分析する。ここから何を読み取るか、もっと知りたいこと、参考になることは何かを具体的に考える。			第10回 課題解決・デザインシンキング(2) 【 到達目標 】 具体的な課題について、課題解決のグループワークを通じて理解する。（この部分は特に、日程・回数など変更可能性が高い）			
【授業時間外学習】 自分自身のキャリアを考える(4.0hr)			【授業時間外学習】 グループワークを行う(4.0hr)			
第3回 物語のしくみ 【 到達目標 】 人を動かすしくみの1つに「物語」があります。映画『ブラダを着た悪魔』『鬼滅の刃』などを素材に、物語の基本パターンを理解し、あなた自身の物語について考える。			第11回 プレゼンテーション 【 到達目標 】 アイデアを伝えるための資料作り、発表の仕方、物語の構造について理解し、実践する。他チームの提案内容を分析・解説し、どのようなアイデア、発表がありえたのか、学びを深める。			
【授業時間外学習】 自分自身のキャリアを考える。(4.0hr)			【授業時間外学習】 グループワークを行う(4.0hr)			
第4回 コロナ禍の経験をどう捉えるか 【 到達目標 】 普通であれば様々な刺激があったであろう大学生活の1年目を、ネット中心に過ごさざるをえなかった経験が、自身のどのような「物語」になりうるかについて考える。			第12回 チームビルディング 【 到達目標 】 グループワークに必要なチームビルディングを理解する。相手の考えを受け止め、違いを客観的に分析して、創造してゆくプロセスを理解し、体験する。			
【授業時間外学習】 自分自身のキャリアを考える(4.0hr)			【授業時間外学習】 グループワークを行う(4.0hr)			
第5回 スポーツの経験をどう捉えるか 【 到達目標 】 スポーツを中心とした経験を、どのようにして、社会で活躍できる武器とするか。これまでの経験をふりかえり、これからの将来について考える。			第13回 コーチング 【 到達目標 】 スポーツ経験の中でもて使いやすいスキルであり、会社チームビルディング技法の1つ、「コーチング」の技法を理解する。			
【授業時間外学習】 自分自身のキャリアを考える(4.0hr)			【授業時間外学習】 グループワークを行う(4.0hr)			
第6回 自己分析について 【 到達目標 】 就職活動でよくいわれる「自己分析」について。基本的な手法を試し、その限界についても理解する。			第14回 就職活動について 【 到達目標 】 人生100年時代といわれるこれからの時代は、就職活動は大学生だけではなく、一生続くものだと考えられる。長期目線で、「OG訪問」「インターンシップ」などの理解を深める。			
【授業時間外学習】 自分自身のキャリアを考える(4.0hr)			【授業時間外学習】 自分自身のキャリアを考える(4.0hr)			
第7回 企業研究について(1) 【 到達目標 】 就職活動でよくいわれる「企業分析」は、自己分析と一体で重要である。身近な会社、興味ある会社などについて調べる。			第15回 学生生活アクションプランの策定 【 到達目標 】 まとめ：講義全体を通しての学びをふりかえり、自分自身はどうするのか、考える。			
【授業時間外学習】 興味のある会社の採用情報などを調べる(4.0hr)			【授業時間外学習】 最終レポート作成を行う(4.0hr)			
第8回 企業研究について(2) 【 到達目標 】 会社を動かす仕組みである「おカネ」について理解する。投資、売上、コストといった考え方は、あなた自身のキャリア構築とも共通します。						
【授業時間外学習】 自分自身のキャリアを考える(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 講義外でのグループワークを行います。						
【オンライン授業の場合】 オンデマンド講義を参加型で行います。「動画を受け身で見ているだけの講義」ではありません。そのために、 ①講義外でのグループワークを予定しています。2人～数名程度のグループを組み、時間を合わせ、グループワークを進めてください。 ②グループを各自で結成できるよう、履修者の一覧表などを大学内専用ネットワーク内で公表します。 ③出席は、毎回の課題提出で判断します。（課題提出者の一覧表を公表し、提出の有無を確認できるようにします） ④各回の課題は、一部を次回以降の講義で紹介していきます。（個人情報など微妙な部分は修正） ⑤各回の課題は、期限遅れ提出でもかまいませんので、講義終了までには全回分の課題を提出していただきます。						
【教科書・参考書など】 講義ごとにオンライン配信します。						
【成績評価方法】 【対面授業・オンライン授業ともに共通】 毎回講義後のレポートで判断します。最終回のレポートを重めに配分します（30％予定）						

科 目 名		データ分析と統計学			担当者	水 野 有 希	
英 文 名		Data Analysis and Statistics					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE210・DLE210・HLE210・CLE210			卒業認定方針との関連③	
【目的とねらい】 情報化社会の現代では、溢れる情報から必要な情報を的確に読み取る能力が必要不可欠です。この情報をどのように分析して、どのように結論として導いていくか、その手段として統計学が重要な役割を担っています。本講義では、統計学がどのような場面で使用されているか、実例を多数紹介しながら理解を深め、統計学の基本的な考え方と統計手法を学びます。また、卒業研究や課題レポートなどのデータ分析に活用できるスキルを身につけます。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 統計の心構え、度数分布表とヒストグラム 【 到達目標 】 (1)データの特徴にはばらつきも考えられる。ばらつきをとらえるものとして度数分布表やヒストグラムを学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習（度数分布表・ヒストグラム）をする。（4.0hr）				第9回 平均と分散の推定と区間推定 【 到達目標 】 (1)データ数が多い場合のデータの特徴を捉えるにはどのような方法があるかを学ぶ。 (2)サンプルから全体の特徴を推定した場合の信頼区間について学ぶ。 【授業時間外学習】 提出課題（平均・分散の推定）の復習をする。（4.0hr）			
第2回 データの種類・尺度水準 【 到達目標 】 (1)データの特徴を表すものに代表値がある。代表値とは何か、どのようなものがあるのかを、データの種類や尺度から学ぶ。 【授業時間外学習】 提出課題（尺度水準）の復習をする。（4.0hr）				第10回 t検定（対応あり） 【 到達目標 】 (1)平均の差の検定の種類を理解する。 (2)実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。 【授業時間外学習】 提出課題（対応のあるt検定）の復習をする。（4.0hr）			
第3回 データのばらつきを数値に表すには 【 到達目標 】 (1)ばらつきの度合いを数値として表すものには何があるかを学ぶ。 【授業時間外学習】 提出課題（分散・標準偏差）の復習をする。（4.0hr）				第11回 t検定（対応なし） 【 到達目標 】 (1)実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。 【授業時間外学習】 提出課題（対応のないt検定）の復習をする。（4.0hr）			
第4回 散布図と相関、相関係数 【 到達目標 】 (1)散布図を作成し、パターンを理解する。 (2)相関係数の求め方を学ぶ。 【授業時間外学習】 提出課題（相関係数）の復習をする。（4.0hr）				第12回 分散分析（一元配置） 【 到達目標 】 (1)実際の例をとらえながら、一元配置分散分析を理解する。 【授業時間外学習】 提出課題（一元配置分散分析）の復習をする。（4.0hr）			
第5回 回帰直線 【 到達目標 】 (1)回帰直線を使って予測する方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 提出課題（回帰直線）の復習をする。（4.0hr）				第13回 分散分析（二元配置） 【 到達目標 】 (1)実際の例をとらえながら、対応ありの二元配置分散分析を理解する。 (2)実際の例をとらえながら、対応なしの二元配置分散分析を理解する。 【授業時間外学習】 提出課題（二元配置分散分析）の復習をする。（4.0hr）			
第6回 アンケート作成 【 到達目標 】 (1)アンケート作成の基本を学ぶ。 【授業時間外学習】 アンケート項目を考えアンケートを作成する。（4.0hr）				第14回 カイ二乗検定 【 到達目標 】 (1)仮説検定の考え方を理解する。 (2)カイ二乗値について理解し、求め方と利用方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 提出課題（カイ二乗検定）の復習をする。（4.0hr）			
第7回 仮説検定と有意差について 【 到達目標 】 (1)推計統計学において仮説検定がなぜ必要かを理解する。 (2)確率の意味を復習する。 【授業時間外学習】 提出課題の復習をする。（4.0hr）				第15回 実践課題 【 到達目標 】 (1)実際のデータを使って分析を行います。 【授業時間外学習】 分析方法と表やグラフについて復習する。（4.0hr）			
第8回 正規分布とその他の分布 【 到達目標 】 (1)どのような分布があるかを学ぶ。 (2)一般のデータを標準正規分布に変換する方法を学ぶ。 (3)標準正規分布表から確率を求める方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 提出課題（正規分布）の復習をする。（4.0hr）							
【学習上の留意点】 講義は、できるだけ実際の例を示しながら解説し、数学の苦手な学生も理解できるように工夫します。また、講義で行った知識を固めるために、講義の後半15～20分は課題を遂行する時間とります。間違えた学生は復習を心掛けてください。 【対面授業の場合】 講義は情報処理実習室で授業を実施します。毎回授業時に関連した課題を提出してもらいます。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施します。授業内容は変更しません。配信される資料はスライド、授業資料、解説動画とし、配信は対面授業のスケジュールに従い、当日9:00までに本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップし、1週間掲載します。授業日から5日以内に関連した課題を提出し、出席は各授業の課題の提出によって確認します。なお、課題の遂行にはMicrosoft Office が使用できるデバイスをも所有していることが条件です。							
【教科書・参考書など】 講義中に指示します。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 毎回行われる確認課題（講義に出すもの）60%、実践課題（第15回）40%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。 【オンライン授業の場合】 毎回行われる確認課題（第1回～第14回）60%、実践課題（第15回）40%として評価します。確認課題や実践課題は、指定された期日までに提出してください。							

科 目 名		知の哲学			担当者		宇 多 村 俊 介	
英 文 名		Philosophy of Knowledge						
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科		
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE111・DLE111・HLE111・CLE111			卒業認定方針との関連	①③	
【目的とねらい】 この授業は「知」をめぐる哲学上のいくつかの局面から主題を選びながら、物事や資料、読み物を理知的に解説する習慣を養うことに主眼を置いています。これは、何を素材にするにせよ、日常的に筋道立てて考え解釈するための基礎作業をなしていて、大学生として最低限、身につけておくべき論理的な思考の諸原則と技能とを含みます。取り上げる主題としては、眼前の身近な素材や事例を用いながら、ことによると普段は当然視しているであろう事柄を批判的に捉え直す視角を学びます。各受講生がことばと思考を自覚的に使用し、みずから暮らしを哲学する端緒として欲しい。								
【授業内容・到達目標など】								
第1回 オリエンテーション：哲学することと知へのアプローチ 【 到達目標 】 哲学的な問のもつ特性を理解するとともに、「考える」という作業の一端を実践して、知へアプローチする上でのその意義を自覚する。				第9回 感情：感情と認識 【 到達目標 】 感情の三つの様態を弁別し、それぞれの認識の三能力との対応関係を理解して、みずからの生識を省みることができる。				
【授業時間外学習】 授業プリント付録の<検討課題>に取り組む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				
第2回 知の成立条件と定義：必要条件と十分条件 【 到達目標 】 定義の構成と充たすべき要件を理解した上で、知の古典的な定義とその問題点を考察することができる。				第10回 思考と行為：プラグマティックな意味基準 【 到達目標 】 行為の一段階として思考を捉える視点からプラグマティズムの守則を理解し、観念や言明を明晰化する方法として適用することができる。				
【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				
第3回 意味と明晰さ：曖昧と漠然 【 到達目標 】 ことばを明晰に使用し、無用な混乱を避けるための分析的な諸観点を弁別して理解し、各種の事例に適用することができる。				第11回 コミュニケーションの哲学：社会的自我 【 到達目標 】 コミュニケーションという用語の意味、その基本要素と諸段階を確認した上で、自我の社会性および主体性を理解し、コミュニケーションの可能性の基盤を考察することができる。				
【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				
第4回 立論の批判的評価の諸段階1：推論の2類型 【 到達目標 】 立論(論証)の構造と、そこに体现される推論の2つの類型を把握した上で、立論の健全さを評価することができる。				第12回 現代の知の諸相1：情報化時代の知 【 到達目標 】 現代の知の一形態として集合知の特性を理解し、その正当性の根拠と成立条件、および限界について考えることができる。				
【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				
第5回 立論の解剖学：樹形図の方法 【 到達目標 】 複合的な立論を分析する手段として樹形図の方法を把握し、任意の立論の論理構造を理解することができる。同時に、この方法から取り出される書き手としての一般原則を把握し、運用することができる。				第13回 現代の知の諸相2：科学的接近法 【 到達目標 】 問題解決のための着想を評価する技能として説明上の仮説を理解し、仮説を評価するための検討項目に照らして、任意の仮説を評価することができる。				
【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				
第6回 立論の批判的評価の諸段階2：問と論駁 【 到達目標 】 対話的な討論の枠組みのなかで立論の目的を把握し、いくつかの問のもつ機能と諸特質を弁別して理解することができる。				第14回 現代の知の諸相3：俗悪なものの形而上学 【 到達目標 】 形而上学的な次元が日常的な思考や行動をどう左右するかを理解し、その観点から任意の事例を分析することができる。				
【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				
第7回 立論の批判的評価の諸段階3：歪んだ思考 【 到達目標 】 成功する立論の充たすべき諸要件に対する違反として欺瞞的な立論(虚偽)の分類と形式を把握し、虚偽を犯した個々の立論をそれと分析することができる。				第15回 知の主体的責任と知的誠実性 【 到達目標 】 授業を振り返り、知を表明し伝達することの意味と責任を自覚することができる。				
【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				
第8回 知覚経験と認識：現象と實在 【 到達目標 】 知の四つの源泉およびそれらに対応する認識の手段、能力として、感覚・知覚、表象、概念の諸特質を把握して、知覚経験のもつ限界と知覚経験の記述の客観性の諸条件について考察することができる。								
【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)								
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理してもらうために、また、いくつかの思考の技能への一定の習熟を図るために、授業時に5～6回、課題ミニレポートを書き、提出してもらいます。これを除く各回、講義内容を踏まえた考察カードを書いてもらいます。とくに寸評を要する考察や疑問、解答例のある課題については翌週の解答・解説によって理解度を確認してもらいます。予備知識は問いませんが、各回、必ずしも馴染みのない概念や観点を学びます。集中して理解し、実地に適用する心構えて下さい。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施します。取り上げる主題の定性的な方面は変更しません。配信教材は原則的に講義の概要を記したPDF資料ファイルと解説用の音声ファイルです(資料形態は受講生全員の受信環境によって変更することもあります)。配信日時は対面授業時間割に準じ、本学ポータルサイトにより各授業に先立って配信される授業連絡に記されたファイルの格納場所にアップし、課題提出締切日まで掲載します。出席は各授業回に定める期日内の課題の提出をもってカウントします。								
【教科書・参考書など】 教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。								
【成績評価方法】 【対面授業の場合】授業内の課題ミニレポート40%、定期試験60%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。 【オンライン授業の場合】各授業回の提出課題70%、学期末レポート30%で評価する。定期試験は実施しない。なお、欠席届相当の証明書類の提出のある欠席者には別途課題を課し、出席確認と課題評価の機会を設ける。								

科 目 名		教養としての日本文学			担当者	高 橋 良 久	
英 文 名		Introduction to Japanese Literature					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE112・DLE112・HLE112・CLE112		卒業認定方針との関連	①④	
【目的とねらい】 本科目は、人間の営みや人間そのものの姿、心性を描く文学、特に、ここでは日本の古典文学の中から文学の対象となった項目を取り上げ、その時代背景を「現代」に置き換えて検討・考察することで、現代社会を問い直す視点を獲得することを目指す。古文の読解もある。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 この授業の目的・ねらい・進め方 【 到達目標 】 教養として文学を読むことの意義、授業のねらいと方針、学習方法を理解する。			第9回 「伝承文学」 【 到達目標 】 「伝承文学」とはどういうものかを理解する。				
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)				
第2回 「名づける」という行為 【 到達目標 】 「名づける」という行為の意味を理解する。			第10回 日本の風土 【 到達目標 】 古典作品での風土の捉え方を理解する。				
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)				
第3回 「文学」とは 【 到達目標 】 「文学」とはどのようなものかを理解する。			第11回 日本の四季 【 到達目標 】 古典作品での四季の捉え方を理解する。				
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)				
第4回 「作品を読む」ということ 【 到達目標 】 作品論、作家論とはどのようなものかを理解する。			第12回 東西のシンデレラ 【 到達目標 】 『落窪物語』を読み解く。				
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)				
第5回 「文字」 【 到達目標 】 日本で用いられる「文字」について、その役割や機能の変遷を理解する。			第13回 「あこがれる」ということ 【 到達目標 】 『源氏物語』と『更級日記』を読み解く。				
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)				
第6回 言葉で遊ぶ 【 到達目標 】 「ことば遊び」の変遷を知ることで、ことばに対する人々の接し方を理解する。			第14回 増えていく不思議 【 到達目標 】 『枕草子』の章段の種類について理解する。				
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)				
第7回 日本人はどこから来たのか 【 到達目標 】 日本の文学はどのようにして発生したかを理解する。			第15回 手紙 【 到達目標 】 短い手紙を書く。				
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業全体を振り返り、自己評価を行う。(4.0hr)				
第8回 「言霊」 【 到達目標 】 「言霊」とはどのようなものかを理解する。							
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 ・次回の授業で取り扱う課題が完成しているという前提に講義を進める。 ・定期試験を実施する。試験は試験期間中に別途実施する。定期試験では、持ち込みも認めないので、予め授業で取り上げた作品は全て読み直しておくこと。 ・自主学習が多いためハードである。積極的に学習に取り組む覚悟がなければ本科目は単位習得できないので、中途半端な気持ちで選択しないようにすること。 ・「グループ学習」を取り入れる。また、「レスポンスカード」を使用し、理解の深化を図る。 【オンライン授業の場合】 パワーポイントによる動画配信の授業。授業内容は、授業回数が減った場合でも大幅には変更しないが、順番を入れ替える場合がある。オンラインの授業の場合は、定期試験は行わない。							
【教科書・参考書など】 教科書 授業時に使用する資料は、こちらで用意する。 参考書 授業時に適宜紹介する。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 ・授業時の提出物(40%)・定期試験(60%) 【オンライン授業の場合】 ・毎回の課題提出(70%)・試験課題(30%)							

科 目 名		音楽の世界			担当者	森 立 子	
英 文 名		The World of Music					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE113・DLE113・HLE113・CLE113		卒業認定方針との関連	④⑤	
【目的とねらい】 西洋音楽の基礎的知識を学びつつ、さらに世界のさまざまな音楽にも視野を拡げ、音楽と現代社会がどのように関わっているのか、あるいは関わりうるのかについて考察を進める。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 序説～人間と音楽 【 到達目標 】 人間は音楽をどのような場面で必要とし、またどのように音楽と関わってきたのか。いくつかの例を基に考察する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)			第9回 音階とは何か 【 到達目標 】 音階の定義を学び、異なる音階に基づく音楽がもたらす聴覚的効果について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)				
第2回 さまざまな楽器（1） 【 到達目標 】 楽器の分類法について学び、体鳴楽器、気鳴楽器について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)			第10回 音楽と記録（1） 【 到達目標 】 さまざまな種類の楽譜とその用途について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)				
第3回 さまざまな楽器（2） 【 到達目標 】 弦鳴楽器、電鳴楽器について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)			第11回 音楽と記録（2） 【 到達目標 】 録音、再生技術の歴史について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)				
第4回 声（1） 【 到達目標 】 歌唱における各種の発声法について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)			第12回 西洋音楽の歴史（1） 【 到達目標 】 西洋音楽史の時代区分を確認し、バロック時代の音楽の特徴について実例を鑑賞しながら理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)				
第5回 声（2） 【 到達目標 】 西洋音楽の声種について、その実例を鑑賞しながら理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)			第13回 西洋音楽の歴史（2） 【 到達目標 】 古典派、ロマン派時代の音楽の特徴について実例を鑑賞しながら理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)				
第6回 音楽材としてのノイズ 【 到達目標 】 ノイズを素材としていかに音楽を構成することが出来るのか、実例を鑑賞しながら考察する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)			第14回 西洋音楽の歴史（3） 【 到達目標 】 近代の音楽の特徴について実例を鑑賞しながら理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)				
第7回 環境と音楽（1） 【 到達目標 】 「環境音楽」の歴史的展開について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)			第15回 日本における西洋音楽の受容 【 到達目標 】 日本において西洋音楽がいかに受容されてきたのか、主に歴史的視点から考察する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)				
第8回 環境と音楽（2） 【 到達目標 】 「サウンド・スケープ」の理念とその実践例について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面形式】 パワーポイントを用いて要点を示しながら、詳細を口頭で説明する形で講義を進める。音楽という科目の性格上、CD・DVDなど視聴覚教材を多用した授業展開になるため、欠席しないことが大前提となる。なお、各テーマの終了時にコメントカードの提出を求める。このコメントカードに書かれた内容も成績評価の対象とする。 【オンライン形式】 オンデマンド方式の授業を実施する。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と参考動画である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし6日間掲載する。毎回、授業で扱ったテーマについてのミニ・レポートを課し、このミニ・レポートの提出をもって出席とする。受講に際して音楽の知識の有無は問わないが、課題に真摯に向き合うことの出来る学生の参加を求める。							
【教科書・参考書など】 授業の際に随時紹介する。							
【成績評価方法】 【対面形式】 テーマごとに課すコメントカードの内容40%、学期末レポート60%の割合で評価する。 【オンライン形式】 各授業回で課すミニ・レポート60%、学期末レポート40%の割合で評価する。							

科 目 名		コンピュータ実践演習		担当者	水 野 有 希	
英 文 名		Lecture and Practice in Information and Communication Technology				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE212・DLE212・HLE212・CLE212		卒業認定方針との関連	②③④
【目的とねらい】 会社や大学、家庭など、ありとあらゆるところに情報技術が利用されています。そのような社会に生きる私たちにとって、情報技術は理論的にも実践的にも重要です。本講義では、情報技術の進歩が私たちの生活や社会にどのように影響を及ぼしているか、どのような利点と欠点が出てきたかをとらえます。また、実践として、インターネットやメールを利用した情報操作、レポート作成、画像処理、関数の応用やデータベース操作を身に付け、ホームページや資料作成などの様々な手法による情報発信技術について学びます。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 情報技術について 【 到達目標 】 (1) 情報技術とは何かを理解する。 (2) 情報技術が利用されている例を見ながら理解を深める。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			第9回 Excelの初級 【 到達目標 】 (1)Excelの基本操作と基礎的関数について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
第2回 インターネットの仕組みと現状、情報倫理について 【 到達目標 】 (1) インターネットの仕組みを理解する。 (2) インターネットの現状を把握し、利点と欠点を理解する。 (3) 情報についてのマナー、セキュリティー、プライバシー、知的財産権について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			第10回 Excelの上級 【 到達目標 】 (1)Excelの応用関数(IF関数やVLOOKUP関数など)について学ぶ。 (2) シートの操作について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
第3回 レポート作成と論文作成の基礎 【 到達目標 】 (1) レポートや論文の体裁や作成の注意点などを理解する。 (2) 長い文章を意識したWordの技術を学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			第11回 データベースの基本操作 【 到達目標 】 (1) データベースとは何かについて学ぶ。 (2) フィルタについて学ぶ。 (3) ビボットの操作について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
第4回 レポート作成と論文作成の応用 【 到達目標 】 (1) 注釈、図表番号、目次の作成技術を学ぶ。 (2) レポートや論文に添付する抄録や要約について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			第12回 グラフの作成 【 到達目標 】 (1) 基本的なグラフについて復習し、応用的なグラフの作成技術を学ぶ。 (2) 目的に応じた、効果的なグラフの作成について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
第5回 画像処理 【 到達目標 】 (1) 画像処理アプリケーションソフトについて学ぶ。 (2) 効果的な画像処理技術を修得する。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			第13回 Excelの総復習 【 到達目標 】 (1) 第9回から第12回まで学習した内容を総合的に学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
第6回 ホームページの作成 【 到達目標 】 (1) Googleサイトを利用したホームページの作成技術を理解する。 (2) ホームページによる情報発信技術を修得する。 【授業時間外学習】 さまざまなHPから効果的な情報発信方法を体験する。(4.0hr)			第14回 資料作成の基礎 【 到達目標 】 (1) officeアプリを互換し、資料（報告書）を作成する。 (2) 既存の情報（公的機関、論文など）を活用した効果的な資料作成技術を修得する。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
第7回 クラウドについて 【 到達目標 】 (1) GoogleDriveやOneDriveについて学ぶ。 (2) クラウドを活用するメリット・デメリットを理解する。 【授業時間外学習】 本日の授業内容の復習と次回授業のアンケート項目を考える。(4.0hr)			第15回 資料作成の応用 【 到達目標 】 (1) TPOに応じた資料作成技術を習得する。 (2) 情報発信方法について「振り返り」をして、効果的な情報発信技術を学ぶ。 （※ プレゼンをし、評価および振り返りを行います） 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
第8回 アンケートの作成とデータ収集の実践 【 到達目標 】 (1) GoogleDriveを利用したアンケートの作成、集計技術を理解する。 (2) アンケートの質問項目に関する作成手順や注意事項を理解する。 （※ グループワークを行います） 【授業時間外学習】 アンケートフォームからアンケートを体験する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 1年生に行った情報処理Ⅰ・Ⅱの知識を基礎として、応用的な内容を学習します。講義時間の後半15分は実際に皆さんが課題を解く時間とします。解いた課題については、次回解説を行います。間違えた人は必ず復習をしてください。 【対面授業の場合】 講義は情報処理実習室で授業を実施します。毎回授業時に関連した課題を提出してもらいます。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施します。授業内容は一部変更（グループワークやプレゼン）がありますが、ほぼ同じ内容で進行します。配信される資料はスライド、授業資料、解説動画とし、配信は対面授業のスケジュールに従い、当日9:00までに本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップし、1週間掲載します。授業日から5日以内に関連した課題を提出し、出席は各授業の課題の提出によって確認します。なお、課題の遂行にはMicrosoft Office が使用できるデバイス を所有していることが条件です。						
【教科書・参考書など】 資料を配付します。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 毎回行われる確認課題（講義中に出すもの）40%、演習課題（第8回、第15回）20%、最終レポート40%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。 【オンライン授業の場合】 毎回行われる確認課題（第1回～第14回）60%、資料の評価＋最終レポート（第15回）40%として評価します。確認課題や最終レポートは、指定された期日までに提出してください。						

科 目 名		人間生活と地球環境			担当者	鈴 木 信 夫	
英 文 名		Human life and Earth Environment					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE114・DLE114・HLE114・CLE114			卒業認定方針との関連④	
【目的とねらい】 環境問題が大きく取り上げられる現代であるが、この授業では、まず最初に原始地球の環境はどのようなものであったのか、その後、生物の出現にともなう地球環境はどう変化したのかを知る。 次に、人類誕生後、我々の日々の営みが、地球上の生物にどのような影響を与えてきたか、また、限りある資源をどう利用すればいいかを考える。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 「人間生活と地球環境」の授業の概要とねらいを理解する。 【授業時間外学習】 事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。(4.0hr)			第9回 温室効果ガス 【 到達目標 】 中国の驚異的な工業化、米国における排出権取引ビジネスの成功、海面上昇により国家存亡の危機にあるツバルの現状等を理解する。 【授業時間外学習】 ネット等で京都議定書成立後の二酸化炭素排出規制に関する問題点を調べること。(4.0hr)				
第2回 原始地球の環境(1) 【 到達目標 】 原始地球の環境が現在と大きく異なること、特に全海洋蒸発が起きたことを理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)			第10回 崩れる生態系 【 到達目標 】 外来種の侵入が及ぼす影響、巨大ダム建設による生態系の破壊、大型肉食動物の駆除が生態系に与える影響などを理解する。 【授業時間外学習】 ネット等で外来生物法について調べ、外来生物の問題点を理解すること。(4.0hr)				
第3回 原始地球の環境(2) 【 到達目標 】 今から6億年ほど前に起きた全球凍結のメカニズムを知り、その後、生物が爆発的に進化したことを理解する。 【授業時間外学習】 ネット等でカンブリア紀の生物の特徴を調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)			第11回 リサイクル法(1) 【 到達目標 】 環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃棄物規制令)の仕組みを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでドイツのゴミリサイクルに関する現状(問題点)を調べること。(4.0hr)				
第4回 恐竜の絶滅 【 到達目標 】 生物が絶滅するメカニズムを恐竜の絶滅を例に理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで恐竜絶滅の原因を調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)			第12回 リサイクル法(2) 【 到達目標 】 環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃車政令)の仕組みを理解する。 【授業時間外学習】 ネット等で自動車メーカーのリサイクルに対する対策を調べること。(4.0hr)				
第5回 人為圧による野生生物の絶滅 【 到達目標 】 野生生物の絶滅の中で、人為圧による絶滅のメカニズムをドーデーやリオウコウバトの絶滅を例に理解する。 【授業時間外学習】 ネット等でドーデー・リオウコウバト以外の絶滅動物について調べること。(4.0hr)			第13回 リサイクル法(3) 【 到達目標 】 日本におけるリサイクル法(容器包装リサイクル法や家電リサイクル法など)の仕組みを理解する。 【授業時間外学習】 ネット等で日本におけるゴミリサイクルの現状(問題点)を調べること。(4.0hr)				
第6回 酸性雨 【 到達目標 】 酸性雨の発生する仕組みを知り、その影響を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでヨーロッパにおける最近の酸性雨の影響を調べること。(4.0hr)			第14回 環境監査(1) 【 到達目標 】 環境監査の概念を理解し、EUで導入されているEMAS(Eco-Management and Audit Scheme)の意義を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでEMASについて調べ、現状と問題点を理解すること。(4.0hr)				
第7回 水問題 【 到達目標 】 人口増加による水不足の問題や、森林の荒廃による河川の生態系の崩壊など、水にまつわる問題を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで水問題について調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)			第15回 環境監査(2) 【 到達目標 】 EMASを手本にできたISO14001について、取得に取り組む、ある中小企業の例を参考に、その意義を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでISO14001認証取得の方法について調べ、理解すること。(4.0hr)				
第8回 温室効果ガス 【 到達目標 】 温室効果ガスの一つである二酸化炭素の排出量を規制する条約、京都議定書が成立するまでの各国の思惑を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで京都議定書について調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。定期的に授業内容に関する小レポートを作成し、授業の理解度を確認する。結果については、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回のパワーポイントと補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのPholly上にアップし、翌日の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。							
【教科書・参考書など】 教科書は特に使用せず、プリントを配布(オンデマンドの場合は、Pholly上にPDF資料をアップ)する。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】小レポートの達成度を100%として評価する。 【オンライン授業の場合】各授業回の復習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科 目 名		ヨーロッパの文学と文化		担当者	加 賀 岳 彦	
英 文 名		European Literature and Culture				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE115・DLE115・HLE115・CLE115		卒業認定方針との関連	④
【目的とねらい】 ヨーロッパの文学は、日本をも含む世界中の文学・芸術・思想に多大な影響を及ぼしてきた。この授業では、ヨーロッパ文学の古典から現代までの代表的作品を、まずはその文化的背景、時代、社会と関連づけながら理解し、そして現代に生きる我々の諸問題と結び付けて考察していく。なお講義の性質上、ヨーロッパ文学と類縁関係にあるアメリカ文学、およびヨーロッパ文学から大きな影響を受けた近代日本文学をも視野に置き、頻繁に言及する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業概要の説明・ヨーロッパの地理・歴史の概観 【 到達目標 】 授業内容を理解する。 ヨーロッパの地理・歴史についての基礎概念を理解する。			第9回 ヨーロッパ中世の文学 【 到達目標 】 ヨーロッパ中世文学を考察する。ここでは中世期にヨーロッパ中に広まった「アーサー王伝説」およびその物語群を考察し、19～20世紀への影響等を追っていく。			
【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
第2回 ヨーロッパ文学の源流 ギリシャ神話 【 到達目標 】 ヨーロッパ文化の源流であるギリシャ神話の自然観・世界観・人間観を理解し、20世紀文学への影響等を考察する。			第10回 ルネサンスの文学① 【 到達目標 】 中世からの時代の変化を十分踏まえながら、ルネサンス文学の特徴と本質は何なのかを、セルヴァンテスの『ドン・キホーテ』の主要個所の精読を通して考察する。			
【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
第3回 ヨーロッパ文学の源流 古典ギリシャ文学① 【 到達目標 】 ギリシャ神話を知識を基に、西洋最古の文学であるホメロスの英雄叙事詩『イリアス』を考察する。			第11回 ルネサンスの文学② 【 到達目標 】 前回到続きルネサンスの文学を考察する。ここではウィリアム・シェイクスピアの作品を題材に、その表現方法やテーマから、ルネサンス文学の特徴と魅力を掴む。			
【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
第4回 ヨーロッパ文学の源流 古典ギリシャ文学② 【 到達目標 】 『イリアス』に続き、ホメロスの英雄叙事詩『オデュッセイア』を概観し、20世紀文学への影響などを考察する。			第12回 宗教改革 【 到達目標 】 宗教改革（Reformation）は単に宗教上の運動にとどまらず、その後のヨーロッパ近代社会の発展に様々な影響を与えた。その内実を、ルター、カルヴァンのテキストを通して理解していく。			
【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
第5回 ヨーロッパの古典思想 古典ギリシャ哲学 【 到達目標 】 その後のヨーロッパ文明に大きな影響を与えたギリシャ哲学を概観し、特にプラトンの思想を具体的に考察する。			第13回 ヨーロッパ近代の文学① 【 到達目標 】 宗教改革以降、ヨーロッパの近代文学には何がどのように描かれ、どのような発展と分岐を経ていったのかを概観し、その多様な特徴を理解する。主にディケンズの作品を扱う。			
【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
第6回 ユダヤ＝キリスト教① 『旧約聖書』 【 到達目標 】 ギリシャ文学と並び、後世のヨーロッパ文化を決定づけた『旧約聖書』の主要個所を精読し、その世界観・特徴・歴史的重要性を考察する。			第14回 ヨーロッパ近代の文学② 【 到達目標 】 18～19世紀のヨーロッパ・アメリカにおけるデモクラシー・平等といった近代諸概念を、文学はどう扱い表現していったのか、その特徴を理解する。			
【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
第7回 ユダヤ＝キリスト教② 『新約聖書』 【 到達目標 】 前回の『旧約聖書』を踏まえて、『新約聖書』の主要個所を精読し、イエスの思想およびキリスト教の特徴を理解し、後世のヨーロッパ文化に与えた影響を考察する。			第15回 ヨーロッパの現代文学 【 到達目標 】 「戦争の世紀」と言われる20世紀、ヨーロッパでは多くの新思潮が抬頭してきた。それらの傾向と方向性を捉えた上で、モダニズム、実存、不条理など、20世紀ヨーロッパ文学が描き出した人間存在の諸問題を考察する。			
【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
第8回 ヨーロッパ中世の文化 【 到達目標 】 ヨーロッパ「中世」という時代の歴史的背景を捉えた上で、カトリック、マリア崇敬などに見られる中世文化の諸特徴を考察する。						
【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 授業時に配布する資料・テキストをしっかり読み、毎回の授業の復習として授業の要点を各自ノートにまとめておくことを勧める。また授業で触れた作品を自分で読んでみたり、その映画作品を観たりすると、理解が格段に深まる。 【オンライン授業の場合】 上記の内容をオンデマンド方式で行う。毎回、テキスト・資料・動画がオンラインで配信され、受講生はそれらを用いて毎回のテーマを学習し、レポート・課題を期限まで提出することになる。						
【教科書・参考書など】 授業時に資料集を配布する。また随時、重要文献・映像資料等を指示する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50％、期末試験50％から評価する。 【オンライン授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50％、学期内の各種レポート・課題50％から評価する。						

科 目 名		レクリエーションミュージック・合奏		担当者	今 角 夏 織	
英 文 名		Recreation music (Ensemble)				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE116・DLE116・HLE116・CLE116		卒業認定方針との関連	④⑤
【目的とねらい】 高校までの音楽科の授業を発展させる形で、「音を合わせる」ということを学ぶ。合奏や合唱の経験を通して豊かな表現力を養い、協力して一つの曲を完成させる喜びを味わう。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 楽譜の基礎知識①/声のアンサンブル導入 【 到達目標 】 基本的な楽譜の読み方を理解する。歌唱に必要な身体の使い方を理解する。			第9回 ボディーパーカッション② 【 到達目標 】 グループごとに創意工夫をして、ボディーパーカッションのアレンジをする。			
【授業時間外学習】 楽譜の読み方を復習する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 第8回で扱った楽曲の復習をする。(4.0hr)			
第2回 音楽の形式①/声のアンサンブル 【 到達目標 】 校歌の音楽的特徴を理解したうえで、二部合唱で歌う。			第10回 ボディーパーカッション③（発表）/楽譜の基礎知識③ 【 到達目標 】 第9回でアレンジした曲を演奏し、互いの演奏を聴き合う。			
【授業時間外学習】 校歌のメロディーを確認する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 第9回で取り組んだ内容の復習をする。(4.0hr)			
第3回 楽譜の基礎知識②/身近なものを使ったアンサンブル① 【 到達目標 】 プラスチックカップを用いていくつかの音色を出し、リズムを理解してアンサンブルを楽しむ。			第11回 リコーダー運指③/トーンチャイム導入 【 到達目標 】 リコーダーのサミングを習得する。トーンチャイムの取り扱いを習得する。			
【授業時間外学習】 楽曲の正しいリズムを習得する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 これまでに学習したリコーダーの運指の復習をする。(4.0hr)			
第4回 身近なものを使ったアンサンブル②/リコーダー導入 【 到達目標 】 前回学習したリズムを応用して、音楽に合わせて正しく演奏する。リコーダーの基本的な奏法を理解する。			第12回 楽器のアンサンブル：トーンチャイム① 【 到達目標 】 自らのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。			
【授業時間外学習】 リコーダーの取り扱いを習得する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 トーンチャイム演奏における楽譜の読み方を復習する。(4.0hr)			
第5回 身近なものを使ったアンサンブル③（発表）/リコーダー運指① 【 到達目標 】 グループに分かれ、アレンジを完成させる。初歩的なリコーダーの運指を理解する。			第13回 楽器のアンサンブル：トーンチャイム②/リコーダー① 【 到達目標 】 トーンチャイムのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。			
【授業時間外学習】 学習したリコーダーの運指を復習する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 リコーダーの奏法：タンギングの復習をする。(4.0hr)			
第6回 音楽の形式②/楽器のアンサンブル：スペインのカスタ① 【 到達目標 】 各国の伝統的なリズムに触れ、違いを理解する。カスタネットの奏法を理解する。			第14回 楽器のアンサンブル：トーンチャイム③/リコーダー② 【 到達目標 】 トーンチャイム：リズム、メロディーが際立つ演奏をする。リコーダー：チューニングを学ぶ。			
【授業時間外学習】 打楽器の基本的な取り扱いを習得する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 担当するパートの復習をする。(4.0hr)			
第7回 楽器のアンサンブル：スペインのカスタ②（発表） 【 到達目標 】 カスタネット、トライアングル等によるアンサンブルを楽しむ。			第15回 リコーダー＆トーンチャイム（発表） 【 到達目標 】 今までに学習したことを生かし、より音楽的に仕上げる。			
【授業時間外学習】 第6回で扱った楽曲の復習をする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 第14回の授業内容を復習する。(4.0hr)			
第8回 ボディーパーカッション①/リコーダー運指② 【 到達目標 】 身体を打ち鳴らして出る様々な音を発見する。リコーダーで1オクターブの音域を使って演奏する。						
【授業時間外学習】 リコーダーの運指を復習する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 ソプラノリコーダーは、履修する全学生が指示の通りに購入すること。 アンサンブルはひとりでも欠けると成立しないので、欠席しないことを条件に課す。 各回に提出された課題に対してコメントをする形で取り組みに対する評価を行う。 教科の特性上、オンライン形式での授業は不可能であるため、状況によって90分授業を45分ずつに分け、学生の登校を分散させた上での授業を実施する。 その際はプリント等で課題を配布し評価する。						
【教科書・参考書など】 適宜楽譜を配布する。						
【成績評価方法】 授業における課題達成度および授業内演奏の習熟度50％、授業内課題提出50％で評価する。						

科 目 名		スポーツ運動学		担当者	石 塚 浩	
英 文 名		Sport Movement Theory				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBR101		卒業認定方針との関連	⑦
【目的とねらい】 運動技術の階層概念について認識を深め、他の要因である体力や戦術との相互関係について、さらに体力の内容と技術や戦術との関連性が深い専門的体力について理解する。さらに、戦術の特性とそのゲシュタルトの捉え方について理解を深める。一方で、運動構造について局面構造を理解し、さらに動感（キネステーズ）との関連から「コツ」や「カン」の発生について理解を深める。また、運動の習熟過程として「できない」から「いつでも上手にできる」に至るまでの位相構造について、実践的に理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 運動技能の構造 【 到達目標 】 運動技能を構成する要因である「技術」「戦術」「体力」の関係について理解する。			第9回 運動技能の構造に関する諸要因とその関連性 【 到達目標 】 運動技能の構造に関する諸要因を理解し、個々の要因との関連を関連づけながら理解を深める。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。（4.0hr）			
【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。（4.0hr）			【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。（4.0hr）			
第2回 技術や戦術と専門的体力の関係 【 到達目標 】 複合した要因となる専門的体力について技術の側面、また戦術の側面について理解する。			第10回 運動の構造（局面構造に着目して）（1） 【 到達目標 】 運動形式（循環性運動、非循環性運動、運動組み合わせ）から、その構造と実際のスポーツ場面での応用について理解する。			
【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。（4.0hr）			【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。（4.0hr）			
第3回 運動技能と発育発達との関係 【 到達目標 】 年齢段階によって運動技能を構成する要因を育成する方向性に変化があることを理解し、自己の経験と比較対照する。			第11回 運動の構造（リズム構造に着目して）（2） 【 到達目標 】 運動の構造に関する具体例について分析・検討し、実習授業等で課題となっている内容について理解する。			
【授業時間外学習】 中学・高校での「運動経験」と配布プリントの内容との照合。（4.0hr）			【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。（4.0hr）			
第4回 宮本武蔵の「五輪書」や孫子の「兵法」における技術と戦術 【 到達目標 】 武道という日本古来の古書から技術、戦術の分類をし、また中国の孫子の兵法からも理解を深める。			第12回 運動技能の上達過程「できない」から「できる」の階層 【 到達目標 】 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、粗協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。			
【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係と比較検討。（4.0hr）			【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。（4.0hr）			
第5回 戦術に関する要因とその具体例（1） 【 到達目標 】 代表的なスポーツ種目における戦術を取り上げるとともに、戦略、作戦といった概念について理解する。			第13回 運動技能の上達過程「できる」から「上手にできる」の階層 【 到達目標 】 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、精協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。			
【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。（4.0hr）			【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。（4.0hr）			
第6回 戦術に関する要因とその具体例（2） 【 到達目標 】 技術の獲得と戦術を利用した指導場面から、その基礎となる「状況判断能力」と、その代表的なモデル例を理解する。			第14回 運動技能の上達過程「上手にできる」から「いつでも上手にできる」の階層 【 到達目標 】 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、最高精協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。			
【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係と比較検討。（4.0hr）			【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。（4.0hr）			
第7回 技術練習の方法 【 到達目標 】 技術の獲得と戦術を行う際の手順に隠されている運動表象、運動投企、運動記憶といった概念を知り、動きのコツ獲得の方法論を理解する。			第15回 運動技能の上達過程における「コツ」と「カン」の獲得 【 到達目標 】 運動技能の上達過程で発生する「コツ」や「カン」について、実践例を映像資料などから分析し、総合的に理解する。			
【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係と比較検討。（4.0hr）			【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。（4.0hr）			
第8回 戦術練習の方法 【 到達目標 】 戦術練習を行う際に必要な「アイコンタクト」「トライアングル」「サポーティング」「コーチング」という内容を理解する。						
【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係と比較検討。（4.0hr）						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】スポーツ運動学における発生論、構造論、伝承論の領域を相互関連的に理解する必要がある、パワーポイント画面を写すだけでは表層的な理解に留まる恐れがある。自らメモをとるとともに、自己のスポーツやダンスの経験と照らし合わせながら理解することが最も重要である。また、書く力、表現する力といった総合的な能力を陶冶することが求められる。数回のレスポンスカードによる確認を行なう。さらに、スポーツ運動学では、一つの正解を覚える、または、一つの正解しかないという発想を捨てることが求められる。 【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅な変更はない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補助資料である。配信は、対面授業スケジュールに従い、同一曜日の0:00頃に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間程度掲載する。出席は、各授業回におけるキーワードの記載と課題の提出によって確認する。						
【教科書・参考書など】 教科書：「教師のための運動学」金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店） 参考書：「マイネル スポーツ運動学」K. マイネル著、金子明友訳（大修館書店） 「スポーツ運動学序説」朝岡正雄・著（不昧堂出版）、「スポーツ運動学」金子明友・著（明和出版）						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】全体の20％は数回配付される授業内容の考察用紙の内容、小テストの結果、授業時の挙手による、または、指名による回答であり、残りの80％はレポートもしくは試験の結果から評価する。試験の場合は、試験期間中に実施。 【オンライン授業の場合】各授業回の提出された課題の評価、全授業回数終了時点での試験の実施、から評価を行う。それぞれの評価配分は授業課題30％・テスト70％である。合格基準は60％以上である。						

科 目 名		スポーツ生理学		担当者	星 川 佳 広	
英 文 名		Sport Physiology				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBR102		卒業認定方針との関連	⑦
【目的とねらい】 私たちの身体の諸機能のうち、スポーツ・ダンスなど身体運動と関係が深い神経系、筋系、呼吸系、循環系、内分泌系、体温調節などについて、その生理学的な仕組みの基礎を学ぶ。運動に対して身体がどのように応答するか、またそれを繰り返す（＝トレーニング）と身体はどのように変化するかについて、生理学的に理解する基礎を作る。						
第1回 スポーツ生理学とは何か 【 到達目標 】 スポーツ生理学の概要と本講義における学習到達目標を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料、教科書に基づきスポーツ生理学の概要を復習する。 教科書第1章の予習をする。（4.0hr）				第9回 スポーツと代謝、栄養① 【 到達目標 】 異化と同化、運動中のエネルギー基質利用について理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第5章・9章の予習をする。（4.0hr）		
第2回 スポーツと骨格筋・神経① 【 到達目標 】 骨格筋・神経の解剖、生理について理解を深める。特に筋が収縮する仕組みと筋線維組成について理解を深める。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第1章・7章の予習をする。（4.0hr）				第10回 スポーツと代謝、栄養② 【 到達目標 】 運動に関係する栄養成分の働きと特性の基礎を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第5章・9章の予習をする。（4.0hr）		
第3回 スポーツと骨格筋・神経② 【 到達目標 】 神経系からの指令を受けた筋が収縮し運動が発現する仕組みとその調整を理解する。 また、脳機能についても扱う。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第1章・7章の予習をする。（4.0hr）				第11回 スポーツと内分泌・ストレス 【 到達目標 】 運動やストレスに対する内分泌系応答とトレーニングによる変化について理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第6章の予習をする。（4.0hr）		
第4回 スポーツとエネルギー供給機構 【 到達目標 】 エネルギーを生み出す仕組みとその種類について理解し、トレーニングに応用できる。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第2章の予習をする。（4.0hr）				第12回 スポーツと体組成 【 到達目標 】 体組成の概念と無酸素性、有酸素性トレーニングの効果について理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第10章の予習をする。（4.0hr）		
第5回 スポーツと呼吸① 【 到達目標 】 運動時の呼吸機能の変化と調節機構について理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第3章の予習をする。（4.0hr）				第13回 スポーツと発育発達 【 到達目標 】 身体サイズの発育および諸機能の発達について概要を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第11章の予習をする。（4.0hr）		
第6回 スポーツと呼吸② 【 到達目標 】 最大酸素摂取量、最大酸素価について理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第3章の予習をする。（4.0hr）				第14回 スポーツと体温調節 【 到達目標 】 体温調節の仕組みとパフォーマンスへの影響について理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第12章の予習をする。（4.0hr）		
第7回 スポーツと循環① 【 到達目標 】 循環系の解剖、生理について理解を深める。特に心臓の役割と運動中の応答について理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第4章の予習をする。（4.0hr）				第15回 スポーツと身体不活動 【 到達目標 】 運動不足や身体不活動が及ぼす身体諸機能への影響を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。（4.0hr）		
第8回 スポーツと循環② 【 到達目標 】 運動中の血圧応答、トレーニングに利用できる心拍数の変化について理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第4章の予習をする。（4.0hr）						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 教科書と図表スライドを用いて講義内容の要点を示し、口頭および板書にて詳細を説明する。ほぼ毎時間、講義内容に関する課題がある。適宜、理解度確認の小テストを行い、授業内でフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式で行う。授業内容は授業回数が減った場合でも大幅には変更しない。教科書と図表スライドを音声入りパワーポイント動画で説明する。動画及び資料は、本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし配信する。各授業回に課題があり、その提出によって出席を確認する。適宜、理解度確認の小テストを行う。質問は課題とともに受付、動画内でフィードバックする。 【対面形式】【オンライン形式】ともに情報量が多いため、講義に加えて、教科書を繰り返し読むことが必須である。						
【教科書・参考書など】 「スポーツ生理学」富樫健二編（化学同人）						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】定期試験（試験は試験期間中に別途実施する）40％、小テスト20％、課題提出40％で評価する。 【オンライン授業の場合】小テスト45％、毎回の課題提出55％で評価する。 なお、両形式ともに良好な出席状況は、当然の前提である。						

科 目 名		スポーツ原論		担当者	都 筑 真	
英 文 名		Principle of Sports				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBR103		卒業認定方針との関連	⑦
【目的とねらい】 本講義では、古代から現代に至るまでのスポーツや体育の展開を概観しながら、これまでのスポーツや体育の在り様や諸問題について理解を深めることを目的とする。これまでのスポーツや体育の在り様を学ぶことを通じて、現在のスポーツや体育が抱える諸問題をより深く理解し、さらにそのことを通じて、これからのスポーツや体育の在り方を考察することをねらいとする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 (1)講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。 【授業時間外学習】 参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。(4.0hr)			第9回 体育の理念の変遷 【 到達目標 】 (1)体育の理念の変化と、体育において求められる人間像の変化について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第2回 古代のスポーツ 【 到達目標 】 (1)ギリシャやローマなどの古代のスポーツの在り様を理解し、現在のスポーツとの類似点や相違点について考察する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第10回 社会変化と今後の体育 【 到達目標 】 (1)社会の変化やスポーツ需要の変化を理解し、今後の体育の在り方について考察する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第3回 中世のスポーツ 【 到達目標 】 (1)ヨーロッパや日本などの中世のスポーツの在り様を理解し、現在のスポーツとの類似点や相違点について考察する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第11回 スポーツのグローバリゼーションとナショナリズム 【 到達目標 】 (1)スポーツのグローバリゼーションの背景や具体例を踏まえ、この現象がもたらす長所や問題点について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第4回 近代のスポーツ① 【 到達目標 】 (1)イギリスにおける近代スポーツの発展過程を理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第12回 スポーツと政治 【 到達目標 】 (1)スポーツ界が掲げる「政治のスポーツへの不介入」という理想と現実の乖離について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第5回 近代スポーツ② 【 到達目標 】 (1)近代スポーツが国際的に普及していく過程を理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第13回 スポーツとドーピング 【 到達目標 】 (1)スポーツ界におけるドーピング問題とアンチ・ドーピングの取り組みを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第6回 近代オリンピックの創始 【 到達目標 】 (1)近代オリンピックが何故創始されたのかを理解する。 (2)日本の近代オリンピックとの関わりを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第14回 スポーツとジェンダー 【 到達目標 】 (1)スポーツ界における男性中心主義とそれを解消する取り組みについて理解する。 (2)性の多様な在り方が引き起こす問題について考察する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第7回 近代オリンピック開催を脅かしてきた様々な問題 【 到達目標 】 (1)戦争、テロ、ボイコットなど近代オリンピックの開催を脅かしてきた問題について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第15回 「スポーツ・フォー・オール」運動 【 到達目標 】 (1)ヨーロッパにおける「スポーツ・フォー・オール」運動の背景や展開、そしてその影響を受けて日本で展開されてきた「生涯スポーツ」の推進について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。(4.0hr)			
第8回 体育とスポーツの違いと体育の目的 【 到達目標 】 (1)体育とスポーツの概念を整理し、両者の違いを理解する。 (2)体育は何を目的として行われているのかを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義ではほぼ毎回、講義内容に関する小レポートを課し、理解度の確認を行う。小レポートの結果は、次の授業時に解説によるフィードバックを行う。「スポーツ史」と併せて履修することが望ましい。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入り動画と補足資料である。資料は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間後の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の課題の提出によって確認する。						
【教科書・参考書など】 特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。『体育・スポーツ史概論』（木村吉次編著、市村出版）と『教養としての体育原理』（友添秀則／岡出美則編、大修館書店）を講義の参考書として利用すること。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。合格基準は60％である。 【オンライン授業の場合】 講義毎に課す小レポート(50%)及び期末課題の結果(50%)で評価する。合格基準は60％である。						

科 目 名		スポーツ心理学		担当者	佐々木万丈	
英 文 名		Sport Psychology				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBR104		卒業認定方針との関連	⑦
【目的とねらい】 スポーツ心理学の研究領域ですでに提出されている知見と最新の研究成果に関わる基礎的事項を学修することが目的である。取り上げるトピックは、いずれもスポーツ競技場面や体育授業、健康の保持増進を目的とする身体活動との関わりで検討されている内容であるが、ダンサーやダンスを指導する者にとってもその有用性は高い。ダンス及びダンス指導の実践に活用できる心理学的知識の習得とその応用力を高めることが本講義のねらいである。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 スポーツ心理学概説 【 到達目標 】 (1)スポーツ心理学の定義を理解し、説明することができる。 (2)スポーツ心理学における研究課題の枠組みを理解し、説明することができる。			第9回 スポーツ傷害と選手の心理 【 到達目標 】 (1)スポーツ選手の傷害発生を心理学的に理解し、説明することができる。 (2)ストレス理論を用いたスポーツ傷害の予防及び対処について説明することができる。			
【授業時間外学習】 復習課題(授業のまとめ)と予習課題(不安の役割を調べる)に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 復習(授業まとめ)と予習(バーンアウト、学習性無力感について調べる)に取り組む。(4.0hr)			
第2回 スポーツと不安 【 到達目標 】 (1)不安には2つの側面(状態不安と特性不安)が仮説的に定義されていることを理解し、説明できる。 (2)逆U字理論を理解し説明できる。 【授業時間外学習】 復習(授業のまとめ)と予習(ストレスの解説を読み自分の経験を整理)に取り組む。(4.0hr)			第10回 スポーツとバーンアウト 【 到達目標 】 (1)スポーツ選手のバーンアウト発症機序を説明できる。 (2)バーンアウトや学習性無力感に対する対処法を説明できる。 【授業時間外学習】 復習(授業まとめ)と予習(配布資料を読んで自分の引退後を考える)に取り組む。(4.0hr)			
第3回 スポーツとストレス 【 到達目標 】 (1)スポーツ選手の認知や行動の問題の理解と改善に、心理学的ストレス研究がどのように貢献できるのかを説明できる。 【授業時間外学習】 復習(授業まとめ)と予習(資料を読みやる気を高める方法を考える)に取り組む。(4.0hr)			第11回 スポーツとキャリアトランジション 【 到達目標 】 (1)スポーツ選手の競技引退に関わる問題や課題を理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】 復習(授業まとめ)と予習(ライフスキルの定義を調べ、内容を整理する)に取り組む。(4.0hr)			
第4回 スポーツと動機づけ(1) 【 到達目標 】 (1)動機づけとは何かを理解し、説明できる。 (2)自己決定理論を理解し、スポーツ行動がどのように起こるのか説明できる。 【授業時間外学習】 復習(授業まとめ)と予習(資料を読みやる気を高める方法を考える)に取り組む。(4.0hr)			第12回 スポーツとライフスキル 【 到達目標 】 (1)スポーツ活動の効果の一つである心理社会的スキルはどのような心理的過程を経て習得されるのかを説明することができる。 (2)心理社会的スキルがライフスキルに般化する過程を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 復習(授業まとめ)と予習(LGBTを告白したスポーツ選手を調べる)に取り組む。(4.0hr)			
第5回 スポーツと動機づけ(2) 【 到達目標 】 (1)期待価値理論、原因帰属理論、社会的学習理論、達成目標理論をそれぞれ理解し、説明することができる。 (2)スポーツ場面のやる気の高め方を具体的に説明できる。 【授業時間外学習】 復習(授業まとめ)と予習(運動技能の分類について整理する)に取り組む。(4.0hr)			第13回 スポーツとジェンダー 【 到達目標 】 (1)ジェンダー概念、LGBTQなどの基本的事項を理解し、説明することができる。 (2)スポーツ活動場面のジェンダー問題や課題を具体的に説明することができる。 (3)セクシャルハラスメント、ホモフォビアについて理解し、実態を説明できる。 【授業時間外学習】 復習(授業まとめ)と予習(神経性やせ症、神経性過食症、過食性障害について調べる)に取り組む(4.0hr)			
第6回 スポーツと運動学習 【 到達目標 】 (1)運動学習における運動技能と認知技能について理解し、説明することができる。 (2)効果的な運動学習の方法を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 復習(授業まとめ)と予習(ガイダンス仮説、文脈干渉効果などを調べる)に取り組む。(4.0hr)			第14回 スポーツと摂食障害 【 到達目標 】 (1)摂食障害の一般的臨床症状について理解し、説明することができる。 (2)国内外のスポーツ選手の摂食障害の実態とその原因を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 復習(授業まとめ)と予習(平均が頻繁に使用される理由を考える)に取り組む。(4.0hr)			
第7回 運動学習と認知 【 到達目標 】 (1)認知とスキーマについて理解し、説明することができる。 (2)高い運動スキルを支える認知的要因を説明できる。 【授業時間外学習】 復習(授業まとめ)と予習(自分の心理的競技能力のレベルを測定する)に取り組む。(4.0hr)			第16回 スポーツ心理学研究法 【 到達目標 】 (1)質問紙法、面接法、事例研究法などを理解し、説明することができる。 (2)度数分布、平均、標準偏差を用いて標本の特徴を説明することができる。 【授業時間外学習】 本時の復習課題に取り組むと共に、改めて全体をノートに基づき振り返る。(4.0hr)			
第8回 スポーツと心理的競技能力 【 到達目標 】 (1)スポーツ選手に必要な心理的要素について理解し、説明できる。 (2)DIPCAIIIにより自らの心理的競技能力を把握し、分析できる。 【授業時間外学習】 復習(授業まとめ)と予習(自らを振り返りケガの要因をまとめる)に取り組む。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】授業ではパワーポイントにより要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者はスライドのみをノートに書き写すだけでは、学修としては不十分である。集中してメモを取り、運動やスポーツの実践あるいはその指導に役立つオリジナルのスポーツ心理学ノートを作り上げるように努力する必要がある。また、毎時間、その時間の内容に関する復習課題と次時の内容に関する予習課題を提示する。授業以外の時間を有効に使い、復習と予習に取り組むことで知識の定着を図ることが重要である。特に復習課題は、次時の冒頭で要点を説明するので、授業後の復習は必ず取り組むことが求められる。						
【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅な変更は行わない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、学生支援課より指示された曜日の8:30に行う。配信先は、本学ポータルサイトのGoogle Drive上であり、掲載期間は1週間とする。出席は、各授業回の復習課題の提出と次回授業の予習課題の提出によって確認する。復習課題及び予習課題の提示および回答の確認は、Phollyを用いて行う。						
【教科書・参考書など】 教科書として「基礎から学ぶスポーツの心理学」(著者：佐々木万丈、出版社：勁草書房)を使用する。また、適宜、参考資料を配付する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】期末テストの結果(100％：試験は別途試験期間中に実施)に基づいて評価する。合格基準は60％である。 【オンライン授業の場合】各授業回の復習課題を毎回評価し(予習課題は確認のみ)、15回の授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに期末課題を実施し、15回復習課題の総合評価(50％)と期末課題(50％)を合わせて成績評価(100％)を算出する。合格基準は60％である。						

科 目 名		モダンダンスⅠ		担当者	坂 本 秀 子	
英 文 名		Modern Dance Ⅰ				
単 位 数	1	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別		専門基礎・必修		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR106		卒業認定方針との関連	⑥
【目的とねらい】 本授業では、身体の正しい使い方を理解し、基本的な技術を習得する。また様々な質を持つコンビネーションを体験し、実力を高めていく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 授業の取り組み方、その他注意事項も含めてモダンダンス基礎の講座について理解する。			第9回 習作：グループワーク 1 【 到達目標 】 グループに分かれ、動きを考案し、クラスの仲間に教え合う事によって、動きの本質を確認する。			
【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)			【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)			
第2回 基礎技術の確認 【 到達目標 】 床に正しく立つこと、歩くことの基礎技術を確認し習得する。			第10回 習作：グループワーク 2 【 到達目標 】 グループに分かれ、動きを考案し、クラスの仲間に教え合う事によって、動きの本質を確認する。			
【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)			【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)			
第3回 コンビネーション 1 【 到達目標 】 脚上げの基礎技術を確認し習得する。			第11回 習作：グループワーク 3 【 到達目標 】 グループに分かれ、動きを考案し、クラスの仲間に教え合う事によって、動きの本質を確認する。			
【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)			【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)			
第4回 コンビネーション 2 【 到達目標 】 ターン系の基礎技術を確認し習得する。			第12回 発表、再検討 【 到達目標 】 改善する箇所を相談し、修正する事によってより深く動きの本質を理解する。			
【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)			【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)			
第5回 コンビネーション 3 【 到達目標 】 ジャンプ系の基礎技術を確認し習得する。			第13回 グループワーク、踊り込み練習 【 到達目標 】 複数回練習する事によって、考案したフレーズをなめらかに踊れるようになる。			
【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)			【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)			
第6回 コンビネーション 4 【 到達目標 】 その他の動きの基礎技術を習得する。			第14回 発表、評価 【 到達目標 】 発表、評価を通して、動きの習熟度を確認する。			
【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)			【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)			
第7回 コンビネーション 1、2の発展、応用 【 到達目標 】 複合された動きをマスターする。			第16回 ビデオ鑑賞、前期の感想、反省等 【 到達目標 】 ビデオ鑑賞、前期の感想、反省等を通して動きの習熟度を確認する。			
【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)			【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)			
第8回 コンビネーション 3、4の発展、応用 【 到達目標 】 複合された動きをマスターする。						
【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)						
【学習上の留意点】 ＜対面授業の場合＞ ダンスする上で、最も重要な基礎を習得するため、毎時間毎時間集中して授業に取り組んで下さい。 ＜オンライン授業の場合＞ リアルタイム方式の授業を実施する。授業内容はおおよそ変更しない。授業は時間通りの曜日・時刻に実施する。出席の確認は各回の冒頭に画面を通じて行う。						
【教科書・参考書など】 特にありません。						
【成績評価方法】 ＜対面授業の場合＞ レポート20％、テスト60％、授業への取り組み方・参加度20％の割合で総合的に評価する。 ＜オンライン授業の場合＞ 毎時間のレポート40％（メール添付）、期末のレポート60％（メール添付）として評価する。						

科 目 名	クラシックバレエⅡ			担当者	渡辺 碧・ 曹 旼永	
英 文 名	Classical Ballet Ⅱ					
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR109		卒業認定方針との関連	⑥
【目的とねらい】 クラシックバレエⅠで学んだことを復習するとともに、より確実に自分のものとして体得することを目標とする。バレエ用語についても取り上げ、ただ単にバレエの動きを体得するだけではなく、用語の名前や意味を正しく理解し、その上で動きを体現出来ることで、より深くバレエを理解することを目指す。バレエの基本3原則であるアン・ドゥオール、アブロン、エレベーションについて理解し、動きの中で常に意識すること、正しく実践できることを最終目標とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 エクササイズ(クラシックバレエⅠの復習とその応用)① 【 到達目標 】 クラシックバレエⅠの評価を踏まえ、この授業を通しての目標、自分への今後の課題を認識するとともに、さらなる上達のための意識を高める。 【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			第9回 練習課題と反復練習① 【 到達目標 】 半期のまとめとして練習課題を習い、振付を覚える。 【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			
第2回 エクササイズ(クラシックバレエⅠの復習とその応用)② 【 到達目標 】 クラシックバレエⅠで行った内容（特に、正しい身体配置とその使い方、バレエの基本3原則）についてもう一度復習する。応用のエクササイズになっても、これらの意識を失うことなく踊ることが出来る。特に骨盤の正しい身体配置にフォーカスして、踊ることが出来る。 【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			第10回 練習課題と反復練習② 【 到達目標 】 練習課題を深く理解し、正しく踊ることが出来る。バレエの基本3原則を意識して踊る努力がでる。 【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			
第3回 エクササイズ(クラシックバレエⅠの復習とその応用)③ 【 到達目標 】 クラシックバレエⅠで行った内容（特に、正しい身体配置とその使い方、バレエの基本3原則）について、もう一度復習する。応用のエクササイズになっても、これらの意識を失うことなく、音楽に合せて、ポジションを正しく守りながら踊ることが出来る。特に背骨の身体配置にフォーカスして、踊ることが出来る。 【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			第11回 練習課題と反復練習③ 【 到達目標 】 練習課題を正しく踊ることが出来、自分への課題を見つけることが出来る。また、その課題の改善に向けた努力が出来る。バレエの基本3原則を意識して踊る努力が出来る。 【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			
第4回 エクササイズ(クラシックバレエⅠの復習とその応用)④ 【 到達目標 】 クラシックバレエⅠで行った内容（特に、正しい身体配置とその使い方、バレエの基本3原則）について、もう一度復習する。応用のエクササイズになっても、これらの意識を失うことなく、音楽に合せて、ポジションを正しく守りながら踊ることが出来る。特に骨盤と背骨の身体配置にフォーカスして、踊ることが出来る。 【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			第12回 練習課題と反復練習④ 【 到達目標 】 練習課題を正しく踊ることが出来、さらに踊りを良くするために必要な技術や表現を体得する。バレエの基本3原則を意識して正しく踊ることができる。 【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			
第5回 エクササイズとバレエ用語学習① 【 到達目標 】 バーやセンターレッスンで用いられるバレエ用語について、内容や意味を理解する。 【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			第13回 課題の発表 【 到達目標 】 課題を発表し、初回授業に設定した目標をどれだけ達成しているかを理解する。 【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			
第6回 エクササイズとバレエ用語学習② 【 到達目標 】 実際のエクササイズの中でバレエ用語の意味を理解し、その用語と動きを関連させて理解することが出来る。 【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			第14回 バレエ用語の確認 【 到達目標 】 これまで学んできたバレエ用語が正しく理解出来ているかを、バレエ用語と実際の動きを通して確認する。 【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			
第7回 エクササイズとバレエ用語学習③ 【 到達目標 】 実際のエクササイズの中でバレエ用語の意味を理解し、その用語の動きを体現出来る。バレエの流派によって、バレエ用語が異なることを理解する。 【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			第15回 理解度の確認と今後の目標の検討 【 到達目標 】 半期を通し、また、1年間を通して、それぞれの成長を確認するとともにクラシックバレエの重要性を理解する。自分の中においてのバレエの位置づけを認識する。教員のフィードバックを踏まえて、今後の自身の目標と課題を検討する。 【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			
第8回 エクササイズとバレエ用語学習④ 【 到達目標 】 実際のエクササイズの中でバレエ用語の意味を理解し、その用語の動きを体現出来る。また逆に、動きからもバレエ用語が理解出来、その意味を答えることが出来る。 【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)						
【学習上の留意点】 授業形態は対面授業を基本とする。授業を受講する際、基本レオタードとタイツのみを着用して、自身の身体のラインをしっかりと認識する。髪の毛などの身だしなみを整える。シューズなどの忘れ物をした場合は減点対象とする。ただ受け身で授業を受講するのではなく、一人一人が明確な目標設定を行い、受講するよう求める。第13回の「課題の発表」、第15回の「理解度の確認と今後の目標の検討」では、フィードバックを求める学生一人一人に対して口頭でフィードバックを行う。 新型コロナウィルスの感染状況や社会情勢によっては、オンライン授業の対応を取る場合もある。						
【教科書・参考書など】 「バレエ用語辞典」（川路明編著／東京堂出版）など、必要な資料は適宜配布します。						
【成績評価方法】 実技テスト60%、バレエ用語確認テスト20%、授業における課題達成度・理解度、関心・意欲・積極性・レポート20%を総合的に評価する。 オンライン形式で授業が行われた場合は、出欠確認の際に提出される課題も、評価の対象となる。						

科 目 名		ジャズダンスⅡ		担当者	石 川 浩 子	
英 文 名		Jazz Dance Ⅱ				
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR111		卒業認定方針との関連	⑥
【目的とねらい】 ジャズダンスに必要な柔軟性・基礎体力を強化し、体幹を習得させる。それを踏まえた上で、全身を使い様々な曲に合わせて踊れるダンサーを育成する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ジャズダンスコンビネーション④-1 【 到達目標 】 邦楽のロックミュージックを使用し、日本語に合わせ、感受性豊かに、ダイナミックに激しく踊れるようにする。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			第9回 ジャズダンスコンビネーション⑨-1 【 到達目標 】 洋楽（ミディアムテンポ）を使用し、独特な雰囲気を出せるような振付を渡し、学生ひとりひとりの個性が出せるようにする。 (ただし、与えられた振付を変え、癖を出すことはNGとする) 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第2回 ジャズダンスコンビネーション④-2 【 到達目標 】 邦楽のロックミュージックを使用し、日本語に合わせ、感受性豊かに、ダイナミックに激しく踊れるようにする。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			第10回 ジャズダンスコンビネーション⑨-2 【 到達目標 】 洋楽（ミディアムテンポ）を使用し、独特な雰囲気を出せるような振付を渡し、学生ひとりひとりの個性が出せるようにする。 (ただし、与えられた振付を変え、癖を出すことはNGとする) 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第3回 ジャズダンスコンビネーション④-3 【 到達目標 】 邦楽のロックミュージックを使用し、日本語に合わせ、感受性豊かに、ダイナミックに激しく踊れるようにする。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			第11回 ジャズダンスコンビネーション⑨-3 【 到達目標 】 洋楽（ミディアムテンポ）を使用し、独特な雰囲気を出せるような振付を渡し、学生ひとりひとりの個性が出せるようにする。 (ただし、与えられた振付を変え、癖を出すことはNGとする) 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第4回 ジャズダンスコンビネーション（小テスト）実技テストとして評価対象とする 【 到達目標 】 コンビネーション④に対し、与えられた課題を達成する。テストで課題を達成できなかった場合は、達成できるまで何回でも追試（再テスト）を行う。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			第12回 ジャズダンステクニック復習 【 到達目標 】 前期・後期で学んだジャズダンスのテクニックを復習する。 クロスフロアー形式で練習する。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第5回 ジャズダンスコンビネーション⑤-1 【 到達目標 】 洋楽（アップテンポ）を使用し、繊細で細かい動きや、シャープさ、かつこよさ、ノリのよさ等を、曲と一体となって踊る「グルーブ感」を習得する。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			第13回 ジャズダンステクニックテスト 【 到達目標 】 ジャズダンスのテクニックを、クロスフロアー形式でテストをする。 できなかった場合には、できるまで追試（再テスト）を行う。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第6回 ジャズダンスコンビネーション⑤-2 【 到達目標 】 洋楽（アップテンポ）を使用し、繊細で細かい動きや、シャープさ、かつこよさ、ノリのよさ等を、曲と一体となって踊る「グルーブ感」を習得する。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			第14回 ジャズダンスコンビネーション(最終テスト)実技テストとして評価対象とする 【 到達目標 】 コンビネーション⑥に対し、与えられた課題を達成する。テストで課題を達成できなかった場合は、次回追試を行う。それでも達成できなかった場合には、レポートの追加を行う。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第7回 ジャズダンスコンビネーション⑤-3 【 到達目標 】 洋楽（アップテンポ）を使用し、繊細で細かい動きや、シャープさ、かつこよさ、ノリのよさ等を、曲と一体となって踊る「グルーブ感」を習得する。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			第15回 後期ジャズダンスについての復習・レポート 【 到達目標 】 後期でのジャズダンスで習得したこと、自分自身の身体や動きの変化等を、全員で話し合い、意見交換する。最後に、それをレポートにまとめ提出する。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第8回 ジャズダンスコンビネーション（小テスト）実技テストとして評価対象とする 【 到達目標 】 コンビネーション⑤に対し、与えられた課題を達成する。テストで課題を達成できなかった場合は、達成できるまで何回でも追試（再テスト）を行う。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)						
【学習上の留意点】 対面方式とオンライン方式を同時時間帯に行う。授業内容は変更しない。 【対面授業の場合】 対面方式での授業参加の場合は、時間割通りの曜日・時刻に実施、出席の確認は各授業の冒頭に行う。 【オンライン授業の場合】 オンライン方式での授業参加の場合は、時間通りの曜日・時刻に実施、出席の確認は各授業の冒頭に画面を通じて行う。						
【教科書・参考書など】 特になし。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 実技試験、授業への積極性などを総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 画面での実技試験、授業への積極性を総合的に判断する。						

科 目 名		コンテンポラリーダンスⅡ		担当者	岩 淵 多 喜 子	
英 文 名		Contemporary Dance Ⅱ				
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・必修			
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR113		卒業認定方針との関連	⑥
【目的とねらい】 本授業では、コンテンポラリーダンスⅠで習得した基礎的なエクササイズに加え、より複雑で長めのフレーズを行う事により、動きの繋ぎの処理や流れ、ダイナミクスの変化等についての理解を深める。また、パートナーワークやコンタクト、動きの質等についての基礎知識、技術を習得し、多様なコンテンポラリーダンスの領域に対応するための知識、技術の習得を目的とする。また、作品鑑賞レポートを通してコンテンポラリーダンスの多様性への理解を深める。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業進行についてのオリエンテーション 【 到達目標 】 今後の授業の内容と進行について理解する。 【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)			第9回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 応用② 【 到達目標 】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。 【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)			
第2回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 導入 【 到達目標 】 基本エクササイズの流れを習得する。 【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)			第10回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 応用③ 【 到達目標 】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。 【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)			
第3回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 基礎① 【 到達目標 】 基本エクササイズの流れを習得する。 具体的なエクササイズを通し、フロアーテクニックと体のアライメントについて理解を深める。 【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)			第11回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 応用④ 【 到達目標 】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。 【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)			
第4回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 基礎② 【 到達目標 】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 具体的なエクササイズを通し、フロアーテクニックと体のアライメントについて理解を深める。 【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)			第12回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 応用⑤ 【 到達目標 】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。 【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)			
第5回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 基礎③ 【 到達目標 】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。 【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)			第13回 振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ ① 【 到達目標 】 より長いフレーズの中でテクニクへの理解を深める。 より長いフレーズを通して基礎テクニクの定着、向上を図る。 【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)			
第6回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 基礎④ 【 到達目標 】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。 【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)			第14回 振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ ② 【 到達目標 】 より長いフレーズの中でテクニクへの理解を深める。 より長いフレーズを通して基礎テクニクの定着、向上を図る。 【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)			
第7回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 基礎⑤ 【 到達目標 】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。 【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)			第15回 振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ ③ 【 到達目標 】 より長いフレーズの中でテクニクへの理解を深める。 前期で得た知識、技術を用い、フレーズを個々で踊る。それをもとに前期を振り返り総括する。 【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)			
第8回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 応用① 【 到達目標 】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。 【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 実践を通しての知識、技術の習得となるため、万全の状態に授業に臨めるように常に体のケア、怪我への留意を行うこと。また、授業は前回までの内容を土台にして進行していくため、個々で知識、技術の整理、復習を行うこと。 【オンライン授業の場合】 全回対面での実施を予定しているが、状況により難しい場合は、オンライン形式で、オンデマンドとライブ形式を組み合わせる授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に取り組む。資料として技能や知識に関する動画及び参考資料を配信する。オンデマンド形式の授業の出席確認はポータルやPhollyへの課題提出及び自習した動画の提出等によって行う。						
【教科書・参考書など】 特になし。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】評価基準は、実技課題70％、レポート課題30％とし、総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】各授業回の提出された授業報告書、動画を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに、全授業終了時にまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を70％、レポート課題を30％とし、総合的に評価する。						

科 目 名		スポーツ栄養学		担当者		古 泉 佳 代	
英 文 名		Sports Nutrition					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2			専門基礎・必修			
授業形態	講義	科目ナンバー	DBR201			卒業認定方針との関連	⑤⑦
【目的とねらい】 日常の食生活が体格や健康状態に影響を及ぼすこと、すなわちウェイトコントロール、骨密度の増加、貧血を予防するためには日常生活において食事をしっかりと摂ることが重要であることに気付く。そして、炭水化物、脂質、たんぱく質等栄養素に関連する知識を習得し、理解する。さらに栄養を運動との関連からとらえるために、運動を効率よく行う等、身体活動量の計算方法についても理解して日常生活での実践を目指す。さらに舞踊指導者としての能力を養う。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 (1)「ダンサーの食事」について考えることができる。 (2)「食」とダンサーの関係を考えることができる。 【授業時間外学習】 教科書を見直しながら、一日の食事を見直す。(4.0hr)				第9回 からだづくりに関係する栄養素①ビタミンB群とビタミンC 【 到達目標 】 (1)エネルギー代謝におけるビタミンB群の関わりを説明できる。 (2)ビタミンB群、ビタミンCの摂取について理解できる。 【授業時間外学習】 ビタミンB群、ビタミンCが多く含まれる食事を考え実践する。(4.0hr)			
第2回 栄養バランスの評価① 【 到達目標 】 (1)何を、どのくらい食べるのか、客観的に評価する3つの方法を理解する。 (2)3つの評価方法の関係性を理解し、生活に生かすことができる。 (3)ダンサーの食事のアウトプットについてディスカッションできる。 【授業時間外学習】 一日の食事の栄養バランスを見直す。(4.0hr)				第10回 からだづくりに関係する栄養素②ミネラル 【 到達目標 】 (1)ミネラルの種類、体内での働きを理解する。 (2)スポーツ選手の貧血について説明できる。 【授業時間外学習】 教科書を見ながらミネラルの量を意識した献立を考える。(4.0hr)			
第3回 エネルギー摂取と体重変動 【 到達目標 】 (1)身体活動とエネルギーの関係について理解できる。 (2)体重変動、を説明できる。 (3)推定エネルギー必要量を説明できる。 【授業時間外学習】 自分自身のエネルギー摂取量とエネルギー消費量に気をつけて生活する。(4.0hr)				第11回 エネルギー消費量①女性アスリートの三主徴 【 到達目標 】 (1)女性アスリートの三主徴を説明できる。 (2)エネルギー摂取量と消費量の関係を体重、体脂肪率と関連させて理解できる。 (3)ダンサーの視点でエネルギーの摂取についてディスカッションできる。 【授業時間外学習】 教科書を見ながら自分の消費量に見合った献立を考える。(4.0hr)			
第4回 ウェイトコントロールと炭水化物①食べる量と質の目安 【 到達目標 】 (1)食事を質で評価することができる。 (2)炭水化物について説明することができる。 (3)炭水化物エネルギー比について理解できる。 【授業時間外学習】 教科書を見ながら様々な主食の量を計測して、適切な量を把握する。(4.0hr)				第12回 エネルギー消費量②エネルギー消費量の推定方法 【 到達目標 】 (1)エネルギー消費量の推定方法を説明できる。 (2)エネルギー消費量の強度と時間の関係を理解する。 (3)期分けや年代により、エネルギー消費量は変化することを理解する。 【授業時間外学習】 自分自身のエネルギー消費量を推定する。(4.0hr)			
第5回 ウェイトコントロールと炭水化物②炭水化物の代謝と食品 【 到達目標 】 (1)運動時の炭水化物代謝について説明できる。 (2)根拠を持って、炭水化物を摂取する、しないという選択ができる。 【授業時間外学習】 教科書を見ながら様々な主食の量を計測して、適切な量を把握する。(4.0hr)				第13回 水分補給・サプリメント 【 到達目標 】 (1)水の出納を説明できる。 (2)サプリメント、エルゴジェニックエイド、いわゆる健康食品を説明できる。 (3)健康食品について、ダンサーの視点でディスカッションできる。 【授業時間外学習】 サプリメント、エルゴジェニックエイドについてインターネットを利用し調べる。(4.0hr)			
第6回 ウェイトコントロールと炭水化物③炭水化物の食べ方 【 到達目標 】 (1)炭水化物を効率良く摂取するために、食べるタイミング・種類を理解できる。 (2)炭水化物と同時に摂取する栄養素について考えることができる。 【授業時間外学習】 炭水化物を多く含む食品、調理方法を理解して、料理や食品を選ぶ。(4.0hr)				第14回 時間栄養学①脂質と運動 【 到達目標 】 (1)脂質代謝を説明できる。 (2)食事での脂質の摂取を考えることができる。 【授業時間外学習】 脂肪酸の種類を理解して、料理や食品を選ぶ。(4.0hr)			
第7回 ウェイトコントロールとたんぱく質①たんぱく質の代謝と食品 【 到達目標 】 (1)たんぱく質代謝を理解できる。 (2)運動時のたんぱく質代謝について、糖質と関連させて説明できる。 【授業時間外学習】 教科書や資料を見ながら様々な主食の量を計測して、適切な量を把握する。(4.0hr)				第16回 時間栄養学②運動や食事のタイミングとエネルギー代謝 【 到達目標 】 (1)一晩絶食でのエネルギー代謝を説明できる。 (2)自分に適した食事と運動のタイミングを考えることができる。 【授業時間外学習】 運動と食事のタイミングを考え実践する。(4.0hr)			
第8回 ウェイトコントロールとたんぱく質②たんぱく質の食べ方 【 到達目標 】 (1)たんぱく質の主な供給源となっている食品を説明できる。 (2)運動後に適した食事の献立を考えることができる。 【授業時間外学習】 運動後の食事を考え実践する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 パワーポイントを用いて講義の要点を示し、口頭で詳細を説明する。教科書で単語や数値を確認しながら理解を深めていく。本講義を理解するためには、自分自身の食生活や運動経験を振り返りながら、受講することが大切である。また、授業内で学生同士のディスカッションや測定、計算等を取り入れるため、自分だけでなく、他者の食生活にも興味を持ちながら受講することも大切である。講義内容に関する理解度確認テストを実施し、理解度の確認を行う。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。パワーポイントを利用した動画は、本来の授業が予定されている日時の9時に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップする。受講生は、教科書で単語や数値を確認しながら動画を視聴するとともに、同時に配信される作業資料を用いて、自分自身の食生活を振り返りながら受講することが大切である。授業動画の視聴後はPhollyのアンケート機能を用いて、授業内容の振り返りを行う。出席はPhollyの課題の提出で確認し、回答内容から、理解度の確認を行う。							
【教科書・参考書など】 「ビジュアルワイド食品成分表 文部科学省科学技術・学術審議会 資源調査分科会 報告 五訂増補日本食品標準成分表」東京書籍 計算が苦手な受講者は電卓を用意しておくこと。 参考図書に関しては授業内で適宜、紹介する。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】試験を試験期間中に別途実施する。期末テストでの評価は60%、レポート（1題）の評価を20%、ディスカッションの評価を20%として、併せて100%で評価する。合格基準は60%である。 【オンライン授業の場合】試験が可能な場合は、試験期間中に実施する。期末テストでの評価は60%、レポート（1題）の評価を20%、ディスカッションの評価を20%の100%で評価する。試験が実施できない場合は、各授業回の課題（60%）とレポート（2題）（40%）で併せて100%で評価する。合格基準は60%である。							

科 目 名		女性のライフステージと運動			担当者	沢井 史穂・井筒 紫乃 須永美歌子	
英 文 名		Life Stage and Physical Activity of Women					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3	／選択の区別		専門基礎・必修			
授業形態	講義	科目ナンバー	DBR202			卒業認定方針との関連	④⑦
【目的とねらい】 ライフステージによって変わる女性の身体の構造と機能の特徴を知り、幼児期から老年期に至るまでの各ステージに応じた運動への取り組み方について考える。 また、女性の性機能と運動の関わり、女性特有の健康問題と運動との関わり、体力・運動能力の男女差、女性アスリートの健康問題等について理解を深める。 そして、一生を通じて女性が運動・スポーツと関わることの意義や価値を考える。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 女性と運動 （担当：沢井） 【 到達目標 】 (1)女性としての自分と運動・スポーツとの関わり方、年齢と運動との関係、女性スポーツ選手のイメージなど、いくつかのキーワードに沿って女性と運動について考える。 【授業時間外学習】 メディアや周囲の人が女性と運動との関わりをどうとらえているかを調べる。(4.0hr)				第9回 女性の性機能と運動の関わり（女性ホルモンの働きと性周期）（担当：須永） 【 到達目標 】 (1)女性ホルモンの働きと性周期に伴う各種ホルモン、子宮、卵巣の変化を理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を整理し、復習するとともに、次の授業の準備をする。(4.0hr)			
第2回 女性のスポーツ参加の変遷 （担当：沢井） 【 到達目標 】 (1)社会環境の変化にともなう女性のスポーツ参加の変遷を理解する。 【授業時間外学習】 女性の参加する各種競技会やスポーツイベントに関心を持ち、参加したり観戦したりする。(4.0hr)				第10回 女性の性機能と運動の関わり（月経と運動）（担当：須永） 【 到達目標 】 (1)月経周期、月経前症候群（PMS）、月経随伴症状について理解し、運動との関わり方について考える。			
第3回 女性のスポーツ参加の現状 （担当：沢井） 【 到達目標 】 (1)成長期及び成人期女子の身体活動量、スポーツ参加率の現状を知り、改善策を考える。 【授業時間外学習】 スポーツ活動に参加したり、定期的な運動習慣を身につける。(4.0hr)				第11回 女性の性機能と運動の関わり（妊娠・出産と運動）（担当：須永） 【 到達目標 】 (1)妊娠・出産に伴う身体の変化について理解する。 (2)妊娠期および産褥期における運動への取り組み方について理解する。			
第4回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（乳幼児期）（担当：井筒） 【 到達目標 】 (1)乳幼児期の身体特性と運動発達との関わりについて理解する。 (2)現代の生活環境において幼児の運動経験が健康に及ぼす影響について考える。 【授業時間外学習】 幼児の運動に関する情報や資料を集めて読む。(4.0hr)				第12回 女性の性機能と運動の関わり（月経周期と運動パフォーマンス）（担当：須永） 【 到達目標 】 (1)月経周期と運動パフォーマンスとの関係について理解する。			
第5回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（発育発達期）（担当：井筒） 【 到達目標 】 (1)発育発達期における女子の身体特性と運動発達の特徴について理解する。 【授業時間外学習】 発育発達期の運動に関する情報や資料を集めて読む。(4.0hr)				第13回 女性アスリートの健康問題（担当：須永） 【 到達目標 】 (1)現代の女性アスリートが抱える様々な健康問題（月経異常、摂食障害、骨粗鬆症等）について理解を深める。			
第6回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（思春期）（担当：井筒） 【 到達目標 】 (1)現代の若い女性が抱える様々な健康問題と運動との関わりについて理解する。 (2)思春期の女性が抱える心の問題と運動との関わりについて理解する。 【授業時間外学習】 若い女性の身体特性や運動に関する情報や資料を集めて読む。(4.0hr)				第14回 女性の性機能と運動の関わり（更年期障害と運動）（担当：沢井） 【 到達目標 】 (1)閉経がもたらす影響と更年期障害について理解する。 (2)更年期女性にとっての運動の効果について理解する。			
第7回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（壮年期）（担当：井筒） 【 到達目標 】 (1)壮年期女性の身体特性を理解し、適切な運動習慣の取り入れ方について考える。 (2)肥満、生活習慣病、うつ予防としての運動の効果について理解する。 【授業時間外学習】 壮年期の健康と運動に関連する資料を探して読む。(4.0hr)				第15回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（老年期）（担当：沢井） 【 到達目標 】 (1)加齢にともなう身体機能の低下に応じた運動について理解する。 (2)高齢者の運動実施における留意点について理解する。 【授業時間外学習】 高齢者の健康と運動に関連する資料を探して読む。(4.0hr)			
第8回 体格・身体組成・体力・運動能力における性差（担当：井筒） 【 到達目標 】 (1)体格や身体能力の性差について、それが生じる要因とともに理解する。 【授業時間外学習】 運動場面で見られる性差について整理し、復習する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 本授業は3名の教員が5回ずつ講義を担当するオムニバス形式であり、オンデマンド方式で実施する。配信される教材は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と資料（保存・印刷可）である。予め資料を印刷して準備をしてから動画を視聴してほしい。配信は、毎週同一曜日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、一週間（7日目の24：00まで）掲載する。出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。オンデマンド方式であるが、受け身ではなく積極的に学習する姿勢を持つこと。							
【教科書・参考書など】 特に指定はない。授業内で適宜資料を配布する。							
【成績評価方法】 各授業回の復習課題と全授業回終了時点での期末試験の得点をあわせて、総合的に評価する。各授業回の総合評価を70%、期末試験30%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科 目 名		健康科学論			担当者	沢 井 史 穂	
英 文 名		Introduction to Health Science					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1	／選択の区別		専門基礎・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE101			卒業認定方針との関連	⑦
【目的とねらい】 現代人の抱える健康問題を、主に生活環境の変化との関わりから理解する。特に、日本における疾病構造の変化と主な死因の推移、メタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームのリスクファクターとその予防について、運動を中心とするライフスタイルとの関連で理解すること、また、年齢、性功能、休養、ストレスと健康との関わりについて理解することを目的とする。これらの理解を通して、現代の健康の問題に対する科学的見方を身につけることがねらいである。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 健康とは何か。健康観の変遷。現代における健康観。 【 到達目標 】 (1)「健康」の定義を理解する。 (2)健康観の歴史的推移を知り、現代における望ましい健康観を考える。 【授業時間外学習】 各種メディアの発信する「健康」関連情報に関心を持ち、視聴したり読んだりする。(4.0hr)				第9回 子どもの生活環境の変化と健康 【 到達目標 】 (1)現代の生活環境が子どもの健康に及ぼす影響について理解する。 (2)成長に伴う身体の構造と機能の変化を知り、成長期における健康問題について理解する。 【授業時間外学習】 子どもの健康に関する文献や資料を探して読む。(4.0hr)			
第2回 日本人の健康問題 人口構成の推移、疾病構造の変化 【 到達目標 】 (1)死因順位の大きな変化とその要因について理解する。 (2)現代日本人の抱える健康問題を、人口構成の推移、疾病構造の変化とともに理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った健康問題の資料を整理し、復習しておくこと。(4.0hr)				第10回 女性の性功能の変化と健康 【 到達目標 】 (1)女性の一生を通じての性功能の変化と女性特有の健康問題について理解する。 【授業時間外学習】 女性の健康に関する文献や資料を探して読む。(4.0hr)			
第3回 生活習慣病とは 【 到達目標 】 (1)健康な生活を送る上での良い生活習慣について理解する。 (2)生活習慣病の定義、危険因子、予防策について理解する。 【授業時間外学習】 良い生活習慣について復習し、自分の生活習慣を見直して行動変容につなげる。(4.0hr)				第11回 妊娠と健康 【 到達目標 】 (1)妊娠期の身体の変化と生活の注意点について理解する。 (2)避妊・不妊・出生前診断など、生命倫理に関する問題について考える。 【授業時間外学習】 妊娠のまつわる文献や資料を探して読む。(4.0hr)			
第4回 循環系疾患とライフスタイル 【 到達目標 】 (1)心臓病と脳血管病、その基礎疾患としての動脈硬化、高血圧、糖尿病とライフスタイルとの関連を理解する。 【授業時間外学習】 循環系疾患に関連するライフスタイルについて復習し、予防行動につなげる。(4.0hr)				第12回 高齢者の運動と健康 【 到達目標 】 (1)加齢に伴う身体の構造と機能の変化を知り、中高齢者、高齢者の健康に運動が果たす役割や意義について理解する。 【授業時間外学習】 高齢者の健康に関する文献や資料を探して読む。(4.0hr)			
第5回 代謝異常・肥満とライフスタイル 【 到達目標 】 (1)脂質代謝異常、肥満症をもたらすライフスタイルを理解する。 (2)肥満の判定基準と日本の現状を知り、予防・改善策を考える。 【授業時間外学習】 肥満の予防につながるライフスタイルについて復習し、自らの日常生活に還元する。(4.0hr)				第13回 休養と健康 【 到達目標 】 (1)睡眠や休息と健康との関わりについて理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習し、毎日の生活の中で適切な休養を心がける。(4.0hr)			
第6回 メタボリックシンドロームの判定と予防 【 到達目標 】 (1)メタボリックシンドロームの定義と判定基準を理解する。 (2)メタボリックシンドロームの現状、危険因子を理解し、予防・改善策を考える。 【授業時間外学習】 授業の内容を復習し、メタボリックシンドロームの予防行動につなげる。(4.0hr)				第14回 メンタルヘルス 【 到達目標 】 (1)現代社会におけるストレスと健康との関わり、心の健康に運動が果たす役割について理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習し、自分のストレスマネジメントに積極的に取り組む。(4.0hr)			
第7回 骨の健康 骨粗鬆症の予防 【 到達目標 】 (1)人の一生を通じた骨量、骨代謝の変化を知り、丈夫な骨を形成し、骨粗鬆症を予防するための生活習慣を考える。 【授業時間外学習】 授業の内容を復習し、丈夫な骨を作るための生活習慣を心がける。(4.0hr)				第15回 健康づくり施策 概念と歴史 日本における施策 【 到達目標 】 (1)健康づくり施策の概念と歴史を理解し、日本における健康施策とその課題について考える。 【授業時間外学習】 授業で扱った健康問題の資料を整理し、復習する。(4.0hr)			
第8回 ロコモティブシンドロームの概念と予防 【 到達目標 】 (1)ロコモティブシンドロームの概念、定義、危険因子を理解し、予防策を考える。 【授業時間外学習】授業の内容を復習し、将来のロコモティブシンドロームの予防につながる生活行動を身につける。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 授業では、パワーポイントと配布資料を使って講義を行う。毎回の講義で重要なポイントを確認しながら資料に書き込んでいくので、受け身ではなく積極的に学習する姿勢を持つこと。また、授業内で取り上げるテーマに応じて、適宜、視聴覚教材などを使用し、その内容に関する理解度と考察力を確認するためのレポートを作成する。その結果は、授業の中でフィードバックする。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される教材は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と資料（保存・印刷可）である。予め資料を印刷して書き込める準備をしてから動画を視聴してほしい。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、一週間（7日目の24：00まで）掲載する。出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。							
【教科書・参考書など】 とくに指定はない。必要な資料をその都度配布（配信）する。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 授業内での課題達成度30%、期末試験（試験は試験期間中に別途実施する）70%で評価する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題と全授業回終了時点での期末試験の得点をあわせて、総合的に評価する。各授業回の総合評価を70%、期末試験30%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科 目 名		発育発達論		担当者	井 筒 紫 乃	
英 文 名		Growth and Development				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE102		卒業認定方針との関連	⑦
【目的とねらい】 ヒトの一生における発育発達と老化の特性についての知識を身につけるとともに、それぞれの年齢においての発育発達特性を考慮した運動をはじめとする身体活動と健康関連指標との関係と運動指導の重要性を理解する。更に、それぞれのステージの身体の発育と運動発達との関係を理解し、そのステージに必要となる運動プログラムの作成方法について、考慮しなければならないことについて理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 発育発達とは、心理的特徴 【 到達目標 】 (1)発育発達 の概念を理解する。 (2)身体計測の測定法を理解する。 【授業時間外学習】 受講前に、発育と発達の違いについて調べてくること。(4.0hr)			第9回 中学生期の発育発達 【 到達目標 】 (1)身体活動量や座位行動と健康関連指標との関係について理解する。 (2)日本と世界の身体活動量や座位行動の推奨値を理解する。 【授業時間外学習】 受講前に幼児期運動指針を調べてくること。(4.0hr)			
第2回 地球の誕生・人類の誕生と進化 【 到達目標 】 (1)地球の誕生から、人類への進化過程について理解する。 (2)人類はどのように二足歩行を獲得したのかを理解する。 【授業時間外学習】 ノートに、生物の誕生から人類への進化を時系列にまとめる。(4.0hr)			第10回 高校生期の発育発達 【 到達目標 】 (1)高校生期の身体の発育と心の発達を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ庁による全身持久力の測定法を調べてくること。(4.0hr)			
第3回 赤ちゃんの発育発達 【 到達目標 】 (1)出生後、赤ちゃんはどのように発育し、発達していくかを理解する。 (2)生物学的成熟度について理解する。 【授業時間外学習】 受講前に、生まれた時の自身の身長、体重を調べておくこと。(4.0hr)			第11回 日本と世界の子どもの身体的特徴と生活習慣の現状 【 到達目標 】 (1)日本と世界の子どもの身体的特徴と運動などの生活習慣の現状を理解する。 (2)47都道府県の子どもの身体的特徴と運動などの生活習慣の現状を理解する。 【授業時間外学習】 受講前に、世界の子どもの肥満者と痩身者の出現率を調べてくること。(4.0hr)			
第4回 発育発達期の身体的特徴（体重・身体組成） 【 到達目標 】 (1)子どもの肥満の弊害について理解する。 (2)やせの問題について理解する。 【授業時間外学習】 受講前に、子どもの肥満と痩身の出現率を調べ、各々の問題点をまとめてくること。(4.0hr)			第12回 発育発達期の運動プログラム 【 到達目標 】 (1)発育発達期の運動プログラムの留意点を理解する。 (2)発育発達期の運動・スポーツの体力への効果を理解する。 【授業時間外学習】 子どもの運動プログラムを考える際、留意すべき点について意見をまとめてくること。(4.0hr)			
第5回 幼児期前期（1～3歳）の発育発達 【 到達目標 】 (1)幼児期前期の身体の発育と運動発達について理解する。 (2)幼児期前期の形態・発達の特徴について理解する。 【授業時間外学習】 受講前に、身体組成の計測方法を調べてくること。(4.0hr)			第13回 思春期の女性のからだ 【 到達目標 】 (1)思春期の女性の身体的特徴を理解する。 (2)思春期の身体の変化における心の発達を理解する。 【授業時間外学習】 思春期の女性の身体の変化の留意点ついて意見をまとめてくること。(4.0hr)			
第6回 幼児期後期（4～5歳）の発育発達 【 到達目標 】 (1)幼児期後期の身体の発育と運動発達を理解する。 (2)幼児期後期の形態・発達の特徴について理解する。 【授業時間外学習】 受講前に、スカヤモンの発育曲線について調べてくること。(4.0hr)			第14回 女性とスポーツ 【 到達目標 】 (1)女性選手の三主徴について理解する。 (2)女性の痩せについて理解する。 【授業時間外学習】 受講前に、女性アスリートを指導する際に、留意すべき点について意見をまとめてくること。(4.0hr)			
第7回 小学生期の発育発達 【 到達目標 】 (1)小学生期の身体の発育と運動発達について理解する。 (2)ゴールデンエイジの身体の発育の発達について理解する。 【授業時間外学習】 受講前に、文部科学省による基本的動作スキルの測定法を調べてくること。(4.0hr)			第15回 ヒトの一生と発育発達 【 到達目標 】 (1)ヒトの一生の発育と成長、心と運動発達を理解する。 【授業時間外学習】 受講前に、14回目まで作成したノートをまとめておくこと。(4.0hr)			
第8回 ジュニア期の運動発達 【 到達目標 】 (1)ジュニア期の身体の発育と運動発達の特徴について理解する。 (2)ゴールデンエイジの運動発達の特徴について理解する。 【授業時間外学習】 受講前に、プレゴールデンエイジ、ゴールデンエイジについて調べてくること。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 対面形式授業を実施する。各授業回において、パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて資料を配布するため、資料を使用しながら、ノートを作成していく。ほぼ毎時間、講義内容に関する理解度確認テストを行う。結果は、次の授業内で解説によるフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。補足資料を用い、ノートを作成していく。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、翌日の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の、講義内容に関する理解度確認テストを実施する。						
【教科書・参考書など】 特に指定はしない。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】各授業回の理解度確認テストを60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。 【オンライン授業の場合】各授業の復習課題と予習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート課題を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。						

科 目 名	表現運動学演習（エアロビックダンス）			担当者	岡 島 浩 美	
英 文 名	Seminar in Expressive Movements（Aerobic Dance）					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DBE103		卒業認定方針との関連	⑥⑦

【目的とねらい】

エアロビックダンスエクササイズはリズムカルな有酸素性運動であるという特性を理解し、エアロビクスの基礎理論、基本構成、基本ステップ等を習得する。グループエクササイズのプログラム作成・演習を通じて、プログラム作成能力・指導力を身につける。

【授業内容・到達目標など】	
第1回 エアロビックダンスエクササイズの歴史と発展 【 到達目標 】 エアロビックダンスエクササイズの歴史を習い、それを十分に理解する。 【授業時間外学習】 エアロビックダンスエクササイズの歴史と現状のプログラム内容の復習をする。（4.0hr） 第2回 エアロビクス基礎理論 【 到達目標 】 フィットネス全般についてのコンセプトと注意点、及びエアロビックダンスエクササイズの基礎的要素を学び、理解する。 【授業時間外学習】 エアロビックダンスエクササイズ以外の有酸素性運動の種類を事前に調べる。（4.0hr） 第3回 エアロビックダンスの特徴 【 到達目標 】 エアロビックダンスの8つの特徴を理解する。 【授業時間外学習】 エアロビックダンスの8つの特徴をまとめて復習する。（4.0hr） 第4回 エアロビックダンスの構成 【 到達目標 】 エアロビックダンスの4つのパートの目的と構成を理解する。 【授業時間外学習】 エアロビックダンスの4つのパートをまとめて復習する。（4.0hr） 第5回 ウォーミングアップ 【 到達目標 】 ウォーミングアップの目的と構成を理解する。 【授業時間外学習】 目的に沿ったウォーミングアップを作成する。（4.0hr） 第6回 ローインパクトステップ 【 到達目標 】 基本ステップ(ローインパクトステップ)を習得し、正確に動けるようにする。 【授業時間外学習】 基本のローインパクトステップの練習をする。（4.0hr） 第7回 ハイインパクトステップ 【 到達目標 】 基本ステップ(ハイインパクトステップ)を習得し、正確に動けるようにする。 【授業時間外学習】 基本のハイインパクトステップの練習をする。（4.0hr） 第8回 メインエクササイズのプログラム構成 【 到達目標 】 メインエクササイズのプログラム構成と目的を理解する。 【授業時間外学習】 安全で効果的なメインエクササイズのプログラム構成を復習する。（4.0hr）	第9回 メインエクササイズのプログラム作成① 【 到達目標 】 メインエクササイズのアップのプログラムを作成する。 【授業時間外学習】 メインエクササイズ全体の構成を理解しアップのプログラムを作成する。（4.0hr） 第10回 メインエクササイズのプログラム作成② 【 到達目標 】 メインエクササイズのキープのプログラムを作成する。 【授業時間外学習】 運動強度を考慮して、メインエクササイズを作成する。（4.0hr） 第11回 メインエクササイズのプログラム作成③ 【 到達目標 】 メインエクササイズのダウンのプログラム作成と、全体のまとめを行う。 【授業時間外学習】 安全で効果的なメインエクササイズの構成であるかチェックし、実際に動いてみる。（4.0hr） 第12回 指導法(対面・背面指導)① 【 到達目標 】 グループエクササイズにおける指導法(対面・背面指導)について学び実践する。 【授業時間外学習】 様々な指導法を用いて声を出しながら指導する練習をする。（4.0hr） 第13回 指導法(対面・背面指導)② 【 到達目標 】 グループエクササイズにおいての効果的な指導技術を学ぶ。 【授業時間外学習】 動きながら声を出しての指導を練習する。（4.0hr） 第14回 指導法(対面・背面指導)③ 【 到達目標 】 対面・背面両方の指導技術を習得する。 【授業時間外学習】 明確な動きで解り易く声を出して指導ができるように練習する。（4.0hr） 第15回 筋コンディショニング・ストレッチの基本構成 【 到達目標 】 筋コンディショニング、ストレッチの基本構成について理解する。 【授業時間外学習】 基本の筋コンディショニングとストレッチを復習して練習する。（4.0hr）

【学習上の留意点】

【対面授業の場合】

原則として対面形式で授業を実施する。感染予防対策を徹底し、授業中はマスク及びフェイスシールドを必ず着用すること。

【オンライン授業の場合】

コロナの感染拡大等で対面形式の授業が出来ない期間は、オンライン形式で実施する。

オンライン形式では、資料として音声入りパワーポイント又は学習内容となる技能や運動に関する動画を配信する。

パワーポイントは時間割通りの曜日の9時に本学ポータルサイトのGoogleDrive上にアップするので、音声入りパワーポイントが視聴できる環境を整えておくこと。また、実技を安全に実施できるような場所を確保する必要がある。

毎回課題を出すので、レポートを提出すること。

【教科書・参考書など】
特に指定しない。

【成績評価方法】

【対面授業の場合】

実技テスト60％と課題のレポート提出40％の合わせて100％で評価する。

【オンライン授業の場合】

毎回の課題レポート提出を30％、期末の実技テスト動画提出とまとめのレポート提出で合わせて70％、合計100％で評価する。

※対面とオンライン形式の両方になった場合は、実技テスト(オンラインの場合は動画提出)を重視し、課題レポート提出と合わせて総合で評価する。

科 目 名		生涯ダンス論			担当者	八 木 あ り さ	
英 文 名		Lifelong Dance					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2	／選択の区別		専門基礎・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE202			卒業認定方針との関連	⑥⑦
【目的とねらい】 「人は誰でもダンスのもつ豊かな喜びを享受することができる」という考え方を理解できるように、講義を展開する。年齢や性別、文化、環境など、異なる条件ごとに、あるいは条件の違いを超えて、ダンスがもたらす喜び、ダンスが果たす役割について理解する。さらに、指導者やファシリテーターとして「いつでも、どこでも、だれとでも」ダンス体験を共有することができるための基本的な知識を習得する。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 「生涯ダンス」の理念① 【 到達目標 】 スポーツと芸術とダンスの特性について「あそび」の視点から説明できるようにするための基礎的な概念を理解する。 【授業時間外学習】 シラバスのなかで不明な語句をリストアップし、辞典などを参照して語の意味を理解しておく。(4.0hr)				第9回 老年期とダンス①（オンライン授業） 【 到達目標 】 高齢者の生活課題と、そこにダンスが果たす効果について理解する。 【授業時間外学習】 ADLと認知症について調べる。(4.0hr)			
第2回 「生涯ダンス」の理念② 【 到達目標 】 「ライフステージ」の概念や「わたらしさ」を特徴づける多様な要素について知り、本講義を「生涯ダンス論」とする意味について理解する。 【授業時間外学習】 ロジェ・カイヨワ『遊びと人間』による4つの遊びの特性について、各種スポーツと関連づけて理解しておく。(4.0hr)				第10回 老年期とダンス② 【 到達目標 】 祖父母以上の世代がどのようなダンス観を持っているかを理解し、プログラムづくりに役立てられる。 【授業時間外学習】 父母世代にインタビューし、1950～60年代の社会状況と当時の文化の特徴をまとめる。第8回の成果とともにレポートとして提出する。(4.0hr)			
第3回 子どもとダンス①（オンライン授業） 【 到達目標 】 乳幼児期の運動発達と身体表現について理解する。 【授業時間外学習】 「子育て支援」の概念と、日本における問題点について調べる。(4.0hr)				第11回 障害とダンス①（オンライン授業） 【 到達目標 】 「障害」の概念について理解し、様々な人々の存在とその人たちのダンスについて具体的に想像することができる。 【授業時間外学習】 ICFについて調べ、その趣旨を説明できるようにする。(4.0hr)			
第4回 子どもとダンス② 【 到達目標 】 幼児期の模倣動作、リズム運動の発達について理解し、幼児期のダンス活動指導の要点を理解する。 【授業時間外学習】 保育園・幼稚園で行われる「表現」と関わる指導について調べる。(4.0hr)				第12回 障害とダンス② 【 到達目標 】 個別の「障害」を障壁とせず、共にダンスすることに価値を見いだすインクルーシブなダンス活動について、実践例等から理解する。 【授業時間外学習】 リハビリテーション、ノーマライゼーションの定義を調べる。(4.0hr)			
第5回 青年期とダンス①（オンライン授業） 【 到達目標 】 青年期を過ごす自分たちの特性が、ダンスとどのように関わっているか理解する。 【授業時間外学習】 各種ダンスのコンクールについて調べ、その特徴と評価の尺度などについてまとめる①。(4.0hr)				第13回 地域とダンス①（オンライン授業） 【 到達目標 】 地域活性化、世代間交流、子育て支援など、地域でのダンスの実例に触れて、ダンス活動の持つ力について理解する。 【授業時間外学習】 地域で行われている世代間交流、異文化交流などのプログラムについて調べる。(4.0hr)			
第6回 青年期とダンス② 【 到達目標 】 若者が生み出す文化やダンスと社会の影響関係について理解する。 【授業時間外学習】 各種ダンスのコンクールについて調べ、その特徴と評価の尺度などについてまとめる②。①と②をまとめ、レポートとして提出する。(4.0hr)				第14回 地域とダンス② 【 到達目標 】 生活や人生が展開する場としての「地域」という考え方を理解し、人々を結びつける道具、エンパワメントの道具としてのダンスについて、適切な考えを述べることができる。 【授業時間外学習】 前回までの授業全体を振り返り、生涯学習の内容や道具としてダンスに特有の特徴を導き出す。(4.0hr)			
第7回 壮年期とダンス①（オンライン授業） 【 到達目標 】 中高年の生活課題と、そこにダンスが果たす効果について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツクラブなど健康産業の場面で提供されるダンス関連プログラムにはどのようなものがあるか調べる。(4.0hr)				第15回 だれもがダンスのもつ豊かな喜びを享受することができるために 【 到達目標 】 「理解度確認」の中で、「生涯ダンス」の現状についてとこれを振興する上で求められることについて、適切な考えを述べることができる。 【授業時間外学習】 ダンスと関わる進路にはどのようなものがあるか調べ、それに必要な条件を検討する。(4.0hr)			
第8回 壮年期とダンス② 【 到達目標 】 両親の世代がどのようなダンス観を持っているかを理解し、プログラムづくりに役立てられる。 【授業時間外学習】 父母世代にインタビューし、1980～1990年代の社会状況と当時の文化の特徴をまとめる。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 対面形式を中心として指定の授業回（合計6回）にはオンライン（オンデマンド）形式で実施する。授業はスライドや映像資料を用いながら進行する。授業でのディスカッションの素材を得るために、授業時間外学習においては図書やインターネットでの情報検索や、身近な人へのインタビューを求める。対面の授業では毎時、リアクション・ペーパーの提出を求める。オンライン形式の授業資料（下記参照）はその週の月曜朝9時頃に配信し5日間掲示する。オンライン授業の出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。指定した回には、授業時間外学習の成果を提出する。最終回で総合的な理解度の確認を行なう。 【オンライン形式の場合には】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の講義メモ、音声入りパワーポイント動画と、具体的例証を確認しながら理解を深めるための副教材動画である。配信は、学生支援課教務・修学担当から提示される週間スケジュールに従い、同一曜日午前9時から5日間、本学ポータルサイトのGoogle Drive上に掲示する。出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。各授業回の復習課題提出時に質問を受け付け、次の授業内でフィードバックを行う。指定した回には、指定された方法で授業時間外学習の成果を提出する。最終回で総合的な理解度の確認を行なう。							
【教科書・参考書など】 必要に応じて印刷資料を配布する。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 毎回提出する授業内レポート(20%)、授業時間外学習報告を含むノート作成状況(20%)、試験期間中に実施する試験の得点(60%)を併せて成績評価する。 【オンライン授業の場合】 授業時間外学習の成果(25%)と授業内の復習課題達成度(25%)、最終的に確認された理解度の状況（50%）を併せて成績評価する。							

科 目 名		衛生学・公衆衛生学		担当者	助 友 裕 子	
英 文 名		Hygiene and Public Health				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE203		卒業認定方針との関連	④⑤⑦⑨
【目的とねらい】 我々の健康は、毎日呼吸する空気や飲む水、地球環境や自然的環境、毎日の生活習慣や人間関係、地域や国の社会経済的要因などから強く影響を受けている。これらと健康の関わりを科学的に理解し（衛生学）、地域や国民の健康を実現するための対策について理解する（公衆衛生）ことが、この授業の目的である。これらの内容は、自立した社会生活の営みや、学校にかかわるすべての人々の健康、学校そのもののあり方、職場や地域を取り巻く社会のあり方の基礎である。こうした基本的理解づくりがこの授業のねらいである。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 健康と公衆衛生 【 到達目標 】 (1)健康には様々な考え方があることを知る。 (2)公衆衛生の定義を知り、その成り立ちを理解する。 【授業時間外学習】 公衆衛生にかかわる身近なサービスについて調べておく。(4.0hr)			第9回 感染症対策 【 到達目標 】 (1)感染症の成立の条件、予防の原理を理解する。 (2)主な感染症について理解する。 【授業時間外学習】 咳エチケットの方法とその理由について考えておく。(4.0hr)			
第2回 保健統計の活用と応用：健康はどのようにして測られるか 【 到達目標 】 (1)国民の健康状態を測る指標の多様性について理解する。 【授業時間外学習】 政府統計の総合窓口（e-Stat）で健康に関わる統計データを探しておく。(4.0hr)			第10回 環境保健 【 到達目標 】 (1)人間と環境のかかわりについて理解する。 (2)環境問題とその対策について知る。 【授業時間外学習】 地球環境の変化に関する記事・論文を調べておく。(4.0hr)			
第3回 疫学：その健康情報はどこからくるか 【 到達目標 】 (1)疫学の起源について知る。 (2)疫学による研究成果が健康情報となる過程を理解する。 【授業時間外学習】 喫煙の健康影響に関する記事・論文を調べておく。(4.0hr)			第11回 産業保健 【 到達目標 】 (1)労働者を取り巻く現状とその対策について知る。 【授業時間外学習】 働くことの意味について自分の考えをまとめておく。(4.0hr)			
第4回 ヘルスプロモーション 【 到達目標 】 (1)ヘルスプロモーションの定義、活動方法について知る。 【授業時間外学習】 本学以外の友人や知人と健康づくりの方法について議論しレポートする。(4.0hr)			第12回 メンタルヘルス対策 【 到達目標 】 (1)精神疾患の現状とその対策について知る。 【授業時間外学習】 厚生労働省のメンタルヘルスwebsiteを閲覧しておく。URLは後日指示する。(4.0hr)			
第5回 世界と日本の健康戦略 【 到達目標 】 (1)世界の健康戦略の流れを知る。 (2)世界と日本の健康戦略の流れを理解する。 【授業時間外学習】 教科書で健康指標の年次推移を示しているグラフを選び、説明できるようにしておく。(4.0hr)			第13回 親子保健 【 到達目標 】 (1)我が国の母子保健の水準を知る。 (2)母子保健活動の動向について理解する。 【授業時間外学習】 自分の住んでいる自治体の母子保健サービスを調べておく。(4.0hr)			
第6回 健康の社会的決定要因 【 到達目標 】 (1)健康の社会的決定要因とはどのようなものか理解する。 【授業時間外学習】 現在の自分の目標について、目標達成の過程における生活への影響をレポートする。(4.0hr)			第14回 地域保健 【 到達目標 】 (1)地域の様々な保健活動を知る。 (2)健康なまちづくりについて理解する。 【授業時間外学習】 自分の住んでいる自治体の地域保健サービスを調べておく。(4.0hr)			
第7回 生活の場と健康 【 到達目標 】 (1)健康に影響をおよぼすあらゆる生活の場について理解を深める。 (2)WHOのsettingsアプローチを理解する。 【授業時間外学習】 一週間のうちに自分が行った場所とその場所がもたらす健康影響を記録しておく。(4.0hr)			第15回 災害時の公衆衛生 【 到達目標 】 (1)災害の種類とその備えについて知る。 (2)自地域の防災について関心を持ち、今できる防災活動について考える。 【授業時間外学習】 少子高齢社会の中で自他が健やかに生きるための方法についてレポートする。(4.0hr)			
第8回 がん対策 【 到達目標 】 (1)がんが身近な疾病であることを理解する。 (2)我が国のがん対策の現状を知る。 【授業時間外学習】 がんに関する情報を収集しておく。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】毎回の講義で、その回のキークエスチョンに関して、私見や講義内容を踏まえたミニレポートを提出する。これにより各回の授業内容を振り返る。授業の導入時と終了時で自分の意見がどう変化したのかも考慮に入れながら、授業内容について理解を深めてもらいたい。なお、この毎回のミニレポート内容については、講義内容を踏まえた受講者自身の気づきが記述されていることが重要である。ミニレポートは、ほぼ毎時間行い、次の授業時に返却するとともに、必要に応じて授業内で優れた内容について全体で共有する。 【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を原則とする。授業内容は、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料等である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一週月曜日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間掲載する。出席は、各授業回の課題提出（GoogleフォームとPhollyの併用による）によって確認する。						
【実務経験のある教員による授業科目】 行政や公的機関等における公衆衛生学に関する講義・講演等の活動経験を活かし、地域や国民の健康を実現するための対策について講義を行う。						
【教科書・参考書など】 「学生のための現代公衆衛生 第7版」野中浩一編著（南山堂） このほかに適宜資料を配布する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】授業中の課題達成度を30%、定期試験の結果を70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。 【オンライン授業の場合】各授業回の課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに、全授業回終了時点で確認課題の実施をもって評価する。各授業回の総合評価50%、確認課題の達成度50%として評価する。合格基準は60％である。						

科 目 名		救急処置法		担当者	夏 井 裕 明	
英 文 名		First Aid				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE205		卒業認定方針との関連	⑤⑧⑨
【目的とねらい】 本講義は臨床スポーツ医学の外科系および内科系として位置づけられる。健康運動指導士・健康運動実践指導者・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の共通科目Ⅰ・Ⅲに関する内容を扱う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 講義の目的、進め方、単位認定の方法について理解する。受講に際しての注意点を理解する。			第9回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（膝関節） 【 到達目標 】 膝のスポーツ外傷・障害について理解する。			
【授業時間外学習】 シラバスを参考にして、授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。（4.0hr）			【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 105 - 123 を読む。（4.0hr）			
第2回 女性とスポーツⅠ（受精から性成熟期まで） 【 到達目標 】 女性の一生のうち、性成熟期までのスポーツ医学的問題を理解する。			第10回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（大腿、下腿、足部） 【 到達目標 】 大腿および下腿から足部までのスポーツ外傷・障害について理解する。			
【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 256 - 260 を読む。（4.0hr）			【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 100 - 105, 123 - 139 を読む。（4.0hr）			
第3回 女性とスポーツⅡ（妊娠・出産から更年期まで） 【 到達目標 】 女性の一生のうち、妊娠・出産および更年期におけるスポーツ医学的問題を理解する。			第11回 内科的疾患とスポーツⅠ（循環器・呼吸器の急性疾患） 【 到達目標 】 運動中の突然死、過換気症候群、運動誘発性喘息とその対策について理解する。			
【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 260 - 262 を読む。（4.0hr）			【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 147 - 153, 163 - 171, 187 - 198 を読む。（4.0hr）			
第4回 応急処置総論 【 到達目標 】 RICE処置の内容・方法・効果について理解する。			第12回 内科的疾患とスポーツⅡ（慢性疾患と感染症） 【 到達目標 】 貧血と主な感染症について理解する。			
【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 42 - 47 を読む。（4.0hr）			【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 180 - 182を読む。（4.0hr）			
第5回 頭部のスポーツ外傷 【 到達目標 】 意識障害の診かた、頭部外傷について理解する。			第13回 内科的疾患とスポーツⅢ（熱中症） 【 到達目標 】 熱中症の要因・症状・応急処置・対策について理解する。			
【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 36 - 39, 55 - 58, 157 - 160 を読む。（4.0hr）			【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 153 - 157 を読む。（4.0hr）			
第6回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（鎖骨から肩関節） 【 到達目標 】 鎖骨から肩関節までのスポーツ外傷・障害について理解する。			第14回 心肺蘇生法の理論 【 到達目標 】 心肺蘇生法の理論について理解する。			
【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 62 - 72 を読む。（4.0hr）			【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 213 - 220 を読む。（4.0hr）			
第7回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（上腕から手指） 【 到達目標 】 上腕から手指までのスポーツ外傷・障害について理解する。			第15回 心肺蘇生法実習 【 到達目標 】 心肺蘇生法実習を通じて、BLS（Basic Life Support）ができるようになる。			
【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 72 - 89 を読む。（4.0hr）			【授業時間外学習】 BLSヘルスケアプロバイダー マニュアル を読む。（4.0hr）			
第8回 体幹のスポーツ外傷・障害（頸部から腰部） 【 到達目標 】 頸部から腰部までのスポーツ外傷・障害について理解する。						
【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 58 - 61, 89 - 100 を読む。（4.0hr）						
【学習上の留意点】 本科目は選択科目ではあるが、教員免許取得のための必修科目である。1年次開講の「機能解剖学」、「スポーツ生理学」を履修済みであることを前提とする。 第15回的心肺蘇生法実習は夏休みの補講・集中講義期間中に対面で実施する。 【対面授業の場合】パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。講義の最後に小テストを行い、講義内容の理解度を確認する。 【オンライン授業の場合】オンデマンド形式の授業を行う。授業当日9時までに各授業回の音声入りパワーポイント動画を本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップロードし、呼出・連絡揭示版を通じてURLと補足資料を配信する。視聴（出席）の確認は小テスト問題の解答により行い、Phollyを通じて授業開始時刻から授業6日後の23時59分まで小テスト問題の解答を受け付ける。						
【実務経験のある教員による授業科目】 医師およびスポーツドクターとしての臨床経験を活かし、競技スポーツや学校体育、社会体育におけるスポーツの実践や指導に関連する臨床スポーツ医学のうち、外科系の内容について講義を行う。						
【教科書・参考書など】 参考書：「スポーツ指導者のためのスポーツ医学（第2版）」、小出清一他編、南江堂 「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」、公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅲ」、公益財団法人 日本スポーツ協会						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】試験成績（100%）で成績を評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。 【オンライン授業の場合】期末試験期間が設定される場合：期末試験を行い、その試験成績（100%）で成績を評価する。 期末試験期間が設定されない場合：小テスト問題の解答で評価する。						

科 目 名		スポーツ史			担当者	都 筑 真	
英 文 名		Sport History					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2			専門基礎・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE206		卒業認定方針との関連	⑦⑨	
【目的とねらい】 本講義では、社会の変化に伴うスポーツのこれまでの変化について理解を深めることを目的とする。各時代毎ではなく、現代のスポーツを理解する上で重要と思われるテーマ毎に、これまでのスポーツの在り様を理解していくことを通じて、今後のスポーツの在り方を考察していくことをねらいとする。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 (1)講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。 【授業時間外学習】 参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。(4.0hr)			第9回 近代の戦争と体育・スポーツ 【 到達目標 】 (1)近代における体育・スポーツと戦争との関係について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				
第2回 スポーツ史を学ぶ意義 【 到達目標 】 (1)スポーツ史がどのような学問分野であるかを理解する。 (2)スポーツ史を学ぶ意義について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第10回 オリンピックムーブメントと世界平和 【 到達目標 】 (1)オリンピックムーブメントがどのような運動であるかを理解する。 (2)オリンピックが国際親善や世界平和につながる理由について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				
第3回 スポーツのルーツへのまなざし 【 到達目標 】 (1)スポーツのルーツが人間のどのような活動にあるかを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第11回 日本のスポーツ振興政策とスポーツ基本法 【 到達目標 】 (1)日本のスポーツ振興政策を概観しながら、スポーツ基本法制定へと至る過程や理由について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				
第4回 各時代の社会におけるスポーツ 【 到達目標 】 (1)スポーツの時代毎の変化と現代のスポーツとの相違点を理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第12回 スポーツ産業の歴史的発展とスポーツの経済効果 【 到達目標 】 (1)スポーツの発展に貢献しているスポーツに関連した「モノ」「場」「サービス」の歴史とスポーツの経済効果について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				
第5回 スポーツ種目の誕生と変容 【 到達目標 】 (1)われわれの身近にあるスポーツ種目がなぜ誕生し、どのように変化してきたのかを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第13回 女性スポーツの展開と現在 【 到達目標 】 (1)女性にとってスポーツ文化がこれまでどのようなものであったのか、そして現在どのようなものとなっているかを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				
第6回 欧米スポーツの日本への移入 【 到達目標 】 (1)欧米スポーツの日本への導入・普及過程について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第14回 スポーツとメディア 【 到達目標 】 (1)スポーツとメディアの歴史的関係やスポーツメディアの特性について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				
第7回 体操、身体教育、スポーツ教育 【 到達目標 】 (1)古代の体操、近代の身体教育、現代のスポーツ教育に関する理論と歴史的過程を理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第15回 スポーツと環境問題 【 到達目標 】 (1)スポーツと環境問題の関係を理解する。 (2)スポーツ界における環境保全の取り組みを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。(4.0hr)				
第8回 スポーツの技術、戦術、ルールの歴史的変容 【 到達目標 】 (1)スポーツの技術、戦術、ルールがどのように変化してきたのかについて理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義では毎回、講義内容の理解を深めるために、小レポートを課す。「スポーツ原論」と併せて履修することが望ましい。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入り動画と補足資料である。資料は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間後の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の課題の提出によって確認する。							
【教科書・参考書など】 特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。 『体育・スポーツ史概論』（木村吉次編著、市村出版）と『スポーツの歴史と文化』（新井博／榊原浩晃編著、道和本書院）を講義の参考書として利用すること。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。合格基準は60％である。 【オンライン授業の場合】 講義毎に課す小レポート(50%)及び期末課題の結果(50%)で評価する。合格基準は60％である。							

科 目 名		器械運動		担当者	森 井 大 樹	
英 文 名		Apparatus Exercise				
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBE105		卒業認定方針との関連	⑨
【目的とねらい】 達成スポーツとしての器械運動では、さまざまな運動が行われる。その運動は「技」と呼ばれ、「技」は運動構造によって易しいものからむずかしいものへと体系的に分類されている。その体系にしたがって基本的な技を正しく習得すると発展的な技の習得も容易となる。本授業では、器械運動の基本的な技について、その基礎技能も含めいろいろな段階的練習方法を通して身につけていく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 マット運動の基礎技能 【 到達目標 】 (1) 器械運動に必要な動きと練習方法を理解する。 (2) マット運動の基礎技能の習熟を図る。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1. 0hr)			第9回 マット運動 (側立回転系・側立回転とびの技) ④ 【 到達目標 】 (1) ハンドスプリングの技能テスト 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1. 0hr)			
第2回 マット運動 (側立の基礎・接転系の技) ① 【 到達目標 】 (1) 側立の基礎知識・技能を習得する。 (2) 前転、後転の基礎知識・技能を習得する。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1. 0hr)			第10回 とび箱運動 (反転系の技の基礎技能) 【 到達目標 】 (1) 反転系の技の基礎知識・技能を習得する。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1. 0hr)			
第3回 マット運動 (側立の基礎・接転系の技) ② 【 到達目標 】 (1) 側立の静止技能および歩行技能を習得する。 (2) 前転、後転の変形技を習得する。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1. 0hr)			第11回 とび箱運動 (反転系の技・開脚とび) 【 到達目標 】 (1) 開脚とびの技能を習得する。 (2) 開脚とびの技能テスト 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1. 0hr)			
第4回 マット運動 (側立の基礎・接転系の技) ③ 【 到達目標 】 (1) 側立前転の技能を習得する。 (2) 伸膝後転の技能を習得する。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1. 0hr)			第12回 とび箱運動 (反転系の技・開脚とび) 【 到達目標 】 (1) 開脚とびの技能を習得する。 (2) 開脚とびの技能テスト 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1. 0hr)			
第5回 マット運動 (側立の基礎・接転系の技) ④ 【 到達目標 】 (1) 側立前転の技能テスト (2) 伸膝後転の技能テスト 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1. 0hr)			第13回 鉄棒運動 (支持回転系の技) ① 【 到達目標 】 (1) 鉄棒運動の基礎知識・技能を習得する。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1. 0hr)			
第6回 マット運動 (側立回転系・側立回転とびの技) ① 【 到達目標 】 (1) 側方側立回転習得のための基礎知識・技能を習得する。 (2) ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1. 0hr)			第14回 鉄棒運動 (支持回転系の技) ② 【 到達目標 】 (1) 支持回転系の技の技能を習得する。 (2) 支持回転系の技の技能テスト 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1. 0hr)			
第7回 マット運動 (側立回転系・側立回転とびの技) ② 【 到達目標 】 (1) 側方側立回転の技能を習得する。 (2) ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1. 0hr)			第15回 課題の達成度と身体知 【 到達目標 】 (1) 技の習得に必要な身体知について理解する。 (2) 達成できた動きの身体知について理解する。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1. 0hr)			
第8回 マット運動 (側立回転系・側立回転とびの技) ③ 【 到達目標 】 (1) 側方側立回転の技能テスト (2) ハンドスプリングの技能を習得する。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1. 0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 課題として取り上げられた技は、体育教員として身につけておきたい最低限のものである。授業では、それぞれの技の感覚を順を追って習得していく。すでに、課題をできる受講生にとっては、あらためて動きができるための「道しるべ」を確認することになり、中学・高等学校時に器械運動の授業を受けていない学生にとっては、新たな「身体知」を獲得する場となる。積極的な参加を望む。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容や成績評価方法は原則的に変更しない。課題技の基礎技能に関する学習部分のみをオンラインで実施することになる。各自ができる範囲で指定された課題に取り組むことを望む。課された運動課題に関する感覚記述、提出をもって出席確認をする。課題技の達成度に関する確認は、原則的に対面授業で実施するので、補講措置を取る場合もある。						
【教科書・参考書など】 ＜参考書＞ 「教師のための器械運動指導法シリーズ：マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友・著（大修館書店）						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 課題技の達成度 100％ 【オンライン授業の場合】 課題技の達成度 100％						

科 目 名		陸上競技		担当者	大橋 祐二・中野 美沙	
英 文 名		Track and Field				
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBE106		卒業認定方針との関連	⑨
【目的とねらい】 陸上競技は、走・跳・投運動による最大達成を競う種目である。多くの種目の中から、走種目として100m走、跳種目として走り幅跳び、投種目として砲丸投げを取り上げ、それぞれの種目を実習し、基本技能を習得する過程を経験することと、それぞれの種目の学習方法について理解することを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業内容の説明（採点表） 【 到達目標 】 100m走、走り幅跳び、砲丸投げの種目特性を理解する。単位認定の条件（達成記録、習熟度）を確認する。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。（1.0hr）			第9回 全助走跳躍 【 到達目標 】 自分にあったおおよその助走距離を見つけ、同時に踏み切り板に足が合う正確な距離を見つけ出す。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。（1.0hr）			
第2回 100m走の走り方：中間疾走 【 到達目標 】 短距離走の走り方として、中間疾走を行う中で、まず支持局面を意識して実践してみる。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。（1.0hr）			第10回 走り幅跳び記録測定 1 【 到達目標 】 走り幅跳びの記録測定を行う。達成距離がどのレベルにあるかを把握する。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。（1.0hr）			
第3回 クラウチングスタートのしかた 【 到達目標 】 自分にあったクラウチングスタートの方法を身につける。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。（1.0hr）			第11回 走り幅跳び記録測定 2 【 到達目標 】 前回の達成距離を更新するために、改善点を見つけ出しより高いレベルにチャレンジする。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。（1.0hr）			
第4回 スタート～加速のしかた 【 到達目標 】 クラウチングスタートからトップスピードを作り出す加速局面で、問題点を把握してその改善を図る。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。（1.0hr）			第12回 砲丸投げの基本技術とルール 【 到達目標 】 砲丸投げの基本技術であるつき出し動作のドリルを実習することによって、つき出しの動き方を確認する。同時に、砲丸投げのルールを理解する。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。（1.0hr）			
第5回 スタート、加速疾走、中間疾走 【 到達目標 】 100m走記録測定の準備として、100mという距離を走る体験をする。その中で、前半と後半の身体への負担がどのようであるかを実感し、特に後半の走り方をイメージできるようにする。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。（1.0hr）			第13回 メディシンボールによるつき出し 【 到達目標 】 メディシンボールによるつき出し、砲丸を用いてのつき出しを繰り返し行うことによって、合理的なつき出し動作を身につける。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。（1.0hr）			
第6回 100m走記録測定 【 到達目標 】 100m走の記録測定を行う。達成記録がどのレベルにあるかを把握する。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。（1.0hr）			第14回 ホップ、グライドからの投げ 【 到達目標 】 つき出しがより力強く行われるように、サークル内でホップ、ステップの「助走」をつけて行う。うまく加速できる方法を見つけ出す。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。（1.0hr）			
第7回 走り幅跳びの基本技術とルール 【 到達目標 】 走り幅跳びの一連の動きを実習しながら、基本技術及びルールを身につける。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。（1.0hr）			第15回 砲丸投げ記録測定 【 到達目標 】 砲丸投げの記録測定を行う。その記録がどのレベルにあるかを把握する。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。（1.0hr）			
第8回 短助走跳躍 【 到達目標 】 短助走跳躍を実践する中で、自分にあった効果的な踏み切り技術を探り当てる。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。（1.0hr）						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 各種目の技能を習得するため、ふさわしい服装とシューズを使用すること。また、目標記録到達を手助けする手段としてスパイクシューズの使用が望ましい。適宜ルール等に関する小テストを実施し、授業内でフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式による陸上競技の知識に関する授業を30%、オンデマンド方式による実技課題の自習による授業を60%、リアルタイム方式の陸上競技についての講義・質疑応答を10%実施する。学習内容となる技能や運動に関する動画ならびに参考資料を配信する。資料は、各授業開始時刻から一週間閲覧できるように本学Google Drive上にアップする。出席確認は、各授業回のレポート提出によって行う。						
【教科書・参考書など】 『教師のための運動学』金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】各種目の実技試験における達成記録による評価を70%、動きの習熟度による評価を30%として評価する。 【オンライン授業の場合】各授業回の提出されたレポートならびに動画を毎回評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポートを40%とし、合計100%として評価する。						

科 目 名			バスケットボール		担当者	佐々木直基	
英 文 名		Basketball					
単 位 数	1	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2	／選択の区別		専門基礎・選択			
授業形態	実技	科目ナンバー	DBE108		卒業認定方針との関連	⑥⑨	
【目的とねらい】 バスケットボールのゲームを行うために必要とされる基礎的な個人技術を習得し、その上でグループ・チーム戦術へと発展させ、ゲームの中で習得した個人技術、グループ・チーム戦術を発揮することが目的である。さらに、ルールを理解することも目的である。習得した個人技術、グループ・チーム戦術を実際に指導するための基礎作りが本実習のねらいとなる。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 授業のねらいと進め方 【 到達目標 】 (1)授業のねらいと進め方、バスケットボールの特性を理解する。 (2)導入としてコーディネーショントレーニングの必要性を理解し、実践する。 【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)			第9回 基礎的な個人技術 フリースロー① 【 到達目標 】 (1)ゲームの中でフリースローが起こる状況について理解する。 (2)フリースローの技術を習得する。 (3)ゲームを実践する。 【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)				
第2回 基礎的な個人技術 コントロール 【 到達目標 】 (1)ボディコントロール（フットワークとハンドワークを含む）の技術を理解し、習得する。 (2)ボールコントロール（ボールハンドリング）の技術を理解し、習得する。 (3)ミニゲームを実践する。 【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)			第10回 グループ戦術 パス&ラン 【 到達目標 】 (1)グループ戦術としてのパス&ランの原則を理解する。 (2)パス&ランのグループ戦術を習得する。 (3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。 【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)				
第3回 基礎的な個人技術 ワンハンドシュート① 【 到達目標 】 (1)ゴールに近い場所でのワンハンドシュートの技術を習得する。 (2)ミニゲームを実践する。 【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)			第11回 チーム戦術 ドライブ&合わせ 【 到達目標 】 (1)グループ戦術としての1対1（ドライブ）とそこからの合わせの原則を理解する。 (2)ドライブ&合わせのグループ戦術を習得する。 (3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。 【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)				
第4回 基礎的な個人技術 セットシュートとジャンプシュート 【 到達目標 】 (1)セットシュートとジャンプシュートの違いを理解する。 (2)セットシュートとジャンプシュートそれぞれの技術を習得する。 (3)ミニゲームを実践する。 【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)			第12回 基礎的な個人技術 ワンハンドシュート② 【 到達目標 】(1)ゴールに近い場所でのワンハンドシュートの技術を習得する。 (2)いろいろなワンハンドシュート（フック系・フローター系）の技術を実践する。 (3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。 (4)ルールを理解する。 【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)				
第5回 基礎的な個人技術 パスとキャッチ 【 到達目標 】 (1)ボールキャッチの技術を習得する。 (2)いろいろなパスの技術を習得する。 (3)ミニゲームを実践する。 【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)			第13回 基礎的な個人技術 レイアップシュート② 【 到達目標 】(1)ドリブルからのレイアップシュートの技術を習得する。 (2)いろいろなレイアップシュート(バックシュート系・ステップの変化)の技術を実践する。 (3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。 (4)ルールを理解する。 【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)				
第6回 基礎的な個人技術 レイアップシュート① 【 到達目標 】 (1)ドリブルからのレイアップシュートの技術を習得する。 (2)ミニゲームを実践する。 【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)			第14回 基礎的な個人技術 フリースロー② 【 到達目標 】(1)フリースローの技術を習得する。 (2)ゲームの状況下でのフリースローを実践する。 (3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。 (4)ルールを理解する。 【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)				
第7回 基礎的な個人技術 ドリブル 【 到達目標 】 (1)ドリブルのチェンジ・オブ・ディレクションの技術を習得する。 (2)ドリブルのチェンジ・オブ・ベースの技術を習得する。 (3)ミニゲームを実践する。 【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)			第15回 スキルの総合的検証 【 到達目標 】 (1)本実習で習得した基礎的な個人技術ができる。 【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)				
第8回 基礎的な個人技術 リバウンド 【 到達目標 】 (1)オフェンスリバウンドの技術を習得する。 (2)ミニゲームを実践する。 【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 実習の授業となるため、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。アクセサリー類は決して身につけない。本実習はすべてグループ毎に活動するので、ただ参加するのではなく、積極的にグループの中で活動し、さらにはリーダーシップを取って授業を受ける。また、バスケットボールのルールを理解し、ゲームでは審判を行うこともあるので、ゲームの知識・理解を深めるように努める。 【オンライン授業の場合】 可能な範囲でオンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に自習し取り組むこととする。配信される資料は、学習内容となる技能や運動に関する資料や自習をサポートするための資料となる。資料配信の目安は、本来の各授業回が予定されている曜日に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、原則として次の授業まで掲載する。出席の確認は、各授業回の課題の提出によって確認する。ただし、評価のための技能レベルの確認が必要な場合はオンデマンド方式となっても対面授業を要することがある。							
【教科書・参考書など】 参考書 「バスケットボール指導教本改訂版 上・下巻」（公財）日本バスケットボール協会編（大修館書店）							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 平常授業での到達目標に対する到達度を50%、スキルテストを50%として評価する。 【オンライン授業の場合】 各授業回に提出された課題（動画や学習報告書など）の評価、さらに、全授業回終了時点でまとめのレポートを合わせて到達度として評価する。スキルテストについては可能な範囲でオンラインで実施するが、対面形式を要することがある。各授業回の到達度を50%、スキルテストを50%として評価する。合格基準は60%である。							

科 目 名		バレーボール		担当者	ヨーコ・カリン・セッターラント	
英 文 名		Volleyball				
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBE109		卒業認定方針との関連	⑨
【目的とねらい】 バレーボールでは個人の基礎技能(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイク・サーブ)の定着を図り、バレーボールゲームをおこなう上で必要な基礎技術・戦術を理解・実践し、それらをチームとしての戦術へと発展させていきスムーズなゲームの完成を目指す。またルールやゲームの進め方および審判法を理解し、ゲームの運営について学ぶことも目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 バレーボールの歴史と発展 【 到達目標 】 (1)バレーボールの起源、発展、ルールの変遷等を理解する。			第9回 ゲームの進め方・ルール・審判法の理解 【 到達目標 】 (1)ゲームを行う上での主なルールを理解する。 (2)主審・線審の役割とシグナル方法を理解する。			
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
第2回 基礎技能の習得Ⅰ(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス) 【 到達目標 】 (1)各パスをおこなうための体の使い方を理解する。 (2)ボールを正確にコントロールする能力を身につける。			第10回 ゲーム実践Ⅰ 【 到達目標 】 (1)オフィシャルルールで実践する。 (2)すべてのポジションの役割を経験する。			
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
第3回 基礎技能の応用(各種レシーブ・トス) 【 到達目標 】 (1)強いボールに対する対応、移動しながらの技能を身につける。 (2)方向転換していろいろな方向へコントロールできる。			第11回 個人技能の評価方法と技能修正方法 【 到達目標 】 (1)オフィシャルルールで実践する。 (2)すべてのポジションの役割を経験する。			
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
第4回 基礎技能の習得Ⅱ(サーブ) 【 到達目標 】 (1)アンダーハンドサーブ、フロッターサーブの打ち方をマスターする。 (2)狙ったコースへコントロールできる。			第12回 個人技能の評価方法と技能修正方法 【 到達目標 】 (1)個人技能の評価方法を理解し、実践できる。 (2)個人技能の正しい方法への修正をすることができる。			
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
第5回 基礎技能の習得Ⅲ(スパイク) 【 到達目標 】 (1)助走のステップ、スイングを身につける。 (2)タイミングを合わせてボールを打つことができる。			第13回 バレーボールのポジションとその役割の理解 【 到達目標 】 (1)セッター・リベロ・スパイカーについて理解・実践する。			
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
第6回 集団技能の理解と集団での技術・戦術 【 到達目標 】 (1)基礎技能と集団技能の結びつきについて理解する。 (2)集団で発揮する技術・戦術を理解する。			第14回 ゲーム実践Ⅲ 【 到達目標 】 (1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。 (2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。			
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
第7回 基本戦術の習得Ⅰ(3段攻撃) 【 到達目標 】 (1)「レシーブ→トス→スパイク」の流れを理解・実践する。			第15回 ゲーム実践Ⅳ 【 到達目標 】 (1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。 (2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。			
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
第8回 基本戦術の習得Ⅱ(フォーメーション) 【 到達目標 】 (1)基礎的な守備フォーメーションを理解・実践する。						
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 実習の授業なので、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特にアクセサリー類の着用は禁止とし、また髪が長い者は必ず束ねて授業に参加すること。バレーボールはチームスポーツである。そのため、基本的にグループ単位で活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。不明な点はそのままにせず、教員に質問する等解決のための努力を怠らないようにすること。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更しない。全15回の授業を通じて各テーマについて理解を深め、各自が可能な範囲で技術の習得に取り組むこと。また、対面授業が可能となった際にはすみやかに実践できるように課題の自習にも取り組むこと。配信資料は、本来の対面授業が予定されている曜日の前日までに本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、その1週間後まで掲載する。各課題の提出方法についてはPhollyにて行うこととし、接続トラブル等で提出が難しい場合には、メール添付にて提出も可とする。						
【教科書・参考書など】 教科書は特になし。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 基礎技能の実技テストを80%、ゲーム実践の達成度を20%として評価する。 【オンライン授業の場合】 各回の提出されたレポートを毎回評価し、全授業終了時点で総合的に評価する (70%)。全授業終了後にまとめのレポートを実施し、評価する (30%)。						

科 目 名		比較舞踊学		担当者	渡 辺 碧	
英 文 名		Comparative Theory of Dance				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE301		卒業認定方針との関連	⑦

【目的とねらい】

世界の舞踊には様々な種類がある。舞踊といえば、西洋舞踊を思い浮かべがちであるが、果たして自国の舞踊について、皆さんはどれ程、熟知しているだろうか。この授業では特に、西洋舞踊と日本の舞踊の比較を通して、多彩な舞踊文化を持つ、日本の舞踊の重要性や必要性を理解することを目的とする。さらに民族・民俗を含め、日本の舞踊の価値を相対化させて問うことをねらいとする。

【授業内容・到達目標など】

第1回 オリエンテーション―舞踊の種類と形態、自国の舞踊を考える 【 到達目標 】 この授業の目的とねらいを理解する。この世に存在する舞踊の種類と形態を把握し、日頃から身近な西洋舞踊だけでなく、様々な種類があることを理解する。 【授業時間外学習】 事前に舞踊の種類がどれだけあるかを調べる。(4.0hr)	第9回 文楽 【 到達目標 】 文楽の概要を理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱ったもの以外の文楽の作品を鑑賞し、文楽への理解を深める。(4.0hr)
第2回 時代ごとによる芸能様式―西洋舞踊の歴史① 【 到達目標 】 時代の流れを踏まえながら、西洋舞踊の歴史を再確認するとともに、それに伴った大まかな日本の時代ごとの歴史的出来事の概要を理解する。 【授業時間外学習】 舞踊史について、事前に復習しておく。(4.0hr)	第10回 民俗舞踊 【 到達目標 】 民俗舞踊（神楽・田楽／風流・獅子芸能）を理解する。 【授業時間外学習】 全国の民俗舞踊には何があるかを調べる。(4.0hr)
第3回 時代ごとによる芸能様式―西洋舞踊の歴史② 【 到達目標 】 時代の流れを踏まえながら、西洋舞踊の歴史を再確認するとともに、それに伴った大まかな日本の時代ごとの歴史的出来事の概要を理解する。 【授業時間外学習】 日本の時代ごとの歴史的出来事の概要を復習しておく。(4.0hr)	第11回 日本舞踊 【 到達目標 】 日本舞踊の概要を理解する。 【授業時間外学習】 事前に日本舞踊の種類と流派を調べる。(4.0hr)
第4回 日本の伝統芸能の特性 【 到達目標 】 日本の伝統芸能の特性について理解する。日本の伝統芸能が、歴史的・文化的背景と密接に関わっていることを理解する。 【授業時間外学習】 西洋と日本の舞踊についての歴史的・文化的背景について調べる。(4.0hr)	第12回 江戸時代以降の日本の舞踊―日本への洋舞輸入 【 到達目標 】 日本に存在する多彩な舞踊文化について理解し、その内容を把握する。西洋舞踊がどのように日本に受容されたかを理解する。 【授業時間外学習】 日本の洋舞の歴史を事前に調べる。(4.0hr)
第5回 日本の伝統舞踊―「舞」と「踊り」、「民族」と「民俗」 【 到達目標 】 「舞」とは、「踊」とは何かを理解する。西洋舞踊のそれとは、特に何が異なるかを理解する。古典舞踊（民族）と民俗舞踊との違いを理解する。世界の民族・民俗舞踊の種類、日本の民族舞踊について理解する。 【授業時間外学習】 事前に日本の古典舞踊、民族舞踊の種類には何があるかを調べる。(4.0hr)	第13回 日本の舞踊史と西洋舞踊史 【 到達目標 】 時代の流れを踏まえつつ、日本の舞踊史と西洋舞踊史を理解し、比較できる。 【授業時間外学習】 日本舞踊史と西洋舞踊史のそれぞれの特徴、相違点を整理する。(4.0hr)
第6回 日本の古典舞踊―舞楽 【 到達目標 】 古典舞踊の舞楽を理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱ったもの以外の舞楽の作品を鑑賞し、舞楽への理解を深める。(4.0hr)	第14回 日本の舞踊の様式 【 到達目標 】 日本舞踊の様式（演技・演出・音楽・装置・衣裳・化粧・かつらなど）を概観、考察し、西洋舞踊と比較する。 【授業時間外学習】 日本の舞踊の様式の特徴と西洋舞踊との相違点を整理する。(4.0hr)
第7回 日本の古典舞踊―能楽 【 到達目標 】 古典舞踊の能楽を理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱ったもの以外の能楽を鑑賞し、能楽への理解を深める。(4.0hr)	第16回 西洋舞踊と日本の舞踊 【 到達目標 】 これまでに学んだ日本に存在する舞踊について総括し、日本の舞踊と西洋舞踊を比較することが出来る。比較することにより、日本の舞踊の重要性を認識し、伝承していく意義を理解する。 【授業時間外学習】 授業で取り扱わなかった舞踊と日本の舞踊を比較する。(4.0hr)
第8回 歌舞伎 【 到達目標 】 歌舞伎の概要を理解する。 【授業時間外学習】 事前に歌舞伎の作品にはどのようなものがあるかを調べる。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

授業形態は対面授業を基本とする。授業は、主にスライドと映像資料を用いて行う。授業で指定する回によっては、課題提出やディスカッション、口頭発表、小課題などを求めることがある。小課題については、次の授業内で解説によるフィードバックを行う。また上記の他に中間レポートを課す。中間レポートの提出と理解度確認テストの両方がなされて、初めて評価（単位認定）の対象となる。いずれかを未提出・未受験の場合は、単位認定は行わない。

新型コロナウィルスの感染状況や社会情勢によっては、オンライン授業の対応を取る場合もある。

【教科書・参考書など】

適宜、参考資料を配付する。

「ダンス・バイブル：コンテンポラリー・ダンス誕生の秘密を探る」（乗越 たかお/河出書房新社） 「日本舞踊辞典」（郡司 正勝/東京堂出版）

「舞踊形式論 表現と可能性」（旗野 恵美/HCI PUBLICATIONS）

【成績評価方法】

授業内レポート、小課題など30％、中間レポート20％、理解度確認テスト50％で総合的に評価する。オンライン形式で授業が行われた場合は、出欠確認の際に提出される課題も、評価の対象となる。

科 目 名		舞 踊 美 学		担当者	松 澤 慶 信	
英 文 名		Dance Aesthetics				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE302		卒業認定方針との関連	⑥⑧
【目的とねらい】 美学とは、1)対象としての美について、2)主体側の美的体験、3)芸術学、の3つの側面から考察される学問領域と方法論を有している。この考えにたてば、舞踊を対象とする舞踊美学という学問が指定されていいだろう。あるいは舞踊を考察する思想を総括的に舞踊美学と呼んでもいい。舞踊固有の現象をどこまで浮き彫りにできるだろうか。われわれは感性的なるものの顕現としての舞踊を理性的に考察するその葛藤を真摯に受けとめたい。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 この授業では何を目指し探求するのかを概説する。			第9回 身体の全体把握 【 到達目標 】 身体を把握するとはどういうことか。視覚と直観と触覚的な全体把握を保証する論理は相互主観性に頼らざるをえない。			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第2回 美学とは何か 【 到達目標 】 美学という学問の領域と方法論を概説して、舞踊美学の可能性への準備とする。			第10回 共振性 【 到達目標 】 意味論の意味のバイアスを受けず*に身体が享受体験する在り方は共振性に他ならない。これが舞踊体験の本質である。			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第3回 美的なるものと感性的なるもの 【 到達目標 】 言語論理による悟性や理性ではない感性的なるものと、美的なるものを明らかにする。			第11回 Gesamtkunstwerkとしての舞踊 【 到達目標 】 パフォーマンス・アーツとしての舞踊は本来総合芸術であった。その作品の在り様在り方の変遷をたどる。			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第4回 美的価値の体験と美的な価値体験 【 到達目標 】 美的価値を有する美的対象を価値判断することと、主体側の美的な価値判断はどのように交差するのか。			第12回 舞踊の溶解力 【 到達目標 】 意味論の意味というバイアスを避けられないなら、どのように舞踊は言葉ではない表現媒体の特性を確保するのか。			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第5回 芸術という現象とその学問 【 到達目標 】 感性的なるものの顕現としての芸術という現象および芸術作品を対象にする学問とは何か。			第13回 舞踊の曖昧性とロマン的なもの 【 到達目標 】 舞踊は意味の指示性を考えれば、言葉と違って曖昧である。この曖昧性こそがむしろ舞踊の本質である。それをロマン的という。			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第6回 舞踊という現象 【 到達目標 】 舞踊とは何か。日常のアクションや行動と舞踊はどう違うのか。ダイレクトにその本質を探る。			第14回 自己言及的な舞踊 【 到達目標 】 舞踊ジャンルの特性を自己言及的に溯及していき、そのピュアな本質を探ること。そこに現れる舞踊にしか現れないものを探る。			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第7回 舞踊美なるもの 【 到達目標 】 舞踊という現象が浮き上がらせる美的価値とはどのような性質を有するのか。その特性にせまる。			第15回 コンテンポラリー・ダンスの位相と行方 【 到達目標 】 現代のダンスであるコンテンポラリー・ダンスはメタ的なポストモダン・ダンスを経て、今ここに存立しているのか。ここにダンスの本質を探究する。			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第8回 舞踊の芸術体験と身体論 【 到達目標 】 普通の美的享受体験におさまらない舞踊の芸術体験とは何か。この課題には身体をどう取り扱うという本質の問題が横たわる。						
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 基本的に文献研究である。日本語だけでなく英語文献などの舞踊について書かれた資料を読み解いて、舞踊を思想化していきたい。熱心で積極的な受講姿勢をのぞむ。 【オンライン授業の場合】 基本的に毎回、期限付きで配付資料を配り、さらに動画も配信するので、それを見て、逐一レポートを提出してもらいます。熱心で積極的な受講姿勢をのぞむ。						
【教科書・参考書など】 授業中に指示するが、参考書として、『ダンスは国家と踊る』（アニエス・イブリーヌ著）慶應義塾大学出版会と、『20世紀ダンス史』（ナンシー・レイノルズ他著）慶應義塾大学出版会をあげる。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 試験は試験期間中に別途実施。その試験の採点が100％評価となる。 【オンライン授業の場合】 上記のレポートが100％評価となります。						

科 目 名		学校保健			担当者	沢 田 真 喜 子	
英 文 名		School Health					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3			専門基礎・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE305		卒業認定方針との関連	⑨	
【目的とねらい】 学校保健安全法及び学校における保健・安全の必要性と現代的課題について理解し、地域における学校及び教職員の役割を教育の観点からとらえる資質・能力を修得することを目指す。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 学校保健安全法と学校保健の意義 【 到達目標 】 学校保健安全法と学校保健の意義について理解する。 【授業時間外学習】 「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)				第9回 学校における保健管理_免疫・アレルギー疾患 【 到達目標 】 免疫・アレルギー疾患の特徴及び学校生活管理指導表を活用した指導と対応について理解する。 【授業時間外学習】 「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)			
第2回 学校保健の制度と歴史 【 到達目標 】 学校保健の制度と歴史について理解し、学校保健行政及び組織体制について理解する。 【授業時間外学習】 「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)				第10回 学校安全の意義と管理 【 到達目標 】 学校安全の意義、学校における安全管理・安全教育について、理解する。 【授業時間外学習】 「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)			
第3回 学校における感染症予防 【 到達目標 】 学校における感染症予防について、感染症の特徴と教職員の役割について理解する。 【授業時間外学習】 「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)				第11回 事件・事故・災害時における児童生徒の心のケア 【 到達目標 】 事件・事故・災害時における児童生徒の心のケアと教職員の役割について理解する。 【授業時間外学習】 「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)			
第4回 健康の概念と学校保健 【 到達目標 】 健康の概念、健康の社会的決定要因を理解し、学校及び教職員の役割について理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)				第12回 児童生徒の心の健康課題と医療機関との連携 【 到達目標 】 児童生徒の心の健康課題と医療機関との連携のあり方について理解する。 【授業時間外学習】 「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)			
第5回 学校における健康観察 【 到達目標 】 健康観察の意義と方法、校内連携及び専門職や保護者との連携方法について理解する。 【授業時間外学習】 「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)				第13回 児童生徒のメンタルヘルスと教職員の役割 【 到達目標 】 児童生徒のメンタルヘルスと教職員の役割について理解する 【授業時間外学習】 「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)			
第6回 学校における健康診断 【 到達目標 】 児童生徒にみられる疾病・異常、現代的健康課題の特徴について理解する。 【授業時間外学習】 「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)				第14回 いじめ防止対策と教職員の責任 【 到達目標 】 いじめ防止対策に関する国の施策、学校長や教職員の責任・役割等について理解する。 【授業時間外学習】 「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)			
第7回 学校における保健管理_心臓検診 【 到達目標 】 心疾患の特徴及び学校生活管理指導表を活用した指導と対応について理解する。 【授業時間外学習】 「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)				第15回 特別に配慮を要する児童生徒への健康上の支援 【 到達目標 】 特別なニーズのある児童生徒への支援のあり方について理解する。 【授業時間外学習】 「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)			
第8回 学校における保健管理_腎臓・糖尿病検診 【 到達目標 】 腎・糖尿病疾患の特徴及び学校生活管理指導表を活用した指導と対応について理解する。 【授業時間外学習】 「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 児童生徒の健康と安全を守り高めることのできる教員としての資質や能力の修得を目指す。学校保健や学校安全に関連する法律・指針、統計資料、事例等の資料をもとに、ペアワークや課題学習を取り入れながら講義を進めていく。授業時間外の学習では、文部科学省や厚生労働省等の関連機関やニュース等から情報を収集する等、課題意識をもって学修を進めることを期待する。 オンライン授業となった場合には、オンデマンドで実施し、授業内容によってはオンライン・グループ演習も実施する。また、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の動画と補足資料とする。							
【実務経験のある教員による授業科目】 養護教諭および助産師としての実務経験を活かし、学校保健および学校安全に関する教員としての役割や、課題に対応するための実践的指導力および組織的対応力について講義を行う。							
【教科書・参考書など】 教科書は、第1回授業までに連絡し、参考書は授業時に適宜紹介する。							
【成績評価方法】 オンライン・オフライン授業ともに、各回の課題達成度（70％）、課題レポート（30％）の加重平均にて総合的に評価する。							

科 目 名		精神保健		担当者	角 田 和 也	
英 文 名		Mental Health of Adolescence				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE306		卒業認定方針との関連	⑦⑨
【目的とねらい】 昨今、「メンタルヘルス」「心の健康」という言葉を、日常生活の中でよく耳にするようになった。社会全体が個々の精神面の健康状態を以前よりも大切にしていこうとする風潮にあるとともに、不登校やうつによる自殺の増加といった現実的な問題に直面していることも背景にあると考えられる。こうした状況の中で、今日私たちが直面している自身および子どもたちの心の健康の問題について、その実態を学ぶとともに対処方法を検討していく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回　オリエンテーション／「精神保健」とは 【　到達目標　　】 (1)「精神保健」の意義を理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				第9回　生活環境と精神保健②　食生活から受ける影響 【　到達目標　　】 (1)生活環境の視点から、要因の1つである食生活の影響について理解するとともに、望ましい食生活についても理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)		
第2回　「精神的健康」と現代社会 【　到達目標　　】 (1)社会問題にもなっている「心の健康」にかかわる事象について、その実態を理解するとともにその要因について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				第10回　生活環境と精神保健③　住環境から受ける影響 【　到達目標　　】 (1)生活環境の視点から、要因の1つである住居の影響について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)		
第3回　ライフサイクルと精神保健①　出生前期に受ける影響 【　到達目標　　】 (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである出生前期の心の健康について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				第11回　生活環境と精神保健④　空気環境から受ける影響 【　到達目標　　】 (1)生活環境の視点から、要因の1つである空気環境について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)		
第4回　ライフサイクルと精神保健②　乳児期に受ける影響 【　到達目標　　】 (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである乳児期の心の健康について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				第12回　生活環境と精神保健⑤　睡眠から受ける影響① 【　到達目標　　】 (1)生活環境の視点から、要因の1つである睡眠の影響について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)		
第5回　ライフサイクルと精神保健③　幼児期に受ける影響 【　到達目標　　】 (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである幼児期の心の健康について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				第13回　生活環境と精神保健⑥　睡眠から受ける影響② 【　到達目標　　】 (1)引き続き、睡眠の影響について理解するとともに、望ましい睡眠のあり方についても理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)		
第6回　ライフサイクルと精神保健④　学童期に受ける影響 【　到達目標　　】 (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである学童期の心の健康について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				第14回　発達障がい① 【　到達目標　　】 (1)発達障がいの種類やその特徴を理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)		
第7回　ライフサイクルと精神保健⑤　思春期に受ける影響 【　到達目標　　】 (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである思春期の心の健康について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				第15回　発達障がい② 【　到達目標　　】 (1)引き続き、発達障がいの特徴を理解するとともに、発達障がい児（者）の心の健康を保持するために必要な支援・援助のあり方について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。(4.0hr)		
第8回　生活環境と精神保健①　家族から受ける影響 【　到達目標　　】 (1)生活環境の視点から、要因の1つである「家族」の質的变化について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 ①基本的には、毎回、板書の代わりにPCおよびプロジェクターを使用して授業を行います。板書に費やす時間を省略するのが主なねらいです。 ②授業内容の理解を深めることを目的とした課題レポートの作成を、授業時間外学習で課します。この作成したレポートは後日提出してもらい、評価に反映させていきます（下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します）。 ③期末試験は、授業で伝えた内容の理解度を確認するためだけではなく、その知識をもとにした実践力を問うためにも実施しています。受講の際にメモをとるだけでなく、普段からの自主的な学習・復習が単位取得には必要です。 【オンライン授業の場合】 ①オンデマンド方式で授業を実施します。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しません。 ②各授業回に音声入りパワーポイント動画を閲覧できるようにします。閲覧については、授業開始時刻に動画のリンクURLを配信し、原則として5日後の17:00まで閲覧できるようにします。 ③出席は、各授業回の提出物の提出によって確認します。						
【教科書・参考書など】 ・対面形式で実施する場合は、1回目の授業時に、本授業用に作成したテキストを販売します。受講する学生は、必ず購入してください。オンデマンド方式で実施する場合は、あらかじめテキスト（プリント）をオンライン上で配信しますので、プリントアウトをして授業に臨んでください。 ・テキストには、各回ごと、授業内容に基づいた参考文献を示してありますので、そちらを参考にしてください。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 ・提出物の評価……50％　　　　　期末試験の結果……50％ ・試験は試験期間中に別途実施します。 【オンライン授業の場合】 ・毎授業時の提出物の評価……75％　　　　　期末課題の結果……25％ ・提出物および期末課題は、クラウドシステムを活用して回収します。						

科 目 名		保健科教育法Ⅰ		担当者	助 友 裕 子	
英 文 名		Teaching Methods in Health Education Ⅰ				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DTE306		卒業認定方針との関連	⑨
【目的とねらい】 保健科教育について、その特質を理解するとともに、保健体育科教員としての資質を身につけることが目的である。本科目では、学習指導要領の位置づけや内容、指導上の留意点、学習評価の考え方についての基礎的な知識を身につけることをねらいとする。 学習指導案の作成と授業研究を通じて、授業改善の視点を身に付け、授業設計の向上に取り組むことのできる技術の習得をめざす。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 保健科教育とは（概論） 【 到達目標 】 保健科教育、健康教育の意義と方向性について理解を深める。 【授業時間外学習】 保健体育科（保健分野）ならびに科目保健を教える上で不安な点を整理しておく。（4.0hr）			第9回 教材研究Ⅱ（ICTの活用を含む） 【 到達目標 】 保健科教育と背景となる学問領域との関係性を踏まえた上で、保健の指導計画に応じた教材研究の工夫について理解を深める。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成を進める。（4.0hr）			
第2回 現代社会における健康問題および他教科等との関連 【 到達目標 】 現代の健康問題の動向と保健科教育におけるそれらの位置について考察し、発展的な学習内容について探求する。 【授業時間外学習】 中央教育審議会答申を読んでおく。（4.0hr）			第10回 保健科教育のための研究方法 【 到達目標 】 保健科教育における実践研究の動向や発展的な学習内容の事例を知り、現場ニーズに応じた保健科教育の工夫について理解を深める。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。（4.0hr）			
第3回 保健の目標と内容 【 到達目標 】 小学校、中学校、高等学校学習指導要領における保健の目標や内容の違いを理解し、全体構造を把握する。 【授業時間外学習】 中・高の学習指導要領解説の保健体育科（保健分野）と科目保健の項を読んでおく。（4.0hr）			第11回 保健の系統性と小学校の保健の授業 【 到達目標 】 中学校と高等学校の保健の基礎となる小学校の内容および指導上の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。（4.0hr）			
第4回 保健の指導計画 【 到達目標 】 指導計画作成の意義、種類、作成上の基本および指導上の留意点について理解するとともに、学習指導案の構成を理解する。 【授業時間外学習】 学習指導案で取り上げる単元の選定、教材研究を行う。（4.0hr）			第12回 中学校と高等学校の保健の授業 【 到達目標 】 個人生活と社会生活における健康・安全に関する内容および指導上の留意点について説明できる。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。（4.0hr）			
第5回 保健科教育の実際Ⅰ 【 到達目標 】 知識を活用する学習活動を通じて、生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性、保健科教育の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解する。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成、教材研究を進める。（4.0hr）			第13回 学習指導案の作成Ⅰ 【 到達目標 】 1時間の学習指導案を作成できるようにする。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。（4.0hr）			
第6回 保健科教育の実際Ⅱ 【 到達目標 】 ブレインストーミングなど具体的な指導方法を習得し、生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性、保健科教育の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解する。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成、教材研究を進める。（4.0hr）			第14回 学習指導案の作成Ⅱ 【 到達目標 】 1時間の学習指導案を作成できるようにする。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。（4.0hr）			
第7回 保健の授業学習評価 【 到達目標 】 評価の意義、局面、観点、規準などについて理解する。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成、教材研究を進める。（4.0hr）			第15回 保健の授業研究 【 到達目標 】 模擬授業の様子を観察し、授業技術のポイントを理解するとともに、発展的な学習内容を探索したり授業設計の向上に取り組むことができる。 【授業時間外学習】 授業で記入した「保健の授業研究」を復習し、模擬授業のイメージ形成を図る。（4.0hr）			
第8回 教材研究Ⅰ（ICTの活用を含む） 【 到達目標 】 保健科教育と背景となる学問領域との関係性を踏まえた上で、教材研究の目的、過程、方法について理解する。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成を進める。（4.0hr）						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 おもにパワーポイントや配布資料で要点を示し、詳細は口頭にて説明する。高い意識を持ち、毎回の授業に積極的に参加することで、将来自らが授業づくりの担い手になることへの強い認識が求められる。このことから、授業への出席が大前提となる。遅刻や無断欠席、授業中の私語は慎むことが必須である。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を原則とする。授業内容は、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料等である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一週月曜日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間掲載する。出席は、各授業回の課題提出（GoogleフォームとPhollyの併用による）によって確認する。						
【実務経験のある教員による授業科目】 行政や公的機関等における公衆衛生学・健康教育に関する講義・講演等の活動経験のある教員が、保健科教育の具体的な指導方法、授業づくり、評価などについて、学習指導要領に基づき基礎的な知識について講義を行う。						
【教科書・参考書など】 「保健科教育法（改訂版）」森良一編著（東洋館出版社）2020年、「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」（最新版）文部科学省 「中学校学習指導要領解説 保健体育編」（最新版）文部科学省、中学校と高等学校で使用した保健の教科書を各自準備する。このほかに適宜資料を配布する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】原則として、定期試験の結果に授業中の課題達成度（1.0～0.0）を乗じた結果を評価点とする。合格基準は60％である。 【オンライン授業の場合】各授業回の課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに、全授業回終了時点で確認課題の実施と学習指導案の提出をもって評価する。各授業回の総合評価と確認課題の達成度（0～100％）に、学習指導案の課題達成度（1.0～0.0）を乗じた結果を評価点とする。合格基準は60％である。						

科 目 名		体育科教育法Ⅱ			担当者	須 甲 理 生	
英 文 名		Teaching Methods in Physical Education Ⅱ					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3			専門基礎・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DTE309			卒業認定方針との関連	⑨
【目的とねらい】 本講義では、保健体育科における、中学校体育分野、高等学校科目体育に関する目標・内容・方法を総合的に学んでいく。具体的には、講義、体育授業のVTR視聴、模擬授業、指導案作成等を通して、学校体育が置かれている現状をはじめとして、生徒にとって意味のある「良い体育授業」を計画、実践するための基礎的知識と技術を習得することがねらいとなる。また、模擬授業の反省会等を通して、授業改善や教師としての実践的力量を高めるための体育授業の効果的な反省方法も習得していく。これらの学習を通して、「授業で勝負することのできる保健体育教師」、「学び続けることのできる保健体育教師」という教師観の確立を目指す。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 体育の授業づくり論(1)：単元計画、指導案の作成手順(1) 【 到達目標 】 (1)単元計画及び指導案作成の原理、原則を理解する。 【授業時間外学習】 学習指導案作成の意義や方法について予習・復習する。(4.0hr)				第9回 模擬授業の反省会(3) 【 到達目標 】 (1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。 (2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。 【授業時間外学習】e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)			
第2回 体育の授業づくり論(2)：単元計画、指導案の作成手順(2) 【 到達目標 】 (1)単元計画及び指導案作成の手続きを理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 学習指導案作成の意義や方法について予習・復習する。(4.0hr)				第10回 模擬授業の反省会(4) 【 到達目標 】 (1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。 (2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。 【授業時間外学習】e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)			
第3回 体育の授業づくり論(3)：教材づくりの視点 【 到達目標 】 (1)教材づくりの視点を理解し、具体的に説明できる。 【授業時間外学習】学習指導案における授業の明確な目標を設定し、その目標達成のための教材を計画する。(4.0hr)				第11回 模擬授業の反省会(5) 【 到達目標 】 (1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。 (2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。 【授業時間外学習】e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)			
第4回 体育の授業づくり論(4)：指導と評価の一体化 【 到達目標 】 (1)指導計画への評価の組み込み方を理解する。 【授業時間外学習】 具体的な指導と評価の計画を立てる。(4.0hr)				第12回 優れた実践に学ぶ(1)：体育授業VTRの視聴と解説(1) 【 到達目標 】 (1)優れた体育授業のVTRから、効果的な指導のポイントをあげることができる。 【授業時間外学習】 模擬授業と優れた授業実践を比較し、自身の課題について考察する。(4.0hr)			
第5回 体育の授業づくり論(5)：単元計画、指導案、教材・教具の作成(1) 【 到達目標 】 (1)適切な計画を立てるためにグループ内で積極的に討論できる。 【授業時間外学習】 グループ内で議論しながら学習指導案を作成する。(4.0hr)				第13回 優れた実践に学ぶ(2)：体育授業VTRの視聴と解説(2) 【 到達目標 】 (1)優れた体育授業のVTRから、効果的な教材・教具について説明できる。 【授業時間外学習】 模擬授業と優れた授業実践を比較し、自身の課題について考察する。(4.0hr)			
第6回 体育の授業づくり論(6)：単元計画、指導案、教材・教具の作成(2) 【 到達目標 】 (1)グループ内で適切な計画を立てることができる。 【授業時間外学習】 グループ内で議論しながら学習指導案を作成する。(4.0hr)				第14回 体育授業の存在意義 【 到達目標 】 (1)体育授業の存在意義について説明できる。 【授業時間外学習】 体育授業の存在意義について考察する。(4.0hr)			
第7回 模擬授業の反省会(1) 【 到達目標 】 (1)模擬授業の観察データから授業の改善点を説明できる。 【授業時間外学習】e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)				第15回 スポーツ基本法、スポーツ基本計画、スポーツ立国戦略からみた体育授業 【 到達目標 】 (1)我が国のスポーツ政策における体育授業の位置付けを理解する。 【授業時間外学習】 我が国のスポーツ政策における体育授業の位置付けを理解する。(4.0hr)			
第8回 模擬授業の反省会(2) 【 到達目標 】 (1)模擬授業の観察データから授業の改善点を説明できる。 【授業時間外学習】e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 教育実習において、学校現場の生徒に少なからぬ影響を与えることを十分に自覚し、教職免許を取るのにふさわしい態度で講義に臨むこと。毎回の講義は相互に関連しているので、講義内容について集中してノートを取り、予習・復習を行っていくことが必要になる。指導案作成、模擬授業、テスト、レポートにも積極的に取り組むことが大切である。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。その場合においても、対面での授業内容から大幅に変更はしない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。授業動画・資料は、Google Drive上にアップし、そのURLをポータル配信する。出席は、各授業回の出席レポート（授業動画・資料配信日の1週間後までにGoogle Form等に必要事項を記入して送信する）にて確認する。							
【教科書・参考書など】 岡出美則 他 編著『体育科教育学入門 三訂版』大修館書店（2020年） 文部科学省『中学校学習指導要領解説－保健体育編－』（2018年）東山書房 文部科学省『高等学校学習指導要領解説－保健体育編／体育編－』（2019年）東山書房							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 模擬授業や指導案作成等のグループによる活動の課題達成度と提出物20％、テスト80％として評価する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の課題30％、期末の指導案等の課題70％として評価する。							

科 目 名		舞踊音楽演習（ヴォイス・トレーニング）		担当者	辛 島 安 妃 子	
英 文 名		Seminar in Dance Music（Voice Training）				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択			
授業形態	演習	科目ナンバー	DBE308		卒業認定方針との関連	⑥⑦
【目的とねらい】 呼吸法や正しい姿勢、体のしくみを理解しながら発声法を学び、舞台上通る歌声を習得していくことを目的とする。基礎となる声楽教本を用い、併せてオペラ、ミュージカルや世界各国の名曲を取り上げ、応用として観客に伝えるための表現法を学ぶ。授業内で発表することにより実践力も身につける。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 声と体のしくみについて 【 到達目標 】 歌は全身運動である。声と体のしくみを理解する。			第9回 映画音楽、オペラなどいろいろなジャンルの名曲を歌う② 【 到達目標 】 こどもの歌から映画音楽、シャンソンなどあらゆる世代に長く愛されている名曲を歌う。またオペラとミュージカルの違いについて学ぶ。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をすること。（4.0hr）			【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。（4.0hr）			
第2回 発声法と発声練習について 【 到達目標 】 腹式呼吸や声を響かせる方法を学ぶ。			第10回 ミュージカルの名曲を歌う① 【 到達目標 】 ミュージカルの名曲を日本語、英語で歌う。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。（4.0hr）			【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。（4.0hr）			
第3回 コールユーブンゲン・コンコーネを歌う 【 到達目標 】 声楽教本でリズムや音程、フレーズ感について学ぶ。			第11回 ミュージカルの名曲を歌う② 【 到達目標 】 動きながら歌う方法について学ぶ。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。（4.0hr）			【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。（4.0hr）			
第4回 合唱・重唱（日本の名曲） 【 到達目標 】 合唱または重唱で日本歌曲を歌う。			第12回 発表会（本番）に向けてのプランニングについて 【 到達目標 】 グループごとに発表会の立案、計画、準備をする。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。（4.0hr）			【授業時間外学習】 発表会に向けて歌と台詞読みの練習をすること。（4.0hr）			
第5回 合唱・重唱（世界の名曲） 【 到達目標 】 合唱または重唱で世界各国の歌曲を歌う。			第13回 グループごとの演目準備① 【 到達目標 】 グループごとに発声を確認しながら練習する。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。（4.0hr）			【授業時間外学習】 発表会に向けて歌と台詞読み、演技の練習をすること。（4.0hr）			
第6回 独唱（日本・世界の名曲） 【 到達目標 】 発声法を踏まえ名曲の独唱を試みる。			第14回 グループごとの演目準備② 【 到達目標 】 グループごとに作品の内容を理解し、表現工夫をする。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。（4.0hr）			【授業時間外学習】 発表会に向けて歌と台詞読み、演技の練習をすること。（4.0hr）			
第7回 イタリア歌曲を歌う 【 到達目標 】 イタリア語の読みや歌詞の意味を理解し、表現法を学ぶ。			第15回 発表会 【 到達目標 】 観客の前で演じることで実践力を養う。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。（4.0hr）			【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をすること。（4.0hr）			
第8回 映画音楽、オペラなどいろいろなジャンルの名曲を歌う① 【 到達目標 】 こどもの歌から映画音楽、シャンソンなどあらゆる世代に長く愛されている名曲を歌う。またオペラとミュージカルの違いについて学ぶ。						
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。（4.0hr）						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 ソーシャルディスタンス、消毒、感染を徹底し新型コロナウイルス感染防止に留意しながら対面方式で行う。歌もスポーツと同じでなるべく毎日練習し発声することで筋肉の動きを習得することができる。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業となった場合は、授業前に都度指示する。						
【教科書・参考書など】 その都度、楽譜を配布する。						
【成績評価方法】 【対面授業・オンライン授業共通】 授業内での実技および授業内発表における演奏60％、授業における課題達成度40％で評価する。						

科 目 名		新体操		担当者	橋 爪 み す ず	
英 文 名	Rhythmic Gymnastics					
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBE110		卒業認定方針との関連	⑦⑨
【目的とねらい】 新体操は手具の操作をしながら、徒手要素（ジャンプ・バランス・ローテーション）を組み合わせることが必須とされている。本授業では、手具と徒手要素の基礎について学び、身体の動きと手具操作の調和を音楽と一緒に実践する。また、音楽のリズムを感じ、流動的な動きの中に豊かな表現力や手具技術の習得を目指す。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 授業展開とねらい、評価方法・学習上の留意点について理解する。 新体操の概要を理解する。 【授業時間外学習】 新体操に関する書籍を読み、理解を深める。（1.0hr）				第9回 ボール：徒手要素と手具操作 【 到達目標 】 身につけた徒手要素（ジャンプ・バランス・ローテーション）とボールの手具操作を組み合わせ実践できる。 【授業時間外学習】 ボールの基礎技術要素を調べておく。（1.0hr）		
第2回 新体操の特性 【 到達目標 】 新体操に必要な柔軟性・バランス・調整力・筋力などを高める。 【授業時間外学習】 新体操の体力トレーニングについて調べておく。（1.0hr）				第10回 ボール：音楽との調和 【 到達目標 】 徒手要素とボールの手具操作との組み合わせをフレーズにし、音楽のリズムに合わせて実践できる。 【授業時間外学習】 メディア等を活用し、ボールの基礎技術について理解を深める。（1.0hr）		
第3回 新体操の基礎運動① 【 到達目標 】 正しい基本姿勢および柔軟な動き・バランスを実践し、基礎技術を身につける。 【授業時間外学習】 新体操の基礎的要素（柔軟・バランス）について理解を深める。（1.0hr）				第11回 ボール：フレーズの組み立て 【 到達目標 】 曲調に合ったステップや動きを取り入れながら、フレーズを実践できる。 【授業時間外学習】 メディア等を活用し、ボールの基礎技術について理解を深める。（1.0hr）		
第4回 新体操の基礎運動② 【 到達目標 】 正しい基本姿勢およびジャンプ・ローテーションを実践し、基礎技術を身につける。 【授業時間外学習】 新体操の基礎的要素（ジャンプ・ローテーション）について理解を深める。（1.0hr）				第12回 ボール：実技課題の実践① 【 到達目標 】 身につけたフレーズを音楽に合わせ、作品を実践できる。 【授業時間外学習】 実技課題の評価と反省を行い、問題点を抽出する。（1.0hr）		
第5回 フープ：基本操作の実践 【 到達目標 】 回す、くぐる、転がす、投げるなどの基本操作からフープの特性を理解する。 【授業時間外学習】 フープの特性を調べておく。（1.0hr）				第13回 ボール：実技課題の実践② 学習方法の理解 【 到達目標 】 手具操作と身体の動きが明確になり、技術を習得できる。 【授業時間外学習】 実技課題の評価と反省を行い、問題点を抽出する。（1.0hr）		
第6回 フープ：徒手要素と手具操作 【 到達目標 】 身につけた徒手要素（ジャンプ・バランス・ローテーション）とフープの手具操作を組み合わせ実践できる。 【授業時間外学習】 フープの基礎技術要素を調べておく。（1.0hr）				第14回 ボール：実技課題の実践③ 【 到達目標 】 音楽と体のリズムに合わせたタイミングの良い手具操作を身につけながら、動きのつながりがスムーズになるよう、更に実践を重ねる。 【授業時間外学習】 実技課題の評価と反省を行い、問題点を抽出する。（1.0hr）		
第7回 フープ：音楽との調和 【 到達目標 】 徒手要素とフープの手具操作との組み合わせをフレーズにし、音楽のリズムに合わせて実践できる。 【授業時間外学習】 メディア等を活用し、フープの基礎技術について理解を深める。（1.0hr）				第15回 ボール：作品の発表 【 到達目標 】 作品の発表を行う。 【授業時間外学習】 実技課題の評価と反省を行い、修正すべき点を検討する。（1.0hr）		
第8回 ボール：基本操作の実践 【 到達目標 】 突く、転がす、投げるなどの手具の基本操作から、ボールの特性を理解する。 【授業時間外学習】 ボールの特性を調べておく。（1.0hr）						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 服装・身だしなみは実習にふさわしいものとし、フォームの見えにくい服装は避けるようにする。（パーカー・スウェットは着用しない） 各授業回のねらいを理解できるようパワーポイントや映像を用いて具体的説明を加える。1種目の実技試験を行い、さらに授業内容に関するレポートを作成し、理解度の確認を行う。結果は授業時に解説しフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは変更せず、各自ができる範囲で課題に取り組むこととする。資料として音声入りパワーポイント動画と新体操映像を用いて配信する。配信は授業日の朝8時半に配信し、1週間掲載する。オンデマンド方式の出席確認は、各授業回ごとに課題をPhollyにて配信し、期日内の提出を以って出席とする。						
【教科書・参考書など】 教科書の指定はなし。 必要に応じて、プリント教材を配布します。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 実技試験70％、レポート30％とし、あわせて100％として評価する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の課題を毎回評価し、授業終了時点で総合的に評価する。さらに全授業終了時点でのまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を70％、まとめのレポート評価を30％、あわせて100％として評価する。						

科 目 名		フォークダンス		担当者	山 梨 雅 枝	
英 文 名		Folk Dance				
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBE111		卒業認定方針との関連	⑦
【目的とねらい】 本科目では、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きを通じて仲間と踊る楽しさを体得しながら、指導法も習得する。グループに分かれて新しいフォークダンスを創作し、発表する。生涯ダンスや舞踊教育の指導に役立てる。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション（授業展開・ねらい・評価方法・調査） 【 到達目標 】 授業展開、ねらい、評価方法の説明、フォークダンスの経験調査を行う。				第9回 各国のフォークダンスの習得⑥ 【 到達目標 】 各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。		
【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。（1.0hr） 第2回 フォークダンスの基本、学習指導要領の位置づけ 【 到達目標 】 フォークダンスの基本や学習指導要領の位置づけについて学ぶ。				【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。（1.0hr） 第10回 各国のフォークダンスの習得⑦ 【 到達目標 】 各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。		
【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。（1.0hr） 第3回 基本的なステップの習得 【 到達目標 】 フォークダンスの基本的なステップを学び習得する。				【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。（1.0hr） 第11回 フォークダンス①～⑦の復習 【 到達目標 】 これまで学んだフォークダンスを復習し、知識や技術を身につける。		
【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。（1.0hr） 第4回 各国のフォークダンスの習得① 【 到達目標 】 各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。				【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。（1.0hr） 第12回 グループに分かれて、新しいフォークダンスの創作① 【 到達目標 】 グループに分かれて、自分たちのフォークダンスをつくる。		
【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。（1.0hr） 第5回 各国のフォークダンスの習得② 【 到達目標 】 各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。				【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。（1.0hr） 第13回 グループに分かれて、新しいフォークダンスの創作② 【 到達目標 】 グループに分かれて、自分たちのフォークダンスをつくる。		
【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。（1.0hr） 第6回 各国のフォークダンスの習得③ 【 到達目標 】 各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。				【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。（1.0hr） 第14回 作品発表、みんなで踊るⅠ 【 到達目標 】 作品を発表し、発表者自身が動きを指導してみんなで踊る。		
【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。（1.0hr） 第7回 各国のフォークダンスの習得④ 【 到達目標 】 各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。				【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。（1.0hr） 第15回 作品発表、みんなで踊るⅡ 【 到達目標 】 作品を発表し、発表者自身が動きを指導してみんなで踊る。		
【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。（1.0hr） 第8回 各国のフォークダンスの習得⑤ 【 到達目標 】 各国のフォークダンスのステップや動きを習得する。				【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。（1.0hr）		
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 既存のフォークダンスやレクリエーションダンスは、ステップや音の取り方に注意して正確に踊れるようにする。創作フォークダンスでは、男女を意識したステップで、各グループで対象年齢を設定して創作する。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式によるフォークダンスの知識に関する授業を、単元全体の30％実施する。資料として、音声入りパワーポイント動画と資料を配信する。次に、オンデマンド方式による実技課題の自習による授業を、時間全体の60％実施する。資料として、学習内容となる技能や運動に関する動画並びに参考資料を配信する。残りの10％は、リアルタイム方式のフォークダンスについての講義・質疑応答を行う。動画は、各授業回の週の月曜日9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、その週の金曜日17:00まで掲載する。オンデマンド方式の授業回の出席確認は、各授業回の学習報告書（所定の様式）の提出（メール）、実技に関しては自習中の一部の様子を撮影した動画（15分程度）の提出によって行う。						
【教科書・参考書など】 指定なし。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 既存のフォークダンスを覚えて踊る実技試験を50％とし、ねらいに応じた創作フォークダンスの実技と授業内容記録紙を50％とする。 【オンライン授業の場合】 各授業回の提出された動画並びに学習報告書を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに、全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60％、まとめのレポート評価を40％とし、あわせて100％として評価する。合格基準は60％である。						

科 目 名		柔道		担当者	佐藤 雄哉・瀧本 誠	
英 文 名		Judo				
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBE113		卒業認定方針との関連	⑨
【目的とねらい】 スポーツ種目の一つである柔道の基礎技能（受身の仕方、投げ技、固め技など）を習得する。併せて柔道の歴史的発展についての知識も学習する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション（授業展開について） 【 到達目標 】 授業の全体像を把握する。			第9回 受身試験 【 到達目標 】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。			
【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。（1.0hr）			【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。（1.0hr）			
第2回 柔道の基本動作、受身（後受身）、固め技（袈裟固、乱取） 【 到達目標 】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。			第10回 投げ技（大腰）、固め技（関節技、乱取） 【 到達目標 】 投げ技・固め技の理論を理解し、正確な動作を習得する。			
【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。（1.0hr）			【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。（1.0hr）			
第3回 受身（横受身・前回受身）、固め技（袈裟固の逃れ方、乱取） 【 到達目標 】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。			第11回 投げ技（払い腰、約束練習）、固め技（絞め技、乱取） 【 到達目標 】 投げ技・固め技の理論を理解し、正確な動作を習得する。			
【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。（1.0hr）			【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。（1.0hr）			
第4回 受身（前回受身）、固め技（崩れ袈裟固め、横四方固、乱取） 【 到達目標 】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。			第12回 投げ技（体落とし、約束練習）、固め技（様々な姿勢での攻防、乱取）Ⅰ 【 到達目標 】 基本動作を用いて相手の動きに応じた攻防ができる。			
【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。（1.0hr）			【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。（1.0hr）			
第5回 投げ技の基本動作（姿勢、組み方、進退動作、崩し一作り一掛け）、投げ技（膝車） 【 到達目標 】 基本動作を理解し、正確な動作を習得する。			第13回 投げ技（連絡技、乱取）、固め技（様々な姿勢での攻防、乱取）Ⅱ 【 到達目標 】 基本動作を用いて相手の動きに応じた攻防ができる。			
【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。（1.0hr）			【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。（1.0hr）			
第6回 投げ技（膝車、小内刈）、固め技（上四方固、乱取） 【 到達目標 】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。			第14回 試験（投げ技、固め技） 【 到達目標 】 正確な動作を身につけ、柔道に関して理解する。			
【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。（1.0hr）			【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。（1.0hr）			
第7回 投げ技（大外刈り、背負投）、固め技（縦四方固、乱取） 【 到達目標 】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。			第15回 簡易な試合 【 到達目標 】 柔道全般を理解する。			
【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。（1.0hr）			【授業時間外学習】 参考書と学習指導要領を用いて指導法の理解を深める。（1.0hr）			
第8回 投げ技（釣込腰、払腰）、固め技（各種抑え技の逃れ方、乱取） 【 到達目標 】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。						
【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。（1.0hr）						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 安全面に留意する。授業の際は、集中して取り組むこと。また、「何故？」という課題、疑問を持って授業に参加すること。 状況に応じて映像教材や資料を提示し、論理的な技術体系の解説を施しながら柔道に対する理解を深めていく。本講義を理解するためには、感覚的な技術の習得と併せて、論理的な技術体系の理解が重要である。レポートや理解度確認テストを通して明らかとなった課題を解説、フィードバックし、課題の解決に取り組むことが求められる。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に自習し取り組むこととする。配信される資料は、学習内容となる技能や運動に関する動画と自習をサポートするための資料である。配信は、本来の各授業回が予定されている日程に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、その後一週間掲載する。出席の確認は、毎授業の課題提出により行う。						
【教科書・参考書など】 授業に必要な資料は、その都度配布することとする。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】出席状況（60％）と試験（40％）で評価する。 【オンライン授業の場合】各授業回の課題提出を、授業終了時点で総合的に評価する。さらに、全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60％、まとめのレポート評価を40％とし、あわせて100％として評価する。合格基準は60％である。						

科 目 名	表現運動学			担当者	宮 本 乙 女	
英 文 名	Dance Movement Studies					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DMR101		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【目的とねらい】

舞踊表現における主要な技能である「踊る」「創る」「観る」のそれぞれの特徴や構造、また相互の有機的連関について認識を深める。また、舞踊における身体やダイナミックイメージとしての舞踊運動の特性についても理解を深め、舞踊活動を豊かに展開するための基礎認識を形成することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第1回 オリエンテーション、ダンスとは何か 【 到達目標 】 ダンスとはどのように定義されているのか、先行文献から学ぶと共に自分にとってダンスとは何なのかを考察する。 【授業時間外学習】 ダンスの定義について検索してみる。(4.0hr)	第9回 「ダンスの構造」その3 「群」の表現性 【 到達目標 】 「群」という視点で、ダンスの動きを考える。舞踊作品をその視点から考察する。 【授業時間外学習】 ダンス以外の表現についても群の効果という視点から検討する。(4.0hr)
第2回 ダンスの歴史、種類、舞踊における動きとは 【 到達目標 】 ダンスの発生の歴史や種類について理解する。ダンスの動きの構造を、時間、空間、力の面から把握する。 【授業時間外学習】 自分のこれまで体験したダンスを時間、空間、力の面から見直す。(4.0hr)	第10回 「踊る・創る・観る」その1 創る…仮定期 【 到達目標 】 舞踊の「踊る」「創る」「観る」の3つの技能特性を理解する。創る活動の、仮定期の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 仮定期のブレインストーミングを参考に、自分の作舞体験を当てはめてみる。(4.0hr)
第3回 「人間発達と表現運動」その1 幼児～小学生 【 到達目標 】 幼児期から小学校期の舞踊運動とイメージについて理解する。学習指導との関連も理解する。 【授業時間外学習】 人間の発達と表現運動について、自分の舞踊歴、学習歴と比較して考察する。(4.0hr)	第11回 「踊る・創る・観る」その2 創る…仮定期から探索期へ 【 到達目標 】 創る活動の、探索期の特徴を理解する。探索期にどのような指導の手立てが必要かを考察する。 【授業時間外学習】 教育現場を想定して、探索期の指導を検討する。(4.0hr)
第4回 「人間発達と表現運動」その2 中学生～大学生 【 到達目標 】 中学、高校、大学期の舞踊運動とイメージについて理解する。学習指導との関連も理解する。 【授業時間外学習】 人間の発達と表現運動について、自分の舞踊歴、学習歴と比較して考察する。(4.0hr)	第12回 「踊る・創る・観る」その3 創る…探索期から達成期へ 【 到達目標 】 創る活動の、達成期の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 達成期としてのリハーサルや、仕上げ、場当たりの意味を考察する。(4.0hr)
第5回 表現運動と男性・女性 【 到達目標 】 様々な舞踊作品の中で、男女がどのように表現されているかを学ぶ。 【授業時間外学習】 授業で視聴したダンス作品以外で男性、女性がどのように表現されているかを考察する。(4.0hr)	第13回 「踊る・創る・観る」その4 踊る…リズムを考える 【 到達目標 】 人間の体とリズム、間のリズムなど、リズムを切り口に文献を読み解きながら、理解する。 【授業時間外学習】 配付された文献の残りの部分を読んで考察を深める。(4.0hr)
第6回 ダンス教育とジェンダー 【 到達目標 】 人間の性のとらえ方、ダンス教育におけるジェンダーについて考察する。 【授業時間外学習】 自分の体験した学校教育の中でジェンダーの視点から課題となる事柄を考察する。(4.0hr)	第14回 「踊る・創る・観る」その5 観る…鑑賞と評価 【 到達目標 】 舞踊を鑑賞することと、評価することについて理解する。 【授業時間外学習】 どんな動きがダンスの良い動きなのかを自分なりに説明できるようにする。(4.0hr)
第7回 「ダンスの構造」その1 運動の変化と連続 【 到達目標 】 「対極の動きの連続」という視点で、ダンスの動きを考える。自身の体験した舞踊作品をその視点から考察する。 【授業時間外学習】 授業で扱った以外の作品について対極の動きの連続を考察する。(4.0hr)	第15回 舞踊表現の特性 【 到達目標 】 授業全体を振り返り、舞踊表現の特性を確認する。踊り手としての心構えを論じた古典に触れる。 【授業時間外学習】 15回の授業プリントをもう一度整理して内容の理解を深める。(4.0hr)
第8回 「ダンスの構造」その2 運動の質と表現性 【 到達目標 】 舞踊の動きの質と、そこから引き起こされる感情価、情調について考察する。 【授業時間外学習】 ダンス作品の感想や批評文などを収集し、どんな言葉で書かれているかを検討する。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

【対面授業の場合】授業では、文献や、映像資料なども使用しながら進めていく。各自の舞踊活動と結びつけ、毎回の授業で展開される内容を積み重ねて舞踊の動きや身体についての理解を深めるようにする。クラス内討論や、グループ討論を行い、相互評価によるフィードバックを行いながら、より理解を深めていくので課題や討論などに積極的に取り組んでほしい。学習カードにより毎時間の小課題に取り組むが、次の時間に解説をしてフィードバックする。

【オンライン授業の場合】授業はオンデマンド方式の授業を行う。授業内容は、回数が減った場合でも大幅には変更しない。配信資料は各授業回の音声・動画入りパワーポイント動画及び、ワークシートである。配信は対面授業のスケジュールに従い、授業当日の9:00までにポータルサイトのGoogleドライブにアップし、4日後の9時まで掲載する。各授業回の課題レポートの提出をPhollyを用いて行い、出席の確認とする。

【実務経験のある教員による授業科目】

中学校教諭（保健体育）としての実務経験を活かし、舞踊表現の基礎である踊る・創る・観る、それぞれの特徴の理解と、発達段階の特性と舞踊などについて、舞踊活動を豊かに展開するための基礎認識を形成することを目的に講義を行う。

【教科書・参考書など】

毎時間、レジュメと資料を配付して授業を行う。

【成績評価方法】

【対面授業の場合】毎回の授業の課題達成度（授業内ミニレポート）及び授業内討論での発言内容、活動内容30％、期末試験70％として評価する。試験は、試験期間中に別途実施する。合格基準は60％である。

【オンライン授業の場合】毎回の授業後に提出する課題レポートの達成度を総合的に評価する。合格基準は60％である。

科 目 名		舞踊学原論		担当者	八 木 あ り さ	
英 文 名		The Principles of Dance Study				
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別		専門・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DMR102		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧
【目的とねらい】 歴史的・地域的に多様な展開を示す「舞踊」を系統的にとらえ、その人間生活に対する意義・役割・機能を考える。舞踊の、教育や芸術などにおける位置づけ、演劇や音楽などの近接領域との関係を理解し、「舞踊学」の理論的側面と実践的側面の概観を得る。また、舞踊学専攻での自らの学修、さらには今後の「舞踊」の姿に関する展望を得る。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 日常における運動表現と舞踊 【 到達目標 】 日常にみられる表出や、再現、表現運動と舞踊のつながり、差異を理解する。			第9回 近代舞踊革命とモダンダンス 【 到達目標 】 19世紀末にバレエを否定して起こった新しい舞踊の考え方と作品、その影響を理解する。 イサドラ・ダンカン、ロイ・フラー、ルース・セント・デニスなどの活動を知る。			
【授業時間外学習】 シラバスのなかで不明な語句をリストアップし、辞典などを参照して語の意味を理解しておく。(4.0hr)			【授業時間外学習】 これまでに授業内で指定された内容の小論文を作成し提出する。(4.0hr)			
第2回 舞踊の分類（1）運動の特徴を中心に 【 到達目標 】 舞踊の起源をたどりながら、舞踊の基本的運動の特徴を整理して具体例とともに理解する。			第10回 ドイツ表現主義舞踊 【 到達目標 】 ドイツを中心とする表現主義舞踊の展開を理解する。 ルドルフ・ラバン、ダルクローズ、デルサルトル、マリー・ウィグマン、グレート・バルッカらの活動とその影響を知る。			
【授業時間外学習】 日本以外の民族・地域で伝承されている舞踊について、その由来と特徴を調べる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 進んだ学習Aの課題である二つの文章を読んで感想を書く。(4.0hr)			
第3回 舞踊の分類（2）社会的機能を中心に 【 到達目標 】 多様に展開する舞踊を、社会的機能から、祭儀性の舞踊、遊戯性の舞踊、審美性の舞踊などに分類し、具体例とともに特徴を理解する。			第11回 アメリカにおけるモダンダンスの確立と展開 【 到達目標 】 アメリカにおけるモダンダンスの確立と展開を理解する。 グラハム、ホートン、リモンなどの提起した表現技術の考え方を理解する。			
【授業時間外学習】 日本で伝承されている舞踊を2つ選び、その由来と特徴を調べ比較する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 ヴィグマン、グラハムの作品をそれぞれ一つ選び、主題や動きの特徴に注目した作品解説を書く。(4.0hr)			
第4回 中世文化と舞踊 【 到達目標 】 中世に庶民の間で踊られていた舞踊の特徴と、社会状況との関連を理解する。 村民と流浪民の存在、芸能集団の始まりなどについて理解する。			第12回 人間や社会の理解の変化とポスト・モダンダンスの出現 【 到達目標 】 1960年代からアメリカで起こったダンスの主張とその波及状況を理解する。			
【授業時間外学習】 歴史の教科書や年表などで、日本やヨーロッパの「中世」という時代の特徴を概観する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 コンタクトインプロヴィゼーションの起源について調べる。(4.0hr)			
第5回 宮廷文化とバレエ 【 到達目標 】 バレエが発祥し、フランスを中心に支配層の保護のもとに次第に発展していく過程を理解する。			第13回 日本のポスト・モダンダンス「暗黒舞路」 【 到達目標 】 社会に対して思想を発信する仕掛けとしてのダンスの可能性を知る。 舞踊における自文化・異文化の交流とグローバル化について理解する。			
【授業時間外学習】 これまでに授業内で指定された内容の小論文を作成し提出する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 「未来のダンス」と題して800字程度の小論文を作成する。(4.0hr)			
第6回 日本の伝統芸能の成熟 【 到達目標 】 外来文化と在来芸能が融合して伝統芸能としての位置づけを確立してゆく経緯と、その代表といえる「猿楽」「歌舞伎」の特徴を理解する。			第14回 「いま ここ」を生きる人のコンテンポラリーダンス 【 到達目標 】 ボーダレスとなってきた舞踊と周辺領域の関係を見ながら、現代社会における舞踊の価値について理解する。			
【授業時間外学習】 能と歌舞伎それぞれの代表的作品一つずつについて調べ、作品解説を書く。(4.0hr)			【授業時間外学習】 各自にとって最も価値の高いと考えるダンス作品を紹介する資料を作成する。(4.0hr)			
第7回 バレエの革新 【 到達目標 】 ロシアでのクラシックバレエの確立と、バレエ内部から起こった革新を理解する。			第15回 Dance for All 【 到達目標 】 「理解度確認」の中で、歴史的観点並びに行動タイプの観点から、人間・社会とダンス・舞踊の関わりについて理解し、適切な説明ができる。			
【授業時間外学習】 ニジンスキーが振り付けた作品のうち一つを選び、作品解説を書く。(4.0hr)			【授業時間外学習】 15回の学習を経て形成された各自の「ダンスの定義」を記述できる。(4.0hr)			
第8回 日本における西洋舞踊の受容 【 到達目標 】 明治維新とともに欧米文化を導入しようとした日本の状況と、そこでの舞踊の受け止められ方や実践状況を理解する。						
【授業時間外学習】 日本の「お稽古場」文化は独特だと言われる。例えばフランスやイギリスと比べて、ダンスの専門教育がどう異なるということか調べて、考察する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、社会状況によって授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の講義ガイド、音声入りパワーポイント動画と、具体的例証を確認しながら理解を深めるための副教材動画である。配信は、学生支援課教務・修学担当から提示される週間スケジュールに従い、同一曜日の午前9時から5日間、本学ポータルサイトのGoogle Drive上に掲示する。出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。各授業回の復習課題提出時に質問を受け付け、次の授業冒頭でフィードバックを行う。指定した回には、指定された方法で授業時間外学習の成果を提出する。最終回で総合的な理解度の確認を行う。						
【教科書・参考書など】 適宜、資料を配布する。						
【成績評価方法】 定期試験期間中に試験を実施する。社会状況によって対面式の定期試験を実施しない場合には、オンライン形式で試験を実施する。 授業時間外学習の成果(25%)と授業内の復習課題達成度(25%)、最終的に確認された理解度の状況(50%)を併せて成績評価する。						

科 目 名		シアターダンステクニック		担当者	坂 本 秀 子	
英 文 名		Theater Dance Technique				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門・必修		
授業形態	演習	科目ナンバー	DMR103		卒業認定方針との関連	⑥
【目的とねらい】 劇場は、照明などで演技がくっきりと浮き出て見えるように設計されていて、日常の空間とは異なった様相を帯びている。従って、稽古場や体育館で踊る場合とは異なり、プロフェッショナルの常識のようなものが存在する。それを学ぶのが、この講座である。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 作品の説明とビデオ鑑賞（作品A） 【 到達目標 】 作品のおおまかなイメージをつかむ。 【授業時間外学習】 全体のイメージトレーニングを行う。（4.0hr）			第9回 踊って批評を受ける、互いに問題点を発見しあう② 【 到達目標 】 少人数ずつ踊り、アドバイスを受ける。仲間の踊りを鑑賞することで、新たな課題を発見する。 【授業時間外学習】 新たな課題を発見し、イメージを膨らませる。（4.0hr）			
第2回 振りを学ぶ① 【 到達目標 】 基本テクニックに留意しながら、明確に覚える。 【授業時間外学習】 振りの順番を確認する。（4.0hr）			第10回 作品の説明とビデオ鑑賞、振りを学ぶ（作品C） 【 到達目標 】 作品のおおまかなイメージをつかむ。基本テクニックに留意しながら、明確に覚える。 【授業時間外学習】 全体のイメージトレーニングを行う。（4.0hr）			
第3回 振りを学ぶ② 【 到達目標 】 細かい部分のチェックもしながら、振りを覚える。 【授業時間外学習】 特に注意された箇所を思い出しておく。（4.0hr）			第11回 振りを学ぶ③ 【 到達目標 】 細かい部分のチェックもしながら、振りを覚える。 【授業時間外学習】 振付の復習。（4.0hr）			
第4回 振りを学ぶ③ 【 到達目標 】 全体を通して踊ることで、気持ちの流れやエネルギーの配分についても、研究する。舞台の使い方を意識して、通し練習する。 【授業時間外学習】 全体のイメージトレーニングを行う。（4.0hr）			第12回 振りを学ぶ④ 【 到達目標 】 全体を通して踊ることで、気持ちの流れやエネルギーの配分についても、研究する。舞台の使い方を意識して通し練習する。 【授業時間外学習】 全体の流れを感じ、イメージを膨らませる。（4.0hr）			
第5回 踊って批評を受ける、互いに問題点を発見しあう① 【 到達目標 】 少人数ずつ踊り、アドバイスを受ける。仲間の踊りを鑑賞することで、新たな課題を発見する。 【授業時間外学習】 新たな課題を確認し、イメージを膨らませる。（4.0hr）			第13回 踊り込み、吟味 【 到達目標 】 何回も通して練習し、動きの集中力を強化していく。客席からの見え方と演者の意識の相違について考える。 【授業時間外学習】 音楽を聴きながら、舞台上の自分をイメージする。（4.0hr）			
第6回 作品の説明とビデオ鑑賞、振りを学ぶ（作品B） 【 到達目標 】 作品のおおまかなイメージをつかむ。基本テクニックに留意しながら、明確に覚える。 【授業時間外学習】 全体のイメージトレーニングを行う。（4.0hr）			第14回 踊って批評を受ける、感想を述べあう 【 到達目標 】 少人数ずつ踊り、アドバイスを受ける。仲間の踊りを鑑賞することで、新たな課題を発見する。 【授業時間外学習】 新しい課題を心にとどめる。（4.0hr）			
第7回 振りを学ぶ④ 【 到達目標 】 細かい部分のチェックもしながら、振りを覚える。 【授業時間外学習】 振付の復習。（4.0hr）			第15回 今後の課題を設定し、実現のための構想を練る 【 到達目標 】 今後の課題を発見し、実現するための構想を練る。 【授業時間外学習】 課題を意識した練習方法を考える。（4.0hr）			
第8回 振りを学ぶ⑤ 【 到達目標 】 全体を通して踊ることで、気持ちの流れやエネルギーの配分についても、研究する。 【授業時間外学習】 全体の流れを感じ、イメージを膨らませる。（4.0hr）						
【学習上の留意点】 ＜対面授業の場合＞ 基礎的なテクニックを獲得し、作品を魅力的に踊り通すことができるようにしたい。そのための精神的な強さ、集中力も鍛え、自分で工夫したり練習する習慣も身につけていく。これからの4年間の基盤となる授業なので、真剣に受講して欲しい。 ＜オンライン授業の場合＞ リアルタイム方式の授業を実施する。授業内容はおおよそ変更しない。授業は時間通りの曜日・時刻に実施する。出席の確認は各回の冒頭に画面を通じて行う。						
【教科書・参考書など】 特になし。						
【成績評価方法】 ＜対面授業の場合＞ 平常授業での課題40％、到達時の確認課題60％。試験は別途実施する。 ＜オンライン授業の場合＞ 毎時間のレポート40％（メール添付）、期末のレポート60％（メール添付）として評価する。						

科 目 名		舞踊創作・振付法			担当者	坂 本 秀 子	
英 文 名		Theory of Dance Composition and Choreography					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2			専門・必修			
授業形態	講義	科目ナンバー	DMR201		卒業認定方針との関連	⑥⑦	
【目的とねらい】 舞踊作品という概念、作品成立のための諸条件等、基本的な理論を学ぶ。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 作品創作の動機について 【 到達目標 】 あらゆる例題を取り上げながら、作品創作の動機を探る。作品や作者のバックグラウンドについても、考察する。 【授業時間外学習】 作品創作の動機について考え、身近な作品を例に考察する。(4.0hr)				第9回 隊形の種類、移動、変化 【 到達目標 】 隊形の種類を把握し、作品の中での効果的な移動のしかた、変化の方法について学ぶ。 【授業時間外学習】 隊形の種類、移動、変化のしかたについて、身近な作品を例に考察する。(4.0hr)			
第2回 テーマ、抽象・具象について 【 到達目標 】 テーマの決定のしかた、抽象作品、具象作品などの特性を理解する。 【授業時間外学習】 他の芸術分野について、テーマ、抽象、具象について調べる。(4.0hr)				第10回 組み合わせ、比例、均等 【 到達目標 】 隊形の組み合わせについて考える。 【授業時間外学習】 隊形の組み合わせについて復習する。(4.0hr)			
第3回 題名について 【 到達目標 】 題名の考え方、決め方について理解を深める。 【授業時間外学習】 他の芸術分野について、題名の考え方や決め方について調べる。(4.0hr)				第11回 時間構成について 【 到達目標 】 作品の時間構成について学ぶ。全体から見た理想的な時間配分について考える。 【授業時間外学習】 作品の時間構成について、身近な作品を例に考察する。(4.0hr)			
第4回 作品の大まかなイメージ（動き、構成） 【 到達目標 】 動きと構成の関係について理解する。作品の動きにふさわしい構成とは、どんなものかを考える。 【授業時間外学習】 作品の動きにふさわしい構成について、身近な作品を例に考察する。(4.0hr)				第12回 教材VTR「作品の出来上がるまで」を見る 【 到達目標 】 例題となる教材VTRから、作品の出来るまでを理解する。 【授業時間外学習】 作品の完成するまでの流れをイメージしてみる。(4.0hr)			
第5回 作品の大まかなイメージ（衣裳、照明、音響） 【 到達目標 】 舞台上上演する作品は、総合芸術であることを理解し、音響、衣裳、照明のあり方について学ぶ。 【授業時間外学習】 興味のある作品を取り上げ、衣裳、音響、照明について考察する。(4.0hr)				第13回 反復、伏線、クライマックスについて 【 到達目標 】 作品におけるクライマックスとは何か、また、その効果的なつくり方などについて考える。 【授業時間外学習】 他の芸術分野では、クライマックスをどのように捉えているかを考察する。(4.0hr)			
第6回 モチーフ、フレーズについて 【 到達目標 】 作品の主張の最小単位と言えるモチーフ、フレーズのとらえ方について理解する。 【授業時間外学習】 興味の作品を取り上げ、モチーフ、フレーズについて考察する。(4.0hr)				第14回 コントラスト、リズム、調和について 【 到達目標 】 作品のコントラスト、リズム、調和について考える。 【授業時間外学習】 コントラスト、リズム、調和について、身近な作品を例に考察する。(4.0hr)			
第7回 教材VTR「作品のモチーフ」を見る 【 到達目標 】 教材VTRによる研究・分析を行う。 【授業時間外学習】 作品のモチーフを一つ考えてみる。(4.0hr)				第15回 今後の課題の設定 【 到達目標 】 最も興味深いテーマを取り上げ、更に研究を深める。 【授業時間外学習】 自分で課題を見つけ、解決のための方法を考案する。(4.0hr)			
第8回 動きの変化・発展 【 到達目標 】 動きの変化・発展のしかたについて学び、実演しながら理解する。 【授業時間外学習】 変化、発展のしかたについて復習する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 ＜対面授業の場合＞ 授業ノートを工夫して作成し、今後の舞踊活動のための資料保存版となるようにしたい。各自が自習や調査などを行い、オリジナルノートを作成することを目標とし、理解度の確認を行なう。 ＜オンライン授業の場合＞ 基本的には、オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は授業回数が減った場合でも大幅には変更しない。出席は各授業回の復習課題の内容により確認する。							
【教科書・参考書など】 適宜、プリント等配布。							
【成績評価方法】 ＜対面授業の場合＞ ノート提出60％、授業内レポート40％。 ＜オンライン授業の場合＞ 各授業回の総合評価を60％、まとめのレポート40％、合わせて100％とする。							

科 目 名		舞踊方法学			担当者	高 野 美 和 子	
英 文 名		Dance Methodology					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		専門・必修				
授業形態	講義	科目ナンバー	DMR202		卒業認定方針との関連	⑦	
【目的とねらい】 すぐれたダンサーや振付家、指導者になるための基礎として、様々な舞踊の運動特性と表現形式についての正確な理解や、身体のメカニズムに対する深い認識が必要である。この授業では、様々な舞踊作品、振付家や指導者、ダンサーに関する資料、文献などを通じて、舞踊の「運動」の種類とその特性、表現体としての身体のメカニズムとそのトレーニング方法、指導法、舞踊表現を成立させる関連事項について理論的に学ぶ。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 舞踊方法学で取り扱う領域と研究内容を理解する。 【授業時間外学習】 授業内容の関連資料を探し、目を通す。(4.0hr)			第9回 コンテンポラリーダンス 【 到達目標 】 コンテンポラリーダンスの性質を理解し、様々な現場における応用の可能性を検討する。 【授業時間外学習】 コンテンポラリーダンスに関する資料を収集し、理解を深める。(4.0hr)				
第2回 舞踊の種類と運動の特性 【 到達目標 】 様々な舞踊運動の特性を理解する。 【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理する。(4.0hr)			第10回 プロダンサーの仕事 【 到達目標 】 プロフェッショナルに活動するダンサーの仕事について理解する。 【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理し、映像資料に登場する用語や舞踊家について調べる。(4.0hr)				
第3回 表現体としての身体とそのメカニズム 【 到達目標 】 表現体としての踊るからだのメカニズムについて理解する。 【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理する。(4.0hr)			第11回 「遊び」の理論からのアプローチ 【 到達目標 】 舞踊の中にある「遊び」の要素を確認し、様々な現場での応用の可能性を理解する。 【授業時間外学習】 カイヨワの「遊びと人間」を参考に、授業内容の要点を整理する。(4.0hr)				
第4回 ボディ・コンディショニング 【 到達目標 】 踊るからだのメンテナンス、コンディショニングについて理解する。 【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理する。(4.0hr)			第12回 様々なダンス指導の現場 【 到達目標 】 様々なダンス指導現場での検討事項を理解する。 【授業時間外学習】 様々なダンス指導現場でのニーズを収集する。(4.0hr)				
第5回 舞踊の振りの習得課程「振り覚え」の仕組み 【 到達目標 】 舞踊の振りの習得課程「振り覚え」の仕組みについて理解する。 【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理する。(4.0hr)			第13回 対象者に応じた指導方法① 【 到達目標 】 学齢期におけるダンス指導について学び、その指導法のポイントを理解する。 【授業時間外学習】 学校現場での指導法の要点を整理する。(4.0hr)				
第6回 ラバン・システム 【 到達目標 】 ラバン (Laban) の動作分析、舞踊記譜法について理解する。 【授業時間外学習】 ラバンに関する資料を基に、授業内容の要点を整理し、理解を深める。(4.0hr)			第14回 対象者に応じた指導方法② 【 到達目標 】 コミュニティ・ダンス、インクルーシブなダンス指導の方法を理解する。 【授業時間外学習】 コミュニティダンス、インクルーシブなダンスの現状について調べる。(4.0hr)				
第7回 インプロヴィゼーション 【 到達目標 】 舞踊における即興について理解し、その応用の可能性を探る。 【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理し、授業中に触れた即興に関する文献に目を通す。(4.0hr)			第15回 授業内容の振り返り 【 到達目標 】 本講義にてとりあげた内容について振り返り、レポート作成の準備をする。授業の理解度を確認する。 【授業時間外学習】 授業全体を振り返り、レポートを作成する。(4.0hr)				
第8回 舞踊創作のプロセス 【 到達目標 】 様々な舞踊創作の手法を理解する。 【授業時間外学習】 様々な舞踊創作の手法について資料を収集する。							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 毎回の授業中、その回の講義、資料、映像を踏まえた小レポートの提出が求められるため、集中して授業に取り組む姿勢が必要である。小レポートから授業の理解度を確認し、次の授業にてフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 基本的に対面授業を行うが、適宜オンデマンド方式の授業を行う。毎回音声入りの講義映像を送るのでそれを見ながら受講すること。毎回の講義、資料、映像を踏まえた小レポートの提出が求められ、提出されることで出席したこととみなす。集中して授業に取り組む姿勢が必要である。小レポートから授業の理解度を確認し、次の授業にてフィードバックを行う。							
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 毎回の授業の活動内容および授業中に提出する小レポートを70%、授業内小テストと期末に提出するレポートを30%の割合として評価する。 【オンライン授業の場合】 すべての授業がオンラインとなる場合、毎回の提出される小レポートを70%、学期末に提出されるレポートを30%の割合として評価する。							

科 目 名		舞台芸術論		担当者	松 澤 慶 信	
英 文 名		Performing Art Theory				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DMR203		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧
【目的とねらい】 劇場芸術としての舞踊作品を中心にとりあげて講義をすすめていくが、舞踊はもはや踊らないで、身体の「在り様在り方」を現前するパフォーマンス・アーツとして存立するようになってから久しい。この昨今の状況に応じて、多種多様な舞踊作品を開示していきたい。その際に、舞踊作品の在り方について、20世紀の美学芸術学的な問題や概念を使って解明していく。基本的に20世紀そして21世紀へのアーツとしてのダンス論である。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 パフォーミング・アーツとパフォーマンス・アーツ 【 到達目標 】 パフォーミング・アーツとしてのダンスから、パフォーマンス・アーツとしてのダンスへの変遷が、この講座のαにしてΩである。この変貌の根幹の思想を半期をかけて追求していく。			第9回 deconstructive 【 到達目標 】 脱構築は「内部からの解体」であることと「解体する対象が明確」であることに尽きる。思想の具体例に芸術をあげることは正しい。中でもダンスは適任だと言いたい。その好例をここでも披露する。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			第10回 minimalism 【 到達目標 】 ポストモダン・ダンスとしてのミニマル・ダンスがやがて、ミニマル・ミュージックを使ったダンス全般をそう呼ぶようになった時には、そのダンスはもはやポストモダンではなくなった。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第2回 言葉言語と身体知 【 到達目標 】 述定的形容詞によるカテゴライズな論理化、ロゴスによる概念化。言葉言語による「理解」のエピステーメーではない、テクネーとしての身体知による「了解」。ダンスの核心にせまる。			第10回 minimalism 【 到達目標 】 ポストモダン・ダンスとしてのミニマル・ダンスがやがて、ミニマル・ミュージックを使ったダンス全般をそう呼ぶようになった時には、そのダンスはもはやポストモダンではなくなった。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			第11回 retrospective 【 到達目標 】 ダンスにおける懐古主義とは何か。われわれはダンスにノスタルジーを見るのだろうか。存在のハイマートにダンスは存立するのか。安易な懐古趣味ではない存在の本質を見極めたい。			
第3回 20世紀ダンス 【 到達目標 】 21世紀に生きるわれわれは20世紀のダンスを総括しなければならない。20世紀にこそ、バレーにしてもダンスにしても、芸術舞踊としての地位は確保され、それが芸術自体を推進することにもなった。			【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第4回 modernism 【 到達目標 】 20世紀アーツを構築する概念は二つ、formalismとexpressionismという相反する二重性にある。この二重性を追求して、モダニズムを明らかにして20世紀という時代を、そしてアートを探求したい。			第12回 contemporary dance 【 到達目標 】 結局コンテンポラリー・ダンスとポストモダン・ダンスとはどう違うのか。前者の美学は後者で言い尽くせると私は考える。コンテンポラリー・ダンスはまず国家的な政策であった。			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第5回 表現主義舞踊とmodern dance 【 到達目標 】 バレーを否定して始まったモダン・ダンスは、バレーの特性であるパを否定したというだけではない。舞踊芸術という作品構造の省察とともに表出的表現のグッドモデルを提供する。			第13回 テクニク論 【 到達目標 】 テクニクの語源であるテクネーが経験知による身体知であることは、アリストレスの「ニコマコス倫理学」にすでにある。この問題は知の本来を反省する。「技」の問題から始めよう。			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第6回 modernist modernとしてのformalismと抽象 【 到達目標 】 キング・オブ・モダニズムはモダニスト・モダンとしてのフォルマリズムである。ここから見えてくることは構造であり、グリーンバークが言うような意味での作品の本質である。それは何か。			第14回 21世紀ダンス 【 到達目標 】 21世紀のダンスとは何か。ポストモダンを経てわれわれは今どこに向かうのか。もう一度20世紀の問題を確認し、21世紀になって起こってきている問題を具体的に引き上げよう。			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第7回 postmodernの戦略 in dance 【 到達目標 】 今なおポストモダンをわれわれは問題にする。20世紀のダンスはモダニズムとポストモダニズムに集約されるからである。ポストモダンな戦略が20世紀ダンスの様相を拡大させた。			第15回 問題の所在 【 到達目標 】 前回引き上げた問題は実はわれわれにとって切実な問題なのか。否定的な意味で問題なのか、次のダンスを考える上での分析対象として問題なのか。それへの取り組み方自体を検証しよう。			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第8回 記号論的戯れと相対主義 【 到達目標 】 「舞踊の溶解力」とは意味論の意味内容の指示機能が弱いことに端を発する。舞踊は言葉言語のようによく「わからない」からこそおもしろいし、記号論的に戯れるという存在根拠を持つ。			※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 基本的に予備知識は必要ない。受講者の知的好奇心が必須条件。もちろんこちら側もその好奇心をそそるように努めたいと思う。しかし授業へのそちら側からの積極的志向性をのぞむ。ダンスを通じた美学的思考を鍛えてほしい。 2年次前期開講の必修科目「舞踊分析法」の発展としても、是非受講してほしい。						
【オンライン授業の場合】 基本的に配付資料を期限付きで毎回配るので、それをダウンロードして学習しておいて下さい。質問があるときは、教員のメルアドに送って下さい。あなたの疑問はみんなの疑問でもあるだろうから、できる限り、翌週の配付資料で、その質問に公開で答えます。						
【教科書・参考書など】 授業中に指示するが、参考書として、『ダンスは国家と踊る』（アニエス・イブリース著）慶應義塾大学出版会と、『20世紀ダンス史』（ナンシー・レイノルズ他著）慶應義塾大学出版会をあげる。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 試験は試験期間中に別途実施。その試験の採点が100％評価となる。 【オンライン授業の場合】 対面式の試験、あるいは提出レポートによる成績評価です。その解答内容が100％評価となります。						

科 目 名		舞踊音楽論			担当者	森 立 子	
英 文 名		Music for Dance					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2			専門・必修			
授業形態	講義	科目ナンバー	DMR204		卒業認定方針との関連	⑥⑦	
【目的とねらい】 この授業では、西洋音楽の基礎的諸概念を確認しつつ、舞踊における音楽の役割、効果について考えていく。毎回、特定のトピックをとりあげ、これに関連する楽曲を紹介した上で、それが舞踊作品の中でどのように機能しているかを考察していく。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 拍と拍子（1） 【 到達目標 】 西洋芸術音楽における「拍」と「拍子」の概念、および拍子の種類について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。（4.0hr）				第9回 ミニマル・ミュージック 【 到達目標 】 「ミニマル・ミュージック」の概念と、これを使用した舞踊作品について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。（4.0hr）			
第2回 拍と拍子（2） 【 到達目標 】 「変拍子」の定義と、変拍子を用いた主要な作品について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。（4.0hr）				第10回 物語と音楽（1） 【 到達目標 】 「標題音楽」、音楽における「引用」について学ぶ。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。（4.0hr）			
第3回 和声 【 到達目標 】 和声の基礎知識、および時代による和声法の変化について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。（4.0hr）				第11回 物語と音楽（2） 【 到達目標 】 「ライトモティーフ」の概念について学び、いくつかの楽曲を鑑賞しながらその実際の例にあたる。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。（4.0hr）			
第4回 変奏 【 到達目標 】 「変奏」の概念とその技法について、楽曲を鑑賞しながら理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。（4.0hr）				第12回 リトミック 【 到達目標 】 エミール・ジャック＝ダルクローズにおける「リトミック」観とその実践について、またダルクローズに影響を受けたダンサー、振付家について学ぶ。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。（4.0hr）			
第5回 編曲 【 到達目標 】 「編曲」の概念と、さまざまな編曲の手法について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。（4.0hr）				第13回 行進曲 【 到達目標 】 行進曲の基本的な構造について理解し、いくつかの楽曲を鑑賞しながらその実際の例にあたる。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。（4.0hr）			
第6回 楽器とイメージ 【 到達目標 】 西洋においてそれぞれの楽器に伝統的に付加されてきた「イメージ」について理解し、楽曲の中でそれがどのように活用されているのかを分析する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。（4.0hr）				第14回 即興 【 到達目標 】 西洋芸術音楽における様々な「即興」について、実例を鑑賞しながら理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。（4.0hr）			
第7回 楽音と非楽音（1） 【 到達目標 】 「楽音」と「非楽音」の概念について学び、「非楽音」を意図的に活用した西洋音楽の楽曲例について考察する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。（4.0hr）				第15回 音楽の視覚化 【 到達目標 】 音楽を視覚化する試みについて、舞踊を中心とした複数の例を考察する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。（4.0hr）			
第8回 楽音と非楽音（2） 【 到達目標 】 「ミュージック・コンクレート」の概念を作品例にあたりながら理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。（4.0hr）							
【学習上の留意点】 【対面形式】 パワーポイントを用いて要点を示しながら、詳細を口頭で説明する形で講義を進める。音楽という科目の性格上、CD・DVDなど視聴覚教材を多用した授業展開になるため、欠席しないことが大前提となる。なお、各テーマの終了時にコメントカードの提出を求める。このコメントカードに書かれた内容も成績評価の対象とする。 【オンライン形式】 オンデマンド方式の授業を実施する。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と参考動画である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし6日間掲載する。毎回、授業で扱ったテーマについてのミニ・レポートを課し、このミニ・レポートの提出をもって出席とする。受講に際して音楽の知識の有無は問わないが、自らの知識や経験にも照らしながら課題に真摯に向き合っていくことが求められる。							
【教科書・参考書など】 授業の際に随時紹介する。							
【成績評価方法】 【対面形式】 テーマごとに課すコメントカードの内容40％、学期末レポート60％の割合で評価する。 【オンライン形式】 各授業回で課すミニ・レポート60％、学期末レポート40％の割合で評価する。							

科 目 名		創作 I		担当者		松 山 善 弘	
英 文 名		Choreography I					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2			専門・必修			
授業形態	演習	科目ナンバー	DMR205			卒業認定方針との関連	⑥
【目的とねらい】 舞踊の創作は多様化してきた。テーマのあるもの、趣向を見せるもの、抽象的なもの、音楽的なもの、コラボレーション、マルチメディアを使った創作など、これらの振付を学び、振付の様式を学ぶ。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 授業進行についてのオリエンテーション (DVDを使用) 【 到達目標 】 授業進行について理解する。				第9回 実際にソロの作品を創作する 3 【 到達目標 】 自由な発想で作品創りに臨めるようになる。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			
第2回 与えられた条件で振り付ける 【 到達目標 】 与えられた条件で、自由に即興できるようになる。				第10回 実際にソロの作品を創作する 4 【 到達目標 】 自由な発想で作品創りに臨めるようになる。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			
第3回 与えられた言葉を基に、グループで作品をつくってみる 【 到達目標 】 言葉を基に、自由に発想を広げられるようになる。				第11回 作品の発表と合評 1 【 到達目標 】 作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 発表された作品について、自分なりの評価をしてみる。(4.0hr)			
第4回 創作に必要な過程を学ぶ (テーマ選び、モチーフ作りetc) 【 到達目標 】 テーマ選び、モチーフ作りについて理解し習得する。				第12回 作品の発表と合評 2 【 到達目標 】 作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 発表された作品について、自分なりの評価をしてみる。(4.0hr)			
第5回 創作に必要な過程を学ぶ (構成、音楽etc) 【 到達目標 】 構成方法、選曲等について理解する。				第13回 作品の発表と合評 3 【 到達目標 】 作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 発表された作品について、自分なりの評価をしてみる。(4.0hr)			
第6回 創作に必要な過程を学ぶ (まとめ) 【 到達目標 】 創作に必要な過程を理解し、習得する。				第14回 作品の発表と合評 4 【 到達目標 】 作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 発表された作品について、自分なりの評価をしてみる。(4.0hr)			
第7回 実際にソロの作品を創作する 1 【 到達目標 】 自由な発想で作品創りに臨めるようになる。				第15回 作品の発表と合評 5 【 到達目標 】 作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 発表された作品について、自分なりの評価をするとともに、自分の作品に 関しても再度分析する。(4.0hr)			
第8回 実際にソロの作品を創作する 2 【 到達目標 】 自由な発想で作品創りに臨めるようになる。							
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 固定観念にとらわれず、自由な発想で授業に臨んで下さい。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に自習し取り組むこととする。配信される資料は、学習内容となる技能や運動に関する動画と自習をサポートするための資料である。配信は、本来の各授業回が予定されている週の時間割通りの曜日の9:00に本学ポータルサイトのPholly上にアップし、その週の金曜日17:00まで掲載する。出席の確認は、各授業回の自習中の一部の様子を撮影した動画(15分程度)の提出と、所定の様式による練習報告書の提出によって行う。							
【教科書・参考書など】 特にありません。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 時間毎のレポート40％、創作実習60％の割合で総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の提出された動画並びに学習報告書を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60％、まとめのレポート評価を40％とし、あわせて100％として評価する。合格基準は60％である。							

科 目 名		野外上演法		担当者	渡 辺 碧	
英 文 名		Outdoor Performance				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・必修		
授業形態	演習	科目ナンバー	DMR206		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧
【目的とねらい】 舞踊におけるマスゲームとしての作品づくりを通して、舞台芸術としての舞踊の表現との違いを学ぶ。 マスゲームの集団美、表現美を追求するとともに集団の中で個人としての責任と協調性を養う。また、将来自分が指導者となった際に、集団の指揮が取れ、指導ができるようになることを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション（グループ構成、テーマ設定、マスゲーム概要など） 【 到達目標 】 15時間の流れを理解する。マスゲームの概要を理解する。テーマ設定（3部構成）をする。 各グループに分かれて、お互いを理解する。 【授業時間外学習】 グループでテーマについて、文献を用いて下調べをする。（4.0hr）			第9回 1部、2部の振りうつしと指導法 【 到達目標 】 3部構成のうちの1部、2部の振付グループは、他のグループに振付をうつし、指導を行うことが出来る。指導する側は作業をスムーズに行うことが出来、指導を受ける側は与えられた振付を正しく踊ることが出来る。 【授業時間外学習】振付を復習し、振りうつし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次の授業に活かす。（4.0hr）			
第2回 選曲と動きのモチーフづくり① 【 到達目標 】 ①テーマに基づき選曲をする。 ②各グループでモチーフづくりを行い、それぞれグループ内で発表出来る。 【授業時間外学習】 選曲した曲を編集する。今までのマスゲーム作品を研究する。（4.0hr）			第10回 2部の振りうつしと指導法 【 到達目標 】 3部構成のうちの2部の振付グループは、他のグループに振付をうつし、指導を行うことが出来る。指導する側は作業をスムーズに行うことが出来、指導を受ける側は与えられた振付を正しく踊ることが出来る。 【授業時間外学習】振付を復習し、振りうつし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次の授業に活かす。（4.0hr）			
第3回 選曲と動きのモチーフづくり② 【 到達目標 】 各グループでモチーフづくりを行い、それぞれグループ内で発表出来る。 【授業時間外学習】 今日の発表での課題について再検討し、改善点を洗い出す。（4.0hr）			第11回 3部の振りうつしと指導法 【 到達目標 】 3部構成のうちの3部の振付グループは、他のグループに振付をうつし、指導を行うことが出来る。指導する側は作業をスムーズに行うことが出来、指導を受ける側は与えられた振付を正しく踊ることが出来る。 【授業時間外学習】振付を復習し、振りうつし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次の授業に活かす。（4.0hr）			
第4回 グループで作品づくり① 【 到達目標 】 各グループで出来上がったモチーフを元に作品づくりを行い、それぞれのグループ内で発表出来る。 【授業時間外学習】 今日の発表での課題について再検討し、改善点を洗い出す。（4.0hr）			第12回 3部の振りうつし及び全体構成の見直し・調整① 【 到達目標 】 1、2、3部の振りうつしがほぼ完成となり、各部のつなぎ部分を考案する。また、そのつなぎの部分を指導することが出来、踊りを習得することが出来る。 【授業時間外学習】振付を復習し、振りうつし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次の授業に活かす。（4.0hr）			
第5回 グループで作品づくり② 【 到達目標 】 各グループで出来上がったモチーフを元に作品づくりを行い、それぞれのグループ内で発表出来る。グループ作品発表に向けて、作品を踊りこむ。 【授業時間外学習】 今日の発表での課題について再検討し、改善点を洗い出す。（4.0hr）			第13回 全体構成の見直し・調整②、通し練習① 【 到達目標 】 1、2、3部間の調整を行い、すべての振付を正しく踊ることが出来る。 【授業時間外学習】振付を復習し、振りうつし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次の授業に活かす。調整された作品全体を見直す。（4.0hr）			
第6回 グループで作品づくり③ 【 到達目標 】 各グループで出来上がったモチーフを元に作品づくりを行い、それぞれのグループ内で発表出来る。次のグループ作品発表に向けて、作品を完成させ、クオリティを高める。 【授業時間外学習】 今回のグループ発表に向けて練習する。（4.0hr）			第14回 通し練習② 【 到達目標 】 野外で上演することを念頭におき、出はけを含め、通して踊ることが出来る。 【授業時間外学習】野外で上演することをイメージして、全体を見直す。さらにクオリティを高めるための手段を実践する。（4.0hr）			
第7回 グループ作品発表、鑑賞、評価 【 到達目標 】 ①各グループの作品を発表する。②テーマに合っている作品を選出する。③選出されたグループの作品を理解し、自分がその作品の一部分となって、作品に参加することを理解する。 【授業時間外学習】選出されたグループは、次回からの振りうつしのスケジュールと具体的な構成プランを立て、それに伴う振付を考える。（4.0hr）			第15回 野外で上演 【 到達目標 】 実際、グラウンドにおいて、観客の中で上演することが出来る。 【授業時間外学習】上演に関して、これまでの授業に対する反省と感想をまとめる。（4.0hr）			
第8回 1部の振りうつしと指導法 【 到達目標 】 3部構成のうちの1部の振付グループは、他のグループに振りをうつし、指導を行う。指導する側は作業をスムーズに行う。指導を受ける側は、与えられた振付を正しく踊ることが出来る。 【授業時間外学習】振付を復習し、振りうつし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次の授業に活かす。（4.0hr）						
【学習上の留意点】 授業形態は対面授業を基本とする。必修科目のため110名近くが一同に受講する。決して人任せにせず、全員が作品づくりに積極的に参加すること。また舞台上上演法とは異なり、野外で上演することを常に意識し、理解する（上演場所の大きさ・出演人数・観客層・演出・振付内容・作品構成など）。第7回の「グループ作品発表」、第15回「野外で上演」では、口頭で作品およびこれまでの創作過程についてのフィードバックを行う。作品が固まる時期には、衣裳・メイク考案も同時進行で行う。多くの受講者は野外での上演が初の試みとなるため、その状況をよく把握して発表に挑むこと。 新型コロナウイルスの感染状況や社会情勢によっては、対面形式の中にオンライン形式を取り入れたハイブリッド方式で授業を行うこともある。その場合、授業内容を一部変更する場合がある。						
【教科書・参考書など】 必要に応じて適宜配付します。						
【成績評価方法】 授業における課題達成度30%、学習意欲・関心・積極性・作品への貢献度40%、レポート30%を総合的に評価する。 オンライン形式で授業が行われた場合は、出欠確認の際に提出される課題も、評価の対象となる。						

科 目 名		タップダンス		担当者	火 口 秀 幸	
英 文 名		Tap Dance				
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME101		卒業認定方針との関連	⑥
【目的とねらい】 音楽の歴史と共に進化し続けるタップダンス。 特殊技能という点に留まらず、広く様々な種類の音楽の一部として奏でられるリズムの世界。 実技を中心にダンスのmovementと楽器としてのアンサンブル、個性豊かに踊れるタップダンスを通して、将来への感性を磨き学ぶ。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 タップダンス Entry 【 到達目標 】 タップダンスの歴史の背景、また、ダンスという観点だけでなく、楽器としての音楽的見地を理解する。 【授業時間外学習】 タップダンスへの興味。ダンスとしてとらえる。タップダンスに注目する。(1.0hr)			第9回 タップダンス Intermediate 1 【 到達目標 】 ステップを組み合わせコンビネーションを作り、リズム全体の流れや打楽器として聴かせる音色について、聴覚として理解できる。 【授業時間外学習】 コンビネーションの復習。(1.0hr)			
第2回 タップダンス Basic 1 【 到達目標 】 基礎的ステップの習得をはじめ、基本的な身体の使い方、体重移動、バランス体幹を鍛える。 【授業時間外学習】 基礎ステップの復習。(1.0hr)			第10回 タップダンス Intermediate 2 【 到達目標 】 テクニックに触れインテンポ、また速さにも慣れていく。実際に曲に合わせて習得する。 【授業時間外学習】 ステップを音楽に合わせる復習、テンポについての理解を深める。(1.0hr)			
第3回 タップダンス Basic 2 【 到達目標 】 更なる基礎ステップと共に具体的に足、腰、膝、身体の引き上げについて動きをマスターする。 【授業時間外学習】 タップにおける体の使い方の復習。(1.0hr)			第11回 タップダンス Advance 1 【 到達目標 】 更なるテクニックを駆使して、曲に合わせコンビネーションを習得する。 【授業時間外学習】 音楽に合わせたコンビネーションの復習。(1.0hr)			
第4回 タップダンス Basic 3 【 到達目標 】 基本ステップを繋げ、応用ステップへのアプローチ。リズムを変形させていくなど、swingリズムとevenリズムを習得する。 【授業時間外学習】 応用ステップの復習、リズムへの理解を深める。(1.0hr)			第12回 タップダンス Advance 2 【 到達目標 】 コンビネーションを具体的振り付けとして、流れを理解し音色やスタイルを通じてタップダンスを全体的観点から感じる。 【授業時間外学習】 上半身、下半身、全身での表現の復習。(1.0hr)			
第5回 タップダンス Basic 4 【 到達目標 】 更なる応用ステップを習得する。またコンビネーションの基となるビート感に、触れていく。 【授業時間外学習】 応用ステップの復習。(1.0hr)			第13回 タップダンス Advance 3 【 到達目標 】 歴史あるタップダンスの大きな2つの流れ、シアタータップとリズムタップを組み合わせ踊ってみる。現代的なタップダンスへの変化に触れる。 【授業時間外学習】 スタイル別のタップダンスの復習。(1.0hr)			
第6回 タップダンス Basic 5 【 到達目標 】 リズムアンサンブルのバリエーションを習得する。基本ステップいくつかパターン毎に組み合わせ、ひとつのリズム体を作成する。 【授業時間外学習】 基礎ステップの復習をしてリズムへアンサンブルへ繋げる。(1.0hr)			第14回 エンターテインメントにおけるタップダンスの世界 【 到達目標 】 メロディアスにとるリズム、パーカッション的にとるリズム、歴史上の映画や具体的映像を題材に応用化されたエンターテインメントの世界を感じる。 【授業時間外学習】 ミュージカル映画等を通して、鑑賞レポートにより、タップダンスの理解を深める。(1.0hr)			
第7回 タップダンス Beginner 1 【 到達目標 】 ダンスとしての動き方、上半身を含めたmovement について習得する。 【授業時間外学習】 ステップとアームスの連動の復習。(1.0hr)			第15回 個性として生み出されるタップダンスの世界 【 到達目標 】 最終的に個性として踊れる様own style、自身としての音色作りの作成方法、またリズムの流れにおいて起承転結が作れるようになる。今までの様々なリズムを個人で組み合わせ、発表する。 【授業時間外学習】鑑賞レポート「タップダンスと私」を提出し、自己表現の一つとしてのタップダンスを理解していく。(1.0hr)			
第8回 タップダンス Beginner 2 【 到達目標 】 応用ステップを組み合わせ、movementと共にgroove感を理解する。 【授業時間外学習】 grooveへの理解を深める。(1.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 タップダンスの基礎用語とともにしっかり身につける。タップシューズで実技を学ぶことでタップダンスに必要な体の使い方を習得し、しっかり音が出てくる事を体感、実感できる。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業となった場合は、授業前に都度指示する。						
【教科書・参考書など】 DVD、ミュージカル映画・舞台ビデオ、等を習得資料としていく。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 授業における課題達成度（50%）、個々の習熟度（50%）で評価する。 【オンライン授業の場合】 授業における課題達成度（50%）、個々の習熟度（50%）で評価する。						

科 目 名		ボディ・コンディショニング		担当者	今 田 康 二 朗	
英 文 名		Body Conditioning				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DME201		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧
【目的とねらい】 身体に対する、外側(＝形)からのアプローチではなく、身体内側からのコーディネーション、分析、そして動きを研究、習得する。同時にそのメンテナンスと能力向上方法を体験し、その重要性和実践方法を考える。また呼吸がいかに身体、身体運動、さらにはダンスに対しての影響を認識するのか、その重要性和活用法を考察、実践する。そして、全身の関節を活性化すること、つまりは普段あまりアクティブではない関節を動かしてあげることにより、身体ムーブメントのボキキャブラリーを広げ、かつ、動かしてやることによって筋力と、全身コーディネーションを構築する。以上の点を踏まえ、これらの知識をいかにダンスに反映させるかという点について重点を置く。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 身体を内側から観察し、問題意識を高める。 【 到達目標 】 様々な呼吸パターンを含むエクササイズを実際に体験し、そのコーディネーションを体験する。その後、ワークグループに分かれ、それらがどのような影響を身体にもたらしたかを研究する。			第9回 呼吸と身体運動のシンクロナイゼーション 【 到達目標 】 前回の内容を踏まえ、いかに呼吸と運動を関連づけるかについてワークグループごとに研究、実践する。			
【授業時間外学習】 授業前後に自己の身体を観察し、その身体の変化を書き出す。(4.0hr)			【授業時間外学習】 実際のダンスレッスンを通して、呼吸法という観点からムーブメントを最適化する。(4.0hr)			
第2回 ダンスムーブメントにおける筋肉、骨の役割と運動 【 到達目標 】 ダンスにおいて、最低限知っておくべき解剖学に触れ、自身の内側からの身体認識を高める。			第10回 アクティブ・ストレッチングの概念と重要性 【 到達目標 】 アクティブ・ストレッチングとパッシブ・ストレッチングの概念を理解し、なぜ、前者がダンサーやスポーツ選手にとって必要なかを理解し、実践する。			
【授業時間外学習】 実際のダンスレッスンにおいて、特に大腰筋に注目し、腰椎、骨盤と股関節、大腿骨との関係を考える。(4.0hr)			【授業時間外学習】 普段各自が行っているストレッチを10種類程度あげ、アクティブ・ストレッチングかパッシブ・ストレッチングの二つに分類する。(4.0hr)			
第3回 脊椎の基本運動 【 到達目標 】 脊椎の基本運動について学び、積極的にそれらを実践する。 普段慣れているムーブメントを脊椎の基本運動という点から分析、観察する。			第11回 リニア(2D)なムーブメントと三次元的(3D)ムーブメント 【 到達目標 】 リニア・ムーブメントと三次元的ムーブメントを比較し、その概念がどのように全身のムーブメントに影響を与えるかについて理解する。			
【授業時間外学習】 日常生活における脊椎の運動を脊椎の基本運動からの視点で観察する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 リニア・ムーブメントと三次元的ムーブメントをそれぞれ10種類以上あげ、一覧にする。映像でも可。(4.0hr)			
第4回 肩帯、脊椎、骨盤の関係性 【 到達目標 】 肩帯と骨盤の関係性を脊椎を通して分析、認識する。さらには、それぞれに連なる四肢の運動との関連性について観察、研究する。			第12回 ムーブメントにおける全身コーディネーションの重要性について 【 到達目標 】 全身コーディネーションについて十分に理解し、それがどのようにムーブメントに影響し、結果的には身体の強さやコントロールを導くことができるか理解する。			
【授業時間外学習】 日常生活における腰椎の運動を肩帯及び骨盤の関係から観察する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 全身コーディネーションによるムーブメントとアイソレーションによるムーブメントをそれぞれ30秒程度で実際に作ってみる。(4.0hr)			
第5回 肩帯の構造とその運動 【 到達目標 】 肩帯について学び、それに対するエクササイズを習い、実践する。その上で、それらがいかにダンスに反映させ、最大限の運動領域を、身体に負担をかけることなく実践していくことについて、ワークグループに分かれて研究する。			第13回 ダンサーに多くみられる身体的故障とその対策 【 到達目標 】 ダンサーのけがには理解不足からくるものも多い。それを理解し、さらにどのようにしてそういったものを避けていくのかについて理解する。			
【授業時間外学習】 授業内容を踏まえた上で、肩帯にフォーカスを当て、ダンスクラスを実践する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 過去に経験したけがを再発させないためには、どのような取り組みをすればいいのか考察する。(4.0hr)			
第6回 骨盤の構造とその運動 【 到達目標 】 骨盤について学び、それに対するエクササイズを習い、実践する。その上で、それらがいかにダンスに反映させ、最大限の運動領域を、身体に負担をかけることなく実践していくことについて、ワークグループに分かれて研究する。			第14回 ダンスにおけるインテリジェント・ムーブメント 【 到達目標 】 これまでの内容を振り返り、それらをダンスに反映させるためのエクササイズを体験かつ、実践し、理解をする。その後、ワークグループごとにそのダンスにおける活用法について研究、議論する。			
【授業時間外学習】 授業内容を踏まえた上で、骨盤にフォーカスを当て、ダンスクラスを実践する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 それぞれがすでに踊った経験のある振り付けから、30秒程度を抜き出し、それを評価、そして、身体に負担になる部分をいかに改善できるか考察する。(4.0hr)			
第7回 呼吸の重要性和呼吸法の種類 【 到達目標 】 人間活動の原点である呼吸について学び、いろいろな種類の呼吸法をワークグループごとに研究、体験する。			第15回 実践とフィードバック 【 到達目標 】 5-6人程度のグループに分かれる。授業外時間外学習で用いた振り付けをそれぞれが発表し、それについて改善点や、問題点をグループディスカッション、フィードバックする。			
【授業時間外学習】 日常生活のなかで、どのような状況の時にどのような呼吸をしているのか観察、認識する。呼吸という普段無意識におこなう運動に対して、発見をする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 毎日の授業、レッスン、リハーサルにこれまでの知識を反映させる。(4.0hr)			
第8回 運動と呼吸の関連性および循環器系について 【 到達目標 】 異なる呼吸法がいかに異なる影響を身体に及ぼすかについてワークグループごとに体験し、観察をする。						
【授業時間外学習】 前回の授業時間外学習を踏まえ、普段の生活における様々な状況を20個書き出し、それぞれの際にどのような呼吸をしているのか一覧にする。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【オンライン授業の場合】 自分や他者の身体に触れること(他者が自分の体に触れること＝ハンズオン)もある。配慮が必要な場合には、授業開始前に申し出ること。上記のようにワークグループに分かれてのディスカッションや実践研究を多く含む。積極的に自身の意見や観点を伝えること、かつ他の学生の主張を尊重し、それを踏まえた上で実践研究することが求められる。レポートは各授業ごとの記録、考察、発見等を記した上、総括としてこの科目で学習した内容をいかに今後活用していくかという実践目標を加えた形とする。これは授業内容確認という側面よりむしろ、セルフフィードバックとしての役割に重きを置く。また、実践課題としての短いビデオの提出が必要。 GYROTONIC® 及び GYROKINESIS® 方法論に基本を置く。GYROTONIC® and GYROKINESIS® are registered trademarks of Gyrotonic Sales Corp. and are used with their permission。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は原則的には変更はないものの、ワークグループに分かれての学習は制限され、授業ビデオを各自で観ながら、実践をしていく形とする。ビデオは予定されている日程の午前9時にGoogle Drive上に公開され、1週間閲覧可能。予定の日程通りに実践するのが望ましいが、状況に応じてそれぞれの判断で学習すること。ただし、ビデオの公開期限があることに注意すること。レポートは各授業ごとの記録、考察、発見等を記した上、総括としてこの科目で学習した内容をいかに今後活用していくかという実践目標を加えた形とする。これは授業内容確認という側面よりむしろ、セルフフィードバックとしての役割に重きを置く。また、実践課題としての短いビデオの提出が必要。 GYROTONIC® 及び GYROKINESIS® 方法論に基本を置く。GYROTONIC® and GYROKINESIS® are registered trademarks of Gyrotonic Sales Corp. and are used with their permission。						
【教科書・参考書など】 各自ヨガマットと、大型のバスタオルを持参のこと。また、ヨガベルト、柔道・空手等の帯、伸縮性のある包帯、ダンスベルトなど帯状なものも持参のこと。日常的に使用するベルトよりも、きつく締められる状態であることが必要条件。						
【成績評価方法】 【対面・オンライン授業共通】 上記のレポート課題を40%、ビデオ課題による実技試験60%として評価する。なお、課題が未提出、不完全な場合は評価は無しとする。						

科 目 名		舞踊音楽制作		担当者	浅 野 淳	
英 文 名		Accompaniment and Composition				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME203		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧
【目的とねらい】 舞踊と音楽は、無音も含めて切り離せない関係を持つといえるだろう。モダンからコンテンポラリーまで、実際の作品を例として取り上げながら、その表現における多様性、可能性を探ることによって、舞踊と音楽の関係性についての知識と理解を深めるとともに、音楽の選曲、編集、そして音素材を使用しての音楽の構成を、実際に体験することによって、舞踊創作及び音楽の創作における発想力と表現力を養うことを目指す。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 音楽とダンスについて：無音と音楽 【 到達目標 】 無音、静寂、音の始まりと終わり、曲間等について。音の与える影響について理解を深める。			第9回 実習3：音楽編集の実践2 【 到達目標 】 前回の続き。エフェクト等の使用法も含めた実習。			
【授業時間外学習】講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)			【授業時間外学習】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)			
第2回 ダンスと音楽編曲、編集、効果について 【 到達目標 】 作品や実例を通しての理解。			第10回 実習4：音楽編集の仕上げとファイルの提出 【 到達目標 】 編集した音源ファイルの仕上げと提出。			
【授業時間外学習】講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)			【授業時間外学習】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)			
第3回 ダンスと音楽の多様性1（効果、エフェクト） 【 到達目標 】 音素材に効果＝エフェクトをかけた実例を通して、その与える影響を学ぶ。			第11回 実習5：音楽構成の実践1 【 到達目標 】 用意された短い音（断片や効果音）を使用して、ダンスのための音楽として構成する。			
【授業時間外学習】講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)			【授業時間外学習】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)			
第4回 ダンスと音楽の多様性2（ミニマル・ミュージック他） 【 到達目標 】 ダンスで比較的频率に使用される、ミニマル・ミュージックと呼ばれる音楽の構造や理念、実際の使用例を通して理解を深める。			第12回 実習6：音楽構成の実践2 【 到達目標 】 前回の続き。様々な手法にのっとつての模索、試行錯誤をしてもらい、音楽としての仕上げを目指す。			
【授業時間外学習】講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)			【授業時間外学習】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)			
第5回 ダンスと音楽の多様性3（ミニマル・ミュージック以降） 【 到達目標 】 前回からの続き、より多様な表現を探る。			第13回 実習7：音楽構成の実践3 【 到達目標 】 前回の続き。音楽をどのように構成して仕上げるか、方針を固める。場合によっては別の音源での構成も目指す。			
【授業時間外学習】講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)			【授業時間外学習】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)			
第6回 ダンスと音楽の多様性4（ノイズ、インダストリアル他） 【 到達目標 】 雑音や効果音を音として使用した作品をみてゆく。			第14回 実習8：音楽構成の仕上げとファイルの提出 【 到達目標 】 構成した音源ファイルの仕上げと提出を目指す。			
【授業時間外学習】講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)			【授業時間外学習】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)			
第7回 実習1：音楽ソフトの使用法、実践 【 到達目標 】 実際にPCで音楽ソフトを使用して操作法を学ぶ。			第15回 実習9：提出ファイルの検証 【 到達目標 】 提出された2種のファイルの中から具体的な音源をいくつか聴いて、どのように出来上がったのかを検証し、全体のまとめとする。			
【授業時間外学習】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)			【授業時間外学習】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)			
第8回 実習2：音楽編集の実践1 【 到達目標 】 用意された音楽素材を利用しての編集の実習。						
【授業時間外学習】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】PCで音楽ソフトを使用しての実習なので、最低、PCで文字（全角及び半角）を打てる程度にはPCに慣れておくことが望ましい。また、前半の講義で実習のための効果等についての説明も随時加えるので、各自、積極的にノートやメモを取ることを望ましい。毎回、講義の最後に講義の内容に関するミニ・レポートを提出してもらい理解度を確認、次回に補足の解説を行う。また、後半の実習において情報処理室で使用するPCの台数に限りがあるため、受講希望者が多数の場合、前期学期末にレポートを提出してもらい受講者数の調整を行なうこととするので予め留意しておいてほしい。 【オンライン授業の場合】e－ラーニングでオンデマンド方式の授業を実施する。各授業/実習回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に自習し取り組むこととする。配布及び配信される資料は、動画と自習をサポートするための資料である。動画及び資料は、本来の各授業回が予定されている授業日に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、翌週の前日まで掲載する。出席の確認は、各授業回についてのミニ・レポートの提出によって行う。また、実習については、対面と同様、PC/Macで音声ファイルを作成、Google Driveに共有～提出してもらおう。最初の授業前にPC/Macの所持率のアンケートを取る。また、所持していない場合は、大学でPCを使用しての受講/実習になるので、前期でなるべくPCの基本的な操作に慣れておくことが望ましい。						
【教科書・参考書など】 実習の際、配布する音楽ソフトの使用法についてのプリント （実習時に適宜参照してもらうので毎回忘れずに持ってくること。）						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 実習で制作する音楽ファイル（編集と構成の2種）：70%、講義時に提出するミニ・レポート：30% 【オンライン授業の場合】 実習で制作する音楽ファイル（編集と構成の2種）：70%、実習時の画面を撮影した画像ファイル：10%、講義時に提出するミニ・レポート：20%						

科 目 名		モダンダンスⅢ		担当者	松 山 善 弘	
英 文 名		Modern Dance Ⅲ				
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME205		卒業認定方針との関連	⑥
【目的とねらい】 各種モダンダンステクニックのメソッドに触れるとともに、自己の身体意識を目覚めさせ、より進んだテクニックの学習を通して、動きのポキャブラリーの拡大をはかる。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業進行についてのオリエンテーション（DVDを使用） 【 到達目標 】 モダンダンスⅢの授業の進め方について理解する。			第9回 ダンスに必要な要素を習得する（跳躍テクニック） 【 到達目標 】 各種跳躍テクニックをマスターする。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（1.0hr）			【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（1.0hr）			
第2回 モダンダンスⅠ・Ⅱで習得したエクササイズを更に発展させる1 【 到達目標 】 モダンダンスⅠ・Ⅱで行ったエクササイズを再確認し、行う事ができる。			第10回 ダンスに必要な要素を習得する（連続したテクニック） 【 到達目標 】 各種連続したテクニックをマスターする。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（1.0hr）			【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（1.0hr）			
第3回 モダンダンスⅠ・Ⅱで習得したエクササイズを更に発展させる2 【 到達目標 】 モダンダンスⅠ・Ⅱで行ったエクササイズを再確認し、行う事ができる。			第11回 課題テクニックの習得（タイミング） 【 到達目標 】 課題テクニックを通して、ダンスに必要なタイミングについて理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（1.0hr）			【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（1.0hr）			
第4回 モダンダンスⅠ・Ⅱで習得したエクササイズを更に発展させる3 【 到達目標 】 更に発展したエクササイズをマスターする。			第12回 課題テクニックの習得（アクセント） 【 到達目標 】 課題テクニックを通して、ダンスに必要なアクセントについて理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（1.0hr）			【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（1.0hr）			
第5回 モダンダンスⅠ・Ⅱで習得したエクササイズを更に発展させる4 【 到達目標 】 更に発展したエクササイズをマスターする。			第13回 課題テクニックの習得（呼吸） 【 到達目標 】 課題テクニックを通して、ダンスに必要な呼吸法について理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（1.0hr）			【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（1.0hr）			
第6回 ダンスに必要な要素を習得する（リラクゼーション） 【 到達目標 】 各種リラクゼーションテクニックをマスターする。			第14回 課題テクニックの習得（クライマックス） 【 到達目標 】 課題テクニックを通して、ダンスに必要なクライマックスへのもって行き方について理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（1.0hr）			【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（1.0hr）			
第7回 ダンスに必要な要素を習得する（歩行テクニック） 【 到達目標 】 各種歩行テクニックをマスターする。			第15回 課題テクニックの総合的習得 【 到達目標 】 モダンダンスⅢで学んだ事を総合的に理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（1.0hr）			【授業時間外学習】 全体の復習とまとめをし、モダンダンスについてさらに理解を深める。（1.0hr）			
第8回 ダンスに必要な要素を習得する（回転テクニック） 【 到達目標 】 各種回転テクニックをマスターする。						
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（1.0hr）						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 モダンダンスⅠ・Ⅱから、更に深く自分の身体と向かい合い、さらに効果的に身体を通した表現ができるように、集中して受講して下さい。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に自習し取り組むこととする。配信される資料は、学習内容となる技能や運動に関する動画と自習をサポートするための資料である。配信は、本来の各授業回が予定されている週の時間割通りの曜日の9:00に本学ポータルサイトのPholly上にアップし、次週の授業日前日17:00まで掲載する。出席の確認は、各授業回の自習中の一部の様子を撮影した動画（15分程度）の提出と、所定の様式による練習報告書の提出によって行う。						
【教科書・参考書など】 特にありません。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】時間毎のレポート70％、実技試験30％の割合で総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】各授業回の提出された動画並びに学習報告書を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60％、まとめのレポート評価を40％とし、あわせて100％として評価する。合格基準は60％である。						

科 目 名		モダンダンスⅣ			担当者	坂 本 秀 子	
英 文 名		Modern Dance Ⅳ					
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2			専門・選択			
授業形態	実技	科目ナンバー	DME206		卒業認定方針との関連	⑥	
【目的とねらい】 「モダンダンスⅢ」を更に進めたテクニックを学ぶ。専門家の作品を踊ることで高度なテクニックを習得し、作品全体に流れる精神を掌握することで、表現力を高めていく。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 作品の説明とビデオ鑑賞（教材A） 【 到達目標 】 創作意図を理解し、作品のイメージをつかむ。			第9回 振りを学ぶ⑦ 【 到達目標 】 踊り込みをして、作品の精神が貫通できるようにする。				
【授業時間外学習】 作品の世界を想像し、イメージを固める。（1.0hr）			【授業時間外学習】 全体を通してのイメージトレーニングを行う。（1.0hr）				
第2回 振りを学ぶ① 【 到達目標 】 振りを短時間で、正確に覚えられるように集中する。			第10回 踊って批評を受ける、互いに今後の課題を発見しあう② 【 到達目標 】 踊って批評を受ける。今後の課題を自主的に見いだしていく。				
【授業時間外学習】 振りの復習をする。（1.0hr）			【授業時間外学習】 課題の確認と習得するための練習方法の考案。（1.0hr）				
第3回 振りを学ぶ② 【 到達目標 】 次第に細かい部分の工夫もしながら、全体を通して踊れるようにしていく。			第11回 作品の説明とビデオ鑑賞（教材C）、振りを学ぶ③ 【 到達目標 】 創作意図を理解し、作品のイメージをつかむ。				
【授業時間外学習】 振りの復習、細かい注意の思い出しなどをする。（1.0hr）			【授業時間外学習】 作品の世界を想像し、イメージを固める。（1.0hr）				
第4回 振りを学ぶ③ 【 到達目標 】 踊り込みをして、作品の精神が貫通できるようにする。			第12回 振りを学ぶ③ 【 到達目標 】 振りを短時間で、正確に覚えられるように集中する。				
【授業時間外学習】 全体を通してのイメージトレーニングを行う。（1.0hr）			【授業時間外学習】 振りの復習をする。（1.0hr）				
第5回 踊って批評を受ける、互いに今後の課題を発見しあう① 【 到達目標 】 踊って批評を受ける。今後の課題を自主的に見いだしていく。			第13回 振りを学ぶ④ 【 到達目標 】 次第に細かい部分の工夫もしながら、全体を通して踊れるようにしていく。				
【授業時間外学習】 課題の確認と習得するための練習方法の考案。（1.0hr）			【授業時間外学習】 振りの復習、細かい注意の思い出しなどをする。（1.0hr）				
第6回 作品の説明とビデオ鑑賞（教材B）、振りを学ぶ④ 【 到達目標 】 創作意図を理解し、作品のイメージをつかむ。			第14回 フィーリングやアクセントなど踊り方の吟味 【 到達目標 】 作品を踊り込んでいく過程で、重要な事柄について学ぶ。				
【授業時間外学習】 作品の世界を想像し、イメージを固める。（1.0hr）			【授業時間外学習】 自分らしさを加えて、作品の完成度を高められるように考える。（1.0hr）				
第7回 振りを学ぶ⑤ 【 到達目標 】 振りを短時間で、正確に覚えられるように集中する。			第15回 踊って批評を受ける、今後の課題の発見 【 到達目標 】 踊って批評を受ける。学んだ事柄をもとに新たに課題を発見する。				
【授業時間外学習】 振りの復習をする。（1.0hr）			【授業時間外学習】 課題の確認と習得するための練習方法の考案。（1.0hr）				
第8回 振りを学ぶ⑥ 【 到達目標 】 次第に細かい部分の工夫もしながら、全体を通して踊れるようにしていく。							
【授業時間外学習】 振りの復習、細かい注意の思い出しなどをする。（1.0hr）							
【学習上の留意点】 ＜対面授業の場合＞ タイプの異なる3つの作品を教材として取り上げ、細やかに進めていく。振りを覚えることに加えて、各自が作品のイメージをとらえて、より深みのある個人的な世界を構築して欲しい。そのための練習方法やポイントなどについても探っていく。そして、踊ることだけにとどまらず、書物や絵画、詩集などで、作品のイメージを増幅し、どんなことにも興味を持って取り組んで欲しい。 ＜オンライン授業の場合＞ リアルタイム方式の授業を実施する。授業内容はおおよそ変更しない。授業は時間通りの曜日・時刻に実施する。出席の確認は各回の冒頭に画面を通じて行う。							
【教科書・参考書など】 特になし。							
【成績評価方法】 ＜対面授業の場合＞ 平常授業での課題40％、到達時の確認課題60％。試験は別途行なう。 ＜オンライン授業の場合＞ 毎時間のレポート40％（メール添付）、期末のレポート60％（メール添付）として評価する。							

科 目 名	クラシックバレエⅢ			担当者	渡辺 碧 ・ 曹 旻永	
英 文 名	Classical Ballet Ⅲ					
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME207		卒業認定方針との関連	⑥
【目的とねらい】 1年生で身に付けた基礎基盤のバレエよりも、さらに高度なテクニクに挑み、技術力と表現力の両方を高めていくことを目的とする。改めて正しい身体配置・身体使いについて学ぶことにより、怪我の少ない身体づくり方を体得する。また、ポアント技法についても理解し、特に足の骨の身体配置についても体得する。最終的には、ポアントを履いた状態での正しい身体の使い方を体得すること、または理解することを目指す。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション（目標設定） 【 到達目標 】 昨年度、1年間を振り返り、自分の受講するレベルを決定できる。この授業における目標設定が出来る。 【授業時間外学習】 クラシックバレエⅠ、Ⅱで学んだこと（バレエ用語の意味を含む）を復習する。（1.0hr）				第9回 ポアントのエクササイズ(応用)① 【 到達目標 】 簡単なコンビネーションが実践できる。正しい身体配置を崩さずに踊ることを体得する。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。（1.0hr）		
第2回 エクササイズ(基礎)① 【 到達目標 】 1年生の復習を兼ねて、改めて正しい身体配置を確認する。特に骨盤の正しい配置を意識して踊ることが出来る。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。（1.0hr）				第10回 ポアントのエクササイズ(応用)② 【 到達目標 】 前回に引き続き、さらに内容を発展させて実践できる。正しい身体配置を崩さずに踊ることをを体得する。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。（1.0hr）		
第3回 エクササイズ(基礎)② 【 到達目標 】 1年生の復習を兼ねて改めてアン・ドゥオール（ターン・アウト）を確認する。特に骨盤の正しい配置と、骨盤周辺の筋肉の使い方を意識して踊ることが出来る。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。（1.0hr）				第11回 練習課題と反復練習① 【 到達目標 】 半期のまとめである練習課題を習い、覚える。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。（1.0hr）		
第4回 エクササイズ(基礎)③ 【 到達目標 】 1年生の復習を兼ねてアブロン、エレベーションについて確認する。背骨、コア（インナーマッスル）の正しい使い方を意識して踊ることが出来る。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。（1.0hr）				第12回 練習課題と反復練習② 【 到達目標 】 練習課題を深く理解し、正しく踊ることが出来る。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。（1.0hr）		
第5回 ポアント技法の説明、ポアントのエクササイズ(基礎)① 【 到達目標 】 ポアントの選び方、履き方を理解し、ポアント技法の特徴を理解できる。足の骨の構造、筋肉の仕組みについて理解できる。これまでの学習を踏まえ、ポアントの基礎として、アテール、ドゥミ・ポアント、ポアントが理解できる。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。（1.0hr）				第13回 練習課題と反復練習③ 【 到達目標 】 練習課題を正しく踊ることが出来、自分の改善点を見つけることが出来る。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。（1.0hr）		
第6回 ポアントのエクササイズ(基礎)② 【 到達目標 】 ポアントの基礎としてアテール、ドゥミ・ポアント、ポアントの区別がつき実践できる。正しい身体配置を崩さずに、踊ることを体得する。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。（1.0hr）				第14回 練習課題と反復練習④ 【 到達目標 】 練習課題を正しく踊ることが出来、さらに踊りを良くするために必要な技術や表現を体得する。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。（1.0hr）		
第7回 ポアントのエクササイズ(基礎)③ 【 到達目標 】 ポアントの基礎としてブリエ、アテール、ドゥミ・ポアント、ルルベ、ジャンプの区別がつき、実践できる。正しい身体配置を崩さずに、踊ることを体得する。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。（1.0hr）				第15回 課題発表、自己評価、フィードバック 【 到達目標 】 練習課題を発表し、第1回目の授業に設定した目標をどれだけ達成しているかが理解できる。教員からのフィードバックに対して、今後の目標を設定することが出来る。 【授業時間外学習】 教員からのフィードバックに対する具体的な対策を練り、実践する。（1.0hr）		
第8回 ポアントのエクササイズ(基礎)④ 【 到達目標 】 ポアントの基礎としてピケ・ポアントとタンルベ・ルルベの区別がつき、実践できる。正しい身体配置を崩さずに、踊ることを体得する。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。（1.0hr）						
【学習上の留意点】 授業形態は対面授業を基本とする。授業を受講する際、基本レオタードとタイツのみを着用して、自身の身体のラインをしっかりと認識する。髪の毛などの身だしなみを整える。シューズなどの忘れ物をした場合は減点対象とする。ポアントシューズは受講者全員装着することを強制しないが、ポアント技術によるバレエ表現への理解と足先の正しい使い方・プレイスメントについての知識を深めるようにする。 受講クラスは、中上級・初中級のいずれかを、受講者自らの目標に沿って選択する。2つのクラスの受講者比率が明らかに悪い場合のみ、教員による調整を行う。1年次よりもークラスあたりの受講人数が増えるため、ただ受け身で授業を受講するのではなく、一人一人が明確な目標設定を行い、受講するよう求める。 第15回の「課題の発表、自己評価、フィードバック」では、フィードバックを求める学生一人一人に対して口頭でフィードバックを行う。 新型コロナウイルスの感染状況や社会情勢によっては、オンライン授業の対応を取る場合もある。						
【教科書・参考書など】 ポアントシューズについてのプリントなどを適宜配付。						
【成績評価方法】 実技テスト60%、授業における課題達成度・理解度、関心・意欲・積極性・レポート（課題提出）40%を総合的に評価する。 オンライン形式で授業が行われた場合は、出欠確認の際に提出される課題も、評価の対象となる。						

科 目 名		クラシックバレエⅣ		担当者	渡辺 碧 ・ 曹 攸永	
英 文 名		Classical Ballet Ⅳ				
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME208		卒業認定方針との関連	⑥
【目的とねらい】 クラシックバレエⅢを更に発展させるために、テクニック、表現のそれぞれの質を上げ、既存の古典ヴァリエーションに挑戦する。この授業を受講することにより、これまでのクラシックバレエの基礎を復習・確認するとともに、それが実践できるようになることを目的とする。特に上半身と下半身の動きのコーディネーション力を高めることに焦点を当て、正しい身体配置でヴァリエーションの役柄を理解した表現力豊かな踊りが実践出来るようになることを目標とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 最後のクラシックバレエ実技科目となるため、自身の「これまで」、そして「これから」のバレエとの向き合い方を検討すると共に、それぞれの目標を確認し、この授業での目標設定が出来る。自分に合った受講クラスを決定できる。 【授業時間外学習】 クラシックバレエⅠ～Ⅲで学んだことを復習する。(1.0hr)			第9回 ヴァリエーションの反復練習① 【 到達目標 】 ヴァリエーションの空間使いを覚えることができる。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			
第2回 エクササイズ(基礎)① 【 到達目標 】 クラシックバレエⅠ～Ⅲの復習を兼ねて身体配置を確認する。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			第10回 ヴァリエーションの反復練習② 【 到達目標 】 ヴァリエーションの音楽を正確に捉えることができる。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			
第3回 エクササイズ(基礎)② 【 到達目標 】 クラシックバレエⅠ～Ⅲの復習を兼ねて、アン・ドゥオール（ターン・アウト）を中心に確認する。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			第11回 ヴァリエーションの反復練習③ 【 到達目標 】 ヴァリエーションの振付を正確に踊ることができる。特に音楽性と空間使いを意識して踊ることができる。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			
第4回 エクササイズ(基礎)③ 【 到達目標 】 クラシックバレエⅠ～Ⅲの復習を兼ねて、アブロンを中心に確認する。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			第12回 ヴァリエーションの反復練習④ 【 到達目標 】 ヴァリエーションの役柄をしっかりと理解し、求める表現性をしっかりと踊りの中に取り込むことができる。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			
第5回 エクササイズ(基礎)④ 【 到達目標 】 クラシックバレエⅠ～Ⅲの復習を兼ねて、エレベーションを中心に確認する。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			第13回 ヴァリエーションの発表にむけた模倣練習 【 到達目標 】 少人数で、ヴァリエーションを踊ることが出来る。1人でも踊ることが出来るよう、自分が苦手とする部分を理解できる。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			
第6回 エクササイズ(応用)① 【 到達目標 】 あらゆるコンビネーションをすぐに覚える事が出来、正しい身体配置で踊ることが出来る。特に正しい上半身使いを意識して踊ることが出来る。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			第14回 ヴァリエーションの発表 【 到達目標 】 これまでの授業を踏まえ、ヴァリエーションを一人で踊ることが出来る。ヴァリエーションに対しての教員からのフィードバックを理解し、今後の課題を検討する。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う(1.0hr)			
第7回 エクササイズ(応用)② 【 到達目標 】 あらゆるコンビネーションをすぐに覚える事が出来、正しい身体配置で踊ることが出来る。特に上半身と下半身のコーディネーションを意識して踊ることが出来る。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			第15回 これまでの理解度の確認と今後の検討 【 到達目標 】 オリエンテーション時に立てた目標に対して、自分がこの授業においてどれだけ達成できたかを検討する。これまでに得た知識を再度確認し、整理することができる。これまで学んできた知識を確認するため、「身体の使い方チェックシート」を間違いなく回答できる。 【授業時間外学習】 これまでの授業を振り返り、自分とバレエとの今後の関わり方を検討する。(1.0hr)			
第8回 ヴァリエーション 【 到達目標 】 古典ヴァリエーションの振付を覚えることができる。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)						
【学習上の留意点】 授業形態は対面授業を基本とする。授業を受講する際、基本レオタードとタイツのみの着用として、自身の身体のラインをしっかりと認識する。髪の毛などの身だしなみを整える。シューズなどの忘れ物をした場合は減点対象とする。「クラシックバレエⅢ」と同様、ポアントシューズは受講者全員装着することを強制しないが、ポアント技術によるバレエ表現への理解と足先の正しい使い方・ブレイスメントについての知識を深めるようにする。 受講クラスは「クラシックバレエⅢ」と同様、中上級・初中級のいずれかを、受講者自らの目標に沿って選択する。2つのクラスの受講者比率が明らかに悪い場合のみ、教員による調整を行う。ただ受け身で授業を受講するのではなく、一人一人が明確な目標設定を行い、受講するよう求める。 第14回「ヴァリエーションの発表」、第15回「これまでの理解度の確認と今後の検討」では、フィードバックを求める受講者一人一人に口頭でフィードバックを行う。 新型コロナウイルスの感染状況や社会情勢によっては、オンライン授業の対応を取る場合もある。						
【教科書・参考書など】 適宜、授業内で示します。						
【成績評価方法】 実技テスト60%、授業における課題達成度・理解度、関心・意欲・積極性・レポート（課題提出）40%を総合的に評価する。 オンライン形式で授業が行われた場合は、出欠確認の際に提出される課題も、評価の対象となる。						

科 目 名		ジャズダンスⅢ			担当者	港 ゆ り か	
英 文 名		Jazz Dance Ⅲ					
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2			専門・選択			
授業形態	実技	科目ナンバー	DME209		卒業認定方針との関連	⑥	
【目的とねらい】 ジャズダンス、ヒップホップダンスのダウンビートのリズム感を身につけ、ジャズダンスに必要な基礎技法を習得する。身体表現の意識を高め、表現者としての感性を養い、可能性を広げていく。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 さまざまなジャンルの中のジャズダンスとは、今の時代に求められている表現法などを理解する。 【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識を再度確認をする。(1.0hr)				第9回 ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(3×8)スローテンポ 【 到達目標 】 クロスフロアーのバリエーション(2) 短い振付の中でダブルターン＋シェネが確実に出来る。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第2回 ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(2×8)リズム重視 【 到達目標 】 パラレルポジションをキープしたパラレルターンを理解し、シングルターンが出来るようになる。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				第10回 ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(4×8)スローテンポ、到達度の確認 【 到達目標 】 振付したコンビネーションを、確実なテクニックと、豊かな表現力で踊ることが出来る。スローテンポの到達度の確認。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第3回 ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(3×8)リズム重視 【 到達目標 】 パラレルターンをシングルからダブルへ。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				第11回 ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(2×8)ミディアムスロー 【 到達目標 】 インサイドターンを理解し、繰り返し回ることが出来る。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第4回 ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(4×8)リズム重視、到達度の確認 【 到達目標 】 振付したコンビネーションを、さまざまなリズムを使い分けて踊ることが出来る。リズム重視の到達度の確認。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				第12回 ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(3×8)ミディアムスロー 【 到達目標 】 短い振付とインサイドターンの組み合わせを、ぶれない軸で踊ることが出来る。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第5回 ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(2×8)ライン重視 【 到達目標 】 パラレルターン(シングル)からシェネへ、続けて繰り返し回ることが出来る。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				第13回 ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(4×8)ミディアムスロー、到達度の確認 【 到達目標 】 振付したコンビネーションを、ダイナミックにぶれない軸で踊ることが出来る。ミディアムスローの到達度の確認。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第6回 ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(3×8)ライン重視 【 到達目標 】 パラレルターン(ダブル)からシェネへ、続けて繰り返し回ることが出来る。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				第14回 振付(ロングコンビネーション) 1 【 到達目標 】 振付の中で、曲を理解し、自分なりの表現法を見付けることが出来る。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第7回 ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(4×8)ライン重視、到達度の確認 【 到達目標 】 振付したコンビネーションを、音の中で正しいラインへ確実に入り、表現することが出来る。ライン重視の到達度の確認。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				第15回 振付(ロングコンビネーション) 2 【 到達目標 】 リズム、ライン、スローテンポ、ミディアムスローの確実なテクニックはもちろん、コンビネーションの表現法として個性を出しながら、豊かに魅せ、伝えることが出来る。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第8回 ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(2×8)スローテンポ 【 到達目標 】 クロスフロアーのバリエーション(1) 短い振付の中でダブルターンが確実に出来る。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)							
【学習上の留意点】 週1回の授業ではクセも取れず、頭では理解していても、実践出来るレベルになるのは難しい。ジャンルによって、体の使い方に違いがあることを繰り返し説明し、必ず「見る」という方法の重要性を伝えていき、自分を客観視出来るレベルまで上げていく必要がある。							
【対面授業の場合】 対面の場合は感染予防対策を徹底し、通常通りの授業開講。 【オンライン授業の場合】 リアルタイムではなく、オンデマンド対応となる。講師があらかじめ作成した動画を事前に共有し、学生はオンデマンド受講→講師に動画を提出することで出席扱いとなる。							
【教科書・参考書など】 特に指定しない。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 授業内での実践40%、到達度の確認テストの結果60%として評価する。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド受講後の動画提出40%、テスト課題映像提出の結果60%として評価する。							

科 目 名		コンテンポラリーダンスⅢ		担当者		岩 淵 多 喜 子	
英 文 名		Contemporary Dance Ⅲ					
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2			専門・選択			
授業形態	実技	科目ナンバー	DME211			卒業認定方針との関連	⑥
【目的とねらい】 コンテンポラリーダンスⅠ、Ⅱで養った技術、知識を基礎として、更に発展させたテクニックについての理解と習得を行う。特にリリーステクニック、フロアテクニックを基礎とし、体のアライメントへの意識、呼吸と動きの関連、重心と空間認識などについての応用的な理解を深め、多様なコンテンポラリーダンスの領域に対応するための知識、技術の習得を目的とする。また作品鑑賞レポートを通してコンテンポラリーダンスの多様性への理解を深める。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 コンテンポラリーダンスの概念を理解し、今後の授業の内容と進行について理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習する。(1.0hr)				第9回 フォール&リカパー、フロアテクニックの習得⑤ 【 到達目標 】 フロアへのアプローチ、体のアライメントの意識、呼吸との関連、フォールとリカパーなどを自分で意識的にコントロールできるようにテクニックへの理解を深める。 様々な動きに対応するための正しい技術を定着させる。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)			
第2回 基本エクササイズの復習 【 到達目標 】 基本エクササイズの流れを習得する。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習する。(1.0hr)				第10回 動きの流れ、ダイナミクス① 【 到達目標 】 フロアへのアプローチ、体のアライメントの意識、呼吸との関連、フォールとリカパーなどを自分で意識的にコントロールできるようにテクニックへの理解を深める。 様々な動きに対応するための正しい技術を定着させる。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)			
第3回 基本エクササイズの復習 【 到達目標 】 エクササイズの流れを習得する。 具体的なエクササイズを通し、フロアテクニックと体のアライメントについて理解を深める。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)				第11回 動きの流れ、ダイナミクス② 【 到達目標 】 フロアへのアプローチ、体のアライメントの意識、呼吸との関連、フォールとリカパーなどを自分で意識的にコントロールできるようにテクニックへの理解を深める。 様々な動きに対応するための正しい技術を定着させる。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)			
第5回 フォール&リカパー、フロアテクニックの習得 【 到達目標 】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 具体的なエクササイズを通し、フロアテクニックと体のアライメント、フォールとリカパーについて理解を深める。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)				第12回 動きの流れ、ダイナミクス③ 【 到達目標 】 フロアへのアプローチ、体のアライメントの意識、呼吸との関連、フォールとリカパーなどを自分で意識的にコントロールできるようにテクニックへの理解を深める。 様々な動きに対応するための正しい技術を定着させる。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)			
第5回 フォール&リカパー、フロアテクニックの習得② 【 到達目標 】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 フロアエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し、意識するポイントについて明確に行えるようにする。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)				第13回 動きの応用① 【 到達目標 】 様々な要素の入った一連の振付フレーズを個々の動きの要素を意識しながらスムーズに行えるようにする。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)			
第6回 フォール&リカパー、フロアテクニックの習得③ 【 到達目標 】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 フロアエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し、意識するポイントについて明確に行えるようにする。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)				第14回 動きの応用② 【 到達目標 】 様々な要素の入った一連の振付フレーズを個々の動きの要素を意識しながらスムーズに行えるようにする。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)			
第7回 フォール&リカパー、フロアテクニックの習得③ 【 到達目標 】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)				第16回 動きの応用③ 【 到達目標 】 様々な要素の入った一連のフレーズを個々の動きの要素を意識しながらスムーズに行えるようにする。またこれまでの授業内容で扱ったテクニックや知識を総括し、今後の個々の課題を明確にする。 【授業時間外学習】 授業で扱った技術、知識を復習し、レポートにまとめる。(1.0hr)			
第8回 フォール&リカパー、フロアテクニックの習得④ 【 到達目標 】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 実践を通しての知識、技術の習得となるため、万全の状態で授業に臨めるように常に体のケア、怪我への留意を行うこと。また、授業は前回までの内容を土台にして進行していくため、個々で知識、技術の整理、復習を行うこと。 【オンライン形式】 全回対面での実施を予定しているが、状況により難しい場合は、オンライン形式で、オンデマンドとライブ形式を組み合わせる授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に取り組む。資料として技能や知識に関する動画及び参考資料を配信する。オンデマンド形式の授業の出席確認は、ポータルやPhollyへの課題提出及び自習した動画の提出等によって行う。							
【教科書・参考書など】 特になし。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】評価基準は、実技課題70%、レポート課題30%とし、総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】各授業回の提出された授業報告書、動画を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに、全授業終了時にまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を70%、レポート課題を30%とし、総合的に評価する。							

科 目 名		インプロヴィゼーション			担当者	高 野 美 和 子	
英 文 名		Improvisation					
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2				専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME212			卒業認定方針との関連	⑥
【目的とねらい】 ダンサーとして自己の動きの発展、拡大を図るのみならず、創作・振付のために重視されている即興をまなび、体得する。自分自身の動きの特徴や癖などを認識し、さらに、新しい動きの探求・拡大を図ることを目的とする。また、創作や振付の上でも重要となる、空間、時間、力性などに関する感覚を養い、新しい創作の糧となる材料を追求することを目指す。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション インプロヴィゼーションとは 【 到達目標 】 舞踊における即興の特徴、概念を理解し、自分自身の即興の解釈を説明できる。 【授業時間外学習】 授業で学習した内容をまとめ、関連資料等を収集する。(1.0hr)				第9回 チャンス・オペレーション 【 到達目標 】 チャンス・オペレーションの特徴を理解し、実践できる。 【授業時間外学習】 チャンス・オペレーションの概念を文献等で理解しておく。(1.0hr)			
第2回 時間の知覚、把握 【 到達目標 】 即興時の時間の感覚、間のとり方、意識とからだのあり方を体得する。 【授業時間外学習】 授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)				第10回 イメージとのかかわり 【 到達目標 】 視覚、言葉などのイメージと動き・ダンスがどうかかわれるのか、可能性を探索し、実践できる。 【授業時間外学習】 授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)			
第3回 空間の知覚、把握 【 到達目標 】 即興時の空間の感覚、方向や軌跡の認識、意識とからだのあり方を体得する。 【授業時間外学習】 授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)				第11回 音とのかかわり 【 到達目標 】 音や曲と動き・ダンスが即興的にどう関われるのか、可能性を探索し、実践できる。 【授業時間外学習】 授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)			
第4回 キネスフィアの理解 【 到達目標 】 キネスフィア (kinesphere) を理解し即興を通じて体得する。 【授業時間外学習】 授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)				第12回 物、装置とのかかわり 【 到達目標 】 物、装置と動き・ダンスがどうかかわれるのか、可能性を探索し、実践できる。 【授業時間外学習】 授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)			
第5回 動きの質感① 【 到達目標 】 動きの質感を明確にしながら、ソロ、デュオで即興的に対話しながら踊る。 【授業時間外学習】 授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)				第13回 構成、枠組みのなかでの即興① 【 到達目標 】 グループ毎に即興の設定（構成、枠組み）を企て、実践できる。 【授業時間外学習】 グループでおこなう即興の設定を考え、記述しておく。(1.0hr)			
第6回 動きの質感② 【 到達目標 】 いくつかの質感の異なる動きを取り入れながら、即興の可能性を追究する。 【授業時間外学習】 授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)				第14回 構成、枠組みのなかでの即興② 【 到達目標 】 グループ毎に即興の設定（構成、枠組み）を企て、実践、改良しまとめ、説明することができる。 【授業時間外学習】 授業で実践した即興の設定を記述し、レポートの準備を始める。(1.0hr)			
第7回 コンタクト・インプロヴィゼーション① 【 到達目標 】 床、人と自分のからだの接点、重さ、重心を感じながら、いくつかのコンタクトの方法を体感する。 【授業時間外学習】 コンタクト・インプロヴィゼーションに関する参考文献を読む。(1.0hr)				第15回 授業内容の振り返り 【 到達目標 】 各回の実践、体得したことを振り返り、理解したことを言語化（レポート作成）することができる。 【授業時間外学習】 全授業で取り組んだ内容を振り返り、レポートを作成する。(1.0hr)			
第8回 コンタクト・インプロヴィゼーション② 【 到達目標 】 床、人と自分のからだの接点、重さ、重心を感じながら、即興的にコンタクトを導入して踊ることを体得する。 【授業時間外学習】 授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 全授業対面で行う。インプロヴィゼーションは個々の主体的な姿勢が重要であるとともに、自身のからだと他者のからだ、その場で起こっている現象を注意深く観察する姿勢が大切である。個々の集中力が授業全体の集中力につながるので、毎時間、気力と体力を万全にして臨むこと。各時間の中でからだが感じた様々な感覚を振り返りつつ、ノートにまとめるなど言語化する作業を行うことが望ましい。毎時間、授業に対する振り返りを個人記録ノートに記入、提出し、次の授業にてフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業となった場合は、授業前に都度指示する。							
【教科書・参考書など】 参考書：「インプロヴィゼーション」、Bailey, Derek著、竹田賢一訳（1981）工作舎 “The Moment of Movement ”、Lynne Anne Blom and L.Tarin Chaplin（1988）University of Pittsburg Press 「コンタクト・インプロヴィゼーション」、Novack,Synthia J 著、立木燐子・菊池淳子訳(2000) フィルムアート社							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 毎回の授業課題の理解、達成度を80%、レポート課題を20%として評価する。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業となった場合は、授業前に指示する。							

科 目 名		舞台演出論		担当者	松 澤 慶 信	
英 文 名		Theory of Stage Directing				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DME301		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧
【目的とねらい】 舞踊作品であれ演劇作品であれ、観客が住まう日常空間とは異なる虚構の物語空間をいかに舞台上に現出させるのか。しかしその物語的空間は、もはや必ずしも従来の大きな「物語」や「筋」を物語るトボスである必要はない。そこに日常性を介入させつつ、日常性を戦略にした、またその日常性を異化効果としてとりこみ、日常の背後に隠れ潜む「非日常」を浮き彫りにする。そのような虚構の物語空間を実際に現出させるための方法と方法論的反省を、絵画や音楽という表現媒体との比較芸術学からこころみたい。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 ここで展開する授業内容の紹介。ダンシングでもなく振付でもなく、演出するとはどういうことか。パフォーミング・アーツではなくパフォーマンス・アーツを現前させる営為を問う。			第9回 絵画の発表Ⅲ 【 到達目標 】 実際にみんなの前で発表してもらい、表現媒体に固有の形成法則とは何か、つまり舞踊が表現するのはいったい何かという究極の問題に迫ってみたい。			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第2回 作業手順の確認 【 到達目標 】 実際に演出するにあたって何が必要か、何をするのかを、確認する。			第10回 音楽との関係の模索 【 到達目標 】 視覚的要素によってではなく、今度は聴覚的要素が作品内容をどう規制しまた助成するのか。その可能性を模索する。			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第3回 様々な感情の確認 【 到達目標 】 感情とはどのようなものがあるのか。感情をどう処理するのか。そして感情はどうやって表現するのか。			第11回 歌詞のある音楽の調査Ⅰ 【 到達目標 】 歌詞のある歌は、音楽固有のメロディやリズムという時間的分節が舞踊の構造を決定するのではない。歌詞の意味が作品を同定してしまう。			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第4回 テキストの作成 【 到達目標 】 感情を表現するためのテキストを考える。物語の筋を考えても良いし、情景や雰囲気重視しても良い。意味論の意味内容の諸相を確認すること。			第12回 歌詞のある音楽の調査Ⅱ 【 到達目標 】 どのような音楽が舞踊には適しているのか。そもそも適しているとはどういうことか。音楽に合うことが良い作品の条件なのか。作品に合うとはどういうことか。			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第5回 テキストのパフォーマンス化 【 到達目標 】 上記でできたテキストを、それではどうやってパフォーマンスにするのか。具体的な作業手順を想定すること。			第13回 歌詞のある音楽の調査Ⅲ 【 到達目標 】 音楽を発表してもらって検討していきたい。単純に踊りやすい曲捜しは楽しいことだろう。			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第6回 visualテキストの探索 【 到達目標 】 言葉によるテキストではなく、visualな表現媒体によるテキストはどうだろうか。ダンスも見ることによって存立する視覚芸術である。このような作品存立に共通な視点は役に立つのだろうか。			第14回 歴史的考察 【 到達目標 】 舞踊と音楽との関係でコペルニクスの転回をしたのはダンカンの試みである。彼女の舞踊に対する姿勢と考えを、彼女の言説からたどってみたい。			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第7回 絵画の発表Ⅰ 【 到達目標 】 たとえば絵画の静止したフォルムと、ダンスの動くフォルム、つまり時間の経過が加わるダンスはこのフォルムを時間分節のフォルムに適応できないだろうか。			第15回 総括 【 到達目標 】 テキストとは何か。テキストをパフォーマンスするのが演出であったことを忘れてはならない。そのテキストが物語なのか、絵画なのか、音楽なのか。ダンスを構成する主要要素を確認する。			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第8回 絵画の発表Ⅱ 【 到達目標 】 実際に絵画を選出して、その絵画の持つ内容を確認する。形や色が何を表しているのか。この絵画は物語や筋を表しているのか。その形式の位相がこの絵画の魅力ではないのか。			※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。			
【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 ダンスを創作することの根本を問う。基本的に予備知識や経験は必要ない。それを誇ることはむしろ弊害である。2年次後期開講の「舞踊分析法演習」と3年次前期開講の「舞踊創作原論」と両方ともに受講することをのぞむ。						
【オンライン授業の場合】 12月上旬頃まではオンライン・リアルタイムで行うので、受信環境を整えておいてほしい。12月中旬から、対面式で一人一人に作品を発表してもらう。						
【教科書・参考書など】 授業中に指示する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 出席率と授業中の達成をその都度の発表で求める80％。レポート評価20％。 【オンライン授業の場合】 関心・意欲80％評価。それと対面式で発表する作品とレポートの評価が20％。						

科 目 名		マルチメディア・パフォーマンス			担当者	高 野 美 和 子	
英 文 名		Multimedia Performance					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3			専門・選択			
授業形態	演習	科目ナンバー	DME304		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【目的とねらい】 マルチメディア・パフォーマンスは、音や映像など様々なメディアとともに上演されている。この授業では、様々なメディア（主に映像や音）の特徴や効果およびPCによる編集、加工処理方法を学び、どのようにそれらをダンスのなかに取り込むことができるのか、その可能性を探りつつ、マルチメディア・パフォーマンスが成立していく過程を、実践を通じて学んでいく。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション（マルチメディア・パフォーマンスとは） 【 到達目標 】 過去の作品を観ながら、マルチメディア・パフォーマンスの概要と背景、授業でとりあげる内容について理解する。 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、第5回に提出する映像作品のアウトラインを考える。（4.0hr）				第9回 グループ別による映像、音、振付制作活動③ 【 到達目標 】 8回目同様、グループ制作活動を計画的に進め実践できる。 【授業時間外学習】 グループ制作を行う。（4.0hr）			
第2回 ビデオ撮影、映像編集の方法 【 到達目標 】 映像作品制作のためのビデオ撮影およびPCによる映像編集の方法を理解する。 【授業時間外学習】 授業の復習を行うと共に、提出用映像作品の構成を考える。（4.0hr）				第10回 グループ別による映像、音、振付制作活動④ 【 到達目標 】 9回目同様、グループ制作活動を計画的に進め実践できる。 【授業時間外学習】 グループ制作を行う。（4.0hr）			
第3回 ビデオ撮影、映像編集の方法と実践 【 到達目標 】 2回目に引き続き映像撮影編集の方法を実践を通じて理解する。 【授業時間外学習】 授業の復習を行うと共に、提出用映像作品の構成を練る。（4.0hr）				第11回 グループ別による映像、音、振付制作活動⑤ 【 到達目標 】 作品の中の各メディアのバランスを調整しながら、作品全体をまとめ上げることができる。 【授業時間外学習】 発表に向けた照明、音響、映像、振付等の調整を行う。（4.0hr）			
第4回 映像編集、録音、音編集の方法と実践（映像作品制作） 【 到達目標 】 映像編集と並行して、録音、音編集の方法を学び、短い映像作品を制作する。 【授業時間外学習】 授業の復習を行うと共に、提出用映像作品の手直しを行う。（4.0hr）				第12回 発表スペースでのグループ作品制作① 【 到達目標 】 発表スペースにて使用機材の準備・片づけも含め、グループ作品制作を計画的に進めることができる。 【授業時間外学習】 発表用の各メディアの準備を進める。（4.0hr）			
第5回 映像編集、録音、音編集の方法と実践（映像作品制作、提出） 【 到達目標 】 映像、音編集の実践を通じて制作した映像作品を提出する。 【授業時間外学習】 第6回のグループ制作の構想を考える。（4.0hr）				第13回 発表スペースでのグループ作品制作② 【 到達目標 】 発表スペースにて使用機材の準備・片づけも含め、グループ作品制作を計画的に進めることができる。 【授業時間外学習】 発表作品の練習を行う。（4.0hr）			
第6回 グループ別によるコンセプト、テーマの話し合い 【 到達目標 】 グループ毎にマルチメディア・パフォーマンス作品のコンセプトやテーマについて話し合い、グループ作品の方向性を理解、説明できる。 【授業時間外学習】 グループ制作に必要な材料を準備する。（4.0hr）				第14回 発表スペースでのグループ作品制作・準備 【 到達目標 】 次週のグループ作品発表に向けて、機材・片づけも含め、協力しながら作品リハーサルを実践できる。 【授業時間外学習】 発表作品の練習を行う。（4.0hr）			
第7回 グループ別による映像、音、振付制作活動① 【 到達目標 】 グループ作品のコンセプトに沿って、映像、音、照明、振付等のプランを立て、役割分担しながら、計画的に制作を進める。 【授業時間外学習】 グループ制作で担当する作業の準備を進める。（4.0hr）				第15回 グループ作品発表、感想、講評 【 到達目標 】 グループ作品を発表するとともに、各グループの発表を鑑賞し、作品について振り返り、合評しあうことができる。 【授業時間外学習】 グループ発表の振り返りと他グループの感想をまとめる。（4.0hr）			
第8回 グループ別による映像、音、振付制作活動② 【 到達目標 】 7回目同様、グループ制作活動を計画的に進め実践できる。 【授業時間外学習】 グループ制作を行う。（4.0hr）							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 全授業を対面で行う。短い時間の中で多くの機材を使用しながら授業をしていくため、機材の取り扱いをきちんとしながら、計画的に毎時間の課題を進めていくことが求められる。毎時間、授業に対する振り返りを個人記録ノートに記入、提出し、次回の授業にてフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業となった場合は、授業前に都度指示する。							
【教科書・参考書など】 特になし。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 個々の映像作品およびグループ作品の達成度を80%、各メディア機材の使用法理解度を20%の割合として評価する。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業となった場合は、授業前に指示する。							

科 目 名		レパートリー研究		担当者		岩 淵 多 喜 子	
英 文 名		Repertory Studies					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3			専門・選択			
授業形態	演習	科目ナンバー	DME305		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【目的とねらい】 舞踊の歴史の中で優れた評価を受けた作品を取り上げ、そこで踊られるダンスのテクニックや振付法を実際に振り起しをし、踊ることにより実践的に学ぶ。また文献や動画鑑賞によって作品や技術の研究、分析を行い、コンテンポラリーダンス作品に対する技術、振付、歴史的背景などについて総合的に理解を深める。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 授業進行についてのオリエンテーション 【 到達目標 】 レパートリー作品という概念及び授業の進行について理解する。				第9回 著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ 3-④ 【 到達目標 】 選択した作品の振りや構成の特徴を学ぶ。 ピナ・バウシュ、ウィリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループや個に分かれて作品の振り起こしと分析を行う。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)			
第2回 コンテンポラリーダンスのはじまり、歴史的背景を学ぶ 1-① 【 到達目標 】 モダンダンス、ポストモダンダンス、ドイツ表現主義等、ヨーロッパでコンテンポラリーダンスがはじまるまでの歴史的背景を学ぶ。				第10回 著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ 3-⑤ 【 到達目標 】 選択した作品の振りや構成の特徴を学ぶ。 ピナ・バウシュ、ウィリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループや個に分かれて作品の振り起こしと分析を行う。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)			
第3回 コンテンポラリーダンスのはじまり、歴史的背景を学ぶ 1-② 【 到達目標 】 モダンダンス、ポストモダンダンス、ドイツ表現主義等、ヨーロッパでコンテンポラリーダンスがはじまるまでの歴史的背景を学ぶ。				第11回 著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ 3-⑥ 【 到達目標 】 選択した作品の振りや構成の特徴を身体的に表現できるようにする。 ピナ・バウシュ、ウィリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループや個に分かれて作品の振り起こしと分析を行い、オリジナル作品に近い形で再現できるようにする。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)			
第4回 ヨーロッパのコンテンポラリーダンス 2-① 【 到達目標 】 文献や動画を元に、ヨーロッパのコンテンポラリーダンスについて学ぶ。				第12回 著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ 3-⑦ 【 到達目標 】 選択した作品の振りや構成の特徴を身体的に表現できるようにする。 選択した作品について、作品のコンセプト、背景、特徴についての口頭発表、実演発表、振りや作品の特徴をワークショップ形式で他のグループの人に伝える。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)			
第5回 ヨーロッパのコンテンポラリーダンス 2-② 【 到達目標 】 文献や動画を元に、ヨーロッパのコンテンポラリーダンスについて学ぶ。				第13回 著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ 3-⑧ 【 到達目標 】 選択した作品の振りや構成の特徴を身体的に表現できるようにする。 選択した作品について、作品のコンセプト、背景、特徴についての口頭発表、実演発表、振りや作品の特徴をワークショップ形式で他のグループの人に伝える。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)			
第6回 著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ 3-① 【 到達目標 】 学びたい作品を選択する。 ピナ・バウシュ、ウィリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループや個に分かれて作品の振り起こしと分析を行う。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)				第14回 著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ 3-⑨ 【 到達目標 】 作品の分析の精度を高め、選択した作品を再現できるようにする。 前回の発表から得たフィードバックをもとに、作品の振り起こし、分析の精度を高める。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)			
第7回 著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ 3-② 【 到達目標 】 選択した作品の振りや構成の特徴を学ぶ。 ピナ・バウシュ、ウィリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループや個に分かれて作品の振り起こしと分析を行う。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)				第15回 著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ 3-⑩ 【 到達目標 】 選択した作品の特徴を身体的、論理的に理解し、表現できるようにする。 グループごとに、選択した作品の口頭発表、実演発表を行い、各レパートリー作品の特徴について分析し、理解を深める。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う(4.0hr)			
第8回 著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ 3-③ 【 到達目標 】 選択した作品の振りや構成の特徴を学ぶ。 ピナ・バウシュ、ウィリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループや個に分かれて作品の振り起こしと分析を行う。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 国内外の著名な振付家のレパートリー作品を学ぶことを通して、振りを覚えるだけではなく、その背景となっている作家の思想等にも目をむけて、より深くレパートリーを研究する。本授業は作品分析、振り起こし等、授業時間外での個々の復習や研究作業が必要である。 【オンライン授業の場合】 本授業は対面での実施を予定しているが、状況により、オンデマンドとライブ形式を組み合わせたオンライン形式で実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に取り組む。資料として技能や知識に関する動画及び参考資料を配信する。オンデマンド形式の授業の出席確認は、ポータルやPhollyへの課題提出及び自習した動画の提出等によって行う。							
【教科書・参考書など】 「コンテンポラリーダンス徹底ガイド」乗越たかお著（作品社） 「ダンス・バイブル」乗越たかお著（河出書房出版社） 「ダンスは冒険である」石井達朗著（論創社）など							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 評価基準は、実技課題70%、レポート課題30%とし、総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の提出された授業報告書、動画を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに、全授業終了時にまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を70%、レポート課題を30%とし、総合的に評価する。							

科 目 名	レパートリー研究			担当者	渡 辺 碧	
英 文 名	Repertory Studies					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME305		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【目的とねらい】

チャイコフスキー三大バレエの一つであり、クラシックバレエの代表作でもある、『白鳥の湖』を取り上げる。本授業では、世界各地の様々な振付家・演出家による『白鳥の湖』の中から、マリウス・プティパ版、ウラジミール・ブルメイステル版、ユーリ・グリゴロヴィチ版を扱う。各版のメソッドや振付・演出などを、文献と映像を元に分析し比較することで、それぞれの作品の真髄を追求することを目的とする。グループワークで研究をすることにより、共同研究の方法・在り方を学び、コミュニケーション能力を高める。また口頭発表およびプレゼンテーション（以下、プレゼンとする）の能力をつけることをねらいとする。

【授業内容・到達目標など】	
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 この授業の目的を理解する。各版を理解し、グループ分けをする。今後の予定の確認をする。 【授業時間外学習】 世界各地の様々な振付家・演出家による『白鳥の湖』の種類を調べる。(4.0hr)	第9回 マリウス・プティパ版第2幕、隊形分析と発表 【 到達目標 】 マリウス・プティパ版『白鳥の湖』第2幕の隊形分析をする。また振付を模倣し、踊りを発表出来る。 【授業時間外学習】 第10回の発表の準備をする。(4.0hr)
第2回 『白鳥の湖』の歴史 【 到達目標 】 バレエの歴史において、『白鳥の湖』の位置づけを理解出来る。どのようにして『白鳥の湖』が生まれたのかを理解する。 【授業時間外学習】 バレエの歴史を再度学び、復習する。第3回のプレゼンの準備をする。(4.0hr)	第10回 ウラジミール・ブルメイステル版第2幕、隊形分析と発表 【 到達目標 】 ウラジミール・ブルメイステル版『白鳥の湖』第2幕の隊形分析をする。また振付を模倣し、踊りを発表出来る。 【授業時間外学習】 第11回の発表の準備をする。(4.0hr)
第3回 マリウス・プティパについて 【 到達目標 】 振付家マリウス・プティパについて理解し、プレゼン出来る。 【授業時間外学習】 マリウス・プティパが活躍した当時のバレエ史を復習する。第4回の準備をする。(4.0hr)	第11回 ユーリ・グリゴロヴィチ版第2幕、隊形分析と発表 【 到達目標 】 ユーリ・グリゴロヴィチ版『白鳥の湖』第2幕の隊形分析をする。また振付を模倣し、踊りを発表出来る。 【授業時間外学習】 第12回の発表の準備をする。(4.0hr)
第4回 ウラジミール・ブルメイステルについて 【 到達目標 】 振付家ウラジミール・ブルメイステルについて理解し、プレゼン出来る。 【授業時間外学習】 ウラジミール・ブルメイステルが活躍した当時のバレエ史を復習する。第5回のプレゼンの準備をする。(4.0hr)	第12回 マリウス・プティパ版第4幕、隊形分析と発表 【 到達目標 】 マリウス・プティパ版『白鳥の湖』第4幕の隊形分析をする。また振付を模倣し、踊りを発表出来る。 【授業時間外学習】 第13回の発表の準備をする。(4.0hr)
第5回 ユーリ・グリゴロヴィチについて 【 到達目標 】 振付家ユーリ・グリゴロヴィチについて理解し、プレゼン出来る。 【授業時間外学習】 ユーリ・グリゴロヴィチが活躍した当時のバレエ史を復習する。第6回のプレゼンの準備をする。(4.0hr)	第13回 ウラジミール・ブルメイステル版第4幕、隊形分析と発表 【 到達目標 】 ウラジミール・ブルメイステル版『白鳥の湖』第4幕の隊形分析をする。また振付を模倣し、踊りを発表出来る。 【授業時間外学習】 第14回の発表の準備をする。(4.0hr)
第6回 マリウス・プティパ版のストーリーと演出 【 到達目標 】 マリウス・プティパ版のストーリーと演出を理解し、プレゼン出来る。 【授業時間外学習】 第7回のプレゼンの準備をする。(4.0hr)	第14回 ユーリ・グリゴロヴィチ版第4幕、隊形分析と発表 【 到達目標 】 ユーリ・グリゴロヴィチ版『白鳥の湖』第4幕の隊形分析をする。また振付を模倣し、踊りを発表出来る。 【授業時間外学習】 これまでの各版の『白鳥の湖』を振り返り、まとめる。(4.0hr)
第7回 ウラジミール・ブルメイステル版のストーリーと演出 【 到達目標 】 ウラジミール・ブルメイステル版のストーリーと演出を理解し、プレゼン出来る。 【授業時間外学習】 第8回のプレゼンの準備をする。(4.0hr)	第15回 他の創意工夫された『白鳥の湖』を鑑賞・考察 【 到達目標 】 各版の『白鳥の湖』の特徴を考察、比較し説明することが出来る。また他の創意工夫された『白鳥の湖』を鑑賞し、作品の奥深さを理解する。 【授業時間外学習】 15回の授業を振り返り、授業の反省・感想をまとめる。(4.0hr)
第8回 ユーリ・グリゴロヴィチ版のストーリーと演出 【 到達目標 】 ユーリ・グリゴロヴィチ版のストーリーと演出を理解し、プレゼン出来る。 【授業時間外学習】 第9回の発表の準備をする。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

授業形態は対面授業を基本とする。この演習はグループワークが主であり、資料作成・プレゼンの準備などを受講者が積極的に協力して、全員で行えるようにする事。プレゼンの際には、資料作成、映像上映、パワーポイントの使用、板書などを駆使し、受講者の理解度を高められるよう努める。毎回の資料や、プレゼンの内容が事前に準備されていないと授業が進行しないという事を受講者全員が理解し、与えられた課題に責任を持って取り組むこと。作品模倣は、DVDに登場する出演人数よりも縮小版に作り替えて発表するため、事前準備を徹底して行い、発表当日は衣装を着て行ってもよい。身だしなみはきちんとすること。毎回、リアクションペーパーを記入し、各版との比較を行う。プレゼン内容、リアクションペーパーについては、適宜、解説ならびにフィードバックを行う。

新型コロナウイルスの感染状況や社会情勢によっては、オンライン授業の対応を取る場合もある。

【教科書・参考書など】 適宜、参考資料を配付する。 「永遠の白鳥の湖」（森田 稔／新書館） 「踊る世紀」（鈴木 晶／新書館）
【成績評価方法】 授業における課題達成度、リアクションペーパー、学習意欲・関心・積極性など60%、レポート40%を総合的に評価します。 オンライン形式で授業が行われた場合は、出欠確認の際に提出される課題も、評価の対象となる。

科 目 名	舞踊指導演習（舞踊家・一般成人指導法）			担当者	玉 田 光 子	
英 文 名	Seminar in Dance Teaching Method (Teaching Method for Instructors and Adults)					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME213		卒業認定方針との関連	⑦
【目的とねらい】						
舞踊指導の意義と目的を理解する。指導において必要とされるスキルを学び、指導体験をすることで実践的に指導方法を習得する。さらに舞踊家と一般成人の指導時の違いや留意点を理解することで、対象者に合った指導方法を考察する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 指導者として求められるスキル 【 到達目標 】 舞踊指導者として求められるスキルを理解し、本授業における目的を明確にする。			第9回 コンビネーションの指導（舞踊家） 【 到達目標 】 コンビネーションを創作し、舞踊家を対象にした際の振付の伝え方や指導の方法を理解する。			
【授業時間外学習】 自分自身が舞踊指導をされた経験を振り返り、舞踊とは何を教えるものかを考察する（4.0hr）			【授業時間外学習】 舞踊家のためのコンビネーションを研究する。（4.0hr）			
第2回 ウォーミングアップとクールダウン 【 到達目標 】 ウォーミングアップとクールダウンの必要性を理解する。レッスンに取り入れる効果的な方法を学び、演習により方法を理解する。。			第10回 舞踊創作、インプロヴィゼーションの指導（一般成人） 【 到達目標 】 舞踊指導における創作活動及びインプロヴィゼーションの導入方法を学び、一般成人を対象とした演習により方法を理解する。			
【授業時間外学習】 ウォーミングアップとクールダウンの効果を調べる。（4.0hr）			【授業時間外学習】 一般成人を対象とした創作活動及びインプロヴィゼーションのヴァリエーション研究する。（4.0hr）			
第3回 指導におけるキューイング 【 到達目標 】 舞踊指導におけるキューイングの種類とタイミングを学ぶことで、意図が伝わりやすい指導を学び、演習により方法を理解する。			第11回 舞踊創作、インプロヴィゼーションの指導（舞踊家） 【 到達目標 】 舞踊指導における創作活動及びインプロヴィゼーションの導入方法を学び、舞踊家を対象とした演習により方法を理解する。			
【授業時間外学習】 指導に用いられる言葉を取り上げ、分類する。（4.0hr）			【授業時間外学習】 舞踊家を対象とした創作活動及びインプロヴィゼーションのヴァリエーション研究する。（4.0hr）			
第4回 基礎的な動きの指導（一般成人） 【 到達目標 】 一般成人を対象としたモダンダンスの基礎的な動きの指導方法を学び、演習により方法を理解する。			第12回 舞踊指導例1 モダンダンス（一般成人） 【 到達目標 】 一般成人のためのモダンダンスのクラスを、ウォームアップから、クールダウンまで、実際に演習する。			
【授業時間外学習】 一般成人を対象としたモダンダンスの基礎的な動きについて研究する。（4.0hr）			【授業時間外学習】 一般成人のための舞踊指導時の注意や留意点を研究する。（4.0hr）			
第5回 基礎的な動きの指導（舞踊家） 【 到達目標 】 舞踊家を対象としたモダンダンスの基礎的な動きの指導方法を学び、演習により方法を理解する。			第13回 舞踊指導例2 モダンダンス（舞踊家） 【 到達目標 】 舞踊家のためのモダンダンスのクラスを、ウォームアップからクールダウンまで、実際に演習する。			
【授業時間外学習】 舞踊家を対象としたモダンダンスの基礎的な動きについて研究する。（4.0hr）			【授業時間外学習】 舞踊家のための舞踊指導時の注意や留意点を研究する。（4.0hr）			
第6回 テクニックの指導（一般成人） 【 到達目標 】 舞踊テクニクに必要な身体の動きを的確に指導する方法を理解する。一般成人を対象にした場合の注意や留意点を把握し、演習により方法を理解する。			第14回 グループ演習とディスカッション 【 到達目標 】 4～6人のグループを作り、各グループで疑似クラスを行う。指導内容について、指導グループと受講者として、ディスカッションをする。			
【授業時間外学習】 一般成人のための舞踊のテクニクを研究する。（4.0hr）			【授業時間外学習】 グループ毎に構成を考察し、発表の準備をする。（4.0hr）			
第7回 テクニックの指導（舞踊家） 【 到達目標 】 舞踊テクニクに必要な身体の動きを的確に指導する方法を理解する。舞踊家を対象にした場合の注意や留意点を把握し、演習により方法を理解する。			第15回 グループ演習とディスカッション 【 到達目標 】 4～6人のグループを作り、各グループで疑似クラスを行う。指導内容について、指導グループと受講者として、ディスカッションをする。			
【授業時間外学習】 舞踊家のための舞踊のテクニクを研究する。（4.0hr）			【授業時間外学習】 グループ毎に構成を考察し、発表の準備をする。（4.0hr）			
第8回 コンビネーションの指導（一般成人） 【 到達目標 】 コンビネーションを創作し、一般成人を対象にした際の振付の伝え方や指導の方法を理解する。						
【授業時間外学習】 一般成人のためのコンビネーションを研究する。（4.0hr）						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 各授業においてテーマに即した指導方法を例示した後、グループに分かれて演習を行う。実践を通じて舞踊方法を習得していく為、積極的な授業参加を望む。テーマごとに、指導法における気づきや実践を通じて学んだことを小レポートにて提出することで、理解度を確認する。						
【オンライン授業の場合】 リアルタイム方式の授業を実施する。授業内容は概ね変更しない。授業時間は時間割通りの曜日・時間を実施する。出席の確認は授業開始時、冒頭に行く。						
【教科書・参考書など】 特に使用しない。必要に応じて資料は配布する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 各授業の演習での指導実技の評価60%、レポート40%。 【オンライン授業の場合】 授業毎に提出する小レポート50%、各授業毎の総合評価30%、授業における課題に対する理解度・積極性・意欲を総合的に評価する。						

科 目 名		創作Ⅱ		担当者	岩 淵 多 喜 子	
英 文 名		Choreography Ⅱ				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	演習	科目ナンバー	DME306		卒業認定方針との関連	⑥
【目的とねらい】 舞踊作品の創作に必要な様々な手法についての知識を得るとともに、オリジナリティのある固有のダンス語彙を生み出していく方法について、ソロ、デュオ、グループ作品について実践的に学ぶ。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業進行についてのオリエンテーション 【 到達目標 】 舞踊作品の創作についての概念を学び、今後の授業の進行について理解する。 【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)			第9回 テーマからの創作法 ー絵からのアプローチ② 【 到達目標 】 絵をもとに、そのダンス化の手法について学ぶ。 静止画をもとに、その絵がもつテーマ、特徴を読み取り、動きの語彙や場面創造の可能性について学ぶ。 【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)			
第2回 ネガティブスペース、ポジティブスペースの理解 【 到達目標 】 ネガティブスペース、ポジティブスペースの考え方について理解する。 ネガティブスペース、ポジティブスペースの考え方について理解し、短いフレーズを題材に創作を行う。 【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)			第10回 テーマからの創作法 ー音楽からのアプローチ① 【 到達目標 】 音楽をもとに、そのダンス化の手法について学ぶ。 課題曲をもとに、その音楽がもつ音楽的構造、テーマ等を理解し、動きの語彙や場面創造の可能性について学ぶ。 【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)			
第3回 ネガティブスペース、ポジティブスペースの応用 【 到達目標 】 ネガティブスペース、ポジティブスペースの応用方法について学ぶ。 ネガティブスペース、ポジティブスペースの応用について、パートナーがいる状態とない状態の差異等を学ぶ。 【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)			第11回 テーマからの創作法 ー音楽からのアプローチ② 【 到達目標 】 音楽をもとに、そのダンス化の手法について学ぶ。 課題曲をもとに、その音楽がもつ音楽的構造、テーマ等を理解し、動きの語彙や場面創造の可能性について学ぶ。 【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)			
第4回 9ポイントの理解と応用 【 到達目標 】 9ポイントの考え方とその応用方法について理解する。 ラバンの9ポイントの考え方を理解し、基本となる短いフレーズを創作し、基本フレーズをもとに、ダイナミクス、空間の変化を加え、その応用方法について学ぶ。 【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)			第12回 自由創作① 【 到達目標 】 テーマの設定と具体的なアプローチの決定を行う。 これまで授業で扱ってきた様々な手法をもとに、グループごとでテーマを設定し、作品への具体的なアプローチの仕方を決める。 【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)			
第5回 トランスフォーメーションの理解と応用 【 到達目標 】 トランスフォーメーションの考え方を理解する。 短いフレーズをもとに、体軸、空間、体の部位を変化させることによりフレーズの応用の可能性を探る。 【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)			第13回 自由創作② 【 到達目標 】 ラフスケッチからより具体的な作品に立ち上げる。 前回設定したテーマやアプローチの仕方をもとに創作を進める。 【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)			
第6回 テーマからの創作法 ー言葉からのアプローチ① 【 到達目標 】 言葉を場面創造に置き換える手法について学ぶ。 詩をもとに、そこから得たインスピレーションをインスタントコンポジションの手法を用い、作品の場面創造に利用する方法について学ぶ。 【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)			第14回 自由創作③ ー推敲と踊りこみー 【 到達目標 】 完成度を高める。 作品を推敲し、踊りこみを行い完成度を高める。 【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)			
第7回 テーマからの創作法 ー言葉からのアプローチ② 【 到達目標 】 言葉を動きの語彙の創出に生かす手法について学ぶ。 詩をもとに短いソロを創作する。言葉からのインスピレーションを個の動きのボキャブラリーに利用する方法について学ぶ。 【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)			第15回 自由創作 ー発表と総括ー 【 到達目標 】 作品を発表レベルにまで高める。 グループごとに作品の実演発表を行い、作品の立ち上げ→創作（作品化）→発表を経験し、舞踊作品の創作について総合的に理解を深める。 【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)			
第8回 テーマからの創作法 ー絵からのアプローチ① 【 到達目標 】 絵をもとに、そのダンス化の手法について学ぶ。 静止画をもとに、その絵がもつテーマ、特徴を読み取り、動きの語彙や場面創造の可能性について学ぶ。 【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 授業の内容は個やグループによる創作活動が主になるため、自己の体調、スケジュール管理をしっかり行い、主体的に取り組む姿勢が求められる。 【オンライン形式】 本授業は対面での実施を予定しているが、状況により、オンデマンドとライブ形式を組み合わせたオンライン形式で実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に取り組む。資料として技能や知識に関する動画及び参考資料を配信する。オンデマンド形式の授業の出席確認は、ポータルやPhollyへの課題提出及び自習した動画の提出等によって行う。						
【教科書・参考書など】 授業中に参考資料を配布。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】評価基準は、実技課題70%、レポート課題30%とし、総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】各授業回の提出された授業報告書、動画を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに、全授業終了時にまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を70%、レポート課題を30%とし、総合的に評価する。						

科 目 名		テクニク＆レパートリー			担当者	中 村 恩 恵	
英 文 名		Technique & Repertory					
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		専門・選択				
授業形態	実技	科目ナンバー	DME307		卒業認定方針との関連	⑥	
【目的とねらい】 現在、最も注目されている内外のアーティストの振付作品を実際に学ぶ。単に踊るだけでなく、振付が行われる過程、作品のコンセプト、意図などについて、振付家本人から直接学び、また、踊る側のダンサーとして、これらをさらに掘り下げる作業を通して、よりプロフェッショナルな世界に触れることを目的とする。最終的に1月に行う舞踊学専攻卒業公演内で作品を発表する。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 授業の進め方を理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			第9回 振付・作品創作実技2 【 到達目標 】 作家の作品を踊る事によって優れた創作法について理解し、実際の創作法をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				
第2回 技術習得実技1 【 到達目標 】 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			第10回 振付・作品創作実技3 【 到達目標 】 作家の作品を踊る事によって優れた創作法について理解し、実際の創作法をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				
第3回 技術習得実技2 【 到達目標 】 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			第11回 振付・作品創作実技4 【 到達目標 】 作家の作品を踊る事によって優れた創作法について理解し、実際の創作法をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				
第4回 技術習得実技3 【 到達目標 】 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			第12回 振付・作品創作実技5 【 到達目標 】 作家の作品を踊る事によって優れた創作法について理解し、実際の創作法をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				
第5回 技術習得実技4 【 到達目標 】 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			第13回 振付・作品創作実技6 【 到達目標 】 作家の作品を踊る事によって優れた創作法について理解し、実際の創作法をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				
第6回 技術習得実技5 【 到達目標 】 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			第14回 振付・作品創作実技7 【 到達目標 】 作家の作品を踊る事によって優れた創作法について理解し、実際の創作法をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				
第7回 技術習得実技6 【 到達目標 】 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			第15回 作品上演についての重要事項の確認 【 到達目標 】 全体の確認をする事によって、更に深く創作法について理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				
第8回 振付・作品創作実技1 【 到達目標 】 作家の作品を踊る事によって優れた創作法について理解し、実際の創作法をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 内容の詳細については授業中に指示する。授業にあたってはオーディションを行うこともある。 【オンライン授業の場合】 形式（オンデマンド方式またはリアルタイム方式）の内容や詳細については授業開始前に指示する。課題に基づく動画並びに学習報告書の提出を求めることがある。							
【教科書・参考書など】 その都度指示します。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 各授業回の総合評価を50%、まとめの実技評価を50%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。 【オンライン授業の場合】 課題に基づく動画並びに学習報告書の提出を求める。報告書を50%、動画による実技評価を50%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科 目 名		スペイン舞踊		担当者	東 陽 子	
英 文 名		Spanish Dance				
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME103		卒業認定方針との関連	⑥
【目的とねらい】 フラメンコ特有の変拍子と音楽との一体感を習得し、舞踊表現に発展させる。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 コンパス(リズム)の習得① 【 到達目標 】 サパテアード(足)の種類を知り、コンパス(リズム)を打つ。 【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴く。(1.0hr)			第9回 振付け④ 【 到達目標 】 バソ (ステップ) 特徴を理解して踊る。 【授業時間外学習】 課題曲を聴く。(1.0hr)			
第2回 コンパス(リズム)の習得② 【 到達目標 】 パルマ(手拍子)でコンパス(リズム)を打つ。 【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴く。(1.0hr)			第10回 振付け⑤ 【 到達目標 】 カンテ (歌)、ギターのコンパス (リズム)を理解する。 【授業時間外学習】 課題曲を聴く。(1.0hr)			
第3回 身体の使い方の習得① 【 到達目標 】 ブラソ(腕)、マノ(手)の動きを習得する。 【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴く。(1.0hr)			第11回 振付け⑥ 【 到達目標 】 カンテ (歌)、ギターのノリをつかんで踊る。 【授業時間外学習】 課題曲を聴く。(1.0hr)			
第4回 身体の使い方の習得② 【 到達目標 】 サパテアード (足) にブラソ(腕)、マノ(手)の動きをのせる。 【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴く。(1.0hr)			第12回 振付け⑦ 【 到達目標 】 流れに意識を持つ事ができるようにする。 【授業時間外学習】 課題曲を聴き、コンパス(リズム)の流れをつかむ。(1.0hr)			
第5回 身体の使い方の習得③ 【 到達目標 】 重心の重さを身につける。 【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴く。(1.0hr)			第13回 振付け⑧ 【 到達目標 】 振付けを明確にする。 【授業時間外学習】 課題曲を聴き、コンパス(リズム)の流れをつかむ。(1.0hr)			
第6回 振付け① 【 到達目標 】 パルマ(手拍子)、ハレオ(掛声)にのって踊り合う。 【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴き、コンパス(リズム)を明確に感じる。(1.0hr)			第14回 振付け⑨ 【 到達目標 】 自身の一曲にする。 【授業時間外学習】 課題曲を聴き、コンパス(リズム)の流れをつかむ。(1.0hr)			
第7回 振付け② 【 到達目標 】 コンパス(リズム)を全身で表現する。 【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴き、コンパス(リズム)を明確に感じる。(1.0hr)			第15回 一曲を完成 【 到達目標 】 一人で表現できるようにする。 【授業時間外学習】 課題曲を聴き、コンパス(リズム)の流れをつかむ。(1.0hr)			
第8回 振付け③ 【 到達目標 】 テンポを変えてリズム感良く踊る。 【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴き、コンパス(リズム)を明確に感じる。(1.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面・オンライン授業共通】 授業内で提示される重要ポイントを理解し、自身の身体で表現できるように深める。授業内での講師のデモンストレーション後に各自同じポイントを表現してもらい解説によるフィードバックを行う為、意欲的に授業に出席し授業最終日の実技試験につなげる。						
【教科書・参考書など】 特になし。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 フラメンコの理解度：60%、振付けの完成度：40% 【オンライン授業の場合】 フラメンコの理解度70%、振付けの完成度：30%						

科 目 名		学校教育ダンス		担当者	宮 本 乙 女	
英 文 名		Dance Teaching Method in School				
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME214		卒業認定方針との関連	⑦⑧
【目的とねらい】 学校教育におけるダンス授業の指導法に焦点をあて、学齢期生徒の心身の発達に合わせたダンス授業の指導内容と方法について、実践を通じて理解する。具体的には、学習指導要領に基づいたダンス授業の基本的な単元計画のあり方や指導法、評価法について学習する。また、ダンス指導に必要な指導言語、伴奏楽器の使い方、音楽の選択、板書の工夫などについても学習する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション、フォークダンス①② 【 到達目標 】 授業の概要、ダンス教育の意義について理解する。 取り組みやすい外国のフォークダンスの踊り方と指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)				第9回 即興を生かしたイメージから広げるダンス・題材⑧ 【 到達目標 】 人と関わり、お互いの力を生かしあいながら、即興的に踊る体験と、簡単なクラス作品作りの指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)		
第2回 オリエンテーション、導入のしかた・題材①、リズムの示範実習 【 到達目標 】 授業の概要、ダンス教育の意義について理解する。 導入の単元より、現代的なリズムのダンスを学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)				第10回 フォークダンス③、外国のフォークダンスの指導方法 【 到達目標 】 外国のフォークダンスの踊り方と指導法を学ぶ。 示範と声かけの仕方を実習する。 指導法実習に向け、学習指導案の書き方について学ぶ。指導DVDを視聴する。 【授業時間外学習】 指導法実習で行う課題を教科書により検討する。(1.0hr)		
第3回 創作ダンス・題材②、ひと流れの動きを引き出す示範実習 【 到達目標 】 ダンスとの出逢いの授業。ものを使ってひと流れの動きの指導法を学ぶ。 ひと流れの動きを引き出す実習を体験する。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)				第11回 創作ダンス・題材⑨ 【 到達目標 】 絵画のイメージをきっかけとした作品作りを体験する。 グループ創作をクラス作品に構成する方法を学ぶ。 指導法実習で取り組むべき内容について学ぶ。 【授業時間外学習】 指導法実習で行う課題について、自分の指導のシナリオを完成させる。(1.0hr)		
第4回 創作ダンス・題材③、極限を引き出す示範実習 【 到達目標 】 対極の動きの連続を手がかりにした基本的な題材から指導法を学ぶ。 極限を引き出す示範方法を実習する。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)				第12回 グループ作品作りに対する指導方法を学ぶ。指導法実習の準備活動 【 到達目標 】 簡単なデッサンからグループ創作をするときの教師の指導法を学ぶ。 自分で選んだ題材の指導について、太鼓のたたき方や声のかけ方を検討する。 指導法実習のシミュレーションを行う。 【授業時間外学習】 指導法実習の指導案を練習し、掲示物を作成する。(1.0hr)		
第5回 創作ダンス・題材④、リズム太鼓の使い方実習 【 到達目標 】 群の動きを手がかりにした基本的な題材から指導法を学ぶ。 リズム太鼓の使い方を始め、伴奏楽器の使用方法について実習する。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)				第13回 指導法実習① 【 到達目標 】 作成した指導案に基づいた指導法の実習を行う。 【授業時間外学習】 教科書を復習し、指導法実習を振り返っておく。(1.0hr)		
第6回 創作ダンス・題材⑤、授業内発表会の持ち方 【 到達目標 】 身近な生活や日常動作を手がかりにした基本的な題材の指導法と、簡単な授業内発表会の指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)				第14回 指導法実習② 【 到達目標 】 作成した指導案に基づいた指導法の実習を行う。 【授業時間外学習】 教科書を復習し、指導法実習を振り返っておく。(1.0hr)		
第7回 作品の鑑賞と現代的なリズムのダンス・題材⑥ 【 到達目標 】 リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と、簡単な踊り合いの指導法を学ぶ。 作品の鑑賞と評価法について学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)				第15回 指導法実習③、ダンス学習の評価のポイント 【 到達目標 】 指導法の実習のあと、これまでの学習を振り返り、ダンス授業の指導方法と評価のポイントを理解する。 【授業時間外学習】 これまでのノート、資料を整理し、教科書も用いて全体を復習しておく。(1.0hr)		
第8回 現代的なリズムのダンス・題材⑦、発表会のバリエーション 【 到達目標 】 リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と、授業内での簡単な踊り合い、見せ合いの指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】中学校でのダンス指導法を学びつつ、高等学校や小学校などでの指導や、社会体育、レクリエーションなどさまざまな場面での指導において、応用できるような力をつけてほしい。ティームティーチング方式によるグループ学習を行い、相互評価によるフィードバックを行いながら、指導法を実践的に身につける。舞蹈専攻学生として、自分自身の実技力をどのように活かして現場での初心者指導を行うのか、実技、理論共に身につけていくことを望んでいる。授業の際は、各自、A4版の授業ノートを用意すること。服装は指導者としてふさわしい服装で臨むこと。表現運動学において学んだ、「発達段階とダンス」、「ダンスの創作過程」を復習しておくこと。						
【オンライン授業の場合】授業録画を視聴するオンデマンド方式とする。各授業回の学修内容は変更しない。できる限り実技を行いながら参加すること。オンデマンド授業動画は授業日の翌日にGoogleドライブにアップする。Googleフォームにより毎回の課題レポートと、自身の課題動画を録画してアップすることで出席とする。毎回の配布資料はPholly参考資料からダウンロードして印刷し、授業ノートに貼り、ノートには授業中の板書の記録もしておくこと。						
【実務経験のある教員による授業科目】 中学校教諭（保健体育）としての実務経験を活かし、学習指導要領に基づいたダンス授業の基本的な単元計画のあり方や指導法、評価方法等について、実技を中心に指導を行う。						
【教科書・参考書など】 教科書として「明日からトライ！ダンスの授業」全国ダンス・表現運動授業研究会編（大修館書店）を使う。毎時間、授業内で使用する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】課題達成度(授業における実技の課題達成度、指導法実習等)70%、知識理解(学習カード・授業ノート・指導法実習指導案)30%の割合で評価する。 【オンライン授業の場合】各授業回に提出された課題動画と報告書を毎回評価する。また、授業後半に提出する授業ノート(郵送など)、指導法実習の指導案と実習実技動画を評価する。授業終了時点でそれらを総合的に評価する。各授業回の課題動画50%・指導法実技動画20%、授業報告書10%・授業ノート10%・実習指導案10%、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。						

科 目 名		舞踊史学		担当者	松 澤 慶 信	
英 文 名		Dance History				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DME308		卒業認定方針との関連	⑥⑦
【目的とねらい】 英語文献を講読・輪読して進める。毎回受講者全員に翻訳してきてもらい、それを発表した後に、徹底的にその解釈と和訳に検討を加えて、完成とする。それができない人は受講を控えること。その上で芸術史学としての舞踊史学そのものを問う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 翻訳するということ 【 到達目標 】 英文をこれでしか読めないという読み方で読むためのルールが文法だが、そのように読んで内容を理解した後に、その内容を正確に第三者にもわかる日本語に書き直す作業が翻訳である。 【授業時間外学習】 配布プリントを読む。(4.0hr)			第9回 作品史 【 到達目標 】 芸術史が究極、美的受容体験の様式史ではあるが、もちろん作品そのものをないがしろにしてはいけない。作品にどう接するか。作品を前にしてわれわれはそこからささやかれる声を聞くこと。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)			
第2回 芸術思想と芸術現象 【 到達目標 】 芸術思想とは、芸術現象（具体的な作品も含めて）をどう読むかという読み方を方法論的に検討するための思想に他ならない。したがって芸術が思想を同定していくこともある。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)			第10回 人物伝 【 到達目標 】 絵画が基本的に人物を描く物語画であったように、人間への関心が芸術学の対象であることは否めない。ヴァザーリの列伝は今も芸術学資料の基本である。人間学としての芸術学を目指す。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)			
第3回 美的受容体験の様式史としての舞踊史学 【 到達目標 】 舞踊作品が残存しないのに、舞踊史学は存立するのか。この問題の解決策は、作品そのものに重きを置く制作論ではなく、受容側の受けとめ方を様式化する作業に他ならない。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)			第11回 20世紀のキーパーソン 【 到達目標 】 20世紀という時代を探るにあたって人物を中心にみることは具体的作業手順として有効であろう。われわれはまだ同時代に生きる息吹を、体臭を感得できるからだ。歴史は空気である。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)			
第4回 歴史におけるターニング・ポイント 【 到達目標 】 それ以前と以降であきらかに歴史が変わったというターニング・ポイントは必ずある。しかし何をもって歴史が変わったと考えるのか。ここにその人の歴史観がある。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)			第12回 思想史としての舞踊史 【 到達目標 】 芸術は時代を映す鑑である。ヘーゲルはこのことを時代精神と言った。われわれはこの時代精神を概念化して、それを思想と呼ばねばならない。思想にまで昇華させて時代を見据えなければならない。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)			
第5回 パラダイム 【 到達目標 】 パラダイムとは流布している代表的な考え方である。しかしそれは価値論的には通俗的で凡庸になるが、学問的にはまずこの通説を押さえるべきである。その上で新しい地平を開拓せよ。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)			第13回 方法論的反省 【 到達目標 】 y= f (x) の変数 x を変えて導入して y 値を求めるという、関数 f そのものを反省しないのは考察に値しない。単なる手の運動である。屋上屋を架すという。芸術学は事実学ではないのである。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)			
第6回 辺境変革説 【 到達目標 】 ターニング・ポイントであれパラダイム・チェンジであれ、新しい波は実はパラダイムが中心となっているトボスではなく、その周辺から一気に起こってくる。「田舎者」の力を見くびらないこと。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)			第14回 演劇史 【 到達目標 】 周辺のな類似学として参照する学問に演劇史を特化して挙げておきたい。この演劇学には古典的な意味での演劇はもちろんだが、しかし演劇そのものをメタ的に考察するパフォーマンスの美学を含む。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。予習のための資料は授業時に配布予定。(4.0hr)			
第7回 天才 【 到達目標 】 大胆な歴史の変革はパラダイムの中心ではなくむしろ周辺にいるアマチュアから起こると考えられているが、それは得てして体系化されず単発で終わる。しかし一気に完成させるのが天才である。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)			第15回 舞踊史学再考 【 到達目標 】 舞踊史学をめぐる様々な問題提起を整理したい。芸術史学の一つとしての舞踊史学ではなく、舞踊史学が今までの芸術史学に再構成を促すような視点や方法論を提出する気概を持ちたい。 【授業時間外学習】 これまでの輪読部分の翻訳（決定稿）を、各自で完成させる。(4.0hr)			
第8回 物語と歴史 【 到達目標 】 historyであれGeschichteであれ、歴史とは物語である。客観的事実の羅列ではない。そもそも資料の採集の時点ですでに歴史家の視点というバイアスがかかっていることを忘れてはならない。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 毎回翻訳して和訳までしてきて授業にのぞむこと。何も準備してこずに予習もしないで参加する者は出席とは認めません。英語の理解力のレヴェルは様々でしょうから、それは考慮しますが、自分でとことんまで調べてくること。そして自分なりの歴史観をもってほしい。						
【オンライン授業の場合】 オンライン・リアルタイムで行うので、とにかく受信環境を各自で整えておいて下さい。毎回、全員に当てます。5月に入ったらノート提出も課します。まじめに取り組む者のみが履修して下さい。						
【教科書・参考書など】 授業中に指示するが、参考書として、『ダンスは国家と踊る』アニエス・イブリーヌ著 慶應義塾大学出版会と、『20世紀ダンス史』ナンシー・レイノルズ他著 慶應義塾大学出版会をあげる。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】毎回の出席に際して、予習をどこまでやってきているかによって採点する。予習の度合いによる評価100%。 【オンライン授業の場合】毎回の出席に際して全員に当てて、予習をどこまでやってきているかという予習の出来具合を見ます。その出席率と予習の出来具合で50%。また途中でノートを提出してもらいますが、そこから見られる予習復習の出来具合でも判断し20%評価、最後に授業で進んだところまでの全訳のレポート提出でその評価30%とします。全体の出席率、その都度ごとに当てて判断する予習の出来具合、そして期間途中で提出するノート、最後に提出してもらう英文和訳の全訳の出来具合で総合的に判定します。						

科 目 名		舞台上演技法			担当者	石 川 浩 子	
英 文 名		Performance and Theater Workshop					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4			専門・選択			
授業形態	演習	科目ナンバー	DME401		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【目的とねらい】 舞踊公演は長い歴史を持ち、民族・地域により多様性がある。しかしどのような舞踊であろうと観客を得た場合の上演ではそのための準備が必要である。この授業ではダンスの舞台上演技までの作業を明らかにし、職業的知見を獲得することを目的とする。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 舞台上演技法の授業の進め方について理解する。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)			第9回 作品づくり5 【 到達目標 】 実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)				
第2回 制作について 【 到達目標 】 制作の仕事について理解する。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)			第10回 作品づくり6 【 到達目標 】 実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)				
第3回 照明シートの書き方 【 到達目標 】 照明プランの立て方、照明シートの書き方を理解し習得する。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)			第11回 中間発表 【 到達目標 】 作品を発表しあうことによって、舞台上上演する作品として足りない所を発見し、更に修正していく必要があるということを理解する。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)				
第4回 作品づくり1 【 到達目標 】 実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)			第12回 作品づくり7 【 到達目標 】 実際の舞台上上演する作品として仕上げていく方法を、作品づくりを通してマスターする。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)				
第5回 作品づくり2 【 到達目標 】 実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)			第13回 公演準備1 【 到達目標 】 公演に必要な準備を確認し、理解する。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)				
第6回 作品づくり3 【 到達目標 】 実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)			第14回 公演準備2 【 到達目標 】 公演に必要な準備を確認し、理解する。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)				
第7回 作品づくり4 【 到達目標 】 実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)			第15回 公演準備3 【 到達目標 】 舞台上上演に必要なことを、あらゆる方向から理解する。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習する。(4.0hr)				
第8回 有志作品選考 【 到達目標 】 有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上上演の際の作品選択の方法を理解する。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 対面方式とオンライン方式を同時間帯に行う。授業内容は変更しない。 【対面授業の場合】 対面方式での授業参加の場合は、時間割通りの曜日・時刻に実施、出席の確認は各授業の冒頭に行う。 【オンライン授業の場合】 オンライン方式での授業参加の場合は、時間通りの曜日・時刻に実施、出席の確認は各授業の冒頭に画面を通じて行う。							
【教科書・参考書など】 特になし。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 レポート20%、授業への取り組み方60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 レポート20%、授業への取り組み方(画面での授業) 60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。							

科 目 名		舞台上演技			担当者	坂 本 秀 子	
英 文 名		Performance and Theater Workshop					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4			専門・選択			
授業形態	演習	科目ナンバー	DME401		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【目的とねらい】 舞踊公演は長い歴史を持ち、民族・地域により多様性がある。しかしどのような舞踊であろうと観客を得た場合の上演ではそのための準備が必要である。この授業ではダンスの舞台上演までの作業を明らかにし、職業的知見を獲得することを目的とする。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 舞台上演技法の授業の進め方について理解する。 【授業時間外学習】 授業の進め方をイメージし、身体と心の準備をして、自分なりの覚悟を持つ。(4.0hr)				第9回 作品づくり5 【 到達目標 】 実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。 【授業時間外学習】 作品創作の復習。(4.0hr)			
第2回 制作について 【 到達目標 】 制作の仕事について理解する。 【授業時間外学習】 制作の仕事について、大切な事柄を復習する。(4.0hr)				第10回 作品づくり6 【 到達目標 】 実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。 【授業時間外学習】 作品創作の復習。(4.0hr)			
第3回 照明シートの書き方 【 到達目標 】 照明プランの立て方、照明シートの書き方を理解し習得する。 【授業時間外学習】 照明プランの立て方、照明シートの書き方について、大切な事柄を復習する。(4.0hr)				第11回 中間発表 【 到達目標 】 作品を互いに発表し、それぞれが全公演の中の1作品であるという意識を高め、衣裳や内容に重複や不足がないかをチェックする。 【授業時間外学習】 総合芸術であることの認識を持ち、全体を振り返り課題を見つける。(4.0hr)			
第4回 作品づくり1 【 到達目標 】 実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。 【授業時間外学習】 作品創作の復習。(4.0hr)				第12回 作品づくり7 【 到達目標 】 実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。 【授業時間外学習】 作品創作の復習。(4.0hr)			
第5回 作品づくり2 【 到達目標 】 実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。 【授業時間外学習】 作品創作の復習。(4.0hr)				第13回 公演準備1 【 到達目標 】 公演に必要な事柄を確認し、準備を行う。 【授業時間外学習】 制作面、上演面の両方を振り返り、最終チェックを行う。(4.0hr)			
第6回 作品づくり3 【 到達目標 】 実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。 【授業時間外学習】 作品創作の復習。(4.0hr)				第14回 公演準備2 【 到達目標 】 公演に必要な事柄を確認し、準備を行う。 【授業時間外学習】 制作面、上演面の両方を振り返り、最終チェックを行う。(4.0hr)			
第7回 作品づくり4 【 到達目標 】 実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。 【授業時間外学習】 作品創作の復習。(4.0hr)				第15回 発表、評価を得る。他のグループ作品の鑑賞 【 到達目標 】 互いに発表し、評価を得る。また、他のグループ作品も鑑賞する。 【授業時間外学習】 総合学習、まとめ。(4.0hr)			
第8回 有志作品選考 【 到達目標 】 有志作品の選考に全員が参加し、上演作品を客観的に見ることの大切さを会得する。 【授業時間外学習】 作品鑑賞を通して、自己の作品を振り返る。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 ＜対面授業の場合＞ 4年間の学習の総まとめとして、実際の舞台上で公演する事を目的としています。毎時間参加が条件です。 ＜オンライン授業の場合＞ リアルタイム方式の授業を実施する。授業内容はおおよそ変更しない。授業は時間通りの曜日・時刻に実施する。出席の確認は各回の冒頭に画面を通じて行う。							
【教科書・参考書など】 特にありません。							
【成績評価方法】 ＜対面授業の場合＞ レポート20％、授業における課題達成度60％、発表作品20％の割合で総合的に評価する。 ＜オンライン授業の場合＞ 毎時間のレポート40％（メール添付）、期末のレポート60％（メール添付）として評価する。							

科 目 名		舞台上演技			担当者	高 野 美 和 子	
英 文 名		Performance and Theater Workshop					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4			専門・選択			
授業形態	演習	科目ナンバー	DME401		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【目的とねらい】 この授業では、4年間の総まとめとして、大舞台でのダンス公演を目的とした舞踊作品創作とその練習、舞台制作について学び、舞台上演までの様々な知識について実践的に体得することを目的とする。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 舞台上演技の授業の進め方について理解する。			第9回 作品づくり⑤ 【 到達目標 】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。				
【授業時間外学習】 作品発表までの見通しを立て、計画する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 指導者からのフィードバックを基に作品を改良する。(4.0hr)				
第2回 制作について 【 到達目標 】 制作の仕事について理解する。			第10回 作品づくり⑥ 【 到達目標 】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。				
【授業時間外学習】 公演に必要な制作の仕事を具体的に検討する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 指導者からのフィードバックを基に作品を改良する。(4.0hr)				
第3回 照明シートの書き方 【 到達目標 】 照明プランの立て方、照明シートの書き方を理解し習得する。			第11回 中間発表 【 到達目標 】 作品を発表しあう事によって、舞台上で上演する作品として足りない所を発見し、更に修正していく必要があるという事を理解する。				
【授業時間外学習】 作品に必要な照明案を具体的に検討する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 指導者からのフィードバックを基に作品を改良する。(4.0hr)				
第4回 作品づくり① 【 到達目標 】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。			第12回 作品づくり⑦ 【 到達目標 】 実際の舞台上で上演する作品として、仕上げていく方法を作品づくりを通してマスターする。				
【授業時間外学習】 作品制作を行う。(4.0hr)			【授業時間外学習】 ランスルーを重ねる。(4.0hr)				
第5回 作品づくり② 【 到達目標 】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。			第13回 公演準備① 【 到達目標 】 公演に必要な準備を確認し、理解する。				
【授業時間外学習】 作品制作を行う。(4.0hr)			【授業時間外学習】 ランスルーを重ね、公演当日の場当たりシミュレーションを行う。(4.0hr)				
第6回 作品づくり③ 【 到達目標 】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。			第14回 公演準備② 【 到達目標 】 公演に必要な準備を確認し、理解する。				
【授業時間外学習】 作品制作を行う。(4.0hr)			【授業時間外学習】 公演当日のスケジュールを立てる。(4.0hr)				
第7回 作品づくり④ 【 到達目標 】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。			第15回 まとめ 【 到達目標 】 舞台上演上必要な事を、あらゆる方向から理解する。				
【授業時間外学習】 作品制作を行う。(4.0hr)			【授業時間外学習】 公演を振り返り、反省点をまとめる。(4.0hr)				
第8回 有志作品選考 【 到達目標 】 有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演の際の作品選択の方法を理解する。							
【授業時間外学習】 指導者からのフィードバックを基に作品を改良する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 全授業を対面で行う。毎時間必ず出席し、公演までのグループ・ワークに積極的に参加することが条件である。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業となった場合は、授業前に都度指示する。							
【教科書・参考書など】 特になし。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 レポート20%、授業内容の習得度60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業となった場合は、授業前に指示する。							

科 目 名		舞台上演技		担当者	松 山 善 弘	
英 文 名		Performance and Theater Workshop				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME401		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧
【目的とねらい】 舞踊公演は長い歴史を持ち、民族・地域により多様性がある。しかしどのような舞踊であろうと観客を得た場合の上演ではそのための準備が必要である。この授業ではダンスの舞台上演までの作業を明らかにし、職業的知見を獲得することを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 舞台上演技の授業の進め方について理解する。			第9回 作品づくり 5 【 到達目標 】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			
第2回 制作について 【 到達目標 】 制作の仕事について理解する。			第10回 作品づくり 6 【 到達目標 】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			
第3回 照明シートの書き方 【 到達目標 】 照明プランの立て方、照明シートの書き方を理解し習得する。			第11回 中間発表 【 到達目標 】 作品を発表しあう事によって、舞台で上演する作品として足りない所を発見し、更に修正していく必要があるという事を理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			
第4回 作品づくり 1 【 到達目標 】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。			第12回 作品づくり 7 【 到達目標 】 実際の舞台で上演する作品として、仕上げていく方法を作品づくりを通してマスターする。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			
第5回 作品づくり 2 【 到達目標 】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。			第13回 公演準備 1 【 到達目標 】 公演に必要な準備を確認し、理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			
第6回 作品づくり 3 【 到達目標 】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。			第14回 公演準備 2 【 到達目標 】 公演に必要な準備を確認し、理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			
第7回 作品づくり 4 【 到達目標 】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。			第15回 舞台上演に関する必要事項の確認 【 到達目標 】 舞台上演上必要な事を、あらゆる方向から理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			【授業時間外学習】 全体の復習とまとめをし、舞台で作品を上演する方法について理解を深める。(4.0hr)			
第8回 有志作品選考 【 到達目標 】 有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演の際の作品選択の方法を理解する。						
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 4年間の学習の総まとめとして、実際の舞台で公演する事を目的としています。毎時間参加が条件です。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に自習し取り組むこととする。配信される資料は、学習内容となる技能や運動に関する動画と自習をサポートするための資料である。配信は、本来の各授業回が予定されている週の時間割通りの曜日の9:00に本学ポータルサイトのPholly上にアップし、次週の授業日前日17:00まで掲載する。出席の確認は、各授業回の自習中の一部の様子を撮影した動画（15分程度）の提出と、所定の様式による練習報告書の提出によって行う。						
【教科書・参考書など】 特にありません。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 レポート20％、授業内での活動成果60％、発表作品20％の割合で総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の提出された動画並びに学習報告書を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60％、まとめのレポート評価を40％とし、あわせて100％として評価する。合格基準は60％である。						

科 目 名		舞台上演技			担当者	渡 辺 碧	
英 文 名		Performance and Theater Workshop					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4			専門・選択			
授業形態	演習	科目ナンバー	DME401			卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【目的とねらい】
この授業では、大学生活の4年間の集大成として、大きな劇場で公演を開催することを念頭に、舞踊作品の振付・創作とそれに伴うリハーサル、そして舞台制作など、舞踊作品上演に関する様々な技術と知識について実践的に学び、これらを体得することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】	
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 舞台上演技の授業の進め方について理解する。 【授業時間外学習】 この授業の進め方に基づいて、今後の大まかなスケジュールを立てる。(4.0hr)	第9回 作品づくり6 【 到達目標 】 作品を創り上げ、より良くするための今後の課題を検討する。衣装の製作に取りかかる。舞台装置および小道具の製作に取り掛かる。 【授業時間外学習】明らかとなった今後の課題の対策を検討し、実践する。衣装や舞台装置などを準備する。(4.0hr)
第2回 制作について 【 到達目標 】 舞台を上演する上で必要な制作の仕事を理解する。 【授業時間外学習】 舞台制作に関わる文献を参考に、制作に関する情報を集める。(4.0hr)	第10回 作品づくり7 【 到達目標 】 作品の完成度を高める。舞台上演技することを念頭に置きながら、作品を仕上げていく手法を体得する。照明プランを考える。舞台上演技に関わる作品以外の諸準備を進める。 【授業時間外学習】 さらに完成度を高めるための手法について検討する。(4.0hr)
第3回 プレインストーミング(作品づくり1) 【 到達目標 】 自分たちが創りたいと思う作品のテーマなどについて話し合いを行う。 【授業時間外学習】 様々な文献、映像などから情報を収集する。(4.0hr)	第11回 中間発表 【 到達目標 】 作品を発表しあう事によって、舞台上演技する作品としての課題を明らかにする。 【授業時間外学習】 フィードバックを踏まえて、さらに作品の質を高めるための工夫を検討する。(4.0hr)
第4回 作品づくり2 【 到達目標 】 テーマについてさらに検討し、テーマを表現するための手法(全体的なイメージ)について話し合う。 【授業時間外学習】 様々な文献、映像などから情報を収集する。(4.0hr)	第12回 作品づくり8 【 到達目標 】 実際の舞台上演技する作品として、作品を仕上げる。本番の舞台を想定した場取りで、作品練習を行う。舞台上演技に関わる作品以外の諸準備を進める。 【授業時間外学習】 舞台の実寸を調べ、練習においても舞台のサイズで出来るように工夫する。(4.0hr)
第5回 作品づくり3 【 到達目標 】 作品テーマを決定し、衣装、装置、音楽などのグランドデザインを検討する。 【授業時間外学習】 作品テーマに関わる情報を、文献や映像などから収集する。(4.0hr)	第13回 公演準備1 【 到達目標 】 公演に必要な準備を確認し、理解する。作品の質をさらに高めるため、踊りこみを行う。本番当日に行う場当たりのシュミレーションを行い、その練習をする。舞台上演技に関わる作品以外の諸準備を進める。 【授業時間外学習】 互いに作品を見合い、また第三者にも作品を見てもらい、さらに作品の質を高める。(4.0hr)
第6回 作品づくり4 【 到達目標 】 舞台上演技することを念頭に、表現したいテーマに沿って創作・振付を行う。使用する音楽を決定する。音楽著作権・著作隣接権について理解する。 【授業時間外学習】 作品テーマに関わる情報を、文献や映像などから収集する。(4.0hr)	第14回 公演準備2 【 到達目標 】 公演に必要な準備を確認し、理解する。作品の質をさらに高めるため、踊りこみを行う。本番当日の流れを確認する。公演全体の通し稽古を行う。舞台上演技に関わる作品以外の諸準備を進める。 【授業時間外学習】 不測の事態に備え、不足なものがないか検討する。(4.0hr)
第7回 作品づくり5 【 到達目標 】 創作・振付をグループごとに行い、互いにこれを見せ合うことが出来る。実際に創作・振付を複数グループで行うことにより、自分たちが表現したいことが形となっているかを確認する。 【授業時間外学習】 成果発表に対する反省をし、今後の課題を明らかにする。(4.0hr)	第15回 舞台上演技について 【 到達目標 】 実際の舞台上演技をふりかえり、反省点・検討事項についてディスカッションを行う。 【授業時間外学習】 反省点・検討事項を次の公演に活かす。(4.0hr)
第8回 有志作品選考 【 到達目標 】 有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演技の際の作品選択の方法を理解する。作品を鑑賞することにより、作品を評価する力を体得する。 【授業時間外学習】 フィードバックを踏まえて、さらに作品に改良を加える。(4.0hr)	

【学習上の留意点】
授業形態は対面授業を基本とする。4年間の学習の総まとめとして、実際の舞台上公演する事を目的とするため、毎時間参加を必須条件とする。第8回「有志作品選考」、第11回「中間発表」、第14回「舞台上演技について」では、口頭によるフィードバックを行う。
新型コロナウィルスの感染状況や社会情勢によっては、オンライン授業の対応を取る場合もある。

【教科書・参考書など】 適宜配付します。
【成績評価方法】 授業における課題達成度30%、学習意欲・関心・積極性・作品へ貢献度50%、発表作品の完成度20%の割合で総合的に評価する。 オンライン形式で授業が行われた場合は、出欠確認の際に提出される課題も、評価の対象となる。

科 目 名	スポーツ・舞踊活動特別実習				担当者	松 山 善 弘	
英 文 名	Specially Sport Methods in Club Activities						
単 位 数	3	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1～3			専門・選択			
授業形態	実習	科目ナンバー	DME311		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【目的とねらい】 大学において、授業のみならず、課外活動（舞踊に関する部活動含む）の中で、各種コンクール、発表会、イベント等に 参加する事を通して更に深く専門的に舞踊活動を続け、優れた実績を残す。							
【授業内容】 1， 1 年次 4 月：ガイダンスを受ける事によってスポーツ・舞踊活動特別実習の内容を理解する。 2，1 年次における「活動実績」としてコンクールや発表会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価など をまとめる。「活動内容」として、該当年次における普段からの部活動としての練習状況をまとめる。また、それ以外の自 主的な練習ならびにトレーニングなどについて、実際に行った内容を中心にまとめる。 3，2 年次における「活動実績」としてコンクールや発表会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価など をまとめる。「活動内容」として、該当年次における普段からの部活動としての練習状況をまとめる。また、それ以外の自 主的な練習ならびにトレーニングなどについて、実際に行った内容を中心にまとめる。 4，3 年次における「活動実績」としてコンクールや発表会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価など をまとめる。「活動内容」として、該当年次における普段からの部活動としての練習状況をまとめる。また、それ以外の自 主的な練習ならびにトレーニングなどについて、実際に行った内容を中心にまとめる。「4 年次に向けての目標および計 画」として、これまで3 年間の舞踊活動を踏まえて、またその目標を達成するための計画についてまとめる。							
【到達目標】 1，1 年次における「活動実績」をまとめる事によって、1 年次の自分の実績を把握する。 「活動内容」をまとめる事によって、1 年次の活動内容を確認し、来年度への目標を立てる目安とする事ができる。 2，2 年次における「活動実績」をまとめる事によって、2 年次の自分の実績を把握する。 「活動内容」をまとめる事によって、2 年次の活動内容を確認し、来年度への目標を立てる目安とする事ができる。 3，3 年次における「活動実績」をまとめる事によって、3 年次の自分の実績を把握する。 「活動内容」をまとめる事によって、3 年次の活動内容を確認し、来年度への目標を立てる目安とする事ができる。 4，3 年次における「4 年次に向けての目標および計画」を立てる事によって、これまで3 年間の舞踊活動を踏まえて、卒 業するまでの明確な目標を把握する事ができる。							
【授業時間外学習】 毎回の活動を記録する事により、より明確な活動目標をたてていく。							
【学習上の留意点】 大学で舞踊活動を実施する学生が、さらにその舞踊活動を継続させて実施する場合に受講できる。受講を希望する学生 は、舞踊活動に関する書類を事前に提出し、受講可否の審査を受ける。受講学生は1 年ごとに実施した舞踊活動の内容につ いて報告書を提出する。							
【教科書・参考書など】 特に使用しない。							
【成績評価方法】 3 年間を通した実績に関するレポート 5 0 %、活動報告書 5 0 %の割合で総合的に評価を行う。							

科 目 名	卒業研究			担当者		
英 文 名	Graduation Thesis					
単 位 数	6	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3～4			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME402		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧
【目的とねらい】						
＜論文作成＞ ダンス学科で学んだ舞踊学、体育・スポーツに関わる事柄の中からテーマを選んで問題を整理し、文献からの参照・フィールドワーク・実験研究などを通じて分析・考察を加える。この成果を論文の形式にまとめ、発表および提出する。 ＜作品制作＞ 舞踊作品の創作、演出、上演という一連の「制作」過程を実際に体験し、これらの過程での問題点と成果について、観点を決めて考察を加えることにより総合芸術としての舞踊について理解を深める。						
【授業内容】						
＜論文作成＞ I-① 舞踊の基礎理論 -② 舞踊の研究・研究方法について -③ 研究内容・計画の検討 -④ 調査 -⑤ 資料の処理 II 論文作成 III 論文完成 IV 論文発表 ＜作品制作＞ I-① 舞踊作品が成立するための基礎理論 -② 作品創作法研究 -③ 主題・構成・展開の検討 -④ 演出の研究 II-① ソロ作品創作 -② アンサンブル創作（小群舞） -③ アンサンブル創作（大群舞） III 制作発表と制作レポート提出						
【到達目標】						
＜論文作成＞ I-① 論文の土台となる基礎理論について学び、正しく理解し、大まかな方向性をたてることができる。 -② ①の方向性に基づき、舞踊に関する文献をリサーチし、テーマを絞る。 -③ テーマに基づき、今後の大まかな計画を作成する。 -④ 文献、フィールドワーク、アンケート調査などの調査方法を正しく理解し、実践することができる。 -⑤ それまでに収集した数々のデータを分析し、執筆のための準備をする。 II データに基づき、概念化したものを考察し、論理的な整理をしたうえで執筆をする。 III 執筆したものを再検討し、内容的・文法的に論文としてふさわしいものへと推敲する。 IV 抄録原稿を作成し、口頭発表をする。 ＜作品制作＞ I-① 舞踊作品制作の土台となる基礎理論を正しく理解することができる。 -② 過去の作品の振付・様式・演出を研究し、そこから制作テーマを決定する。また、それに基づき文献、映像、ムーブメントなどの調査を行う。 -③ 作品構築のために、主題・構成・展開といったことから全体像を定め、それに基づき方向性を明確にすることができる。 -④ 形式にとらわれずにさまざまな演出方法の可能性をリサーチし、分析、考察する。 II-① これまでの結果を踏まえ、振付、音楽、空間、演出効果等を総合的に分析、考察し、ソロの作品を制作する。 ② これまでの結果を踏まえ、振付、音楽、空間、演出効果等を総合的に分析、考察し、小群舞作品を制作する。 ③ これまでの結果を踏まえ、振付、音楽、空間、演出効果等を総合的に分析、考察し、大群舞作品を制作する。 III IIの①②③で制作をした作品を発表、それに基づくレポートを提出する。						
【授業時間外学習】						
自身の卒業研究のテーマにそってたてられる工程を理解し、工程毎に指定される資料の収集や実験（的思考）・調査の計画と実施などを積み重ね、研究を続けていく。						
【学習上の留意点】						
＜論文作成＞ 論文を書くことは学問的手続きをきちんと踏めるかにかかっている。したがって、①問いのたて方とその追求方法に破綻はないか、②参考文献表は正確に書かれているか、③提出資料は適切に作成されているか、④ひとりよがりの自由作文ではないか、といったことに留意し、取り組む。 【オンライン形式となった場合】 リアルタイム方式の授業を実施する。授業内容は変更しない。授業は、時間割通りの曜日・時刻に実施する。出席の確認は、各授業回の冒頭に画面を通じて行う。 ＜作品制作＞ 制作にあたり積極的に、日々の生活の中においても感受性を高めて題材を見極め、その題材を芸術作品に昇華していくために創造力を豊かにすることが必要である。また感覚的な思考だけに頼らず、舞踊作品を構成する要素についての多角的な視点を持って、一貫した作品を完成させることが求められる。 【オンライン形式となった場合】 リアルタイム方式の授業を実施する。授業内容は変更しない。授業は、時間割通りの曜日・時刻に実施する。出席の確認は、各授業回の冒頭に画面を通じて行う。						
【教科書・参考書など】						
適宜配付。						
【成績評価方法】						
2年間にわたる、論文作成・作品制作の成果および過程全体を総合的に評価する。学習過程の総合評価を60%、成果物ならびに成果発表の評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。						

科 目 名		教職論		担当者	青 木 純 一	
英 文 名		Study of Teaching Profession				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義	科目ナンバー	STE101・DTE101・HTE101		卒業認定方針との関連	⑨
【目的とねらい】 教職論は、教職課程履修者がその仕事・職業の特質について理解を深めることが第1の課題である。その上で、履修学生一人ひとりが、教員免許取得を目指すかどうかを判断する機会を提供することも、課題としている。教師の主たる仕事である、授業や生徒指導等の理解を深めるとともに、学校の仕組みや運営体制、教職の専門性の意義と養成および採用制度について理解を深める。教職に関わる近年の改革動向と課題を理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 教師という仕事 【 到達目標 】 オリエンテーション。教師の仕事の特徴を理解し、本科目履修の意思を確認する。 【授業時間外学習】 最近の教職がおかれている状況について学ぶ。(4.0hr)			第9回 教師の研修―教職に就いてから 【 到達目標 】 教師は教職に就いた後も様々な研修を受ける機会が保障されており、専門性を高めることが期待されていることを理解する。 【授業時間外学習】 教員にとって重要な研修について、法的根拠や制度の背景について学ぶ。(4.0hr)			
第2回 「私が出会った教師」を思い出す 【 到達目標 】 履修学生自身がこれまでに出会った教師について振り返り、教職免許取得にあたっての出発点とする。 【授業時間外学習】 過去に出会った教師についてそれぞれの個性や特徴を振り返る。(4.0hr)			第10回 教師の仕事とジェンダー 【 到達目標 】 学校は女性にとって働きやすい職場だといわれるが、その学校においても、性別役割分業が存在していることを理解する。 【授業時間外学習】 とくに女性教員に焦点を当て、最近の教員の実態や問題点をジェンダーの視点から学ぶ。(4.0hr)			
第3回 授業をつくる 【 到達目標 】 教師が果たす仕事のうち、多くの比重を占めている授業実践について考察し、理解する。 【授業時間外学習】 授業づくりをする際の留意点について学ぶ。(4.0hr)			第11回 教師の身分と服務 【 到達目標 】 教師が職務上有している種々の権利や責任について、およびそれらを適切に行使することが必要であることを理解する。 【授業時間外学習】 教員の身分や服務について、実態を法律と絡めて学ぶ。(4.0hr)			
第4回 特別活動と生徒指導 【 到達目標 】 授業実践だけでなく、特別活動や生徒指導も教師の仕事として重要であることを理解する。 【授業時間外学習】 特別活動や生徒指導における留意点について学ぶ。(4.0hr)			第12回 教師像の探求 【 到達目標 】 時代とともに数多くの理想的教師像がつくられてきたことを、具体的な例とともに理解する。 【授業時間外学習】 明治以降の学校や社会がどのような「教師像」を求めていたかを学ぶ。(4.0hr)			
第5回 校務分掌や学校組織 【 到達目標 】 学校の業務は校務分掌など組織全体を考えて円滑に運営することで大切である。また、スクールカウンセラーや学校司書といった外部スタッフとの連携・協力が今後ますます必要になることを理解する。 【授業時間外学習】 学校における校務分掌の在り方や運営する際の留意点について学ぶ。(4.0hr)			第13回 教育改革・学校改革の動向と教師の役割（1） 【 到達目標 】 近年の教育改革・学校改革の動向についての理解を深め、新たに期待される教師の在り方について関心を持つ。 【授業時間外学習】 戦後の教育改革について、とくに教員政策を中心に学ぶ。(4.0hr)			
第6回 同僚性と教師文化 【 到達目標 】 同じ職場で働く同僚との協力によって、学校運営が円滑となり、児童生徒のよりよい成長が促されることを理解する。 【授業時間外学習】 学校という組織において教師の同僚性がいかに大切か、事例をもとに学ぶ。(4.0hr)			第14回 教育改革・学校改革の動向と教師の役割（2） 【 到達目標 】 前回の続き。 【授業時間外学習】 とくに21世紀に入ってから教育改革について、教員政策を中心に学ぶ。(4.0hr)			
第7回 教員養成制度―教職に就くまで 【 到達目標 】 「専門職」としての教師を養成する制度である教員養成制度、とりわけ大学における教員養成のシステムを理解する。 【授業時間外学習】 養成、採用、研修を一体化した教育養成制度の在り方について学ぶ。(4.0hr)			第15回 現代の教職をめぐる課題 【 到達目標 】 これまでの授業をもとに、各自現代の教職をめぐる課題を整理し、自らがめざす教師像をまとめる。 【授業時間外学習】 今日の教員に求められている資質・能力とはなにかについて学ぶ。(4.0hr)			
第8回 教師の資格と任用、採用試験の動向―教職に就くとき 【 到達目標 】 免許制度と実際の学校に任用される採用試験制度を理解する。また、近年の採用試験の動向を理解する。 【授業時間外学習】 最近の教育採用の実態と特徴について学ぶ。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 本科目を履修することは、学生諸君が「教わる側」から「教える側」へと、立場を移す作業を始めることを意味する。その意味の重さを自覚し、単に出席するにとどまらず、積極的な授業参加を心がけること。また、この授業をきっかけにして、新聞やテレビなどから、教育に関する情報を手に入れる習慣を身につけてほしい。 【オンライン授業の場合】 以下の点に留意すること。 （1）授業に関する資料はGoogle Driveにアップし、資料にアクセスするためのアドレス等は随時メールにて配信する。 （2）資料の配信期間やレポート等の提出期限等もその都度メールでお知らせするので、見逃さないように十分に注意すること。						
【教科書・参考書など】 教科書：授業の初回に指示する。 参考書：適宜授業で指示する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 授業出席2／3を満たした学生に対し試験（100％）を実施する。 【オンライン授業の場合】 小レポート（50％）と課題レポート（50％）から総合的に評価する。						

科 目 名		教育社会学		担当者	小 堀 哲 郎	
英 文 名		Sociology of Education				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義	科目ナンバー	STE302・DTE302・HTE302		卒業認定方針との関連	⑨
【目的とねらい】 教育や学校に関する事項について社会的な視点で学ぶ科目である。現代社会の状況の変化がもたらす学校教育への影響ならびに、現代の子どもたちの生活の変化に伴って生じる指導上の課題を理解する。また、日本のみならず諸外国の教育事情や教育政策の動向を理解することに加え、近年重要性を増している、学校と地域との連携に関する意義や方法を理解し、学校管理下で生じる事件や事故等に対応するために学校安全に関する基礎的知識を身につけることも目標とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 学校を取り巻く状況の変化 【 到達目標 】 グローバル化・情報化・少子化などの社会の変化に伴う学校のありかたについて理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)			第9回 インターネット社会と若者 【 到達目標 】 インターネットの普及による社会変動をどう捉えていくのかを若者を中心に理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)			
第2回 ライフコース 【 到達目標 】 急速に変化をしている日本人のライフコースにおける教育の意味や役割について理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)			第10回 学習指導要領改訂の理念 【 到達目標 】 「主体的・対話的で深い学び」を中心に、新しい学習指導要領の理念を理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)			
第3回 少子社会の家族と子ども 【 到達目標 】 少子社会における家族と子どものありようについて、虐待等を事例に理解を深める。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)			第11回 学び続ける教師 【 到達目標 】 教員に要求される役割と専門的資質・能力について理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)			
第4回 子どもの人間関係 【 到達目標 】 子どもたちの人間関係の変化について、仲間意識や友だちづくりの点から理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)			第12回 諸外国の教育事情と教育改革 【 到達目標 】 アメリカ・イギリス・韓国・フィンランドなどの諸外国の教育事情について理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)			
第5回 子どもの学力と体力 【 到達目標 】 子どもの学力と体力がどのように変化してきているかを理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)			第13回 学校と地域の連携 【 到達目標 】 地域との連携による学校教育活動の意義を具体的に理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)			
第6回 学力と意欲の階層差 【 到達目標 】 格差社会との関連で、学力と意欲の階層差について提起されている問題点を理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)			第14回 開かれた学校づくりへの課題 【 到達目標 】 学校と地域の連携や協働による「開かれた学校づくり」の経緯を踏まえ、今後の課題を理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)			
第7回 いじめ・不登校 【 到達目標 】 教育社会学の主要テーマである「いじめ」と「不登校」について理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)			第15回 学校安全への対応 【 到達目標 】 学校管理下で起こる事件や事故、災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全について理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)			
第8回 資格社会と就職 【 到達目標 】 日本における学校卒業後の就職の状況について、歴史的経緯をふまえて理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 授業は主として教員による講義形式とするが、毎回の授業終了時に500字程度の「授業内レポート」を作成し、評価に算入する。私語その他、他の学生に迷惑となる行為は厳禁。場合によっては退出してもらうこともある。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、各回授業日の6時までにGoogle Drive上にアップし、次回授業前日まで掲載する。出席は、各回の授業課題の提出によって確認する。						
【教科書・参考書など】 教科書は使用しない。適宜、資料等を配布。 参考書等については授業時に紹介する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】授業内レポート（40％）、定期試験（60％）。試験は「試験期間中に別途実施する」。 【オンライン授業の場合】各回の授業課題（45％）、期末レポート課題（55％）。						

科 目 名		教育相談		担当者	角 田 和 也	
英 文 名		Educational Counseling				
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義	科目ナンバー	STE303・DTE303・HTE303		卒業認定方針との関連	⑨
【目的とねらい】 教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。 本授業では、特に生徒を中心とした子ども発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション／教育相談とは何？ 【 到達目標 】 (1)自分の理解している「教育相談」とは何かを説明できる。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。（4.0hr）			第9回 生徒理解の方法⑤ 「話す」ことについて① 【 到達目標 】 (1)生徒理解に必要な「話す」ということについて理解を深める。 (2)「話す」方法を実践するためのポイントを理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。（4.0hr）			
第2回 教育相談の実際 【 到達目標 】 (1)教育相談の実際について、正しい認識をもつことができる。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。（4.0hr）			第10回 生徒理解の方法④ 「話す」ことについて② 【 到達目標 】 (1)不快に思われない話し方について理解を深める。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。（4.0hr）			
第3回 学校における教育相談の意義 【 到達目標 】 (1)教員を目指す学生が教育相談を学ぶ意義を理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。（4.0hr）			第11回 生徒理解の方法⑤ 「みる」ことについて① 【 到達目標 】 (1)生徒理解に必要な「みる」ということについて理解を深める。 (2)「みる」方法を実践するためのポイントを理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。（4.0hr）			
第4回 教育相談の基本的事項① 実践のための基本的な理論・概念① 【 到達目標 】 (1)教育相談の実践に必要な、臨床心理学（カウンセリング）の基本理論・概念を理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。（4.0hr）			第12回 生徒理解の方法⑥ 「みる」ことについて② 【 到達目標 】 (1)みられている側の気持ちを理解する。 (2)「みる」際に注意するさらなるポイントについて理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。（4.0hr）			
第5回 教育相談の基本的事項② 実践のための基本的な理論・概念② 【 到達目標 】 (1)前回の授業内容を踏まえ、教育相談で実践されている臨床心理学（カウンセリング）の理論・概念について理解を深める。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。（4.0hr）			第13回 教育相談の展開① 「私」が教育相談を行うために 【 到達目標 】 (1)テーマに沿って、実際に教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を考えることができる。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。（4.0hr）			
第6回 教育相談の基本的事項③ カウンセリングマインドの必要性 【 到達目標 】 (1)教育相談の実践に必要なカウンセリングマインドについて理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。（4.0hr）			第14回 教育相談の展開② 連携の必要性について 【 到達目標 】 (1)実際に教育相談を行う際に欠くことのできない学校内・外における連携について、理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。（4.0hr）			
第7回 生徒理解の方法① 「きく」ことについて① 【 到達目標 】 (1)生徒理解に必要な「きく」ということについて理解を深める。 (2)「きく」方法を実践するためのポイントを理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。（4.0hr）			第15回 教育相談の展開③ 組織的な取り組みの必要性について 【 到達目標 】 (1)教育相談の実践には、組織的な展開が必要であることを理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。（4.0hr）			
第8回 生徒理解の方法② 「きく」ことについて② 【 到達目標 】 (1)前回の授業をうけて、さらに「きく」際に注意するポイントについての理解を深める。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。（4.0hr）						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 ①基本的には、毎回、板書の代わりにPCおよびプロジェクターを使用して授業を行います。板書に費やす時間を省略するのが主なねらいです。 ②授業内容の理解を深めることを目的とした課題レポートの作成を、授業時間外学習で課します。この作成したレポートは後日提出してもらい、評価に反映させていただきます（下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します）。 ③期末試験は、授業で伝えた内容の理解度を確認するためだけではなく、その知識をもとにした実践力を問うためにも実施しています。受講の際にメモをとるだけでなく、普段からの自主的な学習・復習が単位取得には必要です。 【オンライン授業の場合】 ①オンデマンド方式で授業を実施します。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しません。 ②各授業回に音声入りパワーポイント動画を閲覧できるようにします。閲覧については、授業開始時刻に動画のリンクURLを配信し、原則として5日後の17:00まで閲覧できるようにします。 ③出席は、各授業回の提出物の提出によって確認します。						
【教科書・参考書など】 ・対面形式で実施する場合は、1回目の授業時に、本授業用に作成したテキストを販売します。受講する学生は、必ず購入してください。オンデマンド方式で実施する場合は、あらかじめテキスト（プリント）をオンライン上で配信しますので、プリントアウトをして授業に臨んでください。 ・テキストには、各回ごと、授業内容に基づいた参考文献を示しておりますので、そちらも参考になしてください。 ・参考書：文部科学省『中学校・高等学校学習指導要領』（最新版）						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 ・提出物の評価……50％ 期末試験の結果……50％ ・試験は試験期間中に別途実施します。 【オンライン授業の場合】 ・毎授業時の提出物の評価……75％ 期末課題の結果……25％ ・提出物および期末課題は、クラウドシステムを活用して回収します。						

